



2

0024447-000

特226-696

共栄圏発展案内書

三平将晴・著

大日本海外青年会

改版
昭和18

ADE

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第67条の規定に基づき、平成12年3月23日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです。

436
66

三平將晴著

共榮圈發展案內書

大日本海外青年會發行

特 226
696

青年と建設に雄飛せよ

大日本海外青年會

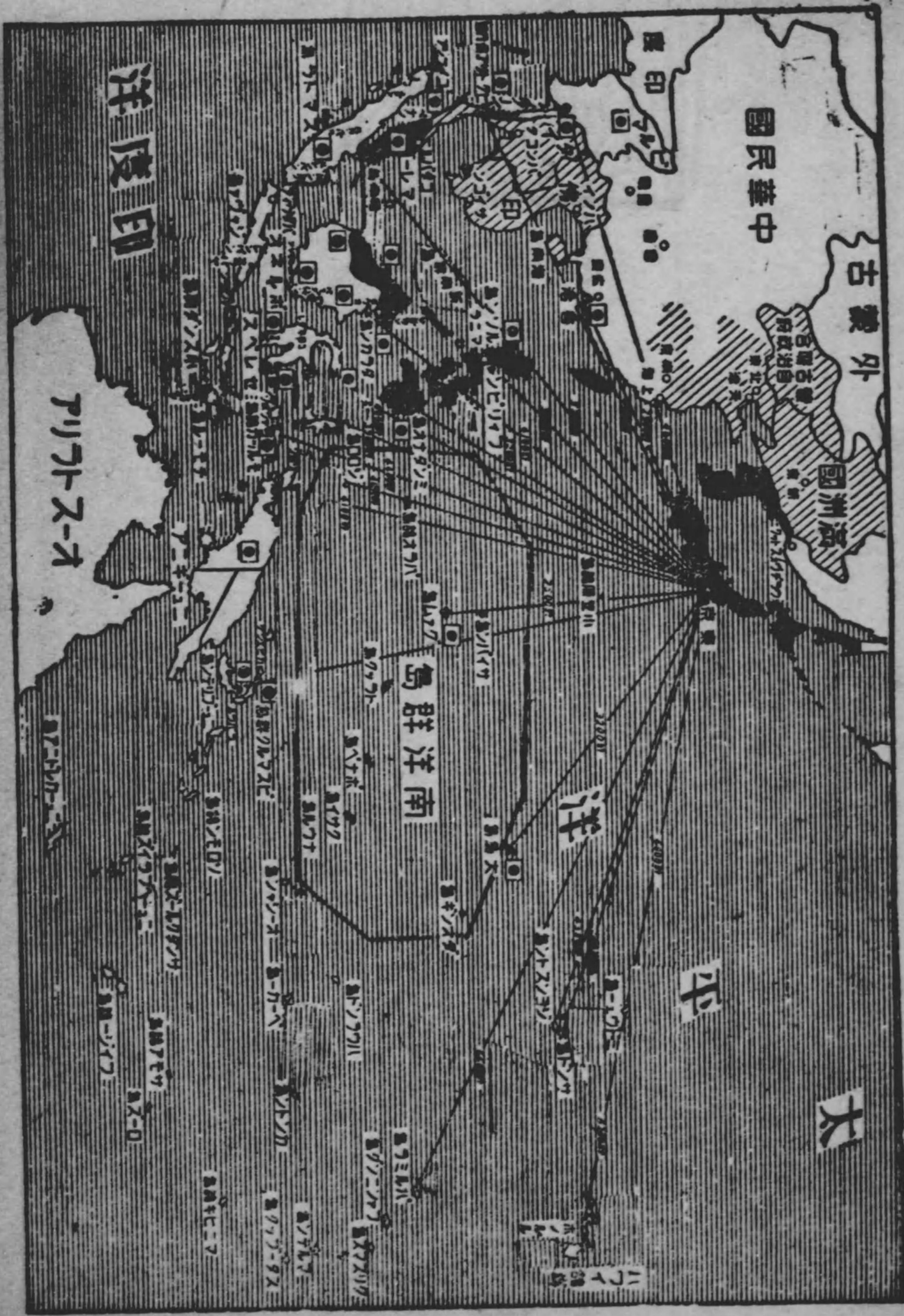
天竺の星政下に光明なき奴隷として、鐵鎖に繋がれてゐたアジア被壓進民族を、米英の暴虐より開放、大東亞
 共榮國獨立の興亞の大進軍は開始されつつある。
 我輩雄飛、海、空軍の征くところ難攻不落を誇る敵の牙城も、鐵袖一掃にして掃り、行手を遮る者無く、今や
 米英の障性壁を潰めて雄若たり、渺々たる太平洋、寶刀一度、鞘走れば妖雲忽ち舞る。
 明け、南方に揚き上る住民の歡呼の聲に包まれ、占領地は今や感激も新たに厭々たる生氣を受けて、起ち上る
 十億のアジア人のアジア建設の雄叫びを、古き秩序を破壊して、清淨なる大地の上に、若きアジアの奮動は世界
 に響いてゐる。
 今こそ雄き戰果の後を受け、われら青年が建設の榮譽を擔つて雄飛の時は來た、猶額大の城廓に響々として、
 寸土を墨守するより、汪洋たる未開の新天地に雄飛し建設に活躍の全力を注げ、島國根生を一掃し暢達な氣宇と
 雄渾な雄姿を以つて萬國南の時を來た。
 見よ、北に東亞の大東亞連綿支大陸あり、南に秋と冬なき豐沃の樂土共榮國大南洋あり、我等の雄飛を待つ豐土
 沃壤雄渾たるものならずや。
 我等はこれら未開の新天地の開發に當り、アジア建設に挺身協力、以つて天業を恢弘し八紘一字の大理想の顯
 現に邁進、人類の大自然開發の使命を果さねばならぬ。
 爾つて現下の我國に於ける海外雄飛指導建設をみるに、未だ完全といふを得ざるの實情にあり、爲めに折角の
 雄圖を抱き乍らも無爲に過す結果となる青年の極めて多きは邦家の爲め憂慮とする所なり。
 われ等この實情に鑑み、微力を盡み予紀元二千五百九十四年二月十一日帝國建國の佳辰を以て大日本海外青年
 會を創立し、以て九星海外雄飛指導の普及に努め、研究指導相談に當り、今日滿支大陸に、大南洋にと幾多邦
 人を雄飛せしめ會務本々隆盛を加へ、今や會内外を通じて十萬を號し、本邦に於ける民間唯一の海外雄飛指導
 會と稱されるに至れり。
 今や先づ新アジア建設の雄飛の大業を擔し、爾子の如き雄飛なる同志を得たり、然るに我輩雄飛指導し國策
 に關して特別青年の海外發展の要を盡げ、以つて大日本海外青年會の雄飛指導を大進軍とする所以なり。

三平將晴 著

共榮圈發展案内書

大日本海外青年會發行





共榮圈發展案內書總目次

〔大南洋〕

南洋群島篇

位置・地勢・面積……………一

沿革……………二

群島の發見と西班牙領時代・マリアナ群島・カロリン群島・マーシャル群島・獨逸領時代・我國との交渉・占領前の邦人の進出・氣候・人口……………七

各主要島の情勢……………七

テニアン島・ロタ島・パラオ島・ヤップ島・トラツク島・ボナペ島・ヤルト島・新占領のグワム島・大島島・各主要島の人口……………二二

行政の一般……………二二

沿革・南洋廳・地方制度・警務・司法行政・衛生教育・通信……………二七

主要産業事情……………二七

概説・農業・牧畜・林業・鑛業・商業・水産業・産業施設……………三三

島民の生業狀態……………三三

風俗・裝飾・食物・住居・知的觀察・社會的組織
經濟的生活一般・島民の性狀・言語……………三三

渡航及就職事情……………三三

渡航の方法……………三三

語航者の服裝・渡航後の屬・兵役關係のある者……………三三

内地群島間の交通……………三三

南洋廳貸下植民地移住案内……………三三

植民地移住者の資格・植民地移住許可願添附書類
移住者に対する許可方針・移住許可願書提出上の
注意・貸下植民地・植民區劃地移住許可願・其他
の事情・特點……………三三

新開地の事情……………三三

瑞穂村植民地・朝日村植民地・大和村植民地・
清水村植民地・春木村植民地……………三三

南洋拓殖挺進隊……………三三

進出する事業會社……………三三

事業會社四十有社及邦字新聞……………三三

東印度篇

位置・地勢・沿革・オランダの統治・我國との關係・我國の占領まで・面積・人口・人種別人口・
氣候・衛生・言語は馬來語・宗教は回教……………三三

各島の主要産業……………八

農業・鑛業・牧畜・林業・水産業・工業

各主要島案内……………三〇

ジャバ島・スマトラ島・ボルネオ島・セレベス島

ニューギニア島……………三二

邦人團體名簿……………三五

スマトラ島・ジャバ島・ボルネオ島・セレベス島

大東州諸島……………三五

進出する事業會社……………三六

舊英領ボルネオ篇……………三八

舊英領ボルネオ・氣候・衛生

(一) 舊英領北ボルネオ事情……………三九

地勢・住民……………三九

主要産業事情……………四〇

農業・林業・牧畜・水産業……………四〇

主要都市……………四一

サンダカン・タワオ・ゼツセルトン・邦人の發展

狀況……………四一

(二) サラワク事情……………四二

住民・サラワクの歴史……………四二

ベトバハ・コタベル・邦人の發展狀況……………二九

邦人團體名簿……………二九

進出する事業會社……………三〇

フィリツピン篇……………三〇

地位・面積・氣候・沿革・人種と言語……………三〇

主要産業事情……………三一

農業・林業・牧畜業・鑛業・水産業・工業……………三一

邦人の發展地ミンダナオ島……………三二

商業・林業・水産業……………三二

太田恭三郎氏の功績……………三三

主要都市……………三三

マニラ市・バギオ・セブ・ダバオ・レガスピ・イ

ロイロ市・ザンボアンガ……………三三

邦人發展の狀況……………三三

邦人團體名簿……………三三

進出する邦人事業會社……………三三

佛領印度支那篇……………三四

位置・面積・地勢・人口・風俗・言語・宗教・氣候……………三四

主要産業事情……………三五

主要産業事情……………八九

農業・鑛業・林業……………八九

主要都市……………九一

クチン・シブ・ミリ・邦人の活躍狀況……………九一

(三) ブルネイ事情……………九二

ブルネイの歴史……………九二

主要産業事情……………九三

農業・鑛業……………九三

主要都市……………九四

ブルネイ・クアラベライト……………九四

邦人團體名簿……………九五

進出する事業會社……………九五

マレー篇……………九七

地域・面積・地勢・住民・氣候・衛生・言語・教育・宗教……………九七

主要産業事情……………一〇一

農業・牧畜・林業・鑛業・水産・工業……………一〇一

主要都市……………一〇三

昭南島・ビナン・マラツカ・クアラムプール・

イポー・タイピン・スレムベド・ジョホールバル……………一〇三

概説・農業・鑛業・林業・水産業・牧畜・工業・貿易……………一〇二

主要都市……………一〇二

西貢・堤岸・アノムベン・海防・河内・順化・佛

印に於ける邦人の發展……………一〇二

邦人團體名簿……………一〇四

進出する邦人事業會社……………一〇四

タイ國篇……………一〇六

起ち上るタイ・位置・面積・人口・信仰と風習・財政軍備……………一〇六

主要産業事情……………一〇九

農業・林業・鑛業・水産業・畜産……………一〇九

主要都市……………一一一

サラブリー・盤谷・アヌチャ・チェンマイ・ランパ

ン・コラト・ナコーンシータマラーツ・パツタン

パレ・邦人發展の現狀・邦人團體名簿……………一一一

進出する邦人事業會社……………一一四

ビルマ篇……………一一五

ビルマの歴史・英國の侵略・英國の壓政統治・反

英獨立の叫び・ビルマ人のビルマ・面積・人口・

地勢・河川・湖沼・氣候・住民・宗教言語……………一一五

主要産業事情……………一六二

農業・鑛業・林業・畜産・貿易……………

主要都市……………一六三

ラングーン・マンダレー・メイミョ・ブローム・モールメン・日本人會名簿……………

進出する邦人事業商社……………一六五

印度篇……………一六六

面積・人口・住民・言語・宗教・複雑な住民・土侯國・英國の侵略・歴史の史實・英國の統治・獨立運動・氣候……………

主要産業事情……………一七二

農業・畜産業・鑛業……………

主要都市……………一七三

カルカッタ市・ボンベイ市・ニューデリー市……………

セイロン島……………一七四

人口・宗教・産業・コロンボ……………

濠洲篇……………一七五

濠洲の略史・面積人口・氣候・英國の歴史・白蠟主義……………

主要産業事情……………一七九

概説・牧畜業・農業・鑛業・林業・水産業・工業濠洲・はアジアへ……………

南洋渡航案内篇……………一八〇

内南洋と外南洋・渡航前の心構へ・渡航後の注意・渡航事情・就職の事情・南方關係の學校・鑛成所・興南鍊成院・自由渡航者……………

渡航の手續……………一八八

旅券の下附・査證・入國金其他・渡航前後の届出・佛領印度渡航案内・タイ國渡航案内……………

占領地の渡航……………一九二

渡航船賃・船會社の所在地……………

旅行上の注意……………一九三

乗船から上陸まで・兵役關係・郵便・貨幣・携帶品……………

南方進出案内篇……………一九五

南方建設隊軍屬手續。ボルネオのゴム園……………一九五

比律賓の貿易商社……………一九六

南洋群島へ農業移民……………一九六

大東亞海の汽船海員……………一九七

比律賓の林業會社……………一九七

南洋土木建築業界へ。タイピスト女事務員……………一九七

滿洲篇……………二〇〇

地域・面積・地形・山岳・河川・平野・氣候・住民・人口……………

滿洲國主要産業……………二〇五

農業・耕地・主要作物・畜産・林業・水産業・鑛業・工業……………

滿洲國主要都市……………二〇九

新京・奉天・哈爾濱・大連・吉林・公主嶺・新站・齊齊哈爾・洮南・東安・佳木斯・牡丹江・寧安・呼蘭・延吉・通化・安東・撫順・營口・四平・本溪湖・鐵嶺・瓦房店・開原・遼陽・蘇家屯・鞍山・熊岳城・西安・大石橋・錦州・阜新・北票・山海關・赤嶺・扎蘭屯・旅順・金州・普蘭店……………

滿洲國主要事業會社名鑑……………二一四

滿洲國就職事情……………二一四

羅通滿洲國・渡航者の覺悟・就職の方法・滿洲國の就職機關・物價と收入……………

滿洲渡航の手引……………二二二

渡滿のコース・兵役法在滿規則摘要……………

朝鮮の滿洲農業移民……………二二五

幹部指導者の應募規定・中堅開拓民應募規定・青年義勇隊・その他……………

南方の警察官吏。南方行通譯の申込み……………一九八

興南鍊成院第三部。海南島農業移民手續……………一九八

比律賓の工場へ。南洋の水産業へ……………一九九

南方の鐵工、機械工場へ。マライのゴム園に就職……………二〇〇

ジャワのデパート。北ボルネオの邦人會社……………二〇〇

ダバオの事業會社。佛印の鑛業へ就職……………二〇二

北ボルネオの農園。昭南島の邦人商店……………二〇二

ボルネオの石油。比律賓で麻栽培……………二〇三

洋服、理髮で南方發展。南方の花嫁……………二〇三

南洋の眞珠採取に發展。東印度の事業會社……………二〇三

南洋拓殖挺身隊……………二〇三

比律賓の大商店へ……………二〇四

佛印の南洋學院。南方熱の募集……………二〇四

南方の邦人收入。マライの鑛業に就職……………二〇五

南方の職業紹介所。南洋の食物……………二〇五

農業で南方發展。南方の教員……………二〇六

南洋熱帯産業研究所。南洋の邦字新聞……………二〇六

ニューギニアへ雄飛。募集の報知機關……………二〇七

南方發展學校。養成所。勞務登録者の南方發展……………二〇八

拓南鍊成所。農業指導者鍊成所。女性の南方行……………二〇八

南方の棉作訓練所。南方の指導者。海外同胞訓練所……………二〇九

共榮團關係主要團體名簿……………二一〇

滿洲農業開拓民申込内容事情……………三二七

拓け滿蒙・應募者の資格・政府の補助・供託金其他について・申込みから銓衡まで・訓練に就いて先遣隊とはどんなものか・本隊・渡滿後の兵役・むすび……………三二七

滿蒙開拓青少年義勇軍申込内容事情……………三二八

青少年義勇軍になるには・合格から内地訓練へ・内地訓練所・内地訓練所から渡滿へ・現地訓練・訓練所の種類・現地訓練終了後及兵役関係・費用及携帶品・むすび……………三二八

那……………三二九

面積・人口・氣候・年號と年數……………三二九

北支篇

面積・人口・北支八省面積人口……………三三〇

北支主要産業……………三三〇

農業・主要農産物及産額・牧畜・林業・鑛業・鹽業・工業……………三三〇

北支主要都市……………三三一

北京・天津・青島・濟南・通州・芝罘・秦皇島・唐山・塘沽・保定・定州・石門・彰德・新鄉・鄭州・臨城・藁莊・太原・臨汾・軍城・海州・徐州

開封・厚和・張家口・包頭・大同・宣化・張北……………三三一

中支篇

北支主要邦系事業會社……………三二九

金融業・電氣業・開發投資・交通航空航運・鑛業・洋灰業・化學工業・鹽業・棉花製紙・煙草發粉・土地建物・機械工業・蒙疆・其他商社……………三二九

北支への就職に就いて……………三三〇

支那の勞働事情・就職の方法・北支に於ける就職の機關……………三三〇

北支進出案内……………三三〇

渡航の手續・北支のコース・奥地への料金・航空・渡航の心得・旅裝と税關・支那渡航者の兵役關係……………三三〇

中支面積・人口……………三三〇

中支の主要産業……………三三〇

農業・中支主要農産物・畜産・中支那家畜數・林業・水産業・鑛業・大冶鐵山・工業・纖維工業・化學工業・油脂工業・鹽業・重工業・食料品工業・其他工業……………三三〇

中支主要都市……………三三一

上海・蘇州・杭州・無錫・鎮江・南京・蕪湖・安慶・九江・武漢三鎮・沙市・宜昌・重慶・成都……………三三一

中支主要邦系事業會社……………三三一

振興關係・銀行金融・貿易商社・百貨店・紡績業……………三三一

金屬工業・化學工業・食料關係・鑛業・木材石材製紙・印刷……………三三一

中支に於ける就職に就いて……………三三一

上海の勞働事情・中支の勞働賃銀・中支の就職事情……………三三一

中支進出案内……………三三一

渡航の手續・中支へのコース・奥地への旅行・航空・旅裝・その他・渡航後の注意・支那の度量衡……………三三一

南支篇

南支の氣候・人口・面積・民族……………三三二

南支主要産業……………三三二

鑛業・林産・水産・工業・南支各省別主要産物……………三三二

廣東省の事情……………三三二

地勢・主なる河川・港灣・半島・島嶼・我が國との關係・農業・養蠶業・畜産・林産・水産・工業・鑛業……………三三二

福建省の事情……………三三二

地勢・河川と海岸線・我が國との關係・農業・家畜・林業・水産・鑛業……………三三二

南支那主要都市……………三三二

廣東・汕頭・潮陽・潮安・佛山・中山・新會・北海・福州・廈門・莆田・長汀・龍溪・梧州・南寧……………三三二

桂林・廣州灣・澳門……………三三二

新日本領香港島……………三三二

海南島篇

沿革・皇軍占領・面積・人口……………三三三

南支那主要邦系事業會社……………三三三

南支進出案内……………三三三

渡航手續・南支へのコース・船會社・旅裝・支那への航路……………三三三

海南島の位置・地勢・氣候・面積・人口・住民・教育と文化・交通……………三三三

海南島主要産業……………三三三

農業・邦人の開拓狀況・牧畜・林業・水産業・鑛業・工業……………三三三

海南島主要都市……………三三三

海口市・瓊州市・嘉積市・金江市・便民市・那大市・萬寧市・博鰲市・藤橋市・三亞市……………三三三

海南島各縣案内……………三三三

瓊山縣・定安縣・文昌縣・瓊東縣・樂會縣・澄邁縣・臨高縣・儋縣・昌江縣・感恩縣・崖縣・陵水縣・萬寧縣……………三三三

渡航方法……………三三三

海南島主要邦系事業會社……………三三三

大陸進出案内篇……………三三三

滿鐵の見習社員・半島青年の滿洲開拓……………三三三

大陸の自動車運轉手。照和製鋼所入所希望……………四八八・四八九
 大陸の事務員。滿洲國警官。滿洲警察界……………四八九・四九一
 大工、左官で大陸へ。滿洲の鐵道員……………四九〇
 藥劑師として發展。滿鐵社員に就職希望……………四九一
 大陸農村指導者。林業に發展したし……………四九二
 鑛山に就職希望。國際運輸會社員。開拓士……………四九三
 自動車、飛行機へ。電氣技術者。滿洲官界に雄飛……………四九三
 滿洲の職業紹介所。民間の職業紹介所……………四九四
 内地よりの就職には。滿洲の邦字新聞……………四九四
 林業、製材方面。中等教員。鐵道警護隊……………四九五
 義勇軍、義勇軍幹部。大陸で看護婦……………四九六
 大陸商工業希望。滿洲國の軍人……………四九七
 義勇軍の寮母の手續。大陸か南洋で印刷工……………四九七
 開拓醫學院。滿洲の小學校教員……………四九八
 滿支のデパート店員……………四九八
 渡支の手續。渡航者の心得……………四九九
 言葉に就いて。商品見本と商品。商賣道具の持参……………四九九
 タイプ電話交換手。看護婦、産婆……………五〇〇
 支那で醫院開設。鍼灸で大陸へ……………五〇〇
 勞働目的で大陸へ。醫師として就職……………五〇一
 支那の鑛山に進出。現地除隊後の就職……………五〇二
 北支の棉花へ進出。商店に就職したい……………五〇三

洋服職人。理髮職人。支那の土木技術者……………四三三
 滿洲北支の物價。一族組。北支の職業指導所……………四三三
 北支鐵道警務員。軍屬の申込手續……………四三三
 大陸の花嫁訓練所。女事務員で大陸へ……………四三四
 北支の鐵道員。支那貿易に活躍。大陸で速記者……………四三五
 宜撫員となるには。支那の官吏を希望……………四三五
 支那語通譯になるには。渡支後の指導機關……………四三六
 支那で大學に入學。鐵道員希望の少年……………四三六
 支那の鐵工場へ。大東亞省巡查。日本人小學校教員……………四三七
 中支の鐵道會社。飲食店開業……………四三八
 支那學堂教育に従事……………四三八
 支那の邦字新聞。無線電信員。支那の紡績會社……………四三九
 中支で農業。南支か海南島で牧畜業……………四四〇
 中南支で電氣屋。南支で洗濯屋。軍屬として大陸へ……………四四〇
 牧畜業に就職。海南島の漁業へ。海南島の護謨園……………四四一
 鑛業へ就職。海南島の電氣事業……………四四一
 海南島へ農業移民。農業に進出邦人會社……………四四二
 林業事業。海南島へ勞働で發展。大商店に就職……………四四二
 海南島の電氣通信。海南島自動車へ就職……………四四三
 海南島の會社事務員。海南島の訓練所……………四四三
 海南島の巡查。居留民團。居留民團所在地……………四四四
 相談申込規定……………(表紙の三)

南洋群島篇

位 置

南洋群島とは小笠原島の南方、赤道以北の太平洋上に散在する舊獨逸領たりしマリアナ、カロリン、マーシャルの三群島を總稱したるものにして、東經百三十度より百七十五度、北緯零度より二十二度に及び、其包容する海面は東西二千七百哩(約千里)、南北一千三百哩(約五百里)に達してゐる。

之を大觀すれば、北東遙かに米領布哇を望み、西は比律賓群島及セレベス島に、南はニューギニアに對し、北は小笠原諸島及硫黃島に連つてゐる。

地 勢

南洋群島の地勢は、マリアナ群島は小笠原諸島に連りて北より南に走り、カロリン、マーシャルの二群島は赤道と平行して東西に連り、三群島の布置は逆T字型をなす。

南洋群島の各島は火山岩及珊瑚礁より成るものにして、唯ヤップ島のみは古紀變質岩類系の結晶變質岩類より成つて

ゐる。

南洋群島は、島嶼數は實に一千四百餘を算するも、その總面積は約二千四百九十九軒にして、沖繩縣若しくは東京府の面積に相伯仲してゐる。最も大なるはボナペ島及パラオ本島等にして、三百七十七方軒(約二十四方里)に過ぎない。

従つて地勢として特筆すべきものなけれども、地質上火山岩より成るものと、珊瑚礁より成るものとに依りて、全くその趣を異にす。即ちマーシャル群島は、いづれも珊瑚礁にして、水面上僅かに五呎内外の低平なる陸地であるが、マリアナ、カロリンの兩群島は、火山岩を母岩としてゐるに依り、地勢一般に急峻狀である。小群島中に無人島も少くない。

山嶽は概して低く、七百五十米を超ゆるものなく又河川は大なるものなく、溪流にして舟楫の便はない。

面 積

南洋群島の群島、島數及びその主要島の面積を表示すれば次の如くである。

群島別面積及島數

群島別	島數	面積(方呎)
マリアナ(舊米領グアム島含まず)	一四	六三九
カロリン	五四九	一、三二〇
マーシャル	六〇(更に八百餘の礁島に別れる)	一九〇
計	六二三	二、一四九

支應管區別面積と島數	面積(方呎)	島數
サイパン	一四	一
ヤップ	八五	二二六
パラオ	一〇九	四七八
トラツク	二四五	一三二
ボナベ	一三八	五〇四
ヤルット	三二	一七〇
計	六二三	二、一四九

沿革

群島の発見と西班牙領時代

今を去る事三百五十年、第十六世紀の頃歐洲に於て航海術の發達するや、西班牙、葡萄牙の探検者は競ふて東西に航し、前人未踏の陸地の發見に従事したりしが、我が南洋群島も亦これ等の探検者により發見せられたものである。然れども茫洋たる太平洋上に散在する孤島なるを以つて、發見の時期同じからず、三群島中マリアナ群島は最も早く他の二群島中カロリン群島はマリアナ群島と殆んど同時代に屬するも、文明人が之に手を着けたるは最も後代に發見せられたるマーシャル群島と殆んど同時期にして、今より僅かに五十餘年前の事である。

マリアナ群島

本群島は南洋群島中最初に發見せられたるものにして、西暦千五百二十一年葡萄牙の航海者マゼランにより發見せられ、千五百六十五年始めて西班牙國の領有になれるもので、當時西班牙皇帝フィリップ第四世の皇后マリアナが、土人教化事業に力を注ぎたることあり、其の恩徳を頌たんが爲に、同皇后の名を冠し、マリアナと命名したりと傳へらる。

當時西班牙は、比律賓及グアム島經營の餘勢を以つて本群島の施政に當り、教化、開拓に力めたるが、その施政宜敷きを得ざりしためか、屢々土人の叛逆に遭ひ、大虐殺を行ひたる結果、土人の人口激減したりと傳へらる。斯くて西班牙は本群島に於て何等見るべきものなく、空しく領有の名を有するに過ぎざりしが、一八九九年米西戦争起り、敗北の結果、グアム島を米國に割讓するの止むなきに至りたるのみならず、戦後財政の困難甚だしく、獨逸の提議により遂に本群島及カロリン群島を併せて、西貨二千五百萬ペセタ邦貨九百六十萬圓を以つて、之を獨逸に賣却せるものなり。

カロリン群島

本群島はマリアナ群島發見後六年、西暦千五百二十七年葡萄牙人テイエゴ・ダ・ロシヤに依り發見せられ、次いで西

班牙人によりヤップ以東トラツク、ボナベ、クサイの島々を發見したりと謂はる。當時西班牙國王カローロ二世の名を採りてカロリン群島と名づけられた。爾來西班牙は比律賓を根據地として、同國舊教に屬する宣教師を送りて土人の教化に力めし、殺戮相次ぎ布教意の如くならず居りしが、千八百八十五年當時植民地獲得に汲々たる獨逸は、マーシャル經營の餘勢を驅つてその領域を擴張せんとし、軍艦を派して中心のヤップ島を占領するに及び、獨逸兩國間の争奪葛藤を生じ、遂に時の羅馬法王レオの仲介に依り獨逸の商權を認むると共に貯炭所設置を認容して、本群島は西班牙領と爲し、漸くその局を收めたり。その後西班牙政府は、官吏宣教師等を派してその教化開拓に當れるも政策酷に失して治績擧らず、却つてボナベに於て土人の叛亂に遭ひ、これが防禦警備に暇なき状態におかれてゐた。偶々米西戦争に逢着し敗戦後にマリアナ群島と併せて遂に之を獨逸に賣却するに至つた。

マーシャル群島

本群島は南洋群島中最南端に位し、その歴史も亦異なる。その發見せられたるは、千五百年代なりとも或は千七百年代なりとも謂はれ、正確でないが、廣く世に紹介せられたるは千七百八十一年英國船長マーシャルの探検により發見せられ、初め英領なりしも、その領有根據薄弱たるに乘じ、獨逸は千八百七十七年軍艦を派遣して酋長と交歡を結び、

更に千八百八十五年遂にマルト島、その他の諸島を完全に略取するに至り。次いで千八百八十八年英獨協商の結果ギルバート諸島及ナウル島は獨領と定めた。斯くして南洋群島は獨逸の掌握する處となつた。

獨逸領有時代

南洋群島が文明人に交渉を有したる跡を求むるに、マリアナ群島に於ける西班牙人の足跡は、約三百五十年の昔に遡り得べしと雖も、その傳ふる所は土人の暴動とその虐殺の口碑にのみ、事蹟は歲月と共に湮滅して今にして、探ね得ざるもの多し。

茲に南洋群島の歴史を敘せんとせば、マリアナ、カロリン兩群島に在りては、西曆千八百八十八年に西班牙國の主權の確立に、マーシャル群島にありては同じくその前年に於ける獨逸の完全なる領有に、その紀元を置かなければならない。マーシャルに於ける獨逸の施設は姑く置き、マリアナ、カロリンの二群島に於ける西班牙の經營は、その對策宜しきを得ざりしか、或ひは衝に當るに、その人を得ざりしか、領有十四年間に於て治績の尋ねべきものなく、唯ヤップ島ボナベ島とに叛亂に備へた防禦的施設を残してゐるに過ぎない。これに反して獨逸の保護領となりし以來その獲得に熱心なりしだけ、その經營に努力の跡見え、領有十六年間に於ける施設經營今にして事績見るべきもの少しし。

謝罪せしめた。この事件を報じたるエーダ號には數名の日本人が水夫として乗組居れりといふから、邦人は當時屢々南洋群島に往來したるものと思はれる。

尙明治二十九年宮城縣人、赤山柏次郎氏は當時スペイン領水曜島に於て土人に虐殺された事件あり、この時スペインより一萬五千圓の賠償金をとり解決せり。この南洋開拓の犠牲者赤山氏の爲、復本武揚子は「海客埋骨の碑」と題した墓碑を建立した。

占領前の邦人進出

我が邦人の南洋方面發展は故復本武揚子及田口卯吉博士等の南洋發展論を唱導したる前後より起りたるものにして地理上最も本邦に接近したるマリアナ群島は占領當時既に邦人商人の勢力範圍に在りて外國人の侵入の餘地なき状態にありたりと謂はれ、西部カロリンに於ても邦人は常に獨逸商人との競争に打ち勝つる趨勢にあつた。

その最も有力なる貿易業者は南洋貿易株式會社である。同社は明治二十六年、和歌山縣の人三本氏等が資本僅かに二千餘圓を以つて、南洋貿易組合を組織したるに始まり、以來幾多の困難と戦ひつゝ奮闘を續け、事業漸次隆盛を加へ、後十五萬圓の株式會社に改めて椰子の買入れや雜貨の輸出販賣を營み、東京に本社を、サイパン、トラツク、ボナベ、ヤップ、パラオの諸島に支店出張所を設け、獨逸商人と商戦を争ひ、壓迫に堪え、巧みに島民を收攬して勢力の

以上の如く獨逸が統治する事十六年、西曆千九百十四年我が大正三年、歐洲大戰の結果我國は日英同盟の約を以つて我が海軍南遣支隊の占領する所となり、以來我國の統治領となり施政するに至つたのである。

我國との交渉

南洋群島と我國とは水路一直、南下すれば八丈島、小笠原島とに連りたる地域にあり、有史前或は有史後、我國と何等か交渉ありたる事を思はしむるものあるも文献に徴すべきものなく、唯僅かに口碑傳説による以外にない。近世に至り我國と南洋群島との交渉を摘記すると、

軍艦の寄港 明治十七年軍艦龍嶽が海軍兵學校卒業生を乗せて遠洋航海の途次ボナベ管内のクサイ島に寄港せり、酋長は我が軍艦を見るや大いに悦び來訪して曰く「口碑の傳ふるところに依れば我等の祖先は日本人なり、我等は實は日本人の子孫なり」と誠意を披きて歡迎したりと謂ふ。この事實は内外に傳へられ「クサイ」は九州の訛音なりといふ者ありたりといふ。

邦人の虐殺事件 同じく明治十七年、横濱瀛洲間を交通する英國帆船エーダ號はマーシャル群島、ラエ島にて漂流日本人の虐殺せられたるを報ず。外務省はこの報を得て御用係後藤藤太郎、鈴木經勳の兩氏等をエーダ號に便乗事件を調査せしむるに決し、一行は九月一日横濱出帆、同月二十三日マーシャル群島ウジヤエに到着し、酋長に談判して

扶植に努めた。大正三年我國の占領成るや、多年扶植せる商權を擁して群島貿易に雄飛し、今日の飛躍を見たものである。

それよりも早く明治二十三年田口卯吉氏、東京府士族授産資金四萬四千圓を以つて南島商會を組織し、帆船天佑丸九十一噸を購入して鈴木經勳外十數名と共に乗組み、横濱を出帆、小笠原からグアム、ヤップ、パラオ、ボナベ等の諸島を巡航し、行く先々で物々交換の交易を行つて歸國した。この時ボナベに南島商會の支店を設け、邦人活動の一礎石を置いたのは邦人商店の嚆矢であつた。その後業務を一屋商會の商號に之を繼續したが、收支相償はず明治二十八年頃解散となつた。

同じく明治二十三年横尾東作氏の恒信社が本社を東京に支社をパラオ、トラツクに置き、貿易事業に従事した。一時資本金を五萬圓にして南洋貿易船グアム丸の所有者上田某と合併經營にしたるも、事業振はず、大正三年我が占領前までその事業を繼續してゐた。

明治二十五年頃小林富次郎、服部新助、原元義氏といふ人等が共同で相陽丸といふ三十噸の船にて群島貿易に従事物々交換で交易せる事もあり、明治三十年頃日本橋小網町の野中萬助氏が、二百噸の帆船湊川丸にてグアム、サイパン、ニューギニア方面まで進出をした事なども傳へられてゐる。

その他に單獨にて群島に進出拓植に従事せるものも少く

ないが、當時西班牙及獨逸領にして彼等の壓迫からず、
ために幾多の邦人が苦闘し、受難と犠牲と勇壯な活躍を南
洋開拓史に残してゐる。

氣候

南洋群島は、其位置赤道に接し、全島悉く熱帯圏内にあ
る故、半熱帯の臺灣などと異なり、我版圖中では異彩を放
つてゐる。温帯地の如く四季の別なく、一年を通じて温帯
夏季の氣候にして所謂「常夏の國」である。然しながら各
島とも太平洋上に基布星座する島なる故、海風常に島上に
吹き、純然たる海洋性氣候にして、晝夜の別による氣候の
差も極めて少い。

熱帯焦熱の氣候を想像して渡來する者の齊しく意外とす
るところである。群島は熱帯特有の風土病マラリヤなく、
又毒蛇、猛獸の棲息するものなく、年中夏衣一枚で過せる
といふ天恵の地である。

全群島を通じて殆ど氣温は同じく、又一年を通じての變
化も極めて少く、一日中の最高温度は平均攝氏二十九度四
にして、最低温度は二十四、五度、平均は二十六度内外で
ある。

雨量は全群島を通じて降雨量極めて多く、各地多少の差
あるも、之を平均して一年三、〇〇〇耗以上に達する。之
を内地の平均雨量一、七〇〇耗に比すれば、約二倍に相當
する事になる。

日々數度の降雨があり、一抹の黒雲現るゝや沛然車軸を
流す如く降つて、忽ちからりと霽れ渡る。これがいはゆる
「スコール」であつて、一方には農作物の灌漑にもなり、
他方には炎熱の緩和にもなるのである。

ボナベ島は群島中一番雨量多く、一年四、〇〇〇耗に達
するのを常としてゐる。群島は乾濕期の劃然たるものなき
も、概して毎年七月から九月頃までを雨期とし、一月から
三月頃までを乾燥期とされてゐる。又十一月から翌年四月
頃まで北東若くは東の一定した風が吹く、之が即ち貿易風
「モンスーン」である。

群島は目下天水を貯藏して飲料水としてゐるのが普通で
ある。

南洋群島は氣象の變化少く、偶々颱風の發生すべき變化
を起すことがあるが、其の低氣壓は概ね幼年期に屬し、從
つて暴風に達することは稀である。

人口

南洋群島に於ける最近の調査による人口は全部で約十一
萬五千人で、中島民は約四萬四百人、邦人は七萬五千人、
外國人は約百二十人である。

島民人口四萬四百人中カナカ族の人口は三萬六千七百人
にして、その大部分を占め、チャモロ族は僅かに三千七百
人に過ぎない。チャモロ族は人口増加率高きもカナカ族は
甚だ低く、全群島を通じて現狀維持の狀態に在る。殊にヤ

ツブ支廳管内のカナカ族の如きは逐年減少の傾向にある。
邦人は大正三年占領當時僅かに數千名に過ぎざりしが、
漸次飛躍的發展を示し、現在七萬五千人に達してゐる。う
ち男は四萬五千人、女は約三萬人である。その大部分はサイ
パン支廳管内に居住し、多くは農業に従事してゐるが、近
時パラオ、ボナベ等の産業發展に伴ひ進出者は増加されつ
つある。これを本籍別にすれば沖繩縣最も多く、福島、鹿
兒島之に次ぎ、殆ど全府縣に互つてゐる。朝鮮、臺灣、神

主要島の情勢

サイパン島

サイパン島は南洋群島中一番内地に近く、横濱より航路
一二八五哩、六日目に到着する島である。群島第一の發展
地にして面積は十二方里、約二萬町歩、本島は獨逸領時代
より開發せられ、我國占領當時既に南洋興發の前身である
西村拓植、南洋殖産會社等によつて企業せられた島にして
植民史上に古き歴史を有してゐる。

土地は比較的平坦にして地味肥沃なれば、その多くは農
耕地に利用され、南洋興發株式會社を始め南興農産、南洋
タバコカ、南洋コーヒー、太平洋商店、太平洋貿易等の主な
事業會社は本社を此の地に置き、商戦に或ひは工場、農

太に籍を有する者も現在數百人に達してゐる。

外國人は占領當時獨逸人宣教師最も多く、商人等約百名
の在留ありたるも、其後獨逸人は退島し、僅かに英、米人等
十四名に過ぎなかつた事がある。大正十年西班牙宣教師修
道士等三十餘名來島の外、白耳義、獨逸人等次第に入島し
現在上記の數となり、大半は宗教關係者にして、その他は
椰子栽培、コブラの仲買等で農林業又は商業に従事する者
である。

場を經營に活躍してゐる。

水産業も近來旺んにして鮪漁業、眞珠貝等に企業會社も
數會社が發展されてゐる。

ガラパン町は電信、電話、電燈は勿論乗合自動車等の施
設も完備し、各種商工業は急激に發展し、逐年繁盛を見せ
てゐる。

主なる社會施設としてはサイパン支廳、地方法院、彩帆
神社、郵便局、醫院、熱帯産業研究所、實業學校、彩帆高
等女學校、國民學校、公學校、日刊新聞には南洋毎日新聞
あり、常設映畫館二、劇場も一つある。

チャランカに南洋興發會社の本社及農場（第一第二第三
農場）製糖工場があつて、これ等従業員住宅地は小市街

を形成して發展してゐる。

テニアン島

サイパン島より一八哩航路二時間半で行ける島である。面積は六方里三五、約一萬町歩の島である。南洋興發の主たる事業地であり、全島の七千町歩が甘蔗耕作地となり、甘蔗六億斤を生産する有力なる糖産地である。在住人口のその大半は興發關係の者といつた島である。

テニアン島は昭和二年頃までは邦人は僅か十數名、山に野豚が住んでゐたといふ島であるが、昭和三年に製糖業が開始され、今では全工場製糖能力二、二〇〇英噸、東洋一の製糖工場を有する島となつた。

テニアン町は昭和五年新市街地を施いた町で、殊にカーヒ、チヌロー等が小市街を形成してゐる。

各會社、商店の多くはサイパンの延長の如くであるが、新進の商人も多く、今後の發展を期待されてゐる。

サイパン支廳出張所、郵便局、天仁安神社、國民學校、映畫館一、劇場一、曹洞宗布教所、眞宗布教所、尙有名なタガ族の遺跡がある。

ロタ島

ロタ島は面積は八方里の島である。本島の市街地は、島民を一ヶ所に纏め、邦人を以つて市街地を形成してゐるが、市街地美は勿論、島民の指導教化に良き結果を擧げて

ゐる。

南洋興發は本島に製糖工場を經營し、約二千町歩の甘蔗耕作を經營する外、南洋ココア會社其の他の産業會社が本島を舞臺にキヤツサバ、カカオ、パイヤ等の農場及工場を有して活躍してゐる。

最近同島高地サバナに於て埋藏量三十萬噸の燐礦が発見せられ、興發により採掘事業が開始され、同島の新興事業として早くも活況を見せてゐる。

ロタ島は群島中珍らしく水源に恵まれた島で、市街地や農場等には水道が敷設されてゐる。市街も整備されてをり郵便局、公會堂を始め、映畫館等の娛樂機關も設けられてゐる。商店街は多くはサイパン、テニアン島の支店になつてゐる。

パラオ島

パラオとは一般にパラオ、コロル町と云はれてゐるコロル島及パラオ本島等の總稱である。

コロル島は面積〇、五方里の島であるが、南洋廳の所在地にして、群島行政の中樞である。

コロルには南洋廳を始めパラオ支廳、高等法院、地方法院、郵便局、醫院、觀測所、高等女學校、國民學校、公學校等の官公衙の外南洋拓殖株式會社を始め、その傍系會社たる南洋アルミニウム、南洋鳳梨、南洋汽船、南洋興業、豐南産業、南洋電氣、東洋電化等の諸會社、南洋貿易

株式會社の本社があり、各種産業團體の本部が設置されてゐる。新聞日刊「南洋新報」があり、コブラ、經節、眞珠貝その他の集散地として、各種商工業も年々發達を示してゐる。

パラオ本島は面積二十四方里餘でボナベに次ぎ、群島最大の島にして、各事業會社の事業經營地であり生産地で、アルミニウムの原礦たるボーキサイト採掘、南洋鳳梨の罐詰工場、豐南産業の栽培農場、南洋拓殖等の事業が盛に進出され、本島開拓は進捗されつつあり、南洋廳の區劃植民地瑞穂村、朝日村、清水村、大和村等が設定される等拓殖事業は一大進展を見せ飛躍されつつある。

離島のマラカル及アラカベサンの二島の經節製造事業は盛大を極め、南興水産、パラオ水産等其の他數社が活躍され、經節製造工場、製氷工場等の各種施設が完備繁盛されてゐる。

アンガウル島は燐礦島として名高く、現在南洋拓殖會社により、採掘が進行されてゐる。燐礦は内地に移出され、製肥工場に於て硫酸を混和して、過燐酸石灰肥料として使用される重要資源である。

ヤツブ島

ヤツブ島は總面積十四方里、島民は未だ原始的の域を去る事速からずで、生活は原始的であり、服装は今尙裸體跣足を風としてゐる。男子は禪一點、婦人は草木の纖維をも

つて造つた腰巻を腰部に纏ひ、上半身は裸體の風である。

邦人の進出は未だ少く、その殆どは未開墾地であるが、愈々南洋拓殖株式會社が本島の開拓に乗り出し、現在開拓が進められつつあり、南洋鳳梨會社のパインアップル罐詰工場の進出等により産業開發は進捗されつつある。その他牧畜及水産等の計畫もされて居り、今後の發展は各方面に大いに期待されてゐる。近時邦人は次第に進出され新企業が進められてゐる。

産業としてはコブラ、高瀬貝、經節を産す。コロニーは南洋支廳の所在地にして、南洋支廳、郵便局、醫院、國民學校、公學校その他がある、邦人雜貨商の多くはパラオの支店である。

猶群島海底電信の中心地として有名な地である。南洋拓殖によりヤツブ開拓のため南洋開拓挺身隊を組織し、青年拓士を以つて開墾事業が進められてゐる。

トラツク島

トラツク支廳管内は島數二四五に達するも、面積は全部で八方里にして比較的大なる島には四季、七曜の名を附したるものがあり、その中、春島一、四三方里、夏島〇、五八方里、水曜島の一、五一方里等が大なるものである。

トラツク島はサイパンの東南六六〇哩、パラオ島とヤルト島の稍々中間に位す。南は皇軍の占領したビスマルク群島に對峙してゐる。將來日濠貿易開始の曉は重要な地

點である。現に南太平洋への遠洋漁業の據點として刮目されてゐる。

各島は土地狭く、陸産物としてはコブラ等が主要産物にして椰子葉の帽子原料、香料植物等である。水産業は近時活況を呈し、鰹、鮪等の海洋資源多く、群島水産界に重要な立場を占めてゐる。

トラツク島民は群島中比較的能發達が低く、野生の生活の風習が行はれてゐる。これは從來交通至便ならず、文化に接する機会尠なりしによるものであらう。島民は一萬五千で群島中一番多く、カナカ族である。

南洋廳支廳は夏島に在る。市街に國民學校、公學校、醫院、郵便局等公共施設は完備されてゐる。

ボナベ島

ボナベ島はその面積二四、三四方里にして南洋群島第一の大きな島である。

本島は最近各種新産業が勃興され、南洋興發、南洋拓殖、南洋貿易、南拓鳳梨、南洋産業、南洋拓殖興業等の各會社が續々と進出新事業開始を見、今や群島の新寶庫として飛躍的發展を爲し新興ボナベとして躍進してゐる。

南洋興發はタビオカ澱粉製造所を設け本島を舞臺に活躍し、南洋貿易は椰子樹の植栽に進出、南洋産業のキャツサバ、トバ等の新特産物生産に、南拓鳳梨はバイン罐詰工業等、その他水産業も近時活潑なる進出を爲しつつあり、海

に陸にと本島の開發は進められ、今後の發展は一般に期待されてゐる島である。

春木村は南洋廳の選定植民地にして米作、棉作、鳳梨、タビオカその他特産物の栽培盛であり、南洋鳳梨の罐詰工場等諸種の産業施設も完備されあり、將來ボナベ産業の中心をなすであらう。

島内には山あり、川あり、谷あり、瀧ありで、地味も肥沃である。水利による水力電氣、製氷等も既に實施されてゐる。

ボナベ島の公共施設として支廳、地方法院、觀測所、郵便局、醫院、熱帯産業研究所、國民學校、公學校等で、各事業會社の本支社、及製産工場等がある。市街地の商工業も逐年發展し、邦人も年々激増されてゐる。

ヤルイト島

ヤルイト諸島は南洋群島の最南端にありて、島數三十二でその總面積十一方里である。

ヤルイトはその面積〇、五一方里にして全島悉く珊瑚礁よりなつてゐる。島の地面低く海面上僅かに五呎を出でない島である。

本島はその風土最も椰子樹の生育に好適され、到る處繁茂し、亭々たる樹幹は海面を壓してゐて、さながら椰子島を思はしむるものがある。

コブラの産額は、群島全産額の大半は本島に於て占め、

群島産業の主要地である。商人もコブラの買入れを中心に内外人が多く入り込んで貿易が盛である。

本島には獨逸領時代にヤルイト會社を置き、群島開拓の根據地とした所であり、島民は早くより、文化人に接する機會多かりし關係上、その生活程度は群島中最も高く、島民にして洋服をつける者あり、樂器を奏なせる者も中にはある。

主なる施設としては支廳、郵便局、醫院、國民學校、公學校、觀測所出張所其他各企業會社がこの地に支店を置いてゐる。

新占領のグワム島

我が統治領南洋群島の中に只一島、星條旗を掲げ、米國の東亞前線基地として難攻不落を誇つたグワム島も、大東亞戰勃發するや昭和十六年十二月十二日我が皇軍の猛烈果敢なる敵前上陸により占領した。グワム島とはどんな處か位置は北緯一三度二六分、東經一四四度四三分、サイパン島の南にある長さ三二哩、幅四乃至一〇哩でその面積二二五方哩、我が内南洋群島中一番大きい島となつた。

人口は昭和十五年の調査によれば、二萬二千人、その中大部分を占めるはチャモロ族で二萬五百、比律賓人が約二百人、歐米人が八十人、邦人が四十三人でその他は米國軍人官吏等であつた。

産業の主なるものとしては農業であつて、甘蔗の栽培に

好適され、現在製糖はサイパン、チニアンで年産百萬ピクルであるが、グワムを開拓したならば二百萬ピクル内外の生産をあげる事が出来るであらうと云はれてゐる。コブラの年産は一萬五千噸でその一部は島内の工場で石鹼に加工されてゐる。

地下資源としては、燐礦とマンガンが有望な資源となつてゐる。



大鳥島

現在耕地は約三萬町歩で多少の水田はあるが島内の食糧の自給には遠く、現在佛印よりサイゴン米が輸入されてゐるが將來邦人の手により開發するなれば自給の見込みは十分であるとされてゐる。

未だ詳密なる調査なきも今後専門的立場より調査するならば産業的價值も多く、南洋群島の女王として發展されるであらう。

宿敵米國が東亞進攻の中間基地として恃むウエーキ島に對し、昭和十六年十二月二十三日午前十時我が陸戰隊が敵前上陸を敢行、完全にこれを占領した。

同島は北緯十九度十八分、東經百六十六度三十五分で、
ピール、ウイルクス、ウエーキの三小島よりなり、全面積
は僅か二平方哩、占領後これを大島島と改稱せる島で産業
的價値はなく、軍事的島である。

主要島人口

支廳別	島名	邦人		島民	
		男	女	男	女
サイパン	サイパン	13,311	10,833	1,529	1,581
同	タニアン	9,178	6,711	—	—
同	ロタ	11,801	11,080	801	—
同	パガン	110	—	—	—
同	ヤップ	—	—	1,211	1,620

支廳別	島名	人口	備考
パラオ	パラオ本島	1,280	
同	コロール	4,798	
同	アンガウル	9,698	
同	トラツク	1,018	
同	夏島	1,048	
同	秋島	508	
同	冬島	558	
同	月島	6	
同	水島	468	
同	金島	118	
同	ボナベ	3,078	
同	ポナベ	1,878	
同	クサイ	508	
同	クサイ	698	
同	ヤルット	288	
同	ヤルット	1,878	
同	ヤルット	698	
同	ヤルット	698	

注 (外國人ハ少数ニ付省略ス)

行政の一般

沿革

大正三年歐洲大戰勃發し、日獨の國交破るるや、我が海
軍の南遣隊は直に南洋を衝き、當時獨逸の保護領たる太
平洋中赤道以北に散在する南洋群島を占領し、同時に軍政
を布き、臨時の治安維持に任じた。時に大正三年十月にし

て南洋群島に於ける帝國施政の肇である。次いで同年十二
月臨時南洋群島防備隊令發布せられ司令部をトラツク島
に置き、全群島を分つて五民政區と爲し、各區に守備隊を
置き、守備隊長をして軍政廳長とし民政事務を兼掌せしめ
茲に軍政の基礎を確立するに至つた。大正七年六月民政職
員設置に關する勅令公布せられ、臨時南洋群島防備隊司令

官の下に民政部を設け、新に民政部長及事務官その他の職
員を任命して從來の軍政廳を改め民政署と爲し、事務官を
以つて民政署長に充て、各管内の民政事務に當らしめ、守
備隊は専ら地方警備の任に當り、茲に群島民政の端緒を開
くに至つた。

大正八年六月交戰國間に平和條約成立し、主たる同盟及
聯合國の決議に依り、南洋群島は委任統治の名の許に永久
に我が國の統治領と成れり。茲に於て帝國政府は南洋群島
に於ける施政制度を根本的に改革するの必要を認め、行政
廳設置の準備として、大正十年七月民政部を司令部と分離
し、之をパラオ、コロール島に移轉、翌十一年三月從來の
臨時南洋防備隊令を廢し、軍隊を撤去すると同時に四月
新に南洋廳を設置して今日に及ぶ。我國占領以來既に二十
有餘年、その間、教育に、文化に、産業に、行政にと啓蒙
開發に努力され、逐年飛躍的發展を示し、今やその面目は
一新され、我國熱帯産業の寶庫として躍進途上に發展され
つつある。

南洋廳

南洋廳官制は大正十一年三月勅令を以つて公布せられ、
その後數次の改正を見た。現行官制は南洋廳に南洋廳長官
を置き、拓務大臣の指揮監督を受けて部内の政務を管理す
ることになつてゐる。うち郵便及電信に關する事務は逓信
大臣、貨幣、銀行、關稅、度量衡及計量に關しては大藏、

商工の各大臣の監督を承くる。

南洋廳の機構は長官官房の外、内務、拓殖の二部に分ち
各部に部長を置き、長官官房には、秘書、文書、調査の三
課、内務部には地方、稅務、財務、警務、土木の五課、拓
殖部には農林、商工、水産、交通及逓信の五課並に物産陳
列所を置き、各課に課長を、物産陳列所に所長を置き、事
務官、警視、技師、屬又は通信書記を以つて之に充ててゐ
る。

群島須要の島に支廳及支廳出張所を置き、戶籍、賑恤、
救濟、警務、衛生、徵稅、教育、宗教、産業、土木、港灣
等其他の特別官制の權限に屬せる一切の行政事務を掌理せ
しめてゐる。
現在支廳はサイパン、パラオ、ヤップ、トラツク、ボナ
ベ、ヤルットの六ヶ所に置き、サイパン支廳の出張所をテ
ニアン島とロタ島に置いてゐる。醫院は六支廳所在地の外
アンガウル島及クサイ島に、郵便局は六支廳の外アンガウ
ル、テニアン、ロタの三箇所に、法院は高等法院をパラオ
に、地方法院をサイパン、パラオ、ボナベの三箇所に、氣
象臺をパラオに、測候所を各支廳所在地に、熱帯産業研究
所はパラオに置く、支所をサイパン、ボナベに置き、水産
試験所はパラオに置いてゐる。學校は各支廳所在地及その
他の須要の地に設置されてゐる。

地方制度

邦人人口は産業發展により近年著しく増加され、漸次各地に集團部落を形成するに至つたので、昭和六年南洋群島部落規定を制定して、部落制度を設け部落内の公共的施設に當らしめ、又官廳事務を補助せしめてゐる。各部落には總代、副總代各一名を置き、且各部落に協議會を設けて諮問機關としてゐる。

島民にては島民中より村吏を任命して行政事務に關與せしめてゐる。チャモロ族に對しては部落民の推舉による區長及助役を置き、カナカ族に對しては舊慣により總村長及村長を置いてゐる。村吏の管轄區域は舊慣により定めてあり、その職務は舊慣に屬する事項の外、法規の周知、願書届出の申達、支廳長よりの命令の傳達、又はその執行に關する事務である。

警 務

警察、衛生、消防、監獄等の事務は内務部警務課に於て管掌し、直接の執行事務は支廳である、特に重大なる事項を除く外は支廳長に警察權を與へ、部下職員の指揮監督に任じ之等事務を執行してゐる。

各支廳に警部補派出所、巡查駐在所及派出所を設置してゐる。又島民中より巡警を採用して之が補助をなさしめる等完璧を期してゐる。

司法行刑

裁判制度は地方、高等法院の二審制度、第一審たる地方法院はサイパン、バラオ、ボナベの三箇所に、高等法院はバラオに置き、民事刑事裁判及非訟事務を掌理してゐる。各法院に判事、檢事、書記を置いてゐるがボナベ地方法院にありては支廳警部をして檢事事務を取扱はしめてゐる。支廳長及警視は、犯罪捜査に就いては司法警察官として地方法院檢事と同一の權限を有す。民事刑事の裁判事務は法院の取扱ふを原則として居り、法院の無い地では支廳長をして民事事件に關する一部の事務を取扱はしむる外、支廳長には輕微な刑事事件の即決權を附與してゐる。群島の犯罪は比較的單純な爲、科刑も一般に輕く、大部分は拘留科程度のものである。サイパンには稍々完備した刑務所を設けて、長期受刑者を移監收容してゐる。

衛 生

南洋群島は熱帯圈内に在りと雖も、氣候比較的良好にして居住に適し、他の熱帯地に見るが如き悪性の疾病少く、保健状態良好である。唯、島内各島は多く狭小なる珊瑚礁島なるため、井水を得る事が困難で一般に貯溜天水を飲用することと、雨量多く湿度高きため、罹病の素因たる様にして、又季節風は島により多少差異あるも、概して十一月より四月迄の間は北風又は東風常時あり、これが終始期に氣候の悪化あるため往々感冒の流行を見ることあり、島民は一般に衛生思想乏しく、迷信を固持して傳染病に對して傳

染性を信ぜず、疾病は神の所業と信じ、或は不治のものとして受療を避くるの弊あり、その衛生思想は未だ極めて低級である。當局に於てはこれら島民の生活状態及衛生思想の善導に不斷の努力を注がれてゐる結果漸次改善に向ひつつありと云ふも、永年の陋習は遽に抜き難きものがある。

地方病としてはアメーバ赤痢、デング熱、フランベシア等で時折各地に散發するが、病状は一般に輕く、デング熱は時々流行することあるも、豫後は良好にして不幸轉歸を見るもの稀である。フランベシアは多く島民に侵入してゐるが、最近サルバルサンの注射により偉効を奏し、漸次減少されつつある。尙マラリヤ熱は殆どない。

衛生施設としては各支廳所在地とアンガウル島、クサイ島に官立醫院を設置して公衆の診療に當つてゐる。テナアン、ロタ及バラオ本島朝日村には公醫を置き、開業醫の中より任命して一般の診療に當らしめてゐる。尙醫療機關のない僻地離島には巡回診療を行ひ、或ひは各巡查駐在所、國民學校、公學校等に救急醫療藥品を常備し、應急の處置に遺憾なき様期されてゐる。

尙一般衛生状態改善向上を圖るため、講話、活動寫眞等により衛生思想の普及宣傳を爲し、食料水槽改善、上水道施設、住宅便所改良、海港檢疫等に努力せられ、逐年良好になりつつある。

「恩賜財團慈善會」本會は昭和二年に慈善救濟の資に充つるため、聖旨を以つて御下賜あらせられた御内帑金を基

金として設立されたもので、窮民及罹災者の救護、癩養護その他行路病者の保護、釋放者その他必要なる恤救事業に當つてゐる。受救者は何れも聖恩の鴻大なるに感泣してゐる。

教 育

南洋群島の島民教育の沿革を見るに、西班牙領時代は島民教育に資する何等の設けなく、僅かにキリスト教傳導師が布教の傍ら、兒童を集めて讀書を授けたるに過ぎない有様であつた。

ドイツ時代に於ても島民の教育は、大部分は傳導師の手に依りて行はれ、同國政府はこれ等宣教師に相當の補助便宜を與へて教育の普及に心を致せり。その養成したる島民傳導師も現はれる様になつて、この島民傳導師が部落に於て兒童を集めて教育なせる者各地にあり、教科目は讀方、書方、算術、唱歌等にして、島語の耶穌經典を教科書として布教を兼ねて教導せる程度のもにして、政府で設置せるはサイパンに一校ありたるに止る。大正三年我國占領するや、我海軍將卒は隨時島民兒童に國語、算術、唱歌等を教授せり。翌年十二月にはサイパン、バラオ、ヤップ、トラツク、ボナベ、ヤルトの六ヶ所に、修業年限四ヶ年の學校を設置し、修身、國語、地理、歴史、理科、唱歌、農業、手工、裁縫等の科目を教育する様になつた。

大正十一年四月南洋廳開設せらるるや公學校官制發布せられ、從來設置の島民學校及其分校を公學校と改稱し、

日本語を常用せざる者を收容して教育に當る様になつたのである。

我が國施政に當り茲に二十有餘校を數へ、島民教育は初めて文化の恩恵に浴し、占領當時の野風次第に後を絶ち、教育その宜しきを以つて、邦語を使用するもの次第にその數を増して來てゐる。

【教育制度】 現行の教育制度を見るに、在留邦人兒童の教育には、須要地に國民學校の設置あり、島民兒童の教育のためには全群島に二十四の官立公學校と一私立學校があり、島民兒童の入學は強制的ではないが、島民の智能を向上せしむる爲に學用品の支給、食糧、被服の給與、離島遠隔の者には寄宿舎の設備等の便宜を計り、銳意就學を獎勵しつつある。

國民學校及び公學校とも訓導(判任)をして兒童の教育に當らしめてゐる。公學校に於ては補助として島民助教員を採用して教育の完全を期してゐる。訓導は内地に於て國民學校教員たる資格を有する者の中より任用するを例とされてゐる。

【國民學校】 我が國が南洋群島を占領してより二十餘年なるも、南洋廳開設前、即ち軍政時代においては拓植事業はいまだ進まず、邦人進出者としては官廳關係者を除く外は比較的少數にして、また家族を同行して渡航する者は極めて稀で、従つて兒童數も少なかつたが、大正十一年四月南洋廳開設以來、拓植事業の著しき進展に伴ひ在留邦人の數

て、島民大工さんの養成をなす所である。

【宗教學校】 島民兒童教育のため、政府設置の公學校の外に、内外宣教師の經營する宗教學校はサイパンに三ヶ所、トラツクに六ヶ所、パラオに二ヶ所、ボナベに二ヶ所、ヤルットに一ヶ所がある。これ等學校は兒童期より宗教信念を扶植せんとする目的の下に設置せられたるものにして、其の教ふる所は殆ど宗教に關する事項であるが、中には普通教育を併せて授くる所もある。修業年限や學科目は定つてゐない様である。

【教育會】 南洋群島に於ける教育の改善進歩を圖るを目的として南洋群島教育會を設け、會長には現南洋廳長官を推戴し、各支廳所在地に支會を設置す。事業として、一、教育に關する意見の發表。二、教育及學藝に關する事項の研究並にその發表。三、教育事業に關する講演會又は講習會の開設。四、社會教育に關する施設及島民の生活改善に關する研究並に其の獎勵。五、教育關係者共済の施設又は其の獎勵に當る。

【恩賜財團獎學會】 大正十三年一月二十六日 天皇陛下御成婚の佳辰に當り、長くも内閣總理大臣に賜りたる御沙汰の趣旨を奉戴し、同年二月二十九日兒童の教育學藝の獎

は次第に増加され、殊に最近は家族を同行するもの激増し小學兒童の數は急速に増加された結果、國民學校増設の必要に迫られ最初國民學校はサイパン、パラオ、トラツクの三校だけなりしが現在二十五校にして昭和十六年四月より内地と同様に國民學校と改稱された。尙修業年限や教科課程、教科書等は内地國民學校と同様である。

【中等學校】 は邦人激増によりその必要を認められ、昭和八年サイパンに實業學校(三年制、内地實業學校と同一資格)が設立されてゐる。尙サイパンに彩帆高等女學校、パラオにパラオ高等女學校がある。

【公學校】 島民兒童の教育については深く思ひを島民生活の向上改善に致して、現に公學校二十六校を設置し、銳意島民の教育に當つてゐる。

公學校は原則として本科三年の卒業を以つて一段落としてゐるが、支廳所在地の公學校には、修業年限二ヶ年の補習科を設けて、實際生活上一層適切なる知識技能を授けてゐる。

本科及補習科を通じ、其の教科目は修身、國語、算術、地理、理科、圖畫、唱歌、體操、手工、農業、家事(女子)にして、中にも修身、算術、殊に國語の習熟に重きを置いてゐる。

【木工徒弟養成所】 島民に家屋建築技術を授くる養成所として大正十五年度よりパラオ島コロルに木工徒弟養成所を設置せるものなり。各支廳管内の志願者中から選拔し勵を目的とする恩賜財團獎學會を設立し、會長には南洋廳長官を推戴し、恩賜金二千圓を基本金とし、其の利子及年々南洋廳より受くる補助金を以つて、優良兒童の表彰、兒童文庫の設置、留學生の學資給與、公學校卒業生に配付すべき獎勵雜誌の刊行等の獎學的事業に當る。

通 信

本群島に於ける通信事業は、占領當時軍用郵便所及軍用無線電信所が設置され、當時の通信事務を爲せしが、大正十一年四月一日南洋廳に於てその事務を分掌してゐる現在郵便局は、サイパン、テナアン、ロタ、パラオ、ヤップ、トラツク、ボナベ、ヤルット、アンガウルの九局である。各局にて外國新聞電報その他の特殊場合のもの以外は殆ど内地同様の事務を取扱つてゐる。電信は各郵便局で取扱ひ、土地柄、總て無線電信によるが、ヤップ島だけは海底電線の陸揚地であるため、ヤップ島那覇間に之を活用し、有線無線を併用してゐる。

電話はパラオ局、サイパン局、ボナベ局、トラツク局、テナアン局等特に指定したる局で取扱ひする。

主 要 産 業 事 情

概 説

本群島は總面積二千方杆(百四十方里)ありと雖も、廣大なる太平洋上基布星在する數百の島嶼より成れるものにして、其の内數島を除けば面積は概して狭少である。

元來群島民は文化程度極めて低きのみならず、我國領有以前に於ては適切なる指導獎勵を加へられたる事なく、島民は熱帯自然の天恵に依存して原始的生活を續け居る状態に在り産業として見るべきものは殆ど近代までなかつた。

大正三年我國領有以來全群島に互り企業投資を試みる者多かりしが、當時政府の助成なく、且熱帯産業に對する經驗乏しきため、一方經濟界の恐慌に遭遇したるを以つて、相次いで起る企業家は多く失敗の苦杯を繰返された。

大正十一年南洋廳設置以來、産業上の諸施設は完備され漸く各種産業は興隆を見るに至り、農業に、畜産に、林業に、水産に、鑛業にと各種産業は逐年飛躍的發展を遂げ、今は全産業機構に互り活潑なる發展を遂げるに至つた。

中にも最も著しき發展を示せるは製糖業にして、マリアナ群島に於ける南洋興發株式會社がサイパン、テナアン、ロタ島に製糖工場設置、群島製糖事業に活躍を續け、今年産額二千萬圓を示すに至つた。

之に次ぐ新興産業は水産業であり、中にも鰹漁業は第一の産額にして、これより産する鰹節は我國年産額の五割を群島産を以つて占めつつある。更に鯖漁等も相當的發展を

見せ、その他將來の開拓の餘地極めて大である。農業に於ては米、鳳梨、キヤツサバその他の栽培、畜産の改良、椰子林の整理増植等が進められてゐる。

鑛業としては燐礦はアンガウル島の外フアエス、ロタ、ペリリウ、トコベの各島にて採掘され、ボーキサイト等も産す。我國鑛業界に重要性を發揮してゐる。

工業としては前記製糖業の外鳳梨、タバコカ、パイヤ等の企業工業も開始され、酒精、酒類、罐詰製造、鰹節製造等である。

群島には未だ相當の未墾地ありて、將來の施設宜しきを得れば拓植事業に、水産業に、商工業にと發展の餘地は各方面に在る。

昭和十一年、南洋資源開發を旨として設立された國策會社、南洋拓殖株式會社に依りて群島に於ける鑛業、水産業、拓植事業、交通、運輸方面へ、愈々活潑なる組織的發展を劃され、一層群島産業の飛躍に拍車をかけられてゐる。

農 業

南洋群島は地積狭小なるも、熱帯圈内に屬し、氣温の較差少く降雨量大なるため、年中好く植物の生育に好適され土地利用の程度大なるを以つて、地味多少劣れりと雖も、これを合理的に利用するなれば、一定面積の生産力は内地に比し寧ろ優れるものあり。然るに島民は熱帯天恵に浴する事多きを以つて、生存上必要な衣食住に對する大なる

努力を要せざれば、従つて農業たるや原始的にして、唯二三の食用作物を栽培し、鶏豚類を飼養するに過ぎない。近時邦人移住者の急激なる増加に伴ひ、群島農業上に幾多の變遷を來して、始めて南洋群島をして熱帯産業地としてその面目を發揮するに至らしめたものである。

從來島民に依り頗る放任的に栽培されたるものを舉ぐれば、玉蜀黍、甘藷、キヤツサバ、薯蕷、煙草、甘蔗、鳳梨、バナナ、蜜柑、木瓜等であり、その收穫量も少く、品質亦著しく劣り、大いに改良増植の餘地は非常に多い。

我國領有以來、これが改良助成に努められたる結果、漸次發展されつつあり、コーヒー、キヤツサバ、バインアツブル、カカオ、パイヤ等も新興産業として企業化されるに至り、其の他の改良増植、施設の助成等は逐年發展されてゐる。

蔬菜はその栽培種類少く、且生産量は人口増加に伴はず爲に在住民の需要を充す能はず、一部は内地より移入して其の需要に當ててゐる状態にある。

次に群島に於ける主なる新興農業を記述すると、

「甘蔗」(砂糖原料)は十六世紀の頃より島民の生食用として栽培されたものであるが、西、獨領當時は糖業として企業は試みられなかつた。我國領有以來サイパン支廳管内が甘蔗栽培に好適され居るを認められ、西村拓植及南洋殖産の二製糖會社が進出して工場を有し居りしが、大正十一年南洋興發株式會社が設立され、前記二社の事業を繼承

して蔗作面積を増大し新式製糖工場を設立して斯業に雄飛し現在サイパン、テナアン、ロタ島に新式分蜜製糖工場ありて年産百數十萬擔と稱せらるるに至つた。

甘蔗は一度新植すれば二年(時として三年)收穫出来る。普通一月から六月までが植付時期で、收穫期は十二月下旬から翌年六月末迄である。

「鳳梨」(バインアツブル)我國では臺灣のみで生産されてゐたが、群島に於て之が栽培は極めて好適し、近時新産業の一として發展を爲してゐる。

鳳梨は群島に於ては新植付後一ヶ年前後より初熟を結び爾後六ヶ月毎に一熟宛を生産されるから、臺灣の二年にして結實、一ヶ年毎一顆と比較するならば倍の生産力を有してゐる。群島到る處これが栽培に適され、年々産額も飛躍してゐる。南洋鳳梨株式會社ではパラオ、ボナベに罐詰工場を設立、企業化されて逐年發展しつつある。

「タバコカ」群島特産物として注目されてゐるもので優良澱粉が豊富なれば、馬鈴薯澱粉の強敵とされてゐる。栽培は割合容易なもので莖六、七寸の長さに切りて逆倒にならぬ様に頭部一、二寸を出して土に挿す。植付後年二回除草と培土を行ふ。一町歩約八千本植付けて約六千貫の收穫で一割八分内外の歩留を普通とされてゐる。一擔(百斤)十圓の價格とすれば、一町歩にして六百數十圓の收益となる。然しタバコカ澱粉は等級及品種によりて價格も著しく相異があるから一概には云はれない事情にある。澱粉製造はサ

イバンの南洋タバコ株式会社及南洋興發会社のポナベ製粉製造工場等がある。

「カカオ」これも南洋特産物で、明治五年頃グアムより移植されたコロネロシイ系種のものである。カカオはその主根が長いものなれば深土でなければ栽培出来ないもので腐蝕の濕地が適地とされてゐる。

結實は栽培後四、五年目位から地上二、三寸の所から結實し七、八年で成木し、一樹より年平均約三十顆の收穫で植付後手入はコーヒー同様除草と害虫驅除等である。

「コーヒー」南洋珈琲の企業生産に當り、國産コーヒーとして知られてゐる南洋珈琲株式会社がある。同会社は現在サイパン島のラウラウ、タツボウテフ、ホンタマテフ、ポトリコ、バーバコに農場を有し、コーヒー栽培に當りポントマテフに約六千坪の工場を有して生産に當つてゐる。

「棉花」棉花は群島到る所栽培に適され、ポナベの植民地に栽培されてゐる。尚ロタ島、サイパン島等にも個人栽培がされてゐる。棉花は二年連作出来るもので、一町歩の生棉は約四百貫で、生棉は普通一貫目一圓以上で取引され、一町歩三百乃至四、五百圓である。布團綿に製せば約六、七百圓の收入と謂はれてゐるが未だ旺んでない。

「パイヤ」は熱帯植物で、その果實は生食のまま食用に供され、一般に賞味されてゐる。最近はこの果實、葉柄から、滲出する汁液を乾燥してパイヤを製造する目的で栽培されてゐる。現在サイパン、ロタ、トラツク島に於て栽培されてゐる。

増されてゐる。パイヤは強力な蛋白質分解性を有するを以つて用途は纖維類の精練用、化粧品用、石鹼化粧品クリム用、麥酒の清透劑、寫眞、製乳、製菓其の他の藥用に使用されるもので、現在海外へ輸出されてゐる。

栽培は苗で植えるものと種子で植えるものとあり、この苗木は一町歩千本から千二百本の割合で植付後四ヶ月に開花し七、八ヶ月にして結實したる時、果肉に傷をつけ汁液を採取するものである。一本の樹より約一ポンド(百二十匁)内外を採取する。一ポンド四十匁内外であるから、一町歩より年收約四、五百圓内外といはれてゐる。

「トバ」トバの栽培は群島新産業の一つで現在ポナベに於て栽培されてゐる。トバは一名デリスとも稱し、驅虫劑として除虫菊の強敵である。トバは害虫驅除劑として用途も廣く、藥分は根に最も多量に含む。この栽培は幹莖を斜に地に挿して植える。地質、時期も構はず植付出来る。これが收支の概要を見ると一町歩より五百貫の根が生産され一貫目一圓五十匁内外と見て七百五十圓であるが、收穫は二ヶ年を要するので、年收はその半額である。一戸五町歩を單位として年々一町五反の植換を爲して行くとせば、年收約五百圓といはれてゐる。

牧畜

群島に於ける畜産業は島民の生業状態は前述せる如く、牧畜の必要も亦生活に資すべきが爲の必要も尠きを以て、

極めて原始的方法を行ひゐるに過ぎず。牧畜業としては殆ど謂ふべきものがなかつた。

南洋廳設置以來銳意斯業の發展に努力せし結果、今日に於て副業として近時相當の發達を示すに至つた。

「牛」群島中サイパン支廳管内にて最も多く飼育せられ殆ど在來種にして多く運搬農耕に使役せられる。近年農業の發展に伴ひ、その需要益々増加し、従つて屠殺に供せらるるものは主として老廢牛にして、僅かに七、八百頭に過ぎず。搾乳牛は飼育するもの少しと雖も邦人の増加するに従つて漸増の傾向を示せり。現在約六千五百頭と稱さる。

「豚」は一般に飼育せられ群島畜産の首位を占む。最近人口の増加と共に肉類の需要益々増加し、屠殺頭數も激増の趨勢にある。現在約二萬五千頭。

「山羊」バラオを主としてポナベ、トラツク之に次ぐ。島民間に食用として珍重せられ椰子樹林間の放牧に好適するを以つて飼育頭數も漸増されつつある。現在約三千頭。「鶏」肉用及卵用として豚に次ぐ重要なものにして、到る處飼養せられるも、優良種に乏しく在來種は産卵率低く肉量亦少し。約十一萬羽その他に鷺及吐綾鷄等も飼育せられるも少數である。

林業

南洋群島は到る處鬱蒼たる森林を以つて覆はれ、一目千古の美林の如く見ゆるも、其の樹木は雜木の混淆林にして

有用樹種は極めて少い状態にある。これ海洋島にして大森林を構成するに足る要素に缺けてゐるに於て。又一方從來住民に愛林補植造林の思想なく、亂伐せるの結果にして、唯海岸附近に椰子樹を植栽し、これをして彼等が唯一財産とされてゐる風もあるも、一般樹木は殆ど顧みられず、その風習久しきに互りたるによるものである。

然らば群島に於ては椰子樹の外に有用を目的とする一般林業は望みなきやと云へば決してそうでない。有用樹の殘木もあり、又外國より樹種を移植造林するにも、天惠的に雨量及び温度に恵まれ、造林用地に適する面積も亦相當あるを以つて、これら天惠の要素を利し造林の方法樹種の選定の宜しきを得ば、椰子樹と共に有望視されてゐる。

椰子樹は一般に古くより植栽せられたるもの如く、發育も良好にして、之より生産するコブラは群島唯一の林産物として重要な移出品である。又島民の飲食物として日常生活上缺くべからざるものなれば、各離島に至るまで植栽されてゐる。南洋廳より目下椰子樹の増植、椰子林の整理が奨励され來れるを以つて漸次増植、増産に進んでゐる。現在面積約三萬五千ヘクタールにして、コブラ生産額は約一萬五千噸である。

椰子樹の外、林層をなしてゐるものに、紅樹があり、バラオ、トラツク、ポナベ各支廳管内に相當の蓄積を有す。用途は建築補助材並に薪炭材なるが、近時諸工事の勃興、製炭業の發展に伴ひ、その利用量著しく増加し、濫伐に陥り

次第に林相を破壊し、蓄積を減少せしめつつある。在來の優良樹種としては鐵刀木、紫檀、タマナ、モモクマナ、ウカール、アンモイ、ブラツキヨース、シヤタイク等である。

鑛業

南洋群島に於ける主なる鑛物資源は熱帯特有の燐鑛、ボーキサイトの外マンガン、耐火粘土、硫化鐵鑛、硫黃、褐鐵鑛、大理石、石炭等である。

燐鑛 はアンガウル、サイパン、ヘリリウ、ロタ、トコベ、グリメス、ファイスの各島にては既に夫々採鑛に着手されてゐる。現在採鑛着手に進みつつあるもの及埋藏鑛區はパラオ支廳管内のソンソル、ベンナ、プール、サイパン支廳管内のテニアン、メデニシヤ、アギーガン、ボナベ支廳管内のグリニツチ、ヤツブ支廳管内では、ビゲロツト、ヤルト支廳管内ではピカールの各島が主なるものである。

從來我國に於ける燐鑛は沖繩縣のラサ島、臺灣等に僅かに埋藏を見たるのみにして、南洋群島は我國唯一の燐鑛産地であるのみならず、世界四大燐産地として知られてゐるもので、全埋藏約五百萬噸と稱されてゐる。

ボーキサイト はアルミニウムの原鑛にして、パラオ、ボナベ、クサイ、ヤツブの諸島に産し、既に夫々南洋アルミニウム鑛業株式会社により採鑛が進められてゐる。

互つて進出されてゐる。

工業は地的關係に支配され、大規模なる企業の種類は極めて少く、島産物の加工製造の範圍に在るも、熱帯特有のものである製糖業を第一として、これに附帯する酒精工業、サイパン、ボナベ、パラオのタバコ澱粉工業、パラオ、ボナベの鳳梨罐詰工業、製水工業等であり、その他に農産品、水産物の加工業、手藝品製造等である。

水産業

本群島に於ける水産業は近年著しき發展を示し、その生産額も激増を見られてゐる。殊に鯉漁業、鮪漁業はその最も主なるもので、鯉節生産量に至りては全日本生産額の約五割を占める勢ひを示してゐる。

南洋群島は廣大なる海洋に多數の島嶼が葦布星座し赤道流及赤道反流がその間を浣洗する爲、各種洄游魚族及熱帯水族豊富に群棲し、多岐廣範なる生産面を爲してゐる。

各島とも太平洋深海部數千米の海底より聳立するを以つて沿岸より直に深海となり、底魚漁業には適せざるも、之に反して表層洄游性魚族は豊富にして漁期周年に亘り、永續的に大量生産を爲し得る事情にある。

南洋廳に於ては之等各種の漁業を対象として各種の調査試験を爲し、指導奨励に努めたる結果、最近數年間に於て群島水産業は著しき發展を示し、更に群島を據點とする外南洋への遠洋漁業も漸次發展しつつあり、ニューギニア近

南洋群島に於けるボーキサイトは品質優良にて、其の全埋藏量は約五百萬噸と推定せらるるを以つて、我國に於ける不足鑛物資源を補強し、且つアルミニウム工業の發展に參與する所極めて大である。

その他の鑛物資源としては硫黃、マンガン、褐炭層、石棉、大理石、硫化鐵、耐火粘土、瑪瑙等で、既に企業價值を確認されたるものも尠からずある。

商工業

群島に於ける商業は地理的關係上生活必需品が、食料品の一部を除くの外は、殆ど内地に需めなければならぬ事情にあるを以つて、商業も直接需要者を相手とする小賣商人の發達を見てゐる。

群島各地に邦人は大いに活躍されつつあり、商店は専門品販賣を目的とせるもの少く、數量少く品別を多種にせる所謂雜貨店が多い。島民は一般に購買力薄く、従つて島民相手の商人は割合少いが、島民文化の發展に伴ひ、次第に島民相手の商店も増加されて行くであらうが、現在是在住邦人十萬を對手とする邦人の動きが商業の中心をなしてゐる。近時邦人移住者も激増され、商業も亦急速なる發展を爲し、サイパン、テニアン、ロタ、パラオ、ボナベ等の主要島にては市街を形成し、相當繁榮を爲してゐる。雜貨店は日用品雜貨の販賣の傍らコブラの仲買を爲してゐるものが多い。主要島市街地に於ける商業部分は殆ど各業各部に

海、セレベス海、アラフラ海、パング海、更に南進して南洋太平洋各方面の各資源目指しての進出は、國策上及經濟上より見るも一層重要性を有する處にして、その將來は大いに期待を懸けられてゐる。

「鯉漁業」 群島中第一のものにして魚群到る處豊富に棲息し、現今動力を有する漁船約三百五十隻、漁獲高約三百五十萬圓と稱されてゐる。群島離島への漁場開發及管外接続外南洋への進出等により、今後の發展は未だその前途は洋々たるものがある。

「鮪漁業」 鮪の棲息量も鯉と同様極めて多く、將來群島水産界に鯉と共に二大漁業たるべきものなるが、鮪は鯉の如く漁獲後の處理簡明ならず、殊に本群島の如く中心市場に遠く地元消化力なきため處理設備煩雜なれば、罐詰又は冷凍冷蔵の施設の完備を得るならば、本漁業の發展は極めて大なるものである。

「高瀬貝漁業」 高瀬貝は最も優良なる卸原料にして極めて重要な熱帯水産物である。從來ヤツブ、パラオ等のみ産せるも、昭和二年以降パラオよりトラツクへ移植の結果良好なる成績を挙げ、更に群島各島へ移植増産を計畫されてゐる。

其の他の漁業、玳瑁はヤツブ、パラオ、トラツク、ボナベ並にその離島に産し、主として島民の漁業であり、海鼠は群島到る處に棲息す。鮫漁業は將來獨立漁業として行はれるを得べく、餘其他の雜漁業は邦人の増加に伴ひ鮮魚供給

上漸次盛になりつつある。
養殖業、從來パラオ、ヤルット等に於て黒蝶貝を母貝として眞珠の養殖事業が經營されてゐるが、近時北濠洲アラフラ海方面より白蝶貝、眞珠養殖が行はれつつあり、一方海綿養殖も群島特産品として、その將來は期待されてゐるものである。

産業施設

産業開發に就いては南洋廳に於て種々調査研究指導獎勵に當り、一方獎勵金の下附を致して各産業の増産品種の向上に努められたる結果近時群島産業は飛躍的發展を爲しつつある。産業施設としての主なるものを擧ぐれば、

「熱帯産業研究所」 同所は熱帯農産、畜産、鑛業に関する調査研究を爲し、邦人企業者の便益を計ると共に指導に當り、群島産業の開發に活躍してゐる。

「水産試験場」 海洋資源の開發は群島産業の重要部門なるを以つて調査船小型二隻、大型一隻を以つて各群島海上の漁業調査試験或ひは施設、製造の調査研究指導に當り、専ら水産業の發達に盡力發展を期してゐる。

「水産組合」 主なる漁業者及輕節製造者の親睦を計り、従業員待遇改善、施設の研究、従業員の爭奪防止並に指導等の目的を以つて、業者の組合を支應又は出張所に設

け、現在パラオ水産同業組合、サイパン鰹漁業組合、テナン漁業組合、トラツク水産組合、ボナベ水産同業組合、ロタ島鮪漁業組合等が設立され斯業の發展に努めてゐる。
「水産組合聯合會」 前記の各水産組合の施設の完備及業務上の指導發展に當る中心機關として、群島水産界の向上發展に官と協力活潑なる活動を續けつつある。事務所は南洋廳水産課にある。

「財團法人南洋眞珠採取業組合」 本組合はアラフラ海眞珠採取業者を以つて組織され、漁獲物の共同販賣、共同運搬、用具の購入、その他組合員の福利施設を行ふ目的の基に設立され、調査船、倉庫、従業員住宅等の共同施設をも設け、斯業の發展に當つてゐる。事務所は南洋パラオに在る。

「南洋群島産業協會」 本部を南洋廳内事務所に置き、支部を各支廳に設く。博覽會、品評會參加計畫、群島物産の紹介、販路擴張に關する施設、手工業授産所の經營指導等群島産業の文化施設に當り、産業の進展に當つてゐる。

「物産陳列所」 本所は群島内各種生産物並に地理、歴史、博物資料を一室に蒐集陳列し一般の觀覽に供し、一面地方物産の販路開拓、商取引の仲介斡旋を爲す等産業開發、地方文化に努めてゐる。

島民の生業狀態

種族

概説 南洋群島に居住する種族に關しては諸説區々として一定せず、或は西方馬來半島より東遷したるものと傳へられ、或は東方ポリネシア族の西進したるものとも稱せられるも一定せず、數種族の混血せるものなることは推測に難からず、人類學上これをミクロネシア族と總稱し、チャモロ族とカナカ族の二種をなす。

チャモロ族 本島に於けるチャモロ族は、白人とカナカ族の混血なりと謂はれ、又全然別人種とも謂ひ定説なし。本據はマリアナ群島を主として、西部カロリン群島に屬するヤツブ、パラオがこれに亞ぎ、其他の群島には集團的の居住はない。蓋し該族の祖先はグアム島に在りと云はれ居るを以て、その四圍近距離の島嶼に移住したるに因るであらう。即ち此處より海路先づロタに至り、更にテナン、サイパンに移住したりしは地勢上自然の結果にして、往時西班牙領の頃にはサイパン、テナンに移住し來れるチャモロ族極めて多く、人口は可成り稠密なりしが如きも、彼等相互間の争鬭及反逆による虐殺等により人口は激減され現在にあつてはサイパン、テナン、ロタの三島を合して

僅かに三千百餘人、之にヤツブ、パラオ其他を併せてもその總數漸く三千八百餘人に過ぎない。

而もその大多數を占むるサイパン在住のチャモロ族は西領以來比律賓の所謂タガレン族及西班牙等との雜婚により著しく變異したりと謂はる。同族の特徴は一般に皮膚黃褐色にして頭髮は黒く、性温順勤勉にして其の容貌はカナカ族に勝つてゐる。衣食住も亦比較的進歩したるものありてカナカ族とは之等の點は殆ど趣きを異にしてゐる。上流者にありては洋風清楚の住宅に居住し、洋装をなし、中にはピアノの如き樂器を備へ、寛活なる文化生活を營む者が尠くない。これらは一つは其の種族の素質に因るべきも、その多くは西班牙領時代より久しく宗教の感化を受けたるに因るものと認めらる。

カナカ族 本種族は布哇及太平洋諸島に住する民族にして、南洋群島住民の大部分はこの種族に屬す。然れども仔細にこれを觀察すれば、西部諸島は馬來族に、東部諸島はポリネシア族に、南方に至るに従ひメラネシア族に類する者多きが如し。三者多少の差異を存するも、一般に皮膚暗褐色若くは黃褐色にして頭髮概して黒く、中に僅かに縮卷する者もあり、眉は密生して太く、眉目の間稍狭く、眼窩

陥落し、鼻翼廣く口大にして唇厚し、鬚髯多からず容貌穢
して素朴温和なり。身長は大抵中等の大なるも中に長大な
る者もあり。殊に南方諸島にそれが多い。
カナカ族はその數に於てチャモロ族の約十二倍を占め、
全群島土着民五萬の内約四萬六千を占めてゐる。

風 俗

「風俗」 全群島悉く熱帯圈内に屬するを以て、自然的に
殆ど衣服の必要を感じざるが故に、その本來の面目は裸體
跣足を風とし、男子は禪様のものを用ひ、女子は腰巻様のも
のを以て腰部を蔽ふに過ぎざりしが、近時文明人に接する
に依り漸次着衣の習慣に馴れ、現今に於ては男子は多く頭
髪を刈り髻を剃り、大抵シャツ、ズボン下等を着ける様にな
り、而も中には洋服を常用する者も尠からず、女子は西洋
婦人の寝衣様のものを着す。然も各島水路相隔つること遠
きため其の風俗も自ら異なるも、その最も早く文化に觸れた
るサイパン島及マーシャル群島に於ては、その風俗略々歐
米に模し、靴をはき帽子を冠り洋服を着し、その外様に於て
は文明人のそれに異らざるもの多し。然してボナベよりト
ラツク、ヤツプに至るに従ひ服裝順次に劣り、殊にヤツプ
島に在りては今猶裸體跣足の者多く、殊にこの島にて奇と
すべきは婦人の腰篋にして、草木の纖維を以て造れる篋様
のものを腰部に纏束し歩行毎數々として音を爲すもの寔に
奇觀といふべし。

裝 飾

彼等は元來着衣の要なく、従つてその風なかりしも、裝
身の目的をもつて文身(イレズミ)を致す者が多い。其の方
法は四肢若くは胸部に簡單なる圖様を施し、又はアルファ
ベットを以て文字を現はしたるものにて、中には四肢全部
に涉りて幾多の線條を描きたるものもあり、模様複雑にて
場所廣きを誇りと爲し、又この外に瘡痕と稱するものあり
て、上肢上膊部又は下肢大腿部或は胸部に瘡痕を作りて一
種の美容とし、自己の勇氣を仲間や婦女子に示す手段とし
てゐる。此の風は特にボナベに於て盛に行はれてゐる。

トラツクにては裂耳といふ極めて低劣なる風あり、幼時
耳朵に孔を穿ち、之に貝又は木製の輪を懸垂してこれを次
第に擴大せしめ、耳朵は環形をして伸び、甚しきは頬上部
に及ぶものがある。

其他に耳環、頸飾、腕輪等貝類を磨き作れるものを飾る
方法も行はれてゐる。以上は男女を通じて一般に行はれる
風なるも近時教育の普及に因り、青少年間に於ては漸次そ
の跡を絶つ傾向にある。

食 物

島民の食物は自然生の果實その他を主食物と爲し、時に
魚肉鳥獸肉を用ふるに過ぎず、居常天恵に依頼し、食の爲
めにする勞作と稱すべきもの殆どなし。稀に蔬菜果樹等を

栽培する者あるも一般に耕耘、施肥を爲さず之を放任す。
然も季節に至りて之を收穫すれば、食糧にして餘りありと
いふ。之偏に熱帯の恩恵と謂ふの外なし。彼等の食物の種
類は島により多少の差はあるも、パンの實、タロ芋、ヤム
芋、タピオカ、及椰子果實等を産物となし、ポニー芋類、
獸魚肉等を副食物となす。就中パンの實及芋類はその生産
量最も多く、パンの實は毎年五月より十一月に至るの候に
成熟し、果實の大きさは小兒の頭大にして、焼き又は煮て
食せばその味パンに似て、一顆にして優に二食に充つるに
足る。又ヤム芋は山地に、タロ芋は濕地に生じ、前者は山
芋の如く、後者は里芋に類し、形状も亦山芋に劣らず、椰
子果實は未成熟のものは内部にコブラ即ち脂肪質の果肉を
生じ、色純白にして一種の香味を有し、頗る口に適す。群
島到る處に産し、全島民の愛用するものにして、其他パ
ナナ、バインアップル、マンゴー、パイヤ、レモン、オ
レンヂ、ポニー等到處に産せざるはなく、その産額豊富
なるも單に嗜好品として用ふるに過ぎない。

魚類は其の種類頗る多く、其の量亦豊富なりと雖も、漁
撈の法幼稚なる爲、漁獲高少く、獸魚肉は豚、鶏の飼養盛
にして供給は比較的潤澤なり。その他嗜好品として酒及煙
草は彼等の最も愛着するものなれども、酒類は統治條項の
制限ありて、儀式或ひは藥用の外飲用を許さず、又地方に
よりては宗教上の關係より酒煙草共に之を用ひざる者ある
を見る。椰子を噛むの習慣はヤツプ、バラオの兩島に盛

にして、殆ど男女の別なくこれを愛嗜し、少年少女にして
その風に染む者もまた少くない。

住 居

住居はその構造極めて簡單にして、外様又貧弱なるもの
多く、各島の文化に多少差あるを以て、その建築の様式等
は文化の程度により異つてゐる。サイパンに於けるチャモ
ロ族は比較的建築術が發達し、其の居住せるガラパン街の
如きは大抵木造にして、稀に石造の家屋相接し一見歐洲風
にあるも、ヤツプ島に至れば、その家屋概して低劣陰濕、
家居の狀頗る原始的なり。中に石を疊みて礎底となし、巨
材を用ひたるものあるを見るも、其の構造に至りては掘立
小屋式にして、屋根の勾配急下し、窓戸少く且狭く、室内
陰濕にして白晝猶暗し。

バラオ島に至れば各戸大抵床を用ひ、窓戸や備はり、
建築の様式稍々進歩を見せてゐる。ボナベ島も大體バラオ
島に匹敵するも、トラツク及ヤルトの兩島はその状態最
も拙劣にして大抵床なく、純然たる掘立小屋式のものが多
いのである。

當局に於ては島民の住居改善には常に意を致して、補助
金を下附して之が改善を奨励し、一方島民の内地觀光團を
して内地文化住宅を實地に見學せしめ、衛生思想の普及等
に努められある結果、漸次その效顯はれて近時衛生的住宅
を散見するに至つた。

群島到る處に共同家屋あり、所謂「オール・メン・ハウス」と稱するものにして、村民の集會所或は他村民の宿泊所に充てる。各村に大抵一、二を有し、何れも共同の力を以つて建て共同の用とするものにして、昔日殺伐の時代酋長間の勢力抗争の戦闘時代、敵の襲撃に備へたる遺物的風習なりと謂はる。そのヤップ島にあるものは殊に巨大で知られてゐる。又同島に於ては「月經ハウス」なるものありて各村に一若は二を有し、女子の月經時之に籠居するものであり、共同家屋は男子の専用物にして、月經ハウスは女子の専有物である。男子之に近づくを許さず、此の如きは同島特有の風習にして、蓋し男尊女卑の思想によるものと思はれる。

知的觀察

島民の外的生活は前述の如く極めて簡單にして、中に歐洲風を模する者あるも、總じて未だ原始時代を去る事幾許もなき状態にあり、知識程度は極めて低級である。彼等の視界は住する狭き小天地に限られ、又その經驗は祖先傳來の範圍に局限せられ、所謂傳統は彼等唯一の精神的信條なり。偶々艦船の來航ありて、之を通じて近世の文明の一端に觸れるとするも、唯皮相の接觸のみにして極めて稀に歐米に航したる者あり、又我が國の占領以來觀光の爲來朝し近代文明の姿に接せし者も既に約千名ありと雖も、彼等は瞥見一過、あたかも夢の世界に在るものにして、觀察利用

の方途に至りては、多くを現在彼等に望む事は出來ない。彼等の平常を観るに、極めて少數なる優秀者を除き、大多數は僅かに百千の數字の計算に惑ひ、計算による商取引をなす事能はず、目前の利慾に迷ひて後日の計を爲す事能はず、物の眞價を認識する事出來ずして唯一時の用を糊塗するに過ぎない状態にある。

第二次西班牙領有以來施政既に四十數年にして猶且つ此の如し。一般に見聞に缺くとは謂へ、その素質低劣にして知識發達極めて遅々たるものである。

我國施政以來島民の教育に銳意努力せる結果の成績を見るに、兒童は記憶力、理解力共に相當の成績を示し、特に技術的科目に於てその得意なるを見る。唯數の觀念に於て著しく幼稚の程度にあるを認むるも、尠くも學校内に於ける土人兒童の精神的發達の過程は、内地兒童に比して特に顯著なる差別を認められない。その發達の最高限度は兎も角として彼等をして始終良好なる環境に在らしめれば相當程度までの啓發は得らるるものと想はれる。

社會的組織

カナカ族の社會的組織を観るに、各島毎それ／＼優等民と普通民の二種に分れ、その間に又幾段の階級あるを普通とす。別に酋長ありて一般は村民を率ゆ。その地域區劃には内地の村に當るものと、大字に當るものとあり、従つて酋長に大小の二種ありて互に主従の關係を確立す。大村の

酋長は聲望最も大にして一般の尊敬する所となる。酋長の權力は多くは個人的にして未だ制度ならず、勢威の消長は一に懸りてその人に存するもの如し。又地方に依りては別に相談役の存するものありて酋長を補佐し、重要事項に參與す。孰れもその在任は一代一世を普通とし、その相續の法は世襲なるものあり、或は優等種族間相互代るものもある。要するに一種の貴族的寡頭制なるもの多し。唯ヤップ島に於ては衆議制の如きものあり、多數決の習慣あるもその酋長制に至りては他島とその揆を一にするを見る。西班牙領當時までは酋長の權力絶大にして、相互拮抗して雄覇を争ひ、その部落民に對しては生殺與奪の權を揮ひたりしも、獨逸の領有以來力めてその權力を殺ぎ、之を官憲に收めたる結果、その權威は亦昔日の如くならず、現今に於ては(村吏總村長、或ひは村長)として島民部落の村治に當らしめ徴稅及命令の傳達等に任せしめてゐる。素より其の勢力の顯はれたるもの尠きも、中には所謂部落の長老にして往時よりその職に在りし者あり、情性の存する所、時に社會的潛勢力の侮るべからざるものがある。

チャモロ族には古來よりカナカ族に於ける如き酋長制度の舊慣なく、部落民の村吏に對する觀念は全く相異なるものあるを以つて、その稱呼を二者別にしてカナカ族の總村長村長に該當するものを夫々區別、助役と稱してゐる。

經濟的生活一般

全群島土人の物的生活の極めて簡朴なるは勿論にして、食は之を山野に委ね、衣は其の本來の原始生活には多きを必要とせず、甚だしきに至りてはヤップ島の如きは着衣の風甚だ薄く、僅かに一少部分の青少年間に體裁上着衣するを見るのみなり。住は陽日、降水を凌げば足り、防寒の爲にする特種工作を要とせず、衣食住は斯の如く容易なるを以つて、その日用品の如きも極めて簡素にして家財什具その他之に伴ひ殆ど見るべきものなし。唯チャモロ族その他の有産知識階級の者には多少家具を貯へ、樂器等を備へ文명의生活を模する者ありと雖も、之は一少部分の例外に屬す。一般には手より口へ、その日暮しの生活にして、貯蓄心なく、將來の計なく、一家子孫の計なるもの殆ど無し、貨幣は從來獨逸貨幣を用ひ、我が占領以來邦貨の通用を見ると雖も、中には貨幣の用を知らず、知ると雖も之を面倒なりとして却つて物々交換を便利とするものも尠からず、偶々貨幣を得るや求むる物は香水、煙草、罐詰等の贅澤品なり。日用品は彼等自ら給して餘りあるを以つて、新たに求むる物は外來の贅澤品に限られる結果なり。此の如く彼等の日常要する所の物は殆ど貨幣を以て購求するの必要なく、互に相給して餘りあるを以つて、物に對する執着心薄く、有無相通じて隣保相分つの風あるは畢竟彼等の社會的組織簡單にして生活餘裕あるに因る。

最近に至り彼等の物慾漸く刺戟せられ、殊に椰子樹に對する所有觀念を生じ、従つて土地所有に關する思想の發達

しつあるを見る。尚ヤツブ島には同島古有の貨幣として石貨、貝貨及俵貨あり今尙同島島民間に限り一種の交換價値を有するものである。

島民の性状

全群島の土人の性状は概して溫和快活なるも、祖先以來豊富なる天恵に馴れ、生活の爲にする労働の必要なかりしを以つて、極めて懶惰安逸を好み、勤勞を厭ふの風あるも公學校教育、青年團指導等により年を逐ふて民度の向上を見つつあり、往時に在りては各島を通じて性慥悍猛にして互に争鬪を事とす。西班牙、獨逸兩國の領有當時に在りては屢々官憲に抗し、殊にボナベに於ては殺伐なる歴史を有す。然れども爾來壓制の政策を變ずると共に、酋長の權力を殺ぎ、土人の銃器の所持を禁じ、飲酒を制限し、その兇猛性を制すると共に、一面に於て耶蘇教の普及を計り漸次その性を軟化せしめたるの結果、彼等の野生を矯め全く従

順の風を馴致するに至れりと謂ふ。

言語

各群島とも其の言語を異にし、全體を通じたる南洋語なるものなし。而も同一群島内に在りても其の主要島を異にする毎に言語を異にするのみならず、同一群島に屬するもその主要島と離島とは言語相通せざる場合も尠くない。即ちヤツブ島に就いて言へば、その本島と離島と言語相通せず。又ボナベ島に就いて云へばボナベ島とクサイ島とは其の言語相異なる。之れ群島の布置水煙遠く相隔り、昔日交通稀なりし結果にて、施政上の不便も大なるものがあり、我國占領以來須要地に學校を設け、離島と雖も邦人の在住する地には寺小屋式の學校を設けしめて邦語の普及に盡力したる結果、邦語を解する者次第に多きを加へつつあり、現在に於ては全群島の土人の大部分は少くも日用の些事を便し得るに至つた。

渡航及就職事情

大正三年占領當時吾が邦人は僅かに五十餘名に過ぎざりしも、我國統治以來進出者は續出され、今や在住邦人十萬に垂なんとする勢にある。

邦人は現在群島の總ゆる方面に活躍してゐるが、その多

くは南洋興發會社の甘蔗栽培及製糖關係に従事してゐるものや南洋殖産會社その他の企業會社の從業者關係である。現在商工業に關係してゐる人々の多くも最初南洋興發その他の企業會社の招致移民として渡航し、これらの從業者

から轉職された人が多い。雜貨店を始め諸種の商業も當初はこれらの從業者を對手として開業されたものが多く、逐年邦人の増加に伴ひ一般邦人を對手とした各種の職業が起り、又島民を對手とした商工業も次第に發展を見るに至つたものである。

群島の産業は最近熱帯南洋の特殊性を利用した特殊事業が勃興されつつあり、タバコカ粉製造、コーヒー、パイプ、ココア、パイナップル、トバ等を原料とする加工事業が即ちこれである。

水産業は近年素晴らしい發展ぶり、その生産額も激増し殊に鱈漁業はその最ももので、鱈節製産量に至つては我が國全生産の約五割を占めて居り、邦人の水産業従事者も約五千名が活躍してゐる。

鑛業としては燐礦とボーキサイトの寶庫で、前者は南洋殖産會社がアンガウル、サイパン、ロタ、フェイス、トコベ等で採掘に活躍してゐる。これを原料として東洋電氣工業株式會社が化學窒素肥料として製産に當り、後者はアルミニウムの原礦で採掘に南洋アルミ會社が活躍し、製鍊に東洋アルミ會社が當つて居り、この方面に従事する邦人も次第に増加を見せてゐる。

商業は群島到る處邦人が進出して居り、洋品もあれば食糧品もあるといふ多種多様の雜貨店が主である。現在殆んど邦人を對手としてゐるが、約五萬の島民を對照とする商戰も彼等の嗜好を研究してするならば今後興味あるもの

の一つである。

南洋群島も他の植民地と同様に資本を携行して邦人や島民を相手に商賣をやるとか、技術で發展するとか、植民地に於て農業を經營するとかいつた者にとつては見込みはあるが、唯單に出稼労働や就職して賃銀を得る目的としての地としては群島は範圍が狭く大した見込みや期待は出來ない方面である。

邦人の収入状態を調べるに農業はその收穫高であるが、會社員、事務員、給仕等の給料は大體内地の一、二割高が一般であり、労働者の賃銀は内地の労働賃銀と殆んど變りがない。一方島民の賃銀は邦人の半額前後が普通とされてゐる。

就職の事情

南洋群島への渡航發展は各自の見込みであるものであつて、自分の商賣で行く人、技術で發展される人、募集に應じて渡航する人等々である。

南洋群島より内地に募集のある時は、内地の國民職業指導所を通じて行はれるから、これらの募集に注意してゐて申込みする様せねばならぬ。

募集のない時の方法としては現地の事業會社等の希望する方面に申込みして見る事も一つの方法である。大會社になると従業員も多く、人事の異動も多い譯であるから缺員でもあり、それに適當されて居れば採用してもらはれる

又現地の新聞にはよく現地の募集等が掲載されてゐるから、これらにより募集状況を知るといふ事も一方法であり又先方の事情を知る事も出来る。但しこの場合郵送が月數

渡航の方法

南洋群島への渡航は内地旅行と同様でありましたが船腹不足のため就職又は確実な目的の渡航は出来ませんが無用不念の渡航は制限されて居ます。渡航者は南洋廳東京出張所(東京市麹町区永田町一ノ三〇)へ渡航事情を申請の上渡航證明書を受け船會社に示して切符を買ふ事になりました。軍籍にある方は第二補充兵までの方は渡航の時、市區町村役場の兵事部に「海外旅行届」をする必要があります。尙渡航者は戸籍抄本、身分證明書は持参せられる事が便利です。

渡航者の服装

常夏の氣候ですから、服装及其の身廻りの所持品は、夏の仕度と同様ですから、その積りで支度なされる事がよく寝具等も毛布の一、二枚も用意すれば充分であります。日用品等は南洋で幾らも買求められますから、餘分に用意して行く必要はありません。

島の定期船によつて發送されますからサイパンで一週間ベラオで十四、五日おくられて着く事になる。南洋廳區劃植民地移住申込手續及南洋拓殖挺身隊の申込み事情については本篇の最終に集載あり参照下さい。

渡航後の届

南洋群島渡航者は、先方に上陸したら、十日以内に島の支廳(内地の役場同様)へ「島居住届」をする事になります。島居住届とは、内地の寄留届と同様のものでもあります。

兵役關係のある者

點呼は渡航に際し市區町村役場を経て本籍地聯隊區司令官宛「外國旅行(在住)届」を提出すると免除されます。検査前の方は適齡の年の一月卅一日迄、南洋廳を經由し本籍地聯隊區司令官宛「在帝國外徵集延期願」を提出すると猶豫されます。以後三十七歳迄毎年一月三十一日まで「在

留申告書」を提出する。三十七歳になりますと國民兵に編入されます。途中で歸國せる場合はその時検査を受ける事

内地群島間の交通

群島の沿岸は珊瑚礁に包まれ、海上は至つて平穩なのでカヌーによる便益は甚だ大なるものがある。之に反して島の道路はまだ極めて不完全で、主要島の外は島民の通行を目的とする通路があるのみである。群島内各港とも三千噸級の船舶の出入にはさほど困難はないが、錨地と波止場との距離はその地質の構成上遠く不便であるため逐年修築計畫を立てこれが改良に當つてゐる。

内地群島間には命令航路がある。日本郵船株式會社がこれに當り、西廻線、東廻線、サイパン線の三線があり、毎月數回の就航を見てゐる。

離島間には同様命令航路あり、南洋汽船株式會社がこれが命に當つてゐる。

(内地群島間)

- ▼西廻線 神戸、大阪、門司、横濱「サイパン」「テニアン」「ヤップ」「パラオ」「アンガウル」「ソンスル」「トコベ」「メナド」「ダバオ」間往復
- ▼東廻線 神戸、大阪、門司、横濱「サイパン」「トラツク」「ボナベ」「クサイ」「ヤルート」間往復

になります。

但し血族者の死亡等のための一時歸國は關係されません

内地・群島間船賃

島名	渡航線各港別運賃	
	サイパン線(各線ニ通用)	横濱門司
サイパン	三十五圓	四十圓
テニアン	三十五圓	四十圓
ロタ	三十五圓	四十圓
ヤップ	四十六圓	五十一圓
パラオ	五十三圓	五十八圓
アンガウル	五十六圓	六十一圓
トラツク	五十圓	五十五圓
ボナベ	六十圓	六十五圓
クサイ	七十圓	七十五圓
ヤルート	八十一圓	八十六圓

▼サイパン線 神戸、大阪、門司、横濱、二見「サイパン」
「アニアン」「ロタ」間往復

従来本航路に依る外國との交通は西廻り線に依り蘭領「セ
レベス島、メナド港」に達するのみなりしも四年度より之
を比律賓群島「ミンダナオ島、グバオ港」に延長した。

▼グワム島への内地よりの定期航路はまだ開始されて居ま
せんがサイパン線が延長就航する様になると思はれる。

船賃はサイパンより三圓位のものである。

▼南洋群島航路は日本郵船株式会社にして各船とも神戸
を基点として門司經由、横濱を出帆する、毎月四、五回
就航される。

▼上記賃金は各線とも食事付三等最低船賃であります。十
二歳以上の大人、十二歳未満は半額、四歳未満一名限り
無賃外は大人の四分の一の船賃となる。

▼手荷物は大人一人一七五封度(二十一貫)迄無料、以上は
有料です。手荷物として取扱ひされない物は、(一)家具

南洋廳貸下植民地移住案内

南洋廳に於ては群島中人口稀薄にして未開拓地多き地方
に植民地を創設しこれを開拓せしめるため、群島農業移住
者へ一戸につき五町歩を無償で貸下け開拓者の便を計り、
尙三ヶ年にして一定の開拓をせるものにはこの土地を無償

商品、(二)席包、蓆包、箱物、形體粗大、荷造粗雑なも
の及臭氣を發するもの、(三)貴重品及危險物爆發物、活
動フィルム等。

備考

▼航海中の寢具として布團又は毛布一、二枚を要する。船
内には有料の貸毛布があるから携帯するなり借りるなり
出来る。

日本郵船株式会社

- 本社 東京市丸ノ内郵船ビルディング
- 横濱支店 横濱市中區海岸通り三ノ九
- 神戸支店 神戸市海岸通り一丁目
- 門司支店 門司市棧橋通り一番地

以下南洋廳にて定めたる規定並に手續等を記載する。

植民地移住者の資格

南洋廳に於ける植民地移住許可方針は自作農を創設
する目的にあるを以つて移住希望者は左の資格を有する者
となつて居る。

- (一) 農業に經驗ある満二十歳以上五十五歳未満の男子にし
て妻帯者たる事。
- (二) 移住植民地に永住の意志鞏固にして自作農たる決心を
以つて困苦に堪え得る者たる事。
- (三) 出願人は官の指定する期間内(許可の日より六ヶ月以
内)に家族全部を移住せしめ得る者たる事。
但し官に於て已むを得ざる事由に依り全部の家族を移
住せしめ得ざる者と認めたる場合は此の限りにあらず
- (四) 身許確實にして成業の見込みある者たる事。
- (五) 渡航費の外一ヶ年分の生活費及耕作資金として移住者
二人の場合は二百五十圓、三人の場合は三百圓、四人
の場合は三百五十圓以上、五人以上の場合増加一人
に付百圓以上を現金又は郵便貯金にて携帯し得る者た
る事。
- (六) 身體強健にして他人に嫌忌せらるべき疾患なきものた
る事。

(附) 出願者及其の妻子、兄弟、姉妹の親戚にして戸主の同
意を得て出願者と同居するため移住する者は之を出願

者の家族と同一として取扱ふものとす。

植民地移住許可願書添付書類

- 1 移住許可願書には必ず左の書類を添付する事となつてゐる
戸籍謄本 戸籍謄本記載の家族中移住せざる者ある場合
は其の氏名及事情を別紙に記載して添付すること。
- 2 身許證明 出願中及其の家族中満二十歳以上の男子の兵
役犯罪、破産又は家資分散宣告の有無に付市區町村長の
證明あるものたる事。
- 3 経歴書 出願人及其の家族中満二十歳以上の男子の職
業及経歴をなるべく詳細に記入すること。
- 4 資産調査書 資産を種類別に數量及評價額を記入したるも
のにして現住所又は本籍地市區町村長若しくは支廳長の
證明あるものたること。
- 5 出願人及家族の健康診断書。
- 6 移住調査書 左の事項を記載すること。
(イ) 移住者中労働に堪へ得る者の氏名。(ロ) 携帯見込金
(渡航費を除く)。(ハ) 家族又は親戚にして南洋群島に居
住する者の有無(有りとせば其氏名、続柄、住所、職業
を記入する)。(ニ) 出願人家族の移住豫定日。(ホ) 其他
参考となるべき事項。
- 7 出願者の家族と同居する爲移住する者に付ては左の書類
を添付する事。
(イ) 戸主の同意書。(ロ) 戸籍抄本。(ハ) 出願者との親戚

關係を明にせる市區町村長の證明書。
8 北海道廳の許可移民にして移住希望者は右の外に左の事項を記載添付すること。

(イ) 移住者の義務を遂行せりや否や(所轄支長の證明ある事)。(ロ) 移住後の經營狀況、借受又は讓受面積、開墾面積、主要栽培物の種類並反當收穫量、年平均收入及支出額。(ハ) 轉住の理由。

移住者に對する許可方針

南洋廳區劃植民地貸下希望者の取扱ひ方針は次の如くされてゐる。

(一)「内地居住者」 實情調査の上所定の資格を有する者は許可す。

(二)「外地居住者」 朝鮮、臺灣、樺太居住者。

(イ) 役所にて設定した植民地の移住者は許可せず。

(ロ) 一般居住者は、實情調査の上所定の資格を有する者は許可す。

(註) 但し(一) 植民地移住者の子弟にして所轄官廳の承認を受けたる者は一般居住者と看做す。

(三)「群島内居住者」

(イ) 群島内所在會社に於て招致したる移民は入植を許可せず(但し會社の業態及移民の生活狀態を精査考察し已むを得ざる事由ありと認めたる場合は此の限りならず)

(ロ) 其他の居住者は所定の資格に合致するものは精細實情精査の上許可する事もある。

移住許可願書提出上の注意

移住希望者は出願前成るべく信頼すべき人に依頼して土地其他の諸般の事情に關し充分調査し經營方針を確立したる上願書を提出することがよい。尙移住許可願を提出したる者に對しては資格を厳密に調査銓衡したる上許否を決定するを以つて全部許可せられるものに非ず故に出願者は必ず許可の通知を受けたる後移住することが大切である。
◇ 願書を提出せず又は願書の儘許否の通知を受けざる以前には絶対渡航せざる事。

貸下植民地

(1) 植民地は現在パラオ支廳管内パラオ本島に瑞穂村、朝日村、清水村、大和村の四ヶ所、ボナベ支廳管内ボナベ島に春木村一ヶ所計五ヶ所である。その區劃面積及收容見込戸數、移住許可の戸數を舉ぐれば(昭和十五年四月現在)

植民地名	區劃面積	收容見込戸數	移住許可戸數
瑞穂村	三八〇町歩	七〇	六九
清水村	七一〇	一一五	一〇一
大和村	五五三	九三	三一
朝日村	六一二	一〇六	九七
春木村	五九四	一一五	七八

二、目的

植民區劃地ニ移住シ國有土地ノ貸下ヲ受ケ農業ヲ經營シ以テ自作農トシテ永住ス

三、移住家族

妻 何々
長男 何々
何々 何々

右ノ通移住致度候ニ付御許可相成り度左記關係書類相添へ此段奉願候也
昭和 年 月 日

本籍 氏名
現住所

何々 支 廳 長 殿
添付書類(一) 戸籍謄本一通。(二) 身許證明書。(三) 經歷書一通。(四) 資産調査書一通。(五) 健康診斷書各一通。
(六) 移住調査一通(前記説明参照下さい)

其他の事情

「植民地」はこれを開墾すれば農耕に適する土地なるを以つて移住者は、先づ伐木、開墾より着手するものである。従つて移住當初は相當の勞力を要し、且收穫を得るまでの約一ケ年間の生活費の準備を要する譯である。各植民地には指導員が常駐して種々なる指導斡旋に當つてゐる。

右の區劃地の大部分は昭和十六年度中滿員となつた。昭和十七年度に新しくパラオ本島アイライ村に新區劃植民地二五〇町歩を設定し十七年度二十五戸、十八年度に二十五戸入植させる事になつた。

年々區劃面積及移住許可數は變化あるにより入植者は豫め所轄支廳宛照合の上致されるがよい。

(2) 植民區劃地の一戸當り貸付面積は五町歩を標準とされ、内農耕地約四町歩、穀物、蔬菜、果樹工藝作物等栽培、外林業地約一町歩薪炭林、其他農産製造、畜産等を加味し自家勞力を主體とせる複式農業を經營せしむる方針とされて居る。

(3) 願書は一通(添付書類共)を作成し植民地在地支廳へ提出するものである。

(4) 移住者に對する特點は、(一) 船賃の五割引、引越荷物の三割引。(二) 移住者一戸に對し五町歩を無償で貸付し、尙貸付を受けたる土地は左の條件に従ひ借受人の請求に依り之を無償で讓與する事になつてゐる。
貸付を受けたる者は事業成功期間(三ヶ年)内に其事業を成功し且借受地又は其附近に住居を構へたる事。
(移住許可願様式)

植民區劃地移住許可願

一、移住地
何々島 何々植民地

「住宅」は防寒の設備不用なれば極めて簡単にして、これに要する材料は借受地の樹木の拂下げを受けて丸太のみ掘立作として周囲を圍ひ、床を設けて屋根は亜鉛板を用ひて雨水を水槽に導きてこれを飲料水として使ふもので、群島にては大抵飲料水は日々數回夕立の如き降雨あり、この清浄なる天水を飲料水として用ふるものである。

屋根はブリキ板とせば安價にて足るもその腐蝕早く不經濟なり、又椰子の葉を以つて葺けば雨水の導きがよくないから亜鉛板を用ひるがよいとされてゐる。

屋内はなるべく土間を廣く取り生産物の置場に利用するがよい。建築費は住宅の廣狭高下により差あるも普通坪當三十圓内外にてこの外豚、鶏舎の設備が要る。

「農具」としては伐木、開墾、農耕に要するもの群島にては適當なるものを買入れるには不便且困難であるから内地より携行する事がよい。差當り必要なものゝ主なるものとしては斧、鋸、鋤、鋤(笹刈と草刈用)三本鋤、平鋤、シャベル(スコップ)、その他現在所有の農具、大工道具類。

「衣服」衣服、寢具、蚊帳等常夏の氣候なるを以つて内地の盛夏に於ける準備でよい。

「經營」作物種類、甘蔗、タピオカ、蔬菜、陸稻、玉蜀黍、バナナ、パイナップル、椰子樹等適當に栽培し更に牛、豚、鶏等の飼育に努め、勞力の調節自給、肥料の自足を計り猶開墾當初に於ては薪炭材の利用等により、出來得る限

り副業的方面の收入の途を取る事が必要である。
(其他)
現在の植民地は國民學校、病院等少しく遠隔の地に在るが、國民學校の設備は内地と同じく教育に支障を覺えず。移住者は絶海の異郷常夏の地に於て開墾より着手し、所期の目的を達成せんとするには心身共に豫想外の勞苦無しとせず、故に移住者は農業に充分經驗を有するは勿論、身體強健志堅固にして苟くも一攫千金の投機的觀念があつてはならぬ。

特點

この區劃植民地に移住許可された家族には渡航船賃は半額、引越荷物は三割の割引證を下附される。許可を受けたら次の如き書式で南洋廳東京出張事務所(東京市麹町區永田町一ノ三)宛願出るとよい。

船賃割引證交付願
昭和 年 月 日附ヲ以テ植民區劃地移住許可相成り候ニ付家族同伴 月 日 港發 丸ニテ
植民地へ移住致度候條左記ノ者ニ對スル船賃割引證交付相成度別紙戶籍謄本相添へ此段奉願願候也
昭和 年 月 日

住所職業

南洋廳東京出張所 御中

氏名

記

戸主 氏名 年 月 日生
妻 同 同 同 同
長男 同 同 同 同

以上何名

尙植民地移住後の經營資金一戸につき三百五十圓迄南洋拓殖株式會社で貸與へてもらはれる。

新開拓地の事情

南洋群島に於ける未開拓地開發のため南洋廳に於て、パラオ本島、アイライ村、瑞穂村、清水村、朝日村、大和村、ボナベ島に春木村の計六ヶ所に植民地を區劃設定し、移住者指導所、國民學校、病院その他の産業施設を行ひ、移住者一戸に五町歩宛貸下して、移住者を招致しつつあり、逐年移住者も増加され、今では立派な移住村を形成し、南洋農産業の中樞として發展されてゐる。

群島に雄飛し熱帯農産界に活躍せんとするものの進出の絶好期である。群島の土質は安土岩の風化分物の運積よりなり、表土比

較的深く、地味も案外肥沃にして各種農作物の植栽に好適とされてゐる。

氣候は一年を通じて變化殆んどなく、所謂常夏の氣候にして、日中の最高溫度華氏八十五度乃至八十七、八度にして九十度に昇る事は稀である。降雨量は年により差はあるも大體三、三〇〇耗乃至四、〇〇〇耗の間にあり、毎年七月から九月頃までを雨期とし、一月から三月頃までは比較的雨少く乾期となつてゐる。

作物としては甘蔗、タピオカ、陸稻、蔬菜、黃麻、キャッサバ、玉蜀黍、バナナ、パイナップル、コーヒ、椰子樹その他の熱帯特産物の栽培に好適され、これが經營に當り、牧畜、牛、豚、鶏等を飼育して勞力の調節と自給肥料の生産を圖り、猶開墾當初に於ては薪炭材をして薪炭の製造等極力收入の途を講ずるものである。

この氣候常夏、天恵の地にして住宅、衣類生活等極めて簡粗にて足りる。開墾當初一年は總てに創業時代なれば多少の資金の必要あるも、二年以降に至れば漸次收穫、收入は増加され、年と共に相當の収益をあげつつ五町歩の獨立農として活躍出来る。

瑞穂村植民地

本植民地はパラオ本島瑞穂村に區劃、邦人移住者を招致せるもので、昭和二年産業試驗場で農家經濟調査のため依頼、移民を四戸入植せしめたるに始まりその成績良好なる

を得、その後入植者は續出され現在に至つてゐる。
本植民地は南洋廳所在地コロル島の海路五哩の沿岸にあり、コロル島との交通至便にして生産物の搬出、販賣の容易なるを以つて繁榮し、植民地の大半は耕作地として開墾され、地の利を得、生産品の需要圓滑なれば、移住者は何れも自作農として堅實なる發展を見せてゐる。新設のアイテイ村植民地は瑞穂村の背後海岸に在る。

朝日村植民地

本植民地はパラオ本島アルモノグイ村カルミスカン川流域の官有地に區劃せる植民地で、大正十五年八月の入植者ありて開墾に着手し漸く收穫を見るまで進みたる昭和二年五月、當時本島に來襲せる大暴風に遭遇して大被害を蒙りし植民地の受難史がある。本植民地は昔日は植民地附近に蔬菜類の需要少く、ために瑞穂村同様生産品をコロル島に搬出販賣せねばならず、加へて當時コロルまでは海路十五哩、カルミスカン川三哩半の地にありて、月僅かに三回より便船なかりしため極めて不利の事情にありしが、現在では本島の諸産業勃興され、土地肥沃と相俟つてその後極めて活潑なる進展を致してゐる。

尙南洋鳳梨株式會社では本植民地にバインアップル罐詰製造工場を經營して居り、移住地はバインその他各種の熱帯作物の栽培極めて盛にして、その將來は大いに有望視されてゐる。

大和村植民地

本植民地もパラオ本島ガスパンに在り、未開拓地開發のため昭和十三年初めて百町歩、二十戸分區劃せるも同年中既に申込者満員となり、第二回は四百町歩、八十戸分を區劃設定して移住者を招致し入植せしめた。今後、新區劃地も設置される様傳へられてゐる。

移住地には南洋鳳梨會社の罐詰工場及熱帯農産會社のカオ、キヤツサバの原料栽培等により熱帯特産物の生産地として早くも活況を呼び飛躍されつつある。

尙南洋殖直營の大和村農場四百六十餘町歩があり、鳳梨、カオ、キヤツサバ等の開墾栽培が進められてゐる。

清水村植民地

パラオ本島カインヤル村、ガルドツク川流域にあり、近年まで殆ど餘り顧みられてゐなかつたが、最近群島の諸産業は急激なる發展をなしたるに従ひ、サイパン等より次第に未開拓地廣大なる本島への進出は開始され、産業企業も勃興されつつあるため昭和八年以來入植者は續出を見るの成績を示され、地味もよく早くも相當なる好成績を挙げ活躍されてゐる。本植民地にも「南洋鳳梨會社」では罐詰製造工場を設置、移住者の生産品の加工移出は開始されつつあり、移住者は堅實なる發展を爲してゐる。

春木村植民地

ボナベ島バルキールに在る植民地にして本植民地はその地域六百町歩餘に互る廣大なる面積を有し一一五戸を入植收容し得らる。最近本植民地への希望者多く、既にその殆ど入植されてゐる。第二期計畫として更に數百町歩を設定すると傳へられてゐる。

春木村は比較的平坦、地味肥沃にして水利の便ある所多きため開拓後水稻にも適され、作物としては水稻、陸稻、コーヒ、タバコ、バインアップル、蔬菜、バナナ、果樹黄麻等の栽培に適されてゐる。

近時パラオ本島と共にボナベ島は群島最大の面積を有する處から今後の群島産業の發展地として一般に注目されつつあり、各種企業會社の進出漸く繁々、南洋興發會社のタバコカ澱粉工場、南洋鳳梨會社のバインアップル工場、南洋殖興業のトバの栽培等々各新産業事業は本島を舞臺として發展されてゐる。

本移住地は大ボナベの熱帯特産物生産の中心地としてその將來の發展は見るべきものがあらう。

南洋殖殖挺身隊

南洋殖殖株式會社ではヤップ島の同社所有の未開拓地開拓のため開拓に從來する青年を「南洋殖殖挺身隊」として

募集し、内地で一ヶ月訓練の上、ヤップ島の同社農場に送り開拓に従事させてゐた。大東亞戦争前二、三年迄は毎年數回募集されたが、最近では年に一、二度となつた。會員中照合も少くないので前回の募集要項を次に掲げて参考とする。

南洋殖殖挺身隊

「應募資格」(一)年齢滿十八歳以上三十歳以下の男子にして父兄の完全なる承諾ある者たる事。(二)經歷は國民學校卒業者にして農業に經驗ある者。(三)身體強健思想堅實にして南洋開拓に熱意を有し現地に於て共同生活及農耕に従事し得る者。

「應募手續書類」(一)父兄連署の志願書。(二)履歷書。

(三)戸籍謄本。(四)身體検査書。(五)市、町、村長及學校長、青年團長の推薦書各一通。

「申込場所」訓練の依託を受けた(埼玉縣與野町・農民講習會)

銓衡は志願者を農民講習館に集めて嚴密な身體検査と人物審査を行ひ、合格者を決定し合格者は同所に於て一ヶ月間精神及農事作業の實地訓練を行ひ、終了後現地の南拓道場に渡航、三ヶ年間南洋殖殖の直營農場に於て開墾、農業その他の仕事に従事するもので、三ヶ年間の訓練終了者は五町歩の未開拓地を受けて獨立農となる事も出來、又挺身隊の幹部として活躍する事も出来る事になつてゐる。待遇

は内地訓練は勿論自費を要しないし、渡航に際し制服、制帽が給與され、渡航費は南洋拓殖で持ち、渡航後現地訓練中は日額一圓五十錢内外の手當が給與される。以上の様であつた。

募集の時は國民職業指導所を通じて行はれる一方新聞にも廣告されますから希望者はこれらに注意してゐて應募する機致されるとよい。豫めの募集期等については南洋拓殖會社宛照合されたら判ると考へられる。

進出する事業會社

◇南洋拓殖株式會社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金四千萬圓に増資計畫中、昭和十一年資本金二千萬圓を以つて設立された國策會社にして、同社は南洋群島の全面的に互り資源開發に乗り出し、

拓興業」等の會社を活躍せしめ、或ひはパラオ、ボナベ、ヤップ島の開墾拓殖を進める等、今や新銳の勢を以つて海に陸にと全群島を事業地として群島産業界に覇を唱へ飛躍發展を示してゐる。内地事務所は東京市麹町區丸ノ内一ノ八日本興業銀行ビル内。

燐礦鑛業所

等々の全面的に強力なる進出を開始、燐礦ではアングウル燐礦所の經營を初めフアエス、ソンソル、パンナ、ペール島の各燐礦を經營する一方、群島産業の第一線に「南洋アルミ」「東洋電化」「南洋鳳梨」「南興水産」「日本眞珠」「豊南産業」「南洋電氣」「南洋汽船」「南

アングウル燐礦所は、世界大戰により、我國占領當時獨逸會社により採掘されてゐたものであるが、占領以來我國の經營になり、昭和十二年より南洋拓殖會社に移讓されたもので、埋藏量精礦百五十萬英噸、投下資本一千萬圓従業員約一千名で目下進行中。

◇南洋アルミ鑛業株式會社

本社 南洋パラオ・コロール

フアエス鑛業所、鑛區五二萬坪、埋藏量五十萬噸、投下資本三百萬圓、従業員約五百名、十二年末、採掘開始さる。その他にソンソル、パンナ、ペール島等である。

資本金一千萬圓、昭和十二年設立、アルミの原鑛ボーキサイトは、從來悉く海外輸入品に依存されてゐたが、南洋群島に豊富なる埋藏あり、その品位極めて優良なるにより、南拓と三井鑛山その他の出資により同社が創立されパラオ島ガラマス村、アルモノグイ村

に工場を設置、採掘、運搬、鑛鑛、發電、社宅、病院等諸種の施設が完備され、時局下飛躍發展中。

◇南拓鳳梨株式會社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金二百萬圓、昭和十二年設立、群島の熱帯特産物たるパイナップルは現在各島に於て栽培あるを以つて、罐詰工業の確立の急務なるに應じて設立さる。パラオ瑞穂村、朝日村、清水村、ボナベの春木村等の各移住地を初め、ヤップ島等に新式工場を設置し、移住地より原料供給を受ける一方、直營耕地の經營等により逐年擴張を進められ、新産業輸出として發展されてゐる。

◇豊南産業株式會社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金二十萬圓、熱帯植物キヤツサバ、ヒマ、カカオ、レモングラス等の栽培は國策的見地からも重要なものであり、海外より輸入を見てゐる時、こ

れを群島に於て生産する目的により、南拓と内地消費者との共同出資にて設立され、パラオの移住地を中心とし栽培を進めつつあり、新興産業としてその發展は大いに期待されてゐる。

◇南興水産株式會社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金五百萬圓、事業は海産物製造販賣、製氷、冷凍、水産、罐詰等に海洋資源目指して活躍されてゐる。事業地はサイパン、パラオ、バガン、トラツク、ボナベに置き、就業漁船約五十隻、漁獲高三百五十萬貫、鯉節製産額六萬圓、南洋節の名聲を博し、内地市場に猛烈な進出を爲す等、群島水産界に覇を唱へてゐる。

◇南洋電氣株式會社

本社 南洋パラオ

資本金五十萬圓、昭和十二年創立、南洋拓殖の主たる出資により設立せらる。群島一圓に互る電燈、電力、電熱の圓滑なる供給を目的とされ、コロ

ルの對岸に火力發電所を有し、原動機ダイゼル機關KW二基、パラオ附近一圓に供給、更にサイパン進出、ボナベに水力電氣經營も進行中、群島産業の立體化に進み、前途益々有望視されてゐる。

◇南方産業株式會社

本社 南洋パラオ

資本金百二十萬圓、昭和十一年設立、近時各企業の急激なる發展に伴ひ、工場、倉庫地帯の造成を必要とし、海面の埋立事業を行ひ、或ひは人口激増につれて起る住宅建設等に乗り出し、土地家屋建築方面に強力な發展を示してゐる。

◇東洋電化工業株式會社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金五百萬圓、本社は燐礦を原料とする化學窒素肥料の製産及化學製品の製造並に販賣を行ふ一方鑛業並に製鍊、電力事業にも進出し、群島に於ける化學工業事業會社として新進氣鋭の

の展開を示しつつあり、その将来は大いに囑目されてゐる。

◇南洋汽船株式会社

本社 南洋パラオ

資本金百五十萬圓、昭和十三年創立、群島諸産業の勃興につれ、海運事業の發達は緊急事業である。南拓ではその沿岸航海の充實を圖り、又東亞連絡線航路に南拓丸、南榮丸等を就航せしめ、向沖繩縣、臺灣及パラオ、トラツク、ボナベを繋ぐ新航路の開設も進めつつあり、現在離島航路も就航してゐる。

◇南拓興業株式会社

本社 南洋パラオ

資本金四百萬圓、昭和十四年創立、銀行なき群島に於て融資、預金手形の取扱を始め、住宅倉庫等の業務も兼ねた綜合會社として、その將來は一般より大いに期待されてゐる。サイパン、ボナベ等各主要島に支店を設置、群島金融機關として堅實なる發展を爲してゐる。

◇日本眞珠株式会社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金は四百萬圓、昭和十三年創立、從來無制限なる自由競争状態の統制を行ひ、綜合以つて南海の眞珠業に活躍す。主要事業は眞珠貝の採取、運搬、保管、賣買並に委託販賣、母船及運搬船、眞珠貝採取船の經營、眞珠貝採取業者に對する物資の供給、金融等に關する業務であり、母船眞洋丸二七四四噸、運搬船ニユーギニヤ丸、第五アラフラ丸、皇國丸、朝日丸、尾州丸、神州丸等で全従業員二千數百名、年産額五百萬圓。

◇南洋興發株式会社

本社 南洋サイパン島・チャランカ

資本金一億圓、群島事業界に王座を占む。製糖事業を第一に、タピオカ澱粉、酒精、水産、製氷、海運、造船、燐礦事業に活躍され、サイパン、テナアン、ロタ、バカン、ボナベ、クサイ、トラツク、パラオ等を事業地として群

島産業界に多角的發展を遂げてゐる。主力を製糖事業に注ぎサイパン（第一工場）、テナアン（第二、第三工場）、

ロタ（第四工場）の三島に製糖工場を設置、甘蔗耕作地、自營農場及小作農を合して約一萬二千町歩を擁し、甘蔗耕作及びその他傍系事業に邦人三萬餘を定着せしめ從事せしめてゐる。ボナベ島に熱帯特産タピオカ澱粉事業、サイパン、テナアンに酒精工場、パラオ、トラツクに水産事業、サイパン、テナアン、トコベ、ベリリニュー島に燐礦事業を經營、その他に海運造船等にも進出を見せ、群島各地に陣營を張り飛躍的發展を續けてゐる。昭和十七年南洋貿易株式会社（資本金一千萬圓）及太平洋貿易株式会社（資本金一千萬圓）の二社を同社に合併の上、一億圓に増資し、積極的に外南洋貿易に雄飛する事となつた。東京事務所は東京市麴町區内幸町一ノ二東拓ビル内。

◇海洋殖産株式会社

本社 南洋パラオ・マルカル

資本金三百萬圓、昭和十二年創立、濠洲近海及アラフラ海に於て眞珠貝採取事業家、丹下福太郎氏の事業に南洋興發が出資参加して設立された會社、ダイバー船四八隻其の他四十餘隻を有し南洋資源開拓に當る一方南方遠洋漁業に活躍されてゐる。

◇海南興業株式会社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金三十萬圓、昭和十一年南興眞珠株式會社として設立されたものなるが、その後眞珠貝採取事業の統制せられたると同時に現在の社名と改稱し水産漁業、養殖、加工林業製材、木工工業、海上運輸等に進出を開始、堅實なる發展を示してゐる。尙日本海の鮪漁業や揚子江上の運輸業にも進出す。

◇南興農産株式会社

本社 南洋サイパン・北ガラパン

同社は興發のサイパン、テナアン、ロタ島に於ける所有地の休閑地を利用して蔬菜及適所適裁の農産物生産、生

産品の加工を目指して進出する一方、移住者の栽培の指導、生産品の取引等に當つてゐる會社である。

◇南洋石油株式会社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金三百萬圓、昭和九年創立、本社は鑛油の輸送、貯藏、保管、販賣並に其他の附帯事業及南洋産業開發に資する事業にも進出を爲す。出張所はサイパン、トラツク、ボナベ等に在る。

◇南洋油脂興業株式会社

本社 南洋サイパン・チャランカ

資本金四十五萬圓、昭和十三年創立、南洋興發系で、本社は南洋群島に於けるコブラの移出、製油に進出、製油工場は大島に工場を設置、活潑なる發展振りを示してゐる。

尙同社は朝鮮煙草の群島賣捌元として商戦にも進出してゐる。

◇東洋アルミ株式会社

本社 南洋パラオ・コロール

資本金二千萬圓、本社は南洋群島に於て採掘されるボーキサイトを原料として、これがアルミニウムの製錬事業に活躍し、南洋群島を舞臺として本邦輕金屬界に氣を吐いてゐる。南洋アルミニウム鑛業會社が採掘部門を支持つてゐるが本社はその製錬部門に當つてゐる。

◇パラオ交通株式会社

本社 南洋パラオ・コロール

パラオ、コロール島に於ける交通網の充實に先鞭をつけ乗合自動車を経營する一方貨物運輸等に進出す。乗合、市街線、郊外線、貨物部とに分たれて定期運轉を行ふ。パラオ交通界に活潑なる發展を爲してゐる。（南貿系）

◇株式會社大洋商店

本社 南洋サイパン・北ガラパン

資本金二十五萬圓、支店テナアン、ロタ、パラオ、トラツク、クサイ、ヤルート等に有し、群島貿易業に堅實なる發展を示してゐる。元大洋商工合資

會社を改組し、昭和三年、株式會社に改め、百貨卸小賣・貿易・コブラの取扱ひは南貨に次ぐ商網を張つてゐる。パペイン製造は群島産業に特筆すべきで、ロタ及びサイパンに直營農場を有し、製品は海外にも輸出する等群島の太平洋商店として一般の信認大にして今後の飛躍は注目されてゐる。

◆南洋コーヒー株式會社

事業地 南洋サイパン島

資本金五十萬圓、本社を大阪市北區老松町一ノ三に置く。サイパン島タツボウチヨウ、ポトリコ、パーバコに約二百町歩のコーヒー園を有し、ボンタムに七千餘坪の工場を設置、年産約八千俵國産コーヒーとして推奨されてゐる。創立大正十五年、社長住田多次郎氏、サイパン支店長池田寅平氏。

◆南洋タビオカ株式會社

本社 南洋サイパン・サドタター

資本金二十萬圓、同社は昭和七年創立、合資會社たりしが同十二年株式と

なる。サイパンに於て、タビオカ澱粉製造事業を經營、工場敷地約六千坪、建坪千二百餘坪の新式工場を有し、生産能力四千萬斤と稱さる。會社農場と自作農業者との契約タビオカ作付約八百町歩、逐年事業擴張を企圖されつつある。

◆南洋ココア株式會社

事業地 南洋ロタ島

資本金五十萬圓、東京京橋區新川町一ノ六、ロタ島に經營所を置き、同島サバナのイイサンに約二百町歩の耕地を有し、ババイヤ、ココア、トバ等の熱帯特産物の栽培に當り、着々本格的に發展活況を見せてゐる。同社の事業は群島新企業の一つとして今後の發展は囑望されてゐる。

◆南洋産業株式會社

本社 南洋ボナベ、コロニヤ

資本金五十萬圓、昭和十二年創立、ボナベに於て造林、製材、工場經營、土地經營、拓植、水産、鑛業、物品販

賣、海陸運輸、土木建築等營業科目として多角的に進出開始されつつあり新企業會社としてボナベ開拓の一線に活躍しつつあり、その前途は刮目されてゐる。

◆バラオ水産株式會社

南洋バラオ・アラカベサン

資本金三十萬圓、昭和十二年創立、眞珠貝、高瀬貝の養殖並に採取その他の水産業を經營、海洋資源開發に活躍す。相當活潑なる活動を續け業績を擧げてゐる。採取はアラフラ海、眞珠養殖はバラオ諸島アラカベサン・アミオンスにて經營し、珊瑚採取業も經營してゐる。

◆南洋水産株式會社

本社 南洋サイパン・北ガラパン

資本金十五萬圓、昭和十三年創立、群島水産業に進出、群島を中心として珊瑚の採取及加工の經營、鯨魚の漁業及び鯨節の製造等各方面に活躍されてゐる。

◆大橋タビオカ製造所

本社 サイパン、築港街

資本金二十五萬圓、昭和八年創立、大橋菊次郎氏の個人經營にして、サイパンに於てタビオカ栽培を行ひ、澱粉工場を經營、製品年産千五百噸、工場敷地三千五百坪、従業員約六十名、群居する大會社に伍して堅實なる發展を遂げ斯業に重きをなしてゐる。

◆株式會社秋山高商店

本社 南洋バラオ・コロニヤ

本社をバラオに、營業所を東京丸ビル三三四區に、出張所をサイパン、テナアン、ロタに設け、内外煙草及各種藥品の輸出入販賣に活躍してゐる貿易業商社である。

◆南洋拓殖興業株式會社

事業地 南洋ボナベ、コロニヤ

資本金二十萬圓、昭和十一年創立、本社を東京市杉並區高圓寺五五八に置く。ボナベに數百町歩の官有地拂下を受け、農場を有し、小作農を入耕せしめ、新産業たるトバ(デリスとも稱する驅虫劑原料植物)等の栽培を進捗中

である。新興ボナベの新特産企業會社として、その將來は大いに囑望されてゐる。

◆拓南興業株式會社

本社 南洋ヤツブ島コロニヤ町

資本金十萬圓、ヤツブ島を中心として椰子外皮採取、海綿採取、及土木工事業にも進出して独自の立場から活躍してゐる。尙同社は外南洋ボルネオ島にも事業の進出を見せてゐる。

◆マーシャル眞珠株式會社

本社 南洋ヤルト

資本金十萬圓、昭和十一年創立、ヤルト支廳管内エボン島、高瀬貝、白蝶貝、黒蝶貝、阿古屋貝の採取養殖を經營す。尙同社は群島の北端のボカイク島に於て工業鹽の製造を進められつつあり、ヤルトを本據とし、水産界に獨特の發展ぶりを見せてゐる。

◆國見産業株式會社

事業地 南洋ボナベ、ナット村

資本金十萬圓、昭和十一年創立、本社を神戸市神戸區元町六丁目置く。ボナベ島ナット村に約百三十町歩の耕

地を有し、驅蟲劑植物及キヤツサバ等の栽培に活躍しつつあり、ボナベの産業開發に當つてゐる事業會社。

◆日本酵素工業株式會社

南洋サイパン・ボンタムテフ

資本金七萬五千圓、昭和十一年創立、サイパンにてババインの製造、販賣に當る。ババインを原料として蛋白分解劑スメルチン、纖維精練劑シルボンの製造を爲す。尙姉妹會社南洋酵素合資會社も斯業に活躍してゐる。

◆大洋眞珠株式會社

本社 南洋バラオ

同社はバラオに本社を置き、眞珠採取事業に活躍してゐて、アラフラ海方面に遠洋して眞珠貝の採取に當る一方養殖業に進出、その他の海洋資源開發に發展してゐる。

◆わかもとボナベ事業所

出張所 南洋ボナベ

製藥業わかもと本舗ではボナベ島春木村に約二百五十町歩の農場を持ち、タビオカ栽培をなし、タビオカルート

業として一般に注目されてゐる。

◇グリコ株式会社

事業所 南洋ボナベ

子供の菓子として知られてゐるグリコ会社がボナベにチョコレート原料であるカカオ栽培に進出してゐる。カカオは従来輸入に俟つてゐたがこれが自給を目指してカカオ農場を經營發展中である。

◇南洋パルプ株式会社

本社 南洋ボナベ

紙の原料たるパルプの製産に進出して先づ群島のギニヤグラスがパルプに好適されてゐる處より、同社はこれが植栽、加工、生産に發展中にして、その將來は一般に刮目されてゐる。

◇南洋電力株式会社

本社 南洋ボナベ

資本金五十萬圓、同社は東洋紡系の會社にして、ボナベに於て發電事業を起し、電力の供給に活躍中、同島の産業の最近の勃興は目隠しいものがあり、その前途は洋々たるものがある。

◇南方起業株式会社

南洋ボナベ

資本金十五萬圓、二百五十萬圓に増資中、同社も東洋紡系の企業會社にして、ボナベ島の資源開發に進出を企圖する一方、特産物の貿易方面にも發展するものと云はれてゐる様すべてが今後に期待されてゐる。

◇安部産業株式会社

南洋ボナベ・コロニヤ

資本金一八萬圓で同社はボナベ島の林業に發展中で、トン材とアイボレナツトの生産輸出に發展してゐる。廣島縣尾道市堂町安部肥料店木材部より昭和十六年獨立せるもの。

◇ボナベ開業社

南洋ボナベ・コロニヤ

同社は公稱資本十萬圓、ボナベ事業界に古き沿革を持てる會社で、ボナベ島ボルマンに約百五十町歩の土地を有し、農園を經營する一方、製材、椰子、纖維、製氷事業、請負業等に活躍し、堅實なる發展を遂げて居る。

◇サイパン信用組合

南洋サイパン

同組合は昭和八年三月の創立にして庶民金融機關として同島金融界に重きを爲してゐる。出資總額約三〇萬圓、組合員數約五〇〇名、一ケ年の收支取扱高百萬圓以上にして、一般の信認は極めて厚い。組合長は木下新藏氏。

南洋群島の新聞

南洋群島の主なる新聞としては次の如きものがある。購讀料は一ヶ月一圓二十錢、外に送料十五錢（郵便局より内地同様に送金出来る）。内地への發送は船便の關係上大體一週間に發送されて來るのが普通である。

「南洋毎日新聞」

南洋サイパン島ガラパン北二丁目

南洋毎日新聞社

「南洋新報」

南洋バラオ島コロール町

南洋新報社

東印度篇

位置

東印度諸島（舊蘭印）とは太平洋上赤道の南北に展開するかつて和蘭の領有せし南洋諸島の總稱にして即ち東經九十五度より百四十一度、北緯六度より南緯十一度に及ぶ。

大スンダ群島—スマトラ、ジャバ、ボルネオ、セレベス、小スンダ群島—バリ、ロンボック、スンバワ、スンバ、フロレス、チモール等。

モルツカ群島—ジロロ、ブル、スラ、セラム等。
ニューギニアと屬島—ニューギニア西半部、アル、ミツイル等

の四群島から成つてゐる。總面積は一、九〇四、三四五・七平方浬で我國朝鮮臺灣樺太を含む總面積の約三倍といふ廣大なる地域を占めてゐる大版圖である。

之を大觀すると南は濠洲大陸に相對し、北は我が新南群島及亞細亞の南東部と相呼應し、大東亞海に跨り、西は印度洋に、東北はフィリッピンを経て、我が南洋群島に接してゐる。

地勢

東印度の地勢を大觀するに、ボルネオ及ニューギニアを除く外は全部火山地帯であつて、火山系はスマトラの北西端に起り、西海岸に沿つて南走し、ジャバの中央南方を横貫して小スンダ列島に至り、グーメンアビ島より北に折れてテルナテ、ハルマヘラの火山列山を起し、西折してセレベスの北端ミナハサ地方の火山となり、更にサンギル列山を経て遙かにフィリッピンのミンダナオ島に及んでゐる。一方ボルネオ島の山脈は東北端に起つて西南に走り、南方で二分され北部はイラン山脈、南部はボーフェンカブアス山脈となり、北部サラワクと舊蘭領との境界をなしてゐる。セレベス島はその島なりに中央山脈があり、ニューギニアの山脈は東西に走りて數多の高峰が聳えてゐる。

高山も多く、東印度の最高峰ニューギニア島のカルステンツ山などは海拔五、〇四〇米もあり、この外三、〇〇〇米を越える高山が二十六も數へられてゐる。河川はジャバとセレベスに流れるものはその地形上一般

に短く大河川なく、スマトラ、ボルネオ、ニューギニアにあるものは延長大にして船舶の航行に適する。これら河川は島内の主要な交通路をなしてゐる。四周環海の多数の島嶼や廣い内海を抱いてゐるので、海面積が陸の面積の約三倍といはれ海岸線は至るところ屈曲をなし良港に恵まれてゐる。

沿革



東印度へ歐洲人の渡航せるは中世紀頃からで、最初アラビヤ人のこの地方を旅行せるものにより紹介されたもので九世紀頃の當時の地理書に、断片的ながら幾つかの島が紹介されてゐる。そ

の後マルコ・ポーロ等の地方を旅行する者もあつて十六世紀の初めポルトガル人が最初この地方に來た頃には相當詳細な地圖が作られてゐた。

一五〇九年ポルトガルの水師提督セリエラーが数隻の軍艦を率ゐて探検せるもこの探検隊は原住民の襲撃を受けて失敗した。そこで一五一一年、アルブルケを送りサルタンが十分に前回の賠償をせざるを理由に宣戦して當時最も有望な香料貿易の中心地マラッカ海峡を占領して仕舞つた。次いでこれを中心し漸次優勢を占むるに至つた。

然るに一五二一年有名なスペインのマゼラン一行の中一隻が暴風のため吹き流されチモール島に漂着しこれを占領したのでポルトガルと勢力争ひとなつたがその後和議成立しスペインはフィリピンを領有することになりこの地の要求を棄てるに至つた。

當時ポルトガル人の勢力はモルッカ群島を中心として南部諸島及びアチナナに總督を置いて貿易に従事してゐたがその後總督の代る度に行政は紊亂し歴政のため原住民の反亂を起し次第に勢力は衰微し始めた。

オランダの統治

オランダ人が初めて來航したのは一五九六年で、コルネリス・パウトマンの率ゐるオランダ貿易艦隊がスマトラ島のパンタムに着いた時に始まる。當初は唯貿易を行ふに始まつたが、この地方の侵略の容易なるを見るや貿易より轉

諸島の権力者と條約を結ぶに成功し、翌年パンタムに居留地を造り、進んで西部ジャバを侵す。六一〇年にはポルトネオの権力者と條約を結ぶ等勢力を擴大し一六一九年にジャバのジャガタラに本部を移してバタビアと改稱し發展を開始、一六二三年アンボイナ事件として歴史上の慘事たるオランダ人がポルトガル人やイギリス人を大虐殺した。その後オランダの勢力は益々強くポルトガル勢力を駆逐し、ジャバを領領とした。一七八九年同會社は内政的事情で解散するや、ここに東印度諸島は和蘭の直轄を受け、總督を派遣してこれを統治するに至つた。

一八一〇年和蘭本國がナポレオンの爲に攻撃された間隙に乗じて英國がこの方面を一時同國の統治下に委ねられたが後ロンドン條約に基きて再び和蘭に返還された。而して一八二八年ニューギニアに進出してこれを手に收め、一八七三年スマトラ島、アチエー族が和蘭の侵略に反抗しこれが約三五年間繼續された。次いで一八九四年ロンボック、フロレスに進出し、一九〇九年アチエー族の征服を完了し斯くて東印度諸島が和蘭の主權下に服するに至つた。

我國との關係

東印度を旅行せる日本人から現住民の容貌が日本人によく似てゐた話をよく聞く處である。顔や身體の色は別として顔形がよく似てゐる事は事實であり、又風俗習慣や言葉のうちにも似通ふものが少くない。



勢力あるもので、同會社は直にバング・ネイラ及テルナテ

てて權力の扶植に乗り出しその先鋒として一六〇二年蘭領東印度會社なる特殊會社を設立し、これと東印度種族諸侯との條約を結び、傭兵を募り、或は行政官、裁判官の任免の權限まで與へられた絶大なる

我國と東印度との交渉は遠く足利時代に始まり、天文年間ポルトガル人が種ヶ島に渡來して以來、いはゆる南蠻人の渡來に初つた事は諸君も承知のところ、其後オランダ人が平戸に商館を設置したのは一六〇九年でこれから蘭印との關係は密接を加へ、當時、日本人の勤勉實直、兵士として勇猛果敢なるに着目したオランダ人が蘭船の歸りに日本人六十八人をつれ歸つた、この中には大工九人、鍛冶職三人、左官三人が居り他は武士と船員であつた。その後日本人は契約を結んでジャバに渡る様になつたが元和六年に難船の悲劇が起つたので幕府はこの契約移民を停止した。慶長十八年、當時の蘭印總督クーンがチモール島を攻略する際に日本人四十名の一隊が参加し勇戦して城塞を陥れ、また翌年バング島征伐の時にも遠征隊に八十七名の日本人が参加してゐた。一六一八年英國艦隊が來襲せる時、多數の邦人がジャガタラ(バタビヤ)の築城を指揮しこれを擊破し勇名をとどろかせた史實も傳へられてゐる。

ジャガタラの日本人中兵士以外に農園や手工業、商業を營む者もあり、一六二三年(元和九年)の市民名簿には日本人自由市民百二十二人ありと記録されて居り、又一六一九年から一六三〇年の間に西洋人又は原住民と結婚した日本男子が二十四人、女子九名がバタビヤの文書館に残されてゐる婚姻簿に載せられてある事實は邦人との交渉を如實に物語つてゐるものである。

その後領國命によつて東印度の渡航は断たれたが、オラ

我國の占領まで

前記の如く我國と東印度とは往時より不可分の關係にあつたが、昭和十二年日支事變以來英米の使喚を受け援蔣政策を採り、我國の平和的通商問題には終始毎日的態度を以つて當り、或ひは邦品に強度の禁止的制限を行ひ、一方我國への石油その他の物資の輸出を禁止する等英米の傀儡となつて我國に經濟壓迫を加へ、經濟的崩壊を策し、遂には米、英、蘭、蔣の所謂ABC D線の對日進攻軍事據點となり、共同して軍備に狂奔し艦艇を集結し、在留邦人に暴行壓迫を加へる等暴舉相次ぐの狀態にあつた。

昭和十六年十二月八日遂に米英に對する宣戰の大詔は發された。我が無敵陸、海、空軍は壯烈鬼神を泣かしむる彼の眞珠灣の攻撃、グワム、香港、比律賓、マレー等米英の牙城を次々に擊碎し、一方蘭印各地に敵前上陸を敢行しスマトラ、ボルネオ、セレベス等占領は續けられ、遂ひに昭和十七年三月一日蘭印最後の據點ジャバ島に上陸した我軍は破竹の進撃を續け、僅か五日にしてジャバ島の首府バタビヤを陥落せしめた。他の隊は同夜、敵の重要軍事基地バイテンゾルグを夜襲して占領、直ちにバンドン要塞に猛進撃を行つた。

一方東方に上陸した部隊は既に三月二日ケラガン週邊のレンバン、チェブ、ツパンを占領、早くも七日午後にはスラバヤに突入、一部隊は敵中を挺身し五日ジヨクジャカル

ンダ船の長崎出入によつて間接に蘭印との交渉は續けられ一度領國令が解かれるや南方進出は續出され、日露戰爭當時、日本軍が大國ロシアを擊破し連戰連勝の報は、南洋住民を歡喜せしめ一層の親日度を加へた。戰爭後は蘭印に渡る日本人賣藥商人等が急激に増加し、更に第一時歐洲大戰を契機として邦人の進出は急轉し各地に有力な商店や貿易商が雄飛し、或はゴム、砂糖、椰子、コーヒー、茶、規那等の農業企業に乗り出し日本人獨特の技術を發揮し、ジャバ、スマトラ、ボルネオ、セレベス、ニューギニア等の開拓に偉大な貢獻をなして活躍するに至つた。

大東亞戰勃發前在留者の引揚及殘留者の抑留等のため、邦人事業商社も殆んど閉鎖のやむなきに至つたが、占領後治安の恢復と相待つて引揚者の再渡航等續々行はれ復舊された商社商店も漸くその數を増して來た。

尙戰前の對蘭輸出額は二億圓を突破し我が國にとつては支那大陸、北米、印度に次ぐ重要市場となつて居た。邦人は戰前の調査によると

農 業	一四二	水 産 業	四〇一
商 業	六	工 業	二一一
公務自由業	一八〇	交 通 業	二一
其他有業者	七三	家事使用人	七五
その他	三六〇	無業(主として家族)	三、一六九
		合 計	六、四六九

の如くであつた。

タの敵を屠り、海岸道を突進、チラチャップに迫つた。

更にジャバ島中央部のバトロール附近に上陸した一部隊は、その先遣隊をもつてカリジャチ飛行場を奇襲奪取し、我が空軍部隊を同地に躍進させると共に、早くも五日には敵の最後の復廓とたのんだバンドン要塞の北側に迫つた。

この神速果敢な皇軍の進撃に約二萬の兵力を擁し、堅固な防禦施設を備へたバンドン要塞守備軍も遂に懼伏し、七日夜敵守備軍司令は停戦を乞ふに至つた。我が今村最高指揮官は、蘭印總督の自ら來りて交渉すべき旨を要求した。八日午後蘭印總督はバンドン附近の局部的降伏を主張して譲らなかつたが翌九日午後三時敵も遂に我が要求に服し、十萬に近い蘭印軍及米濠軍は全面的に無條件降伏し、三世紀半に互つて侵略をほしいままにし支那事變以來飽くなき對日敵性を續けて來た蘭印も抗戰僅か九日にして、皇軍の前に屈服した。茲に昭和十七年三月九日蘭印の全領土は我が占領地となり、以來我が軍政下に統治されるに至つた。

面積人口

東印度諸島の面積とその人口及人口密度(一方軒當)を表示すれば次の如くである。

島 別	面積(方軒)	人 口	人口密度
ジャバ及マブラ	一三、七四一	四、七二八、五五〇	三三・六五

スマトラ	四七五、六〇九	八、二五五、八四三	一七・四
ボルネオ	五三九、四〇〇	二、六八、六六一	四・三
メナド	八八、五八一	一、三三八、六五五	二・八
セレベス	一〇〇、四五六	三、〇三三、二五二	三・〇七九
モルツカ	四九六、四六八	八、九三三、四〇〇	一・八〇
ニューギニア	一〇、三三〇	一、六七五、五七五	一六・七
チモール	六三、三三〇	一、六七五、五七五	二六・二
バリ及ロムボタ	一〇、三三〇	一、八〇三、六八三	一七・二
合計	二、九〇四、三三〇	六〇、七三三、二五二	三・九一

(註) 本統計は一九三八年の調査である。尙人口増加率は毎年一分五厘と見られるとよい。

次に参考として我國の面積を記載すると、

日本(臺灣朝鮮)

六八七、五五〇 九七、六九七、五五五 一、四三〇、〇〇〇

即ち東印度は面積に於ては我國の約三倍に當つてゐるが人口は我國の三分の二に過ぎない。従つて人口密度に於ても日本の約五分の一である。

東印度の人口六千萬の中その七割に當る四千一百萬人がジャバ島に居住してゐるため統計に見る如くジャバの人口密度は一方軒三百十五人餘に當り、我國の約二倍以上といふ世界でも一、二といふ人口密度を示してゐるが、残りの二千萬人がその他の諸島に散在して居り、殊に資源の寶庫ボルネオの如きは我國北海道の約十倍もある大島に僅か二百萬、ニューギニアは我國位の面積に僅か八十萬内外でありその殆んどは洋々たる未開の處女寶庫である。

氣候

東印度はその位置赤道に接し版圖悉く熱帶國內にある故に四季の別なく一年を通じて我國初夏の氣候にして所謂「常夏の國」である。

然し乍ら各島とも太平洋上に在りて海洋性氣候にして海風常に島上を訪れ涼氣を添へ、熱帯焦熱の氣候を想像して渡來する者のひとしく意外とする處である。

各島を通じて殆んど氣温を同じくし、又一年攝氏二十六七度内外である。これを一日で見れば朝は春の氣候で午前午後四時頃までが盛夏の氣候で、夜から翌朝までが秋の氣候ともいふべき氣温である。

次に我國と東印度諸島との氣温を比較すると次の如くである。

東 京	大 阪	ジャバ	セレベス	ボルネオ
平均最高温度	三〇・〇	三三・二	三〇・九	三〇・五
平均最低温度	一一・三	一一・五	一一・七	一一・七
平均	二二・七	二二・四	二二・七	二二・五

(註) ジャバはパタビヤ市、セレベスはメナド市、ボルネオはポンチアナの一年平均、東京、大阪は八月の平均を示せり。

一年について見ると大體六月から九月までの四ヶ月を乾

人種別人口

東印度の住民は大體マレー人なるも、東部にはポリネシア人を混へてゐて、總稱してインドネシア民族といつてゐる。東印度總人口六千七十三萬二千三百三十三人中五千九百三十三萬八千六百七十七人はこれらネシア人にしてこれを男女別に分ければ男二千九百六萬四千二百六十人で女二千九百九十三萬八千四百五十七人にして女数が八十七萬四千八百八十七人だけ多い。

戦争直前和蘭人が約二十一萬、獨逸人が七千人、日本人は約七千人、支那人は往時三百年も以前から移住せるためその人口は斷然他國人を壓倒して百十九萬、その他アラブ人が七萬一千人、インド人が三萬人となつてゐた。

住民種族

東印度人口の殆んどを占める現住民は總稱してインドネシア族と云つてゐるが、これを分けると實に數十種族からなつてゐる比較的宗教等により文化の優れたジャバ族、スンダ族、マツラ族から文化低きボルネオ島のダヤク一名ダヤ族、原住民族と云はれるニューギニアの未開の蕃族バプアまで幾十種とあり少くも各島に四、五族多きはセレベス島に十九種まであり、又種族と種族の混血族等ありて雑多な構成をなしてゐる。種族毎に言語も異にし、風習も亦異にしてゐる。

衛生

東印度は前記の如く熱帯なりと雖もその氣候は比較的良好にして保健上にも恵まれ、風土病にして悪疾なるものも極めて少ない。

唯ジャバを除けば、殆んど未開の處女地洋々として天然自然の原始林に蔽れて居り、住民たるネシアは文化の程度低く衛生思想又極めて低劣なる結果、地方に風土病としてマラリヤ、アンメーバ、その他南洋地方に存する風土病を發生する事がある。然るに住民は衛生思想に乏しく迷信を固持して傳染病の傳染性を信ぜず、病疾は神の所業なりと信じて治療を避くるの弊あるため原住民居住地方に散發するを時々見る。

當局にてはこれら衛生施設の完備に努め、一方原住民の衛生思想の向上を計りつつあり、次第に良好になりつつある。

言語は馬來語

東印度住民の殆んどを占めるインドネシア人はその種族も數十種よりなつて居り、従つて言葉もその地方や人種によつて差異があり、同島内でも二種三種以上の地方語がある。これをジャバで見るとマレー語、ジャバ語、スンダ語、マツラ語等ありて一様でない如くである。東印度一般に最も普遍化されて通用されてゐる言語はマレー語である。わが行政官の用語は勿論日本語であるが、ネシア人にして日本語を解する者未だ少きため、馬來語を加へて用ひてゐる。

宗教は回教

東印度の宗教は往時印度移民により印度教及佛教が渡來

各島の主要産業

農業

東印度の産業の大宗は農業である、東印度の經濟機構は農業を根幹として行はれ、政廳の經濟も都市の生活も貿易も總ては農業を背景として行はれてゐた。

東印度はその氣候、熱帯天恵の地にして、植物の生育に好適され、殊に濕潤な暖温に作用され、日々新たなる沃土を増し、その地味は豊饒なれば、植物の成長は極めて早く

して東印度に布教されたが、その後十三世紀に回教が來て勢ひを得、次第に印度教、佛教を壓倒して東印度に普及され、今日では殆んど回教を信奉してゐる。回教に次ぐものは十五世紀來西歐人の東漸に依つて布教された基督教がネシア人間にも相當信者をもつてゐる。キリスト教は勿論舊教が入り、次いで新教が入つてゐるが依然舊教が盛んである。ペリー、ロンボックの二島民は現在でも印度教信者である。又支那人は回教もあり、佛教もあり多神教徒等色々である。その他蕃人等は自然物崇拜にして宗教と云ふべき程のものなく東印度の宗教は回教(イスラム)が主となつてゐる。

その品質は天恵の氣候に恵まれて優良であり、戦前まで米國を始めシンガポール、日本、英國等に輸出してゐた。生産地はスマトラを筆頭に、ジャバ、ボルネオ等を主として居り邦人の進出も相當多く飛躍的發展を示してゐる。

「コーヒー」はブラジルには敵しないが亞細亞では第一の生産地にて、その品質も優れ、北米市場にて一級品として好評されてゐた。その産額はジャバにて三千九百七十萬キログラム、外領で五百九十萬キログラム。

「米」は東印度住民の主食物にて水田を主として栽培されてゐるが、陸稻も各島住民により栽培されてゐる。現在生産額はジャバ島を主とし、その他外領各島は未だ未開拓地多く生産量も多くない。未だ國內需要にも達してゐないので一部をタイ國、佛印等から輸入を仰いでゐる状態なれば、この方面への邦人の進出は大いに期待されてゐる。

「規那」マラリヤ熱の特効藥劑の原料にして東印度は世界産額の九十パーセントを産し、唯一の東印度の特産物である。

「タピオカ」キツサバとも云ふネシア人はこれを煮て食する、歐米や我國及び南洋群島では澱粉製造の原料として工業化されてゐるが東印度のネシア人により到る處に廣く栽培されてゐる。

「カカオ」チョコレートの原料で原産地は南米オリコ河の流域であり、また西アフリカ、ゴールド、コースス地方一帯も良好な産地になつてゐるが、アジアでは東印度が

米の如きも三回もとれ、ゴム、コーヒー、麻、規那、カボック等の熱帯農産物の栽培に好適され、その他大豆、煙草、甘藷等の生産も出來、一年中綠葉と花の絶ゆる事なき寶庫として農業は發展されつつある。

次に主なる農産物を擧ぐれば、

「護謨」東印度はマレーに次ぎ世界第二のゴムの生産地となつてをり、しかも世界總産額の約三分の一を占めてゐる。ゴムの輸出額は三億盾に及んでゐた。東印度のゴムは

第一の産地である。ジャバに栽培されるも他の島嶼は未だ少ない。

「古々椰子」食料品、石鹼原料等に使用される。ネシア人は各戸毎にもれなく栽培されてゐるからその生産額も極めて多く世界總産額の二十八パーセントに達してゐる。ネシア人は子を生めば若干株を植ゑてその子の一生の資産として與へるの習慣がある。

「カボック」いはゆるパンヤで綿の高級代用品に使用されてゐる。カボック樹の纖維からとれるもので世界生産量の七十八%を占め、ジャバ島東部地方が主要産地である。

「胡椒」歐米人にはなくてはならぬ調味料であつて、我國でも近來一般の家庭の必需品となつてゐる。東印度は世界生産量の約八〇%を産し、スマトラ、ボルネオ、ジャバで主として栽培されてゐる。

「砂糖」は現在ジャバより生産されて居て世界生産額の約二%に當つてゐるがその殆んどが輸出され輸出品の主なものとなつてゐる。

その他、煙草、茶、マニラ麻、棉花、玉蜀黍、大豆、落花生、甘藷、馬鈴薯等が栽培されてゐる。

東印度ジャバは最も早くより開拓されてゐて、その人口密度も我國の二倍以上にして、島の殆んどは開拓され盡されてゐるが、スマトラは未だ開拓はその半に過ぎず、奥地森林地帯は今後の開拓を持つてゐる。その他ボルネオ、セレベス、ニューギニア等の大版圖の殆んどは洋々たる未開

の婦女賣庫にしてこれら増大なる未開の沃土は總て今後の
雄飛と開拓を待つてゐる處の新天地である。
我が邦人の進出はゴム、椰子、コーヒー、規那、棉花等
の農園を經營する邦人會社農園が二十餘も進出してゐるが
これは各島別の説明の部に記載する事にした。

鑛業

東印度の産業で農業に次いで主要なるは鑛業である。地
下に埋藏されてゐる鑛業資源は無盡蔵といはれるまでに豊
富であるが未だ精密なる調査が行はれてゐないのでその埋
藏量を正確に知るを得ないが、現在判明してゐるもののみ
でも石油を第一に、石炭、錫、金、銀、鐵、銅、硫黃、マ
ンガン、タングステン、モリブデン、ニッケル、ダイヤモ
ンド、ボーキサイト、燐礦等であつて、石油はゴムと共に
今日世界重要資源として重視せられ列強の獲得争奪の對象
となつてゐる。東印度の石油埋藏量は約三〇億バレルと
稱されてゐる。採油資本は英米系ものが大半を占め和蘭
自身の資本は極めて微弱であつた。一九四〇年の東印度石
油の産額は百萬トンに及び世界第六位、東洋に於ける産油
額の八二%を抱握してゐた。主産地はスマトラ四百萬トン、
ボルネオ百七十萬トン、ジャバ百萬トン等である。
最近ニューギニアに尤大なる埋藏資源が発見されたと傳
へられてゐるが將來これらの開發により東印度石油の將來
は大いに重視されてゐる。

石油に次いで重要なるものは錫で、パンカ島、ピリトン、
シンケツプの三島が知られてゐる。年産四萬トン、またア
ルミニウムの原料ボーキサイトがピントン島から産出さ
れ、鐵鑛はボルネオの南東部スゾグドアセプリ島及セレ
ベスの中部地方に相當の埋藏量を有してゐる。
その他ニッケル、マンガン、タングステン、モリブデン
等も相當多量に埋藏されてゐるが、これらの多くは未開發
の資源として將來に大なる期待をかけられてゐる。
今主要鑛産物と世界生産量とを比較すると、次の通りで
ある。

鑛物名	世界生産量	東印度生産量
錫	二二一、〇〇〇	三九、七六〇
石油及び副産物	二七九、六六三、〇〇〇	七、二六二、〇〇八
鐵	一一、三〇〇、〇〇〇	二五、九九八
ボーキサイト	三、六七九、〇〇〇	一九八、九七〇
金 (單位担)	一、〇八〇、〇〇〇	一、七五三
石	炭一、三〇七、四〇〇、〇〇〇	一、三六三、五〇六
マンガン	五、九八七、〇〇〇	一一、〇八三
銀 (單位担)	八、三〇〇、〇〇〇	一五、五四六

わが邦人の鑛業への進出は占領前までは石原産業が資本
五十萬盾を以つてジャバ島スラカルタ州で鑛山を經營、三
井物産と日本石油と蘭人の共同出資になる二百萬盾の會社
がボルネオのサンクリラン灣附近で石油事業を行つてゐた
位のものであつた。

占領以來スマトラ島の北部油田、中部ジャンピ油田、南
部バレンパン油田。ボルネオ島のミリ(サラワク)、セリア
(プルネイ)、サンガサンガ、タラカン、パルクパパン油田
等、ジャバ島のストラバヤ、レンパン油田等悉く我が手に歸
し、破壊の個所は建設部隊の活躍により復舊され、軍管經
營下に採油増産に拍車がかけてゐる。その他の鑛業資
源も今や總ゆるるるから開發計畫が進められてゐる。

牧畜

東印度はその氣候常夏にして植物の成育盛んであり四季
綠葉絶ゆる事なき地なれば従つて牧畜にも適されてゐる。
東印度の畜産は牛、水牛、馬、豚、山羊、綿羊等にして、
大體國內の需要の自給自足の状態にある。

【牛】は多く運搬用に、水牛は米田耕作作用に使用するも
のなれば、その地方により米田多き地方は水牛を、畑地農
園多き地方は牛を多く飼育されてゐる。

【馬】は輕車用に主として使役されてゐる。豚は回教徒
はこれを不淨なりとして絶對飼養せず又食しない。インド
ネシア人の大半は回教徒者なれば、多く支那人が飼育す、
これを消費するも亦支那人と歐米人とである。

【山羊】は土人間の肉食用の主たるものであり、土人は
支那人の豚の如く飼育してゐる。綿羊も山羊と同様食用の
ため飼育してゐる。毛用は少く、又多くは在來種にして食
用を主とする關係上良くない。

而して東印度の畜産は領内の需要の範圍にして盛んなり
とは謂はれないが、副産物として皮革各種動物合計輸出高
は四六七、〇八九枚である。
次に各島別の畜産数を示せば

畜産頭數

島名	牛	水牛	馬	豚	山羊	綿羊
ジャバ	三、三三三、八九九	一、九〇八、九二二	三、三三三、三三三	一、〇六四、四二二	二、三三三、三三三	一、三三三、三三三
スマトラ	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
ボルネオ	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
メナド	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
セレベス	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
南	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
小スンダ	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
チモール	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三
ロンボク	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三

以上の如くである。ジャバが最も多數なるは人口多きに
よる。ボルネオの如きは極めて少なきも未開拓地にして人
口少數なるためである。尙右表中ニューギニアは調査が現
在行届かざるため調査資料なきにより記載してゐない。

林業

東印度總面積の約六割三分はいはゆる熱帯の多雨林に埋
められ、殊に開かれざる寶庫ボルネオ、ニューギニア等は
到る處鬱蒼たる天然林に蔽はれ、千古の美林は到る處に樹
海を呈してゐる。

ジャバは殆んど開發せられたる島にして栽培林のチーク林以外は、水源涵養のため保存せる原生林にしていふに足らないから東印度の森林としてはスマトラ、ボルネオ、セレス、ニューギニア等である。スマトラはジャバに次ぎ開拓され一方未開の原住民の亂伐と焼き拂ひ等により半ば失はれたりとは謂へ尙多大なる原始林を有してゐる。次に森林面積を各島別に比較すれば

ボルネオ	四一六、四二〇	平方キロ
ニューギニア	三七九、〇〇〇	〃
スマトラ	二九二、六九八	〃
メナド	六五、五〇〇	〃
セレス	四一、〇〇〇	〃

主なるものはダマル、コバル、サゴ、黒檀、白檀、藤、ラワン、野生ゴムでその他一般木材、薪、木炭、竹材等相當多數に及んでゐる。

チーク材はジャバにて盛んに栽培され、又セレスにも植栽されてゐる。古々椰子は栽培物で各島住民は總てこれ等若干本を植栽するを以つて幾千萬本を數ふるも木を目的とせざるものもあり、ゴムも亦栽培物にして、普通植付數年後にしてゴムの採取が始まり年々採取量は漸増し、樹齡約百年に達するものもある。

水産業

東印度は、各島とも四面海をもつて圍まれ、海中に棲息する魚類は無盡蔵の寶庫と稱されてゐるが、その漁業は未だネシア人の手に委ねられ漁撈の方法が極めて幼稚であり彼等は海岸より二、三哩の沖合より出漁しないため、その漁獲物も少い。

一方ネシア人の生活にとつては鹽魚は必須缺くべからざる食料品であり、現在その大部分はタイ國から輸入を仰いでゐる。奥地の小さい町でも鹽魚屋を發見するが土人の生活に鹽魚の必要であるを示した一事であらう。海岸地方以外の奥地は氣候熱帯なれば輸送及保存上生魚は殆んどなく總て鹽詰魚である處より奥地方は魚は鹽詰魚でなければ食せざるものと考へてゐる。

舊蘭印政府ではジャバのバイテンゾル近くに淡水魚研究所を、パタビヤに海洋試験場を設けて漁獲の技術や漁獲の改善等に努め、ネシア人漁業の發達に専念してゐたがその進歩遅々として進まざる事情にあつた。

近時我が邦人漁業はジャバの北部沿岸スマトラ東海岸のパガン、シシアビ、セレスのメナド附近一帯に進出を開始し、相當の成績をあげてゐる。主なるものとしてはセレス島メナドに邦人漁業會社が、鮪の漁獲に従事してをり、沖繩縣の金城組が、鮪、雜魚等の漁獲に當り、セレスの東南端にあるブートン島では三菱系のブートン眞珠

株式會社が眞珠の養殖に従事してゐる。その他セレス、モルッカ群島を中心とする方面にも沖繩方面の漁業家の進出が傳へられてゐる。

工業

東印度の工業は、東印度は幾多豊富なる資源を擁してゐるが、現在これら資源を第三國に輸出し、輸出した原料にて加工した工業製品を輸入して國內の需要にあててゐる状態にして、工業は第三國に依存し、東印度の工業は幼稚なるネシア人の家庭手工業乃至小工業の範圍に止まりその發展は最近まで殆んど見るべきものがなかつた。

近時に至り漸く工業の發展策が講ぜられ、領内の諸工業に對しこれを促進すると共に地方新工業の誘導に全力を注ぎ、その實行策として、中小工業への金融助成に乗り出し、或ひは補助關稅や輸入制限を行ひ新工業の建設の獎勵等により最近に至り漸次發展を見せるに至つた。

東印度の工業はジャバがその中心地で、工業企業の殆んどはジャバが占めて居り、外領には未だ記載すべきものがない。

工業として一般に知られてゐるものではパティ工業である。パティは南洋一帯の住民が腰に巻くサロンでありネシア人の家庭手工業として發達し年一億二千萬ヤールに及び東印度工業の最もなるものである。その他特筆すべきものなく自給の域に達してゐるのは極

めて尠ない。次に東印度工業の状態と需要の比較を示して説明にかゝる。

東印度の工業状態概括一覽

工業別	工場規模	製産高又はその對需要比率
パティ工業 (瓜哇更紗)	主としてネシア人の部落工業	年一億二千萬ヤールの對需要比率
織機工業	主として新設工場による	全需要の六〇%
セメント工業	二三の大工場がある	年約百萬噸、全輸入高の約十六%に當る
ビール製造	工場の設備相當あり	全需要の三分の二
塗料・ペイント工業	工場若干	全需要の七十五%
煙草工業	家庭及部落工業及び工場設備のもの多數	年二千八百萬ギルダ、全需要の七十六%
ベニヤ板工業	新設工場による	年一千萬枚位、全需要の三分の一
南京袋製造	中規模の工場設備	全需要の二十七%
製紙工業	二大工場あり	ネシア人用スリーブ皿六十萬打
陶磁器工業	主なる工場一	自給自足程度
耐火煉瓦工業	若干の工場その他	年二千噸自給自足
ゴム製品工業 (タイヤ・チューブ)	工場十五、六	自給自足
同(ゴム・スリッパ)	工場三	
眞鍮器具、工業 (スプーン・フォーク)	ネシア人の家内工業	
同鍍金工業	支那人小規模工場多數	
革製品工業	小規模乃至家内工業	全需要の七十%
靴製造	同右	同六十%
洗濯石鹼	同右	同七十二%

菓子製造 同右
 ビスケツト製造 工場一
 人造ベタ製造 同右
 乾電池工業 同右
 日傘製造 同右
 ネシア家庭工業

同六十%
 同四十%
 同四十%
 同四十%
 同三十八%

自轉車工業 新設工場 同三十五%
 ライター製造、ネシア人の部落及家庭工業同八十%
 脱脂綿製造 小規模工場 同三十%
 硝子工業 同右 同九%
 アルミニウム工業 半官半民大工場一

各主要島案内

ジャバ島

面積、人口、氣候

ジャバは行政的一體をなすマヅラを加へると總面積一三二、一七四平方杆で人口四千七百七十一萬八千三百六十六人、一平方杆の密度は三百十五人強で、その稠密さは我國の約二倍、世界でも一、二を争ふ状態である。人口の分布状態を見るに島の各地方に廣く居住し都會に集中してゐない。全人口の約九割五分は地方に散布してゐる、従つて大都會が少ない代りに小都會が無數に多い。全島に互つて道路水利灌溉の便が完備されて、各地方ともよく開發し盡されて居り全島が一つの村か農園の如く想はしむる。

東印度中ひとりジャバだけが今日の發展を遂げたのは、文明人の進出が早く、その天惠的地形と肥沃なる土地、適

順な氣候、勞力の豊富且つ低廉なること等で自然的、社會條件において遙かに他の地方を凌駕してゐるからである。

氣候は四季を通じて變化少く、海岸地方は平均攝氏二十六度乃至二十七度位である。雨量は概して多く西部地方に於ける一年の雨量は二千耗で、日中は相當の暑さを感じるも夜は頃に氣温低下し、涼しさを感ずる。衛生状態も熱帯地としては良好であり、醫療施設も割合によく整備されてゐる。

住民、風俗、言語

爪哇の住民は大部分ジャバ族とスンダ族よりなり、ジャバ族は二千七百八十萬、スンダ族は八百六十萬である、彼等は東印度中最も開化してゐるもので、都會にすむものは歐洲人や東洋人に比して大なる差はないが奥地に生活する住民は大部分は未開の域を脱してゐない。



子は腰にサロンを巻くが上衣は筒袖の洋装である。
 ネシア人貴族の住宅は木造、石造、或は煉瓦造りで爪哇

ジャバ人の一般の服装は男はイカカバラまたはソンコといふ獨特の帽子をかぶり、半ズボンの上に大幅更紗を着けて腰部を覆うてゐる。女子はジャバ特有のサロン及カバヤを纏ひ外出する時はスレングダンといふ肩掛けを用ゆる。

常食は吾々日本人同様米である。大抵羊肉や魚肉を混ぜたカレーライスに似たものを作り香料として蕃椒や胡椒を用ひる、彼等は概ね回教徒である處から絶対豚肉を食はない。

ネシア人でも上流の文化高き男は洋装をするものも少くない。女

一流の彫刻を施し仲々雅致に富んだ建物であるが中流以下は竹造りに草葺きの至つて粗末な住居に生活してゐる。

今日でも一夫多妻の習慣を存し、富者は二、三の妻を有し貴族は多數の妻妾を蓄ふを誇りとしてゐる。

この外に爪哇の原住民としてマヅラ族がある。主にマヅラ島及東部爪哇に居住してゐるが約四百五十萬で知識は概して低いが筋骨逞しく、舊蘭印政府ではアボン族と共に兵隊として使用してゐた。

言語は馬來語、スンダ語及マヅラ語が使用されるが全島に適用するものは馬來語で官憲用語及ネシア人の教育あるものは總て馬來語である。住民の大部分は回教を奉じてゐるが近來キリスト教も一部に行はれて來てゐる。

主要都市

バタビヤ 東印度の首府であると共に、西部爪哇の首府でもあり、東印度第一の都會である、一九三九年の人口調査ではタンジョン、プリオックと舊バタビヤ、ウエルトフレーデンの四都の合計が九十五萬七百三十八人、内歐洲人三萬四千二百二十二人、原住民八十萬六千三百三十人、支那人十一萬二千百十三人、その他東洋人六千五百七十三人でありミステル、コロネルスといふ接続市が六十七萬五千三百六十人で所謂吾々がバタビヤと考へてよい範圍で百六十二萬六千人に近い大都會である。樹の街、水の街、平面の街であつて植民地都市の臭ひがない。舊バタビヤ市街は商業の繁

盛地で銀行、會社等多く、歐洲人商賣の中心を爲して居る以外全體が住宅地であり、商業地となつてゐて、限界は判然としない。此地はまた有名な舊都であるだけ歴史的建築物や名所多くベナンゲード、ポルトガル教會等はその代表的なものである。

邦人商社として主要なるものを挙げれば、正金銀行、臺灣銀行、南洋倉庫、大信洋行、江商株式會社、大同貿易等の各支店及出張所があり、其他邦商にてネシア人を主としての小賣商は到る處に進出し大衆なる原住民を目標に活躍してゐる。

當市に邦人は約一千であり、軍政部、日本國民學校等がある。邦人の新聞としてジャバに唯一つの邦字新聞である爪哇日報社發行の「爪哇日報」がある。

スマラン 東印度第三の貿易港で、中部爪哇の首都である。人口二十萬。背後はストラバヤ、パタビヤに比する豊饒なる農産物の産地を控へてゐるが、港内遠淺であり、築港設備が完備されてゐない處からその發展を阻害されてゐるといはる。街の後方に有名なチャンデー丘あり、海拔五百尺、住宅街として豪奢を極めてゐる。

當市には在住邦人約三百名で、商業に活躍してゐる。バンドン 海拔二千二百呎の高原都市で人口約三十萬、パタビヤの東南になつてゐる。避暑地で、山紫水明、空氣清澄の別天地で、郊外は瀟灑な住宅街を爲してゐる。外國人にして本國に歸らず餘生をこの地に送るものが多い。此

章も産出す。これらにより繁盛を見せてゐる。邦人住者は五、六十名に過ぎない。

チヨクジヤ 別にジヨクジヤカルタとも云はれ、此處も生粹の爪哇人の町で、ソロに近く人口十五萬、當地土侯州の首府であり、中部爪哇の一大市場である。市街の整ひ、華美なる事遙かにソロを凌ぎ、周圍四哩に亘る城壁を繞らし、嚴然たる一城廓をなしてゐる。古蹟として水城と宮殿があり名高い。爪哇更紗、煙草、砂糖、木材の物産をもつて知られてゐる。この地に於ける邦商の勢力は、爪哇小賣邦商中の最もなるものであらう、歐人や支那人商を壓して邦商が商權を握つてゐる。

邦人の發展狀態

爪哇に於ける在住邦人は約四千人である。ジャバに於ける日本人は何んと言つても商業が主である、三井物産の支店を始め、大信洋行、江商株式會社、大同貿易、千代田百貨店等の大資本の貿易商があり、綿織物を主とした本邦商品の輸入や、棉花、コーヒーその他の熱帯産物の輸出に力を注いでゐる。

トコ、ヤパンとして住民から親しまれてゐる邦人雜貨店がジャバ各地方に擴がり、色々な不利な條件にも屈せず今日の強固たる基礎を築いてゐた。

邦人は會社員、店員、物品販賣業、理髮、浴場、貿易商、農園、園藝、畜産、美術家、寫眞師その他家事被傭人とい

處は又學府の中心地でもあり、工科大学以下の多數の學校が集つてゐる。舊總督府官業部も多くこの地にあり、中央官衙も此處に集中されてゐた。オランダ人は東洋第一の庭園都市だと稱してゐた。當市はまた流行の中心地でもあつて、土人風俗も華美であり、スング美人横の街として彼等の好みは爪哇全土に流行して行く處で、在住邦商は何れも堅固な地盤を持つて、最近、近代色ある専門店化して行く傾向を見せてゐる。

ストラバヤ は東印度第二の都會、東部爪哇の首都で、同市はジャバ第一の貿易港都として繁盛を極めてゐる。

人口は三十七萬人、市街はカリマス河の兩岸に跨り河口に近い西河岸には貿易會社、船會社、倉庫等軒を並べ、砂糖の輸出期には數百艘の船舶が輻輳して殷盛ぶりは他に見られない盛觀を呈してゐる。

當市邦人は約八百人で、軍政部、日本國民學校を初め三井物産、正金銀行、臺灣銀行等の支店がある。邦人は多く雜貨小賣商で又理髮店等もある。

ソロ スラカルタの別名で蘭人の爪哇領有以前に於ける爪哇の首府であつた地で、爪哇の殆んど中央に位し、人口十六萬五千、スラカルタ州の首都である。ここは純粹の爪哇ネシア人街で、土王スナンの宏壯な王殿があり、今でも王朝時代の面影を残してゐる。街は宮殿を中心として上下の二市よりなり、此地は爪哇更紗(サロン)の産地として著名である。附近土味肥沃にして多數の甘蔗園有り、煙

ふ順序である。

農業方面では大規模に經營してゐる邦人會社としては、ソロにて東印度殖産株式會社が護謨、シザル、カボツクの大農園を經營してゐた。またハリムンその他で南國産業株式會社が大資本にて護謨、珈琲、規那の農園の經營に活躍してゐる。その他の邦人系の農作に當つてゐるものとしてはランボル・セウオにランボル・セウオ農園、トロナゴン市外にニヤミル椰子園、ティンダリにティンダリ農園、アムバラワに南洋商會農園、ソロに根本農園、ソロカルタに山田農園等がそれぞれ大なり小なりに農作を行つてゐる。主な栽培物は甘蔗、護謨、規那、古々椰子、珈琲、野菜等である。

以上の様に農業にも進出してゐるが、爪哇は現在その殆んどは開拓され盡されてゐるから、邦人の發展の主力は商業に向けられて進出されてゐる。殊に近年貿易の進展はぐんぐんその地位を高めて來て居り、特に最近邦人卸商が小賣に乗り出す傾向が盛んになつて來た、大信洋行が千代田百貨店を經營し、ストラバヤ、バンドン、ジヨクジヤ、パタビヤ、マゲランに支店を設けて進出して東印度一流のデパートとして活躍してゐるのもその一例である。従來は主として外人を顧客として高級品を扱つてきた雜貨店が競うてネシア人本位の大衆品に轉向しつつある事は邦商の發展が一大偉力を示すに至つた處である。一部に爪哇の邦人雜貨商は既に飽和狀態に達したと云ふものもある、四千萬土民

を本位に進出するならば商業に關する限りまがく開拓の餘地ありといふべきである。

スマトラ島

面積、氣候、住民

スマトラはその面積四十七萬一千五百五十平方軒で我が國より朝鮮を除いた面積を有し、東印度でもボルネオ、ニューギニアに次ぐ大島である。(本島はマレーに統轄され統治されると傳へらる。)

本島は第二の爪哇として舊蘭印政府が全力を擧げてその開拓に當り、近來の發展は素晴しく、全島を縦横にアスファルト道路が出来、通行自在で何等の不安や危険を感ずることなく想像以上に開拓されてゐる。加ふるに肥沃なる地味と、昭南島や爪哇に近い地理的關係等から各種企業家、投資家の活動が盛んであり、新しい農園が續々開かれ爪哇や昭南島方面から労働者が多數入りこんで居り、隨つてその貿易額も近年頗る激増されてゐる。

氣候は大體において他の南洋と變りがないが、北部地方は八月中降雨量が最も多く、赤道直下にあつて一年中降雨を見ぬ事がない。

住民は主なものとしてはアチエー族八十三萬、バタック族百二十一萬、ミナンカバウ族二百萬、バスマ族百萬の四種族である。

則としてゐる。

バタック族は上中下三段の神の存在を信じ、かつ貴族、平民、奴隸の三階級に分れてゐる。家屋は木造で、床高く三味線の撥を倒した様な形の屋根を造つてゐる。一家屋に二家族乃至數家族が同居してゐる。母方の従姉妹と結婚する事を好み、一種の賣買結婚である。夫が死亡した場合寡婦は亡夫血族の所有となる。夫は妻に絶対權を有し、一夫一婦である。

ミナンカバウ族は割合文化的で平常衣服を纏ひ住居も木造または竹造りで屋根はトタン葺にする所など我が農村に見る感がある。結婚しても夫婦別居し時々夫が婦家を訪問するに過ぎない。この種族は男女關係が嚴重で婚期に達した女子は家内に閉居するを普通とする。

バスマ族は東南部パレンバン附近に住居し、容貌はやや文明人に似て美しい。結婚後夫は絶対に妻に服従する奇風がある。

主要都市

パレンバン 南部スマトラ第一の都會、我が皇軍落下傘部隊により占領された處で人口十二萬、ムシ河の河口八十哩を遡る地點にある。古くから開けた地でムシ河流域一帯への物資の輸入地であり、又其の地方物産の輸出港として商業が盛んである。昭南島やバタビヤ方面との間には定期船の來往があり石油、石炭を初めその他の各土人物産を輸



アチエー族は山地に居るものと平地に住むものとある、彼等はアチエー王國を作つてゐた時代があり、勢ひ盛んなりし頃はマレー半島の一部を屬國としたことさへあつた。非常に強い民族で、オランダの征服に抗し實に三十餘年の歳月と五億ギルダの戦費を費させ、一九〇四年にやうやく歸順した種族で、山地に住む者は殺伐蕃風である。平地に居る者は開化してゐるが排外の氣風を脱しきれない。今でも早婚の風を爲し男子十六歳、女子八歳乃至十歳で結婚し一夫一婦を原

出する。

ヂヤムビー パレンバンの北方の都會、人口一萬五千、石油の産地として名高く、又この附近はネシア人産として護謨で名高い。

バダン 人口五萬、スマトラ西海岸第一の都市、街區美麗、近代都市としての設備は完備されてゐる。一八三一年以來知事の駐在する古い町である。附近住民は頗る商才に長け、華僑に對抗して取引活潑を極めてゐる。邦商はこの地を中心に綿布、自轉車、雜貨等の販路開拓に當つてゐる。

ベンクーレン 印度洋に面する古い海港都市で英國が東印度諸島を領有した頃、ラツフルスが建設したものでその後ラツフルスも此の地に足を留めた地、人口約一萬五千で此の地方は、東印度中最も有名な金の産地として知られてゐる。

メダン デリー會社が開いた市街で人口約五萬の新興都市でスマトラ東海岸の首府である。都市として設備完備しスマトラ第一の商業地として内外人の刮目してゐる處、外港ブラワン港には鐵道の便があり陸上交通は四通發達し、物資の輸出入多く、今後の發展は大いに期待されてゐる。

邦人の發展狀態

ジャバに次いで邦人の多いのはスマトラで、約一千五百人で、その大部分は東海岸州に集つてゐる。北部メダンと南部のパレンバンの二ヶ所に各三百名が進出してゐる。主

なる邦人の職業は商店員を第一とし、銀行會社員、旅館、料理業、家事被傭人、農業移民の順である。
 スマトラの日本人の企業はゴム栽培である。次いで珈琲古々椰子等で、主なる邦人會社としてはゴムに熱帯産業株式會社、ボルネオ護謨株式會社、臺灣拓殖株式會社、南洋護謨株式會社、昭和護謨株式會社、スマトラ護謨拓殖株式會社が進出し護謨園の經營に活躍してゐる外、野村東印度殖産會社が珈琲及古々椰子の栽培に雄飛してゐる。
 商業は主としてメダンとバレンバンに進出してゐるが、その數も未だ尠く盛んなりとは云はれない。むしろこの方面の發展は今後にまつものが多い。スマトラには帝國軍政部がメダンに在り、日本人國民學校、三井物産スマトラ支店等が何れもメダンにある。

ボルネオ島 (舊蘭領)

面積、氣候、住民

ボルネオは世界第二の大島で我國の北海道の約十倍に相當する大島で、この中、七分の五に當る五十三萬九千四百六十平方軒が舊蘭領ボルネオである。人口は二百十六萬八千六百六十一人で一平方軒當りの人口密度は僅か四人に過ぎないから、如何に人口が少く、未開拓地が多いかが窺れる。



はバリト河の支流マルタプーラ河を挟んで建てられた市街で人口約七萬、この地方の物資の集散地で將來發展を目前されてゐる新興都市である。附近の住民は一體に勤勉で餘裕ある生活を營む者が多い。又この近郊にあるマルタプー

もやう
 やく開
 け椰子
 園やゴ
 ム園に
 苦力と
 して使
 役され
 てゐて
 性質も
 温順で
 勤勉で
 ある。

主要都市

バン
 ジエル
 マシン

舊蘭印政府ではこの地を東南州と西州の二州に分けて統治してゐたが、その開發はスマトラやセレベスより後れ、領内は鬱蒼たる森林と原野が多く、交通の便開けず、現在開拓されてゐるのは東南州ではバリト河及其支流地方とクテー河の河口地帯、西州ではカプアス河の流域と西北海岸地方である。島内の交通路は主として河川が利用されてゐる。

氣候は勿論熱帯で、陽光強く雨量が多い。海岸地方は一年の平均温度攝氏二十六、七度である。
 舊蘭領ボルネオには、パンジャレーヌ族八十九萬五千とダマク(別にダイヤ族ともいふが)これが六十五萬一千で前者は南部地方に住んでゐるがダイヤ族は山中に住む蕃族である。彼等は木造で椰子葉の屋根を用ひ床を高くし階段で出入する家で二、三十家族が集つて一軒に同居してゐる。これは敵に對して防禦するの風習からである、一般に米を常食とし、早婚である。女は故意に體を弱める奇習がありいはゆる柳腰風のもの美人とされ、齒を黒く染め、胴や腰に金屬や籐を何重にも巻き肥らぬ様にしてゐる。男女とも抜毛をする奇風を持つてゐる。男子は我が禪と同様のものを腰部に締めてゐて上半身は裸體で下半身はサロンを着けたのを近頃見受ける、又最近各家庭毎に家を持つ者もある。寶石を愛し、玉の鑑別には特別の物斷力を有してゐる。奥地山岳の蕃族は近年まで鬻首の善風があつたが、現在に殆んどなくなつてゐる。平地に住んでゐるものは文化

ラはダイヤモンドの産地として知られてゐる。
 ボンタイアナは赤道直下の街として著名である。人口約三萬、カプアス河支流小カプアス河に對するボンタイアナは、バリトに對するベンジェルマシンの位置と同様のその流域一帯の物資の集散地となつてゐる。當地から以北ザンバス河に至るまでの海岸地方は古くから昭南島との交通盛んであり、従つて舊蘭領ボルネオ中最も早く開けた地方である。またこの地方は支那人の在住者多く、俗にこの地方は支那郡の稱がある。

邦人の發展狀態

舊蘭領ボルネオに於ける在住邦人は全部で約七百人であつて、その職業は農耕、園藝、畜産、林業、洗濯業、飲食料品、雜貨、土木建築、大工、ペンキ職、左官、石工、會社關係者、事務員、商店員、料理業、理髮、浴場、交通業、醫師、家事被傭人等である。

この地の邦人の企業は主として護謨栽培及古々椰子栽培であり、又珈琲、胡椒、油椰子、米、茶の栽培を營んでゐるものもある。
 邦人企業會社として主なものには野村東印度殖産株式會社東拓の別動隊である東印度拓殖會社が各護謨栽培に活躍してゐる。

鑛業ではボルネオは石油の寶庫でミリ(サラワク)、セリア(ブルネイ)、サンガサガ、タラカン、パルクババン等

の大油田がある。占領以來わが建設部隊の手により復舊され現在〇〇萬トンが製産され我國にドシ／＼輸送されてゐる。尙サンクリラン地方では邦人により林業が行はれてゐる事もつけ加へて置く。
ボルネオは未だ開かれざる處女寶庫にして擴大なる豊饒の沃土は總て今後の拓人の雄飛と開發を待つてゐる新天地である。

セレベス島

面積、氣候、住民

セレベスはボルネオの東部に位する島で、その面積は十八萬八千九百四十平方軒で、我が國の北海道の二倍強、本州より稍小で、ジャバ島より少し大きい。人口は約三百六十萬で人口密度は一平方軒二十二人である。島内には山多、兩端のマカツサ及メナド附近は自動車道路が開けてゐるが南北に通ずる貫通路なく、主なる交通は海上を汽船による外なく、而もその定期船が比較的少く旅行は概して不便である。島内で最もよく開發されてゐるのは北部半島のミナハサ地方と南部マカツサを中心とした地方である。東部地方のゴロンダロ、西海岸のドンカラ地方も徐々に開發は進められつつある。
氣候は他の東印度地方と大差ないが山脈が縦横に走つて

ゐるからその影響を受ける事が多い。平地氣温はやはり平均攝氏二十六、七度である。
住民は大部分は原住民で、その種族は約十九種に及んでゐる。主なる種族としては、トラジャ族五十六萬が中央高原に、マカツサル族はマカツサ地方に六十五萬、ブギス族は海岸地方に百五十萬、ミナハサ族は北部高原に三十六萬がある。
トラジャ族は迷信深く、鶏に關して面白い事は、鶏を携へて航海に出ると風波がおさまると考へ、田植には鶏の血をふりまく式を行ふ。人が死ぬれば布を十重二十重に巻き牛車に乗せて墓に運ぶ、墓は斷崖に横穴を開けたもので集團埋葬である。知識程度は極めて低い。
マカツサル族とブギス族は元來同一人種であるが、言語を異にし、互にお里自慢をしてゐる。彼等は節義を重んじ尙武の氣象に富み、慍悍にて海上生活に慣れ、小舟を操つて他國に渡り交易を行ふ。一般に復讐の念が強く、人に罵られたり侮りを受けると飽くまで忘れないで報復する、酋長に對しては頗る從順である。平常殆んど半裸體で夫婦は別々に財産を所有し、婦人の權力が強く、酋長の中には往々婦人を見ることがある。
ミナハサ族は最も開けた族で昔は盛んに人の首を切つたといはれるがキリスト新教に歸依し、貯蓄心に富み、勤勉で信仰の念が深い。ミナハサ族の顔形は我が日本人に酷似してゐて文化も進んでゐるので祖先は日本人と同じである

と考へてゐる、農業を營み餘裕ある生活をしてゐる。旅行者により傳へられ一般に知られてゐるミナハサ美人はこのミナハサ族の女である。

主要都市

マカツサ は一八四八年以來の開港場で本島南部に於ける物資の集散地である。一方東はモロッケン、ニューギニア、南はフロレス諸島、北西岸の濠洲、西は東部ボルネオの物資の吞吐口をなし、貿易が頗る盛んで市中は股賑を極めてゐる。人口約九萬で眞珠、高瀨貝、コブラ香料等の島嶼物産の輸出が目立つてゐる。陸上は當市を



中心として自動車道路四通八達し交通の便がよい。東方ブートンでは我が三菱系のブートン眞珠株式会社により眞珠の養殖が行はれてゐる。
メナド はミナハサ地方に於ける中心都市で人口約三萬二千、農業及林業を以つて開ゆるミナハサ州の主港として發展せる都市で風光明媚、土地肥沃、到る處に椰子樹栽培され、人家、道路共整然としてゐる、住民又開化されて生活程度も高く、陸上交通は申分なく發達し、加ふるにその秀麗な風光と清涼な氣候は南洋中の別天地をなしてゐる。氣温は日中でも華氏で八十度乃至九十度、朝夕は七十四、五度である。尙邦字紙「セレベス新聞」がある。
トンダノ メナドからトンダノ高原まで羊腸たる山路三十餘哩、鋪裝道路にて通じてゐる。山頂の一大平原がトンダノ平原である。トンダノ湖あり、周圍二十二哩、海拔六百米の地にあり、湖邊の平地は上等米が出来る。トンダノ町は人口一萬八千、湖邊の全住民を併すれば約十萬に達するであらう。平均温度は高原だけに華氏六十度内外、南洋の別天地にして風光また優れてゐる。

邦人の發達狀態

セレベス在住の邦人は約七百人である。セレベスの北部メナド地方は日本人の有力な發展地の一つであつて、邦人は主として貿易、雜貨を初め護謨、椰子、珈琲等の栽培に従事する一方漁業に於ても相當の成績をあげてゐる。

主なる進出會社では南洋興發株式會社が同島の開發事業に乗り出し、マンキットで一千餘町歩に椰子樹の栽培に當り樹數十萬本、コブラの年産約四萬擔である。東印度のコブラ年産約四百五十萬噸の中三十萬噸はセレベス地方の生産にして、同社は各地に二十數ヶ所の買付所を設け、コブラの貿易に當つてゐる。尙南洋興發株式會社はセレベスのアムランに約八百町歩の椰子園を經營してゐる外コブラ貿易にも盛んに活躍してゐる。

ペーランモン、ゴドウ方面では珈琲が邦人の手により行はれてゐる。かつて獨艦エムデンの蔭れ場となつてゐたピートン附近は、今日では日本人の漁業根據地の觀があり、沖繩縣人を主軸とした漁夫が進出してゐて漁業に當つてゐるが地元メナド中心では一日販賣高四千尾内外であるから鯨節、鱈詰、燻製、乾魚として加工し他に販路を擴げねばならぬ。

南部のマカッサルは商業都市であるから、此處の邦人は大部分が商業方面に進出してゐる、南端のプートンに於ける邦人の漁業もプートンと共に邦人が進出し、鯨漁業と共に眞珠の養殖が行はれてゐる。

セレベスの東方バンガイ島には良質の雲母が多量に存在するが、これも最近邦人の手により企業化されつつある。セレベスにはメナドに我が軍政部があり、在住邦人も相當居住し日本人國民學校も設けられてゐる。

ニューギニア島

ニューギニアの總面積は約八十萬平方浬であつて恰もわが内地面積の二倍強に當る世界第三の大島である。全島の人口は舊蘭領三十萬、舊英領五十萬、合して約八十萬人といはれてゐるから一平方浬當り一人の割合の密度であるから如何にニューギニアが未開な「謎の島」の名に相應しいかがうかがはれよう。

ニューギニア島は行政上からいふと東經百四十一度を境界線として、その西部が舊蘭領、東部の北半が濠洲委任統治領、同じくその南半が英領に屬してゐた。

島は東西に走る峻々たる諸山脈を背骨として、大分水嶺から發する大河は多く南北に流れてゐる。河の流域は何れも廣大な大平原を形成して處々に大低濕地があり、その上水路の安定もないので經濟的な價值に乏しい、その代り海岸線は比較的、屈曲に富んでゐて良港も多く、本島開發の基をなしてゐる。例へばゲールフィンク灣には舊蘭領隨一の良港マノクワリを初めモミ、ナビレがあり、マツクリア灣にはフアクフアク、バボ、その他西海岸にはソロン、メラウケ、舊英領のパプア灣にはニューギニア第一の都市ポートモレスビー等がある。



氣候は赤道直下にあり、四季を通じて大體酷暑であるが、地形は細長く、海岸線の影響を受けて、特に

舊蘭領ゲールフィンク灣一帶の農耕地方面は氣候良好で、我が南洋群島のパラオ邊より凌ぎよい位で、起伏緩やかな廣漠たる高原地帯の如きは恰も我が内地の初秋を想はせるものがあるといはれてゐる。

ニューギニアは今なほ千古斧を入れざる未開の處女地が多く、その主要産業は農業、林業、鑛業、水産業などであるが、その他の産業も開發の如何によつては實に洋々たる將來性を持つてゐるが、今までの統治國たる英蘭の經濟的進出殆んどなく、原住民は拱手座食に甘んじ、あたら天然の大寶庫も動植物の世界となつてゐる。

産業としては農業では棉花、ココ椰子、サゴ椰子、コブラ、陸稻、ゴム、麻、煙草などの栽培に適して居り我が南洋興發會社がモミ、サルミ地方に約六千町歩の農園を經營して成績をあげてゐる。

林業は全島巨木の密林に蔽はれてゐて、有用材に富み殊に黒檀、白檀等が無盡蔵であるといはれ、またワニスの原料となるダマール樹脂の産額も多く本島の輸出品の首位を占めてゐる。

水産業は沿岸及南方のアル諸島を中心とする高瀬貝、夜光貝、眞珠貝等の採取が主で、ここでも早くより邦人が進出活躍してゐる。

鑛業は將來重要産業の一つとなるものであるが、まだ詳細なる調査はないが、金の埋藏量豊富といはれ、舊英領のルイジアード、ムルアの兩金山を初め數ヶ所の金山を採掘

してゐる。尚本島の石油資源は尅大なるものと傳へられてゐる。

住民は殆んど原住民でバプア族である。この種族は頭髮がバプアしてゐるところからその族稱が出来たといはれてゐる。比較的古くから白人に知られたので、ニューギニア島はバプア島とも呼ばれてゐる。原住民族で極めて智能程度の低い種族で大體、殆んど裸體で女子も粗悪な織物を腰に纏ふてゐるに過ぎない。森林を切り開いて部落を作り陸上の居住者は樹上に小屋を作つて棲息し、海岸や河岸に住む者の中には河中に杭を打ち込み、バラツクの家を作つて群棲するものもある。椰子、ヤム薯、タロ芋等を作つて原始生活を営んでゐる。この外カヤカヤ族といふのは西岸と南岸のフライ川、デゴール川附近等に住んでゐるもので男は體格六呎を越すものあり、女は肥満したものが多し。天然の果物、禽鳥、魚貝等を食用として生活する。男の中で勢力あるものは鳥の翼を頭に飾り、鼻には動物の骨や牙を刺し貫き、胸には袋鼠の牙等を月形につないで下げてゐる。狩獵は弓矢をもつて巧みに行ふ、性質は残忍で首狩りの風を存してゐたが近來はその番風止み、殊に邦人に對して危害を加へることは殆んど絶無であるといつてよい。

主要都市

マノクワリ 舊蘭領ニューギニアの主都で西部第一の都會、人口は約一千五百人の小都であるが政治、經濟の中心

地にして、官廳、税關、郵便局、無線電信所、病院、學校等完備し、市街道路整然としてゐる。

東印度諸島と當地との交易船舶の出入あり海上交通の要港であり貿易港として知られてゐる。わが南洋興發會社の事務所もこの地に置かれてゐる。

我國との交通は、南洋興發會社所有のヌシ丸が内南洋パオとを片道三晝夜で不定期に往復し内地と當地の連絡をしてゐる。

ポートモレスビー バプア灣に面した舊英領ニューギニアの首都で、人口は約一千人、一九三九年この地が軍港となつてから港灣施設は完備され、五千噸級の船舶が自由に棧橋に横付となる設備を有してゐる。

軍事要衝であり又貿易港でもある。市街は行政廳、税關、郵便局、警察署等の諸官廳があり、舊英領ニューギニアの政治の中心地である。道路も整然として水道設備あり、自動車の主たる交通機關として發展してゐる。

邦人の發展狀態

ニューギニアに於ける在住邦人は附近の小島も合して約二百五十名である。邦人事業としては現在南洋興發會社がマノクワリに事務所を置き、ナビレに三萬一千町歩にダマール樹脂を栽培し、約三百名ものバプア族を使役して生産に當つてゐる。又ゲイルフィンク灣西岸のモミ平原に五千五百町歩からの地權を獲得して棉花の栽培に當り、棉花の生

産を行つてゐる。現在モミにはバプア人一千二百人から常備して開墾と栽培に當つてゐる。モミ農場の一部に玉蜀黍、タピオカ、青豆、カボツク、カカオ、胡麻等の栽培も行つてゐる。又近時濠洲より綿羊を輸入して試育を行つてゐるが、成功の曉にはニューギニア産業の將來を倍加せしむるであらう。

舊濠洲委任統治領であつたビスマルク群島ラバウル島には邦人の獨立農園經營者に長濱太市氏と遠藤繁太郎氏がある。長濱氏は農園と造船所を經營して居り、遠藤氏は小規模の古々椰子園を經營してゐる。

長濱氏は熊本縣の人、明治二十年生れ、明治四十五年渡航、ラバウルに於る邦人の草分けである。小嶺磯吉翁の招

邦人團體名簿

■スマトラ島

- サバン日本人會 (會長) 北村甚一郎
- アチエ・サバン・バサー・ウエグ四五號 池田 孫一
- アチエ日本人會 アチエ・コタ・ラジャ 池田 定市
- アサハン日本人會 タンジョン・バリ 澤村 隆
- スマトラ日本人會
- メダン市コロエセン街一四號

- スマトラ日本人實業組合 澤村 隆
- メダン市コロエセン街一四號 山下源太郎
- テピンテンギ日本人會 テピンテンギ 近藤 鶴吉
- バダン日本人會 バダン市 鶴岡 一雄
- ベンクラーレン州日本人會 ベンクラーレン 瀧本 勇
- 中部スマトラ日本人會 パカン・バルー 佐久間惣次郎
- ヂャンビー日本人會 ジャンビー 佐久間 昇
- シヤンタル日本人會 ベマタン・シヤンタル 佐久間 昇

スマトラ日本人栽培協會

メダン市ニルミゲボー一一號

早川 建三

ジャバ島

パタビア日本人會

セクタム・チアウランウイ二九號

パタビア日本人商業協會

森 亮太郎

(横濱正金支店內)

スカブミ日本人會

バイテンゾルグ州チバダ木野商店内

田邊熊太郎

バンドン日本人會

ブレアンカン州バンドン

ガロー日本人會

コツプウエ二九號

渡邊 辰次

東印度日本人商業組合

バンドン・コツプウエ二九號

河田宇一郎

チエリボン日本人會

チエリボン州チエリボン

安倍喜一郎

チエリボン日本人商業協會

チエリボン州チエリボン

高橋 徳方

東洋棉花會社内

森田 信一

パニユーマス州日本人會

パニユーマス州ブルワケート

パニユーマス州日本人會

シドアルジョ日本人會

中井清次郎

パサーマニス常盤洋行内

テガル日本人會

ベカロンガン州テガル

ベカロンガン日本人會

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

中央爪哇日本人貿易組合

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

スマラン州スマラン

松浦 定治

草刈幸次郎

國井常三郎

中村松太郎

伊藤 健

草鹿 商店

八木 甚五

須藤 金繁

井上 友一

山口菊五郎

浅尾 兵助

矢部 英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

英夫

モジョイバイト日本人會

スラバヤ州モジョイケート

宮坂 叔道

東印度日本人商業協會聯合會

スラバヤ州スラバヤ・チネスチ・ボー街

今川 義利

スラバヤ日本人商業協會

スラバヤ州スラバヤ・チネスチ・ボー街

掛川 眞吉

マラン日本人會

マラン州マラン

中川安次郎

ルマジヤン日本人會

マラン州ルマジヤン

林 虎吉

マラン協和會

マラン州マラン

中川安次郎

プロボリンゴ日本人會

マラン州プロボリンゴ高橋 哲二

哲二

パニユワンギ日本人會

マラン州パニユワンギ

小野 茂八

ケドウ州マゼラン(石井商店内)

ソロー日本人會

高橋 正太

ボルネオ島

タラカン日本人會

タラカン

北村 新吉

サンガサンガダラム日本人會

サンガサンガダラム

根本俠一郎

サマリンド日本人會

サマリンド

(會長半年交代制)

サンボジャヤ日本人會

パリクバパン・サンボジャヤ

友枝 康

パリクバパン日本人會

コタバル日本人會

雪本範四郎

パンジェルマシシ日本人會

パンジェルマシシ(野村東印度殖産會社内)森田 歳一

西ボルネオ日本人會

ボンテアナ

本多 道弘

西ボルネオ日本人會

ラング支部

本多 道弘

ボンテアナ・ラング

本多 道弘

メナド日本人會

メナド

本多 道弘

メナド日本人商業協會

メナド

本多 道弘

セレベス産業協會

マカツサ日本人會

本多 道弘

マカツサ・パツサー街一二八

本多 道弘

ロンボ日本人會

ロンボ島アンバナ

本多 道弘

テルナテ日本人會

ジロロ島テルナテ

本多 道弘

アンボイナ日本人會

セラム島アンボイナ

本多 道弘

東印度産業組合

アル群島下ボ(眞珠採取業者)

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

ガロー日本人會

バンドン・コツプウエ二九號

河田宇一郎

チエリボン日本人會

チエリボン州チエリボン

安倍喜一郎

チエリボン日本人商業協會

チエリボン州チエリボン

高橋 徳方

パニユーマス州日本人會

パニユーマス州ブルワケート

森田 信一

パニユーマス州日本人會

パニユーマス州ブルワケート

森田 信一

サンボジャヤ日本人會

パリクバパン・サンボジャヤ

友枝 康

パリクバパン日本人會

コタバル日本人會

雪本範四郎

パンジェルマシシ日本人會

パンジェルマシシ(野村東印度殖産會社内)森田 歳一

西ボルネオ日本人會

ボンテアナ

本多 道弘

西ボルネオ日本人會

ラング支部

本多 道弘

ボンテアナ・ラング

本多 道弘

メナド日本人會

メナド

本多 道弘

メナド日本人商業協會

メナド

本多 道弘

セレベス産業協會

マカツサ日本人會

本多 道弘

マカツサ・パツサー街一二八

本多 道弘

ロンボ日本人會

ロンボ島アンバナ

本多 道弘

テルナテ日本人會

ジロロ島テルナテ

本多 道弘

アンボイナ日本人會

セラム島アンボイナ

本多 道弘

東印度産業組合

アル群島下ボ(眞珠採取業者)

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

アル群島下ボ

本多 道弘

進出する事業會社

邦人會社にして東印度に進出し農園を經營、護謨、珈琲、椰子、規那或はカボック、棉花等の栽培に活躍する主なる事業會社も十數社あり、又貿易業及鑛業その他に進出してゐる會社も數社ある。次に我國にその本社及事務所の所在するものを記載する事にした。尙多くは本案内の文中に記載あるものである。

◆野村東印度殖産株式会社

事務所 大阪市東區備後町二ノ二
支社 野村合名海外事業部内
東京日本橋通一ノ一野村ビル
同社はその資本金五百萬ギルダ、ボルネオのパンジエルマシに本社を置き、ボルネオにて大護謨園を經營する一方、スマトラにも進出し、珈琲園及び椰子農園を大規模に經營東印度に於ける邦系事業會社として重きを成してゐる。
尙ボルネオのパンジエルマシとスマトラのバレンパンに精製工場を有し

て發展中。

◆昭和護謨株式会社

本社 東京市京橋區京橋二(明葉ビル)
資本金一千萬圓、同社はジャバ、スマトラを主たる舞臺として、ゴム、シザル、カボックの栽培に活躍し大農場經營に當つてゐる。所有地二萬八千英反、植付面積約一萬八千英反。

◆熱帯産業株式会社

本社 東京市日本橋區室町二ノ一
(三井三號館)
同社は資本金六百五十萬圓、スマトラに護謨農園一萬一千六百四十五英反を經營飛躍しつつある。

◆スマトラ拓殖株式会社

本社 東京市麹町區丸ノ内(丸ビル内)
資本金八百萬圓、スマトラを舞臺に同島各地に於てゴム農園經營に雄飛し盛んに活躍してゐる。農場五千英反餘所有地一萬四千餘英反。

◆南國産業株式会社

本社 東京市麹町區丸ノ内三ノ四
資本金三百五十萬圓、ジャバを舞臺として護謨、コーヒー、規那、茶の各農園を經營す。ウノサリ農園で茶、規那、テンボアセオ農園で護謨、珈琲、テンダリー農園で茶、護謨の栽培をしてゐる。

◆ボルネオ護謨株式会社

本社 東京市麹町區丸ノ内三ノ六
資本金五百萬圓、スマトラ島アチエ州セマントウ及バヤタンバに於て大護謨園を經營發展中である。所有面積約一萬英反。

◆南洋護謨株式会社

本社 東京市麹町區丸ノ内二ノ八
資本金五百萬圓、同社は明治四十四年創立で邦人事業の南進先驅會社の一つ、南洋馬來半島方面に進出してゐる一方、スマトラにて護謨の大農園を經營飛躍してゐる。

◆南洋興發合名會社

東京事務所 東京市麹町區内山下町(東洋ビル内)
資本金八十萬ギルダ、同社は南洋興發株式會社(資本金一億圓)がニューギニア島マクノワリに設立した姉妹會社で、ナビレに三萬一千町歩のダマル樹脂林の植栽に當る一方、モミ平原に五千五百町歩からの地権を獲得、棉花その他の栽培に活躍發展してゐる。

◆南太平洋貿易株式會社

東京事務所 東京市麹町區内幸町(東拓ビル内)
資本金一千萬圓、本社南洋サイパンで、元セレベス興業會社と南興との共同出資で昭和十二年設立したもの、セレベスに於て一千餘町歩の椰子園を經營すると共に同島を舞臺にコブラ貿易に雄飛してゐる。今度南洋興發に合併が決定同社事業は南興に移つた。

◆南洋貿易株式會社

東京事務所 東京市日本橋區中洲町
資本金一千萬圓、本社パラオ島、内南洋に活躍する一方東印度に進出を開

始し、セレベス、アムラン等で椰子園を經營活躍する一方コブラ貿易に進出してゐる。同社も南興に合併が決定。

◆臺灣拓殖株式會社

本社 臺北市榮町三ノ一
資本金三千萬圓、臺灣の産業開發に活躍する會社である事は御承知の通りであるが、同社はスマトラ、ポロバタンに於て護謨農園を經營、發展してゐる。

◆三井物産株式會社

本社 東京市日本橋區室町二ノ一
資本金一億五千萬圓、我國では三菱と共に覇を唱へてゐる代表的の貿易會社で、東印度ではジャバ、ストラバヤに支店を置き、綿布、雜貨その他の物資の輸出入に活躍してゐる。尙同社が主たる出資の許にボルネオにボルネオ石油會社を設立し、石油事業に進出してゐるが未だ實績をあげるまでに至つてゐない。

◆三菱商事株式會社

本社 東京市麹町區丸ノ内二ノ一〇
三井と並んで我國の代表的貿易會社

で、やはりストラバヤに支店を有し、南方物資の輸出入貿易に雄飛してゐる。尙同社ではセレベス東南端ブイトン島にブイトン眞珠株式會社を設立して眞珠の養殖事業に當つてゐる。

◆石原産業海運株式會社

本社 神戸市神戸區海岸通二ノ三〇
資本金三千二百萬圓、同社は大南洋を舞臺に鐵嶺石の輸入販賣に活躍す、海運、鑛業と多角的に進出を示してゐる一方ジャバではストラカル州に銅山を經營し發展中である。

◆江商株式會社

本社 大阪市北區中之島二ノ二五
資本金千八百萬圓、ジャバのスマラン、ストラバヤ、バタバヤ等に支店を置き、邦品綿絲布、人絹等を主とした貿易に活躍、發展中。

◆竹腰商事株式會社

東京事務所 東京市日本橋區江戶橋三ノ一
資本金十萬ギルダ、本社をジャバに置きカボックの製造業、南方物産の輸出業並に邦品の輸入貿易に堅實な發

展を遂げてゐる。

◇大同貿易株式會社

本社 神戸市神戸區浪花町五七
資本金二百萬圓、關西財閥伊藤忠系の貿易會社で、フィリッピン及東印度諸島等を中心に貿易に活躍し、我が貿易界でも著名のものである。

◇日蘭商事株式會社

本社 東京市麹町區丸の内三ノ八
同社は鑛業ボーキサイトの輸入に活躍する一方、南方物産の輸入及邦品雜貨等の輸出に發展してゐる。

尙昭南島及各所に支店がある。

◇南洋倉庫株式會社

本社 東京市京橋區銀座西六ノ二東海ビル

東印度では、パタピヤ、スマラン、ストラバヤ、チェリボン、マカツサ、プロポリンゴ等の各主要港に營業所を置き倉庫業に活躍する一方各海上保險の代理業に當つてゐる有力會社である。

◇南洋商事株式會社

東京市麹町區丸の内二ノ二

資本金五〇萬圓、支社ジャバ島ストラ

バヤ市バラード、ストラート一七に置く。南洋物産、屑鐵、機械類、綿糸布、化學製品、雜貨の輸出入業に活躍す。

◇有馬洋行

本社 東京市麹町區丸の内三ノ八三六六號館内

資本金四百萬圓、支店は大阪市東區伏見町五ノ二七〇、出張所をジャバ島ストラバヤに置き、貿易業に發展する一方、仲立、保險の代理業にも進出してゐる。

◇安宅商會

本社 大阪市東區今橋五ノ一四

資本金七百萬圓、同社は比律賓、ミンドロ島及ミンダナオ島及東印度ボルネオ島バリラクパンに出張所を置きここを事業地として南洋木材の採材とその輸出入業に活躍してゐる。

◇東印度拓殖株式會社

本社 ボルネオ島ベンジェルマシ

資本金三百萬圓、ボルネオに二千三百ヘクタールの面積を有し、護謨園の經營に當る一方、椰子の栽培にも發展してゐる。内地支店は東京市麹町區内

幸町一ノ二東洋拓殖會社内に置く。

◇合資ボルネオ物産商會

本社 神戸市神戸區海岸通十

同社は播磨造船所(資本金一千萬圓)の別動隊としてボルネオ島サマリンド及比島バシラン島、ミンダナオ島に於て木材伐採を行ひ、サンボアンガより南洋材を輸入してゐる。

◇ボルネオ石油株式會社

本社 ストラバヤ事業地ボルネオ島サンクリラン

資本金二百萬圓、社長小田政次氏、同社は舊蘭領ボルネオ、サンクリランに於て油井鑛脈の探索及採油等に發展してゐる。

◇千代田百貨店

内地出張所 東京市京橋區本町六ノ三

資本金三十萬圓、社長岡野繁藏氏、同社は東印度ジャバに於ける第一の百貨店にして、本店はストラバヤ、支店をバンドン市、パタピヤ市、ジョクジャヤ市、マダラン市に置きジャバ商業界に雄飛してゐる。

◇東山栽培株式會社

本社 スマトラ・東海岸ラフアンビル

資本金四百萬圓、同社はスマトラ東海岸州に於て油椰子農園を經營してゐる一方、バームオイルの製造に發展してゐる。内地支店は東京丸の内二ノ一四東山農事株式會社内に置いてゐる。

◇大倉スマトラ農場

本社 東京市京橋區銀座二ノ二大倉組本館

資本金四百萬圓、社長大倉喜七郎氏同社はスマトラ東海岸パカン・パルに護謨農場六八英反、油椰子二、九一二英反を栽培して活躍、邦人既設農園の主たるものである。

◇横濱正金銀行

本店 横濱市中區南仲通り五丁目

資本金一億圓、我國の對外銀行としてその雄を誇るもので海外各主要地に支店を置き活躍す。東印度ではパタピヤ、ストラバヤ、スマラン、バンドンに支店を有し發展してゐる。

千 田 商 會

本社 東京市麹町區丸の内一ノ二九ビル

資本金銀一百萬圓、支店をジャバ島ストラバヤ市とビルマのラングーンに置き、一般輸出入貿易、石炭、船舶代理業等に發展してゐる。主なる事業地をマレーに置き護謨栽培に當つて居る。

◇東洋棉花株式會社

本社 大阪市東區高麗橋三ノ一

資本金二千五百萬圓、内地大陸の他南洋では比島マニラ、ジャバのスマラン、チェリボン、印度カラチ等に出張所を置き、棉花、綿糸布、人絹布の輸出入貿易、棉花の輸出事業に發展してゐる。

◇日本棉花株式會社

本社 大阪市北區中之島二ノ一〇

資本金一千二百七十五萬圓、南洋ではジャワのストラバヤ、印度のカラチ、カルカッタ、モンバサ、濠洲のシドニイ等に支店を置き、棉花、綿布、生糸、人絹織物、羊毛の輸出入及棉花壓搾線

綿、製油、精米事業等に發展してゐる。

◇古河合名會社

本社 東京市麹町區丸の内二ノ八

資本金三千萬圓、同社は我國鑛業製錬事業會社として著名であるが、スマトラのポロ・パダンに於て同社殖産部が護謨栽培に進出し相當の成績をあげ發展してゐる。

◇大信洋行

神戸市神戸區浪花町六四

ジャバのストラバヤに本據を置き、綿糸布、雜貨食料品等日用雜貨貿易に進出し、一流會社に互して、ジャバ各地方都市にもよく商網を張り活躍中。

◇華南銀行

臺北市表町二ノ二

資本金二百五十萬圓、支店をジャバスマラン。マレー昭南島及南支廣東に置き、南洋地方に於ける邦人、華僑及原住民等の中商工業者に對する金融事業に發展してゐる。

舊英領ボルネオ篇

舊英領ボルネオ

舊英領ボルネオとは舊英領北ボルネオのほか、ブルネイ王国及サラワク王国の二つの獨立王國があつて、何れも英國の保護國又は保護領となつてゐたもので、舊英領北ボルネオとは純然たる英國の舊領土で、唯この領域は英領北ボルネオ會社が英國の特許を受けて行政權を行つてゐた。倫敦にある同會社の重役會が最高の行政機關となつてゐたが實際の統治は英本國の植民大臣の承認を経て重役會が任命した總督が當つてゐた。その領域は北緯四度十分から七度二五分、東經一九度二〇分より一五度二〇分のボルネオ北端七萬六千四百三平方キロ、人口は約二十七萬人。ブルネイはサルタン(ブルネイ人の王様)が居て國を治めてゐた。英國はこのブルネイ王國を自國の保護領として取扱ひ、州知事を駐在せしめてブルネイ王國の行政を恣にしてゐたもので、その領域は北緯四度五分から五度二分、東經一四度七分から一五度二分で面積は僅か六千四百七十五平方キロ、人口は三萬六千人。

サラワクは英人をラジャ(王様)に戴いてゐた馬來人の獨立國であつて、北緯一度から五度、東經一〇九度四〇分から一一六度に互る。面積は十二萬九千四百九十五平方キロで人口は四十四萬人。以上が舊英領ボルネオと云はれてゐたものである。我國占領後は舊英領ボルネオと舊蘭領ボルネオを一體として全ボルネオを一元的に軍政下に置き統治してゐる。

氣候

氣候は熱帯常夏の氣候であるが、我々の想像する程の暑熱ではなく、いはゆる南洋性の氣候で、平均温度は華氏七十八、九度で一年中殆んど變りがない。一番熱い時でも九十度を越す事は稀で、又一番温度の低い時でも六十七、八度位である。

一日中春、夏、秋のある氣温ともいふべきで早朝は春、日中は盛夏、夜中は秋の氣温で夜中は毛布なしでは寝られぬ程であるから、我國の盛夏の氣候より比較的涼しい。兩期は大體十一月下旬から翌年二月上旬頃までであつて

この時期が一年を通じて一番涼しい。雨量は一年平均二二〇ミリ内外で、地方により、また年により多少の相違はあるが、雨は兩期でも一日以上降り続くことは稀であつて、極めて強く降るが普通三、四時間で止み、後はカラリと晴れる。兩期以外の時期に降る雨は、大體三十分以上続く事は殆んどない。乾期は大體三、四月頃であつて、この時期は雨は大體夜中かまたは夜明けに夕立の如くきて晝間に降る事がまれである。

衛生

南方一帯の病氣としては一番多いのはマラリヤである。最近には豫防薬が出来て相當効果をあげて居り、またキニーネ等の特效薬があつて犠牲は極めて少ないが、南方一帯の病氣であるマラリヤが北部ボルネオにもある。又渡航者の注意すべきは脚氣である。水質や食物の變化等により最初はかかりやすい。衛生知識の全然ない原住民部落には、天然痘やコレラも散發するから渡航者は豫防注射をよく受けて行く事が大切である。

(一) 舊英領北ボル

ネオ事情

舊英領北ボルネオは舊英領ボルネオの最北部で面積は七萬五千平方キロ、我國の北海道の面積にやや等しい。人口



圖要オネルボ領英舊

オネルボ領圖

は約二十七萬よりなく、人口密度は一平方キロに約四人であつて、領土の殆んどは未開の處女寶庫にして、氣候は熱帯の天恵に浴し、地味極めて肥沃なれば農業に好適されて居り、總ては今後の開拓の手を待つてゐる。

地 勢

北ボルネオの地勢は概して乾燥で、大小無數の山嶺が領内を走り、全體として山地が多い。北西角の海岸に近いキナバルウ山峰は海拔一萬三千六百九十八呎で、ボルネオの最高峰である。沿岸地方北部は熱帯樹木鬱蒼として茂り低地を交へてゐるが、北西岸になると低地が少く、山の裾がすぐ紺碧の海に浸つてゐる。

内領一帯は人跡未踏の原始林に覆はれた、いはゆるジャングル地帯となつてゐる。

河川は、東、北、西の三方面に流れて海に注ぐ、中でもキナバタンガン河、セガマ河及びバダス河の三河の流域地帯は地味肥沃な沃野が展開され、比較的開拓されて居り、護謨、煙草等の栽培が行はれ、海岸線地方には古々椰子が林層を成してゐる。

主 要 産 業 事 情

舊英領北ボルネオはその面積七萬五千平方キロの廣大なる面積を有するも、人口僅かに二十七萬よりなく、住民の

住 民

住民の人口は約二十七萬強で、そのうち歐洲人は二、三百人を數ふるに過ぎない。住民の主なるものは、デユスン族、バジョウ族、ミユレット族及支那人等である。デユスン族は全人口の半を占める約十二萬人で彼等の性質は極めて温順で、平和の生活を愛好し、米作や煙草などに従事してゐるものが多い。大多數は北海岸及西海岸地方に居住してゐる。

パシヨウ族は約三萬四千人で、極めて勇敢な種族でマレから移住して來たもので、かつてはボルネオ方面を荒した海賊であると云はれてゐる。彼等は漁業や薪など集めて生計してゐる。

ミユラソト族は多く奥地の丘陵地帯に住んでゐて、原始的な生活を營み、狩獵やジャングルの生産物を蒐めて暮してゐる。この他にイラン族、ケダヤン族、ベサヤ族、グアイヤ族等が若干住んでゐるがその數は詳かでない。支那人は約四萬八千人住んで居り、到る處の地方に居住し、商人や農耕労働者として生活してゐる。

多くは原住民にして、總じて未だ原始時代を去る事幾許もなき状態にあり、智的程度も低く、性質概して懶惰、安逸

を好み、勤勞を厭ふの風が少くない。

氣候は熱帯の天恵により、衣は殆んど裸體跣足を風とし食は自然に多くを委ね、僅かに放任的栽培を行ひ、耕耘、施肥等を爲さず、これを收穫すれば食するに餘りあり、住また雨露を浚げば足り、便、不便を意とせざるの状態なれば、従つて産業として發展は未だ殆んど見るべきものがない。僅かに産業としては椰子の他、外人により行はれてゐる護謨、麻の栽培と、木材、水産等を數へるのみ、鑛工業としては總て今後待つものにして見るべきものは殆んどない。

農 業

「護謨」ゴムは地味肥沃、加へて氣候好適してゐる處から支那人及邦人等により企業化され、同國輸出物の重要なものとなつてゐる。

「麻」はマニラ麻にして、フィリッピン産のマニラ麻と同様の品質にして、タワオに於て邦人により盛んに栽培され、同國新興農産物として飛躍的發展を示しつつある。植付後一年半にして高さ三十尺前後に成長し、氣候またこれに適し麻栽培の將來は大いに有望視され注目されてゐる。

林 業 ・ 牧 畜

領土の大半は山地にして、鬱蒼たる原始林に覆はれ、無盡蔵の資源を有してゐるが、國內の交通路開かれず、都市

水 産 業

附近を除いては道路もなき状態なれば輸送の困難に起因され、多くは未開發のまま残されてゐる。現在サンダカン、ゼセルトン、タワオ附近に於て木材事業が漸く企業化され建築材、家具材、造船材として海外に輸出されつつあり、我國にも此の地より相當輸入されてゐる。

牧畜は、水牛、黄牛、馬、豚、羊等が農家により副業的に飼育されてゐるが、人口僅か二十七萬なれば、その數もいふに足らず、畜産業の發展も特筆すべきものがない。牛馬は交通は河川と半馬の背による處から、耕耘役畜、運搬用に、豚、羊は食用にされてゐる。尙その頭數は現在詳かでない。

舊英領北ボルネオは北はボルネオ海に、西部はスル海及セレベス海に面し、近海は各種洄游魚族及熱帯水産物が豊富に群棲し多岐廣範なる生産面を有してゐて、漁期周年に亘り永續的に漁獲なし得る事情にあり、所謂水産資源の寶庫であるが、住民の漁撈方法は極めて幼稚にして原始時代の域にあり、漁業は僅かに河川、港灣内の魚獲により附近部の需要に應ずるの範圍にあり、領内人口僅か二十七萬を對照として行はれてゐる。近時タワオの入口にあるシヤミル島には邦系のボルネオ水産株式會社が進出し、ここを舞臺に沖繩縣人及高知縣人を主軸とする邦人數百名が水産漁業に活躍し、漁獲物を以つて、罐詰及輕節の製造を行ひ製

四萬五千人である。
マレイ人の多くは農業に従事してゐるが、中には奥地の住民相手に商店を開いてゐる者もあつて、殊にクチンでは日本人や支那人と軒を並べて商賣してゐるものも比較的多い。彼等は大體クチン及その奥地のシマガン地方ラジャン河上流附近及北部地方のバラム川、リンパン川流域地方に居住してゐる。

ダイヤ族は海ダイヤと陸ダイヤとに區別されてゐるが、海ダイヤとは海岸近くに生活し、陸ダイヤは山岳地帯に居住して居る處から來てゐるもので、兩方合して十五、六萬人居住してゐる。昔は人間の首を蒐めたといはれるが、今日では温順となつてゐる。その住居も色々他よりの襲撃に備へた用心堅固な構へをしてゐて、男女とも大抵半裸體の生活をしてゐる。海ダイヤは海邊に住んでゐて文明に接する機會が多いから、ダイヤ中でも進歩してゐる方である。

サラワクには華僑は約八萬が居住して居り、福建人、福州人、廣東人が多く、クチンをはじめ全國に互つて住んでゐて多くは商業に従事してゐるが、中部地方、ラジャン河流域、北部バラム河流域には農業に従事してゐるものも少くない。

サラワクの歴史

サラワクの古き歴史は必ずしも明瞭ではないが、サラワクの全領域はその昔はブルネイ領土であつた事は確實であ

八五年の二回に互つてブルネイの領土の大部分を侵略したのでブルネイの領域は、舊英領北ボルネオとサラワクの兩方より侵略され遂に小領域となつた。

サラワクが英國の保護領となつたのは、一八八八年で、英國は國內行政に干渉せざる事を約すると同時に、サラワ

主要産業事情

サラワクもその殆んどは未開の原始林に蔽はれてゐる處女新天地である。

サラワクの住民は舊英領ボルネオの住民に比較してやや民度が優れてゐるといはれてゐるが、その多くは原始的生活を營み、智能も低く、天恵に馴れ、生活に對する勞を厭ひ、努力の熱意薄きため、洋々たる大富源も眠れる寶庫として、邦人の雄飛と開拓を待つてゐる。

農業

サラワクの住民の大半は農業に従事し、當地産業の大宗を占めてゐる。農産物としては護謨、胡椒、トバ、甘蔗、麻、鳳梨、椰子、米等が主たるものである。

「護謨」は到る處植栽に好適されて居り、その殆んどは輸出に向けられて居り、一九三九年にはその輸出額三十六萬ピクル、一千百五十萬弗に達した。

「胡椒」はその多くは支那人により栽培され、主として

る。一八四〇年ブルネイのサルタンの權勢が著しく薄弱となつた時、サラワクに於て、マレーやダイヤ族が叛亂を起してブルネイから獨立を計つた。これを鎮壓するためブルネイのサルタンの伯父に當るムダ・ハシムをクチンに派遣したが叛亂軍の勢力は強く、益々惡化して鎮壓收拾が困難となつた。ジェームス・ブルツクがサラワクにやつて來たのは丁度この時であつた。

ジェームス・ブルツクは、印度で相當資産を作つた英國商人の子で、十六歳の時、東印度會社に入つたが、第一ビルマ戰爭で負傷し、休養中、ピナン、マラツカ、シンガポール方面の旅行を志し、東印度會社を辭してその希望を實現した。一八三五年その父の死後、大きな野望を抱いて再びシンガポールに來た時、當時のシンガポール總督からサラワクのムタ・ハシムに贈物と書翰を届ける事を頼まれ、かくて一八四〇年クチンに來た彼は、素早くムダ・ハシムと親交を結び、叛亂鎮壓に助力して成功し、その功勞により一八四一年同地方のラジャとなつた。

當時のサラワクはクチンを中心とする小さい領域に過ぎなかつたが、その後彼はブルネイの勢力の衰退につけ込み一八六一年にサドング河からケデユロン岬に至る領土をブルネイから割讓せしめ、その領域の擴張に成功した。ジェームス・ブルツクは一八六八年死亡したので、その甥に當るチャールズ・ブルツクがその後を享けて二代のラジャとなつた。彼も亦領域の擴張を企て、遂に一八八二年及一八

ク王の王位繼承に關する問題及諸外國との國際關係に關しては英國がその衝に當る權利を獲得し、英國海峽植民地となつてゐた。

我が國の占領當時、サラワクのラジャとなつてゐた英人はジェームス・ブルツクより丁度三代目に當る者であつた。

西部地方に産する。植付面積は四千エーカーであり輸出はその年により差異あるも十五萬ピクル内外である。

「サゴ椰子」は中北部海岸地方に在り、主としてメラナウ族が栽培して居り、植付面積約八萬エーカーである。サゴ粉を椰子の幹から製するが之れが販賣は支那人が大部分を占めてゐる。古々椰子はその植付面積二萬エーカーで、このうち八割は支那人が栽培してゐる。

「米」栽培法は極めて遅れて居り、大部分はタイ、佛印等より輸入を仰いでゐる。米作付面積は六萬エーカー、粗生産高約七〇萬石と推定されてゐる。輸入米はタイ及佛印よりしてゐるが最近十年間の平均輸入高は三十八萬七千ピクルに及んでゐる。

米の不足に悩むサラワクでは米作に優秀なる我が邦人移住者に栽培を爲さしめる事にして日沙商會を介して、一九三二年日本人米作移住者を入れ耕作に當らせた。これら邦人は良好なる成績をあげ、現在ではサラワク住民の注目の

的となつて活躍してゐる。今後邦人のこの方面への發展は大いに期待されてゐる。

鑛業

サラワクの鑛産物中最も重要なものは、石油である。石油はアジアでは東印度(舊蘭印)に次ぐ生産高を有し、かつては英國東洋艦隊の重要な供給地となつてゐたミリ油田がある。

ミリ油田は山の上から海岸にかけて約二百の石油吸出坑があつて吸出された石油はパイプでミリ市の北四哩の地點にあるロトンの精油所に送る装置となつてゐる。

石油の産額は一九二五年五十五萬トン、一九三〇年は六十九萬トンであつたが、その後漸減し、一九三五年以降は二十五萬トンに下つた。然し同年セリア油田(ブルネイのクアラ・ペライト北西約十哩)より輸送した原油量四十四萬トンあり、これを加へて約七十萬トンに達する。全英帝國中第三位を占める主要産地となつてゐたものである。皇軍の占領後は、これら油田は皇軍の軍管理經營となつて發展してゐる。

金は十九世紀の初頭、當時蘭領サンバ地方に隸行した支那人が鑛脈を追つて當領に入り、遂にサラワク河上流のパウ地方に豊富な砂金床を發見し熾んに之れが採取に従事し彼等は秘密結社を利用して、前記ジエームス・ブルックの時代叛亂を起した。パウ地方の金は主として河床に沈澱した

されたもの約壹萬五千トン、薪材二萬一千トンの外、林務局の伐採したもの壹萬六千トン、薪材六萬六千トンであ

主要都市

クチン 同市は現在クチン州の州都で我國の軍政部が置かれてゐる。人口は約三萬餘、サラワク河を遡る二十三哩の地にある。往時サラワクと呼ばれて居たが、第二世ラジヤの時クチンと改稱されたもので、建國當初は千人に満たないマレー人の一村落に過ぎなかつたが、サラワク建國後官廳の所在地となり、政治、經濟の中心地となつて漸次發展した、市内には水道、電燈及電話等の施設があり、家屋もコンクリートのものが多い。

クチンの博物館にはボルネオに於ける自然科学の資料が豊富に陳列されてゐるので有名である。東端に競馬場、市の南端に邦人先驅者の日本人墓地があるから旅行者は詣でるがよい。

シブ レジヤン河はサラワクの經濟交通の要衝をなしてゐるが、シブ市は同河の流域の中部に位し、地方政治經濟の重要な地點とされてゐる。人口は六、七千人でマレー人及華僑が多い。華僑はレジヤン河流域に發展し、同地方の産物の取引に當つてゐる。當地は物資の集散地として發展してゐる。

ミリ 古くから油田所在地として有名な町で、附近一帶

砂金床である。支那人の採金はその後間もなく放棄され後ボルネオ會社に移り莫大の利益を擧げたが、同社特許期限後又支那人が採掘したが極めて不振を來した。近年金相場の高騰に伴ひ、サラワク河上流に支那人の企業續出され、一時は百五、六十を數へたが興廢常なく、一九三五年には二十八に減じた。産額は一九三九年には三百七十八萬八千オンスに及んだ。大部分はパウであるが、一部分クチンからも産する。

その他アンチモニーはサラワク上流より産出されてゐる。また石炭も埋藏されてゐるがその産出數及埋藏量は詳かでない。

林業

森林は海濱内陸共に多く、全部官有となつてゐたもので特許に依つて伐採されてゐたが、近年濫伐の虞れあるために住民の薪炭用以外には大規模の拂下を行はざる方針がとられてゐた様である。樹種は海濱森ではマングローヴ、蛭木科に屬するものが多く、薪材と木炭の良材となる。内陸では最優良材として龍腦科、荳科、樟科の三種類が多い。熱帯の通有性として多種多様の樹木が密生してゐるから近代的伐木事業は適しないと見られてゐる。

現にミリの油田會社附屬木工所でミリ油田用材供給のため新式法の伐木をしてゐるのと、クチンに在るサラワク木材會社の事業位のものである。木材産額は許可に基き伐採

る。輸出は近年増加し四、五萬トンとなつてゐた。

の油田の開発と、石油の輸出港として近年目覚ましい發展を遂げ、クチンに次ぐサラワク第二の都會で、人口は約八千名で住民は華僑が非常に多い。文化的娛樂機關は相當備はつてゐる。市街の後方には山上に石油開發の櫓が林立し、石油の輸出は海底輸送管で船に積込んでゐるといふ石油都市である。占領以來この油田はわが邦人の手により採油されてゐる。現在ミリ州長官が置かれ我が統治を受けてゐる。

邦人の活躍狀況

サラワクに在住する邦人は約三百人であつて、その大部分はクチンを中心としてその附近に發展し、護謨栽培や米作に活躍してゐる。サラワクに於ける邦人事業として有力なものには日沙商會と山下護謨園とがある。

日沙商會は(資本金三百萬圓、本社神戸市灘區岩屋中町四ノ二八)支社をサラワク、クチンに置き、事業地をクチンに近きサマラハン河東南二〇哩の地に三千六百エーカー餘のサマラハン農園を經營、護謨栽培に活躍し、邦人事業の王座を占め、飛躍的發展を示してゐる。サラワクの邦人の多くは同會社の關係者が大部分を占めてゐる。

同社は明治四十三年、依岡省三氏が海外雄飛を企て、サラワクに赴いて踏査し、ロックロート上流及サマラハン河支流ローパン川畔（現事業地）に、壹萬エーカーの租借をサラワク王國に願出たに初まる。依岡氏は歸途風土病に冒されて惜しくもその事業の實現を待たずして不幸翌四十四年一月京都で歿した。

サラワク國より千七百エーカーの借地権の許可を受けたのは、明治四十四年十二月であつた。氏の志を繼ぐ後繼者によりこのサラワクの開発事業は實現され、翌年クチン商會の名を以つて進出し、開拓事業を開始したのが同社の今日を築いた基礎である。後、日沙商會と改稱し護謨栽培に活躍、大正二年及同七年の二回に各千エーカーの假借地権を獲得して發展し、曠野を拓きて沃土となし、事業は順調に進展し、サラワク政廳より前記三千七百エーカー全部の永代租借権を附與されるに至つた。これが現在のサマラハン護謨園である。昭和四年我國觀光のため來朝したサラワクのラジャは、日本人の農業に優秀なるに驚嘆し、同社に邦人農家による米作をサラワクに移植することを慫慂したので、同社はサマラハン農園の隣接地に千七百エーカーを租借し、昭和七年我國より第一次邦人移民二十數家族を入植せしめた。この邦人移住者が現在では水田六十エーカーを完成し、これを中心として、この附近一帯は日本人村を形成するまでに發展してゐる。日沙商會はサラワクの信頼を博し、その事業に對しては、諸種の便宜を供與され、同

地では日本人の代表者として認められてゐた。サラワクに邦人の勢力扶植を計り、その開營々四十年沈黙して闕つて來た同社の功績は没すべからざるものがある。
山下護謨園は山下汽船の山下龜三郎氏の個人經營の農園であつて、クチン郊外及マタンの二ヶ所に八百エーカー以上の護謨園を經營してゐる。その他邦人個人農園は多くクチンの水源地であるマタン山麓に通ずる道路方面に集つてゐて、それぞれ三十エーカーから二、三百エーカーの農園を經營し、何れも生氣瀟灑として邦人の南方發展の前線に活躍してゐる。

(三) ブルネイ事情

ブルネイは舊英領北ボルネオとサラワクとに挟まれた領土で、その面積は僅か六千四百七十五平方キロ、我が國の約三分の一に當つてゐる。

人口は一千九百三十八年の概算によれば、三萬六千五百六十一人で、大多數はマレー人でこれが三萬四百三十一人、支那人が四千八百七十一人、インド人が三百七十八人である。

ブルネイの住民は以上のようにマレー人が多數であつて、英國の保護領當時より英國人に反感が顯著であつて、その例を挙げると、ブルネイ王國の政廳には常にブルネイ王國の旗が掲げてあつて、英國の監督官が登臨すると英國旗に

代へたが、その監督官が退廳すると直ちに英國旗を引下してブルネイの旗を掲げて、常に英國の歴史に反感を示してゐたものである。

ブルネイの歴史

支那南宋朝の史書の中に、ジャバを距る帆行四十五日ブウニ一國と記してあるのはこのブルネイを指稱したものと推意される。西曆十三、四世紀の頃ブルネイ國は、國勢は至つて振はず、ヤジャバイト國、マラツカ國に對し交互に朝貢した史實がある。その後十六世紀の初葉になつてサルタン、ナゴダ・ラガムの施政宜しきため國威大いに振ひ、ボルネオ島の北海岸全體及全スール島、フイリツピン群島の一部をもその領有に歸せしめたことがある。歐洲人が初めてブルネイ國を世に紹介したのは一五二一年同國を訪れたヒガブエツタを以つて嚆矢とするが、ヒガ

ブエツタのブルネイ訪問記には、當時の首都ブルネイ市は約三萬五千を擁する都市で、その宮殿の輪奐美、市街の景觀には彼は尠からず驚異の眼を睜つたと記してある。以上に徴して見ても當時のブルネイが如何に殷盛を極めて居たかを想像するに難くない。

十六世紀の末葉に衰兆漸く現はれ、十九世紀の中葉頃には國運全く衰ひ、その領土の大半はサラワクと、舊英領北ボルネオのために侵略されて小領域となつたものである。一八八八年、英國の保護領となり、サルタンと英國政府間に取極めた協定により外國交渉は英政府により代行されてゐたが、英國は内政にも干渉し、英國海峡植民地として暴威を擅にしてゐた。

我が皇軍の上陸以來ブルネイは我國の軍政下に施政されてゐる。

主要産業事情

ブルネイの産業として擧ぐべきものは現在農業と鑛業である。

農業

農産業の主なるものは、ゴム、サゴ及米であらう、當領は小區域であるが海に沿ひ交通が比較的便利であるのと且

從來の施政方針が企業家を當地に進出せしたる如くで、外來者の護謨園が少くない。

「護謨」ゴム栽培は約一萬五千エーカーで、その中の三分の一に當る五千エーカーは歐洲人諸會社の開拓せるものにして、殘餘はアジア人小企業者の占むる所であつた。近來護謨價好調なるため護謨栽培者は非常に活氣を帯びて、

その輸出も一千六百トン、價額六十七萬一千弗に上つた。
「サゴ」サゴ椰子は領内原産植物でその生産品たるサゴは領内住民の主要食物にしてその栽培は一般住民が行つて居り、年産は二千五百トンから二千八百トンである。

「米」米は領内産額はその消費量の一小部分に過ぎない現狀にあり、従来より産米増加に鋭意指導が行はれてゐたが、米種及その栽培方法拙劣にして成績あがらず、因襲久しきに互る住民に勸奨することは中々至難視されてゐる、最近の産額は約六十萬ガントン、米田面積約五千エーカーで、ブルネイ住民消費量の約六分の一であつて、タイ及佛印から年々四萬八千ピクル内外の輸出を見てゐる。

ブルネイは小領土なるも人口また少く、開發されてゐる地域はブルネイ市附近及海岸地方の一部に過ぎず、その殆んどは未開の沃土であり、今後邦人の發展地として有望視されてゐる處である。

鑛業

ブルネイの鑛業としては石油である。昭和十六年十二月十六日、皇軍が奇襲上陸を敢行し、その確保に成功したセリア油田は、ボルネオの油田中最も生産量の豊富なもので

主要都市

ブルネイ は人口約一萬二千、首府で政廳、諸官衙の所在地、ブルネイの政治、經濟の中心地であり、貿易交通の

あらう。

ブルネイに石油の初めて發見されたのは、一九一四年ペライト郡のラビに始めて發見された。一九二四年英領馬來石油會社がその附近一帯のコンセツションを得た。次で一九二九年クアラ・ペライトの北西八哩の地にセリア油田を發見し、同地に會社の本部を置たもので、本油田はサラワクのミリ油田に匹敵する大油田なる事が判明したので、一九三〇年から三一年に互り準備を完成し一九三二年以來採油してゐたものである。

セリア油田は、南支那海に臨み、油坑百數十で在り、その一部を除いては大部分が自噴油坑で、地下より自然に噴出してゐる狀況は全く生産量の旺盛なる事を示してゐるもので、従來英國側は北ボルネオの油田の内容は、ひた隠しにかくしてゐたため、詳細不明であるが、セリア油田生産能力（英軍による破壊前の生産能力）は若し全能力を活用すれば一日一萬トンの噴油を得られるものであると云はれ油田の壽命を永く保つたために、従來實際の生産額は一日三千五百トン内外に制限してゐたと云はれる。

我が皇軍の占領以來軍管理經營として邦人により採油されてゐる。

要衝である。
市街は美しい溪谷の間を流れるブルネイ河岸にあり、住民は河上に建てられた水上家屋に住んでゐる。陸上には外人や政廳官吏等が居住してゐるが大部分は河上の家屋に生活してゐる。
住民のマレー人の銅及その他の金屬類の手工品は獨特のもので有名である。

邦人團體名簿

北ボルネオ（舊英領）

タワオ日本人會 タワオ 前田 惟智
タワオ殖産組合 タワオ 奈良原太一
サンダカン日本人會 サンダカン郵函三六號 後藤 米吉

進出する事業商社

ゼツセルトン

横山商店 雜貨商
岩田護謨園 農 業
横山護謨園

土山護謨園 農 業

後藤米吉商店 雜貨商
下田商店

サンダカン

サンダカン郵函六一

ゼツセルトン日本人會 ゼツセルトン 酒井東方作
ブルネイ日本人會 ブルネイ・クアラペライト 鈴木多三郎

ミル日本人會 サラワク・ミル 鈴木 武次
クチン日本人會 サラワク・クチン 栗林甚三郎

山田椰子園 椰子栽培 サンダカン郵函六一
 安谷椰子園 椰子栽培及請負業
 林椰子園 椰子栽培
 ボルネオ殖産 護謨栽培
 ボルネオ水産會社
 サンガカン駐在所 郵函三五

◆タワオ

奈良原商店 洋服商
 上原商店 雜貨商
 和泉商店 直輸出入商
 昭和商行支店 食糧輸出入
 タワオ病院
 太平齒科醫院 齒科醫
 前森旅館 旅館
 タワオ護謨園 護謨栽培
 ボルネオ
 水産株式會社 罐詰製造

◆サラワク クチン

島田商店 ゴム靴外卸小賣 マーケット街三
 栗林濟生堂 賣藥商 インデア街五三
 山下汽船會社 護謨栽培 タンジョシパー
 日沙商會 サマラハン
 石原護謨園 ミルマタン路五

◆サラワク ミリ

丸五貿易商會 輸入業 ミリ郵函一〇〇
 峰商店 雜貨商 四九
 鈴木商會 六七

◆ブルネイ

鈴木寫眞館 寫眞業 クアラ・ペライト二二
 重松齒科醫院 齒科醫 五
 高橋ヨツ 洗濯業 一五

マレー 篇

地域・面積

新たに我が新領土となつたマレーとは、マレー半島の南部、即ち北緯五十五分から一度十六分に互る部分と二、三の小島嶼とから成つてゐる。英國がここに勢力を扶植したのは一七八六年ケグーよりピナン島を譲り受け、次いで一八一九年、ジョホール王と條約を結んで昭南島（シンガポール）を割取したのに端を發し、爾來この地を東亞侵略の根據地として機會ある毎に附近の小國を侵略して建設したものである。

面積は五萬二千五百二十八平方哩で、政治的にはイギリス王直轄の海峡植民地、マレー諸州聯邦およびマレー非聯邦の三群から成つてゐた。しかしイギリス直轄地でないマレー諸州も聯邦と非聯邦たるを問はず、いづれも英國の保護領であつて、海峡植民地總督の支配下におかれてゐた。海峡植民地はその廣さこそマレー全土の三十分の一に過ぎないが、昭南島をはじめピナン島及その對岸地域、マラツカ地方のマレー三要點を包含し、且ジャワ西方のクリマ

ス島、ココス群島や、ボルネオ西北のラブアン島をもその施政下におく大掛りなものである。

マレー諸州聯邦はマレー全土の五割三分に及びセラゴン、ペラー、ネグリスマピラン、パハンの四回教土侯州から成り、主として半島の中中部及西部一帯を占めてゐる。他の非聯邦とは半島の最南端のジョホール、泰國境寄りのケランタン、トレンガヌ、ケグー、ペリスの五つの回教土侯州である。

各州とも英國の保護國として英人の知事又は顧問が州内統治に參與し、外交は一切英國が行つてゐた。各州の間に相互的關係はなく非聯邦州の稱呼も聯邦州に對する一般の呼び方に過ぎないものであつた。

地勢

この地方は地勢學上大昔、舊スマトラ、ジャワ、ボルネオ等と接続し、廣大なる陸地を形成してゐたといはれるがマレー半島の山脈系を見ると數條の山脈が北から南走して海に入る。中央山脈やタハン、ブノム、クレダン、ピンタ



マレー半島等の諸山脈がそれであつて、中央山脈には七

千呎以上の高峰が五つもありタハン山は半島第一の高峰で海拔七千八十四呎である。是等山脈と山脈との間の土地は一般に低く陸地深く入つた山脈地帯ですら四百二、三十呎の高度を有するに過ぎない。

マレーの山岳の特徴は一種特有な石灰岩の山が諸處に散在し、波状をなす平地から絶壁の形をなし屹立してゐることであり、旅行者のよく氣づく處である。

河川はマレー半島一帯が密林を持つて覆はれてゐた頃には河川が最も主要な交通路となつてゐたものにして、現在でも未開拓地は河川を唯一の交通路として利用されてゐる。マレー半島の河川は西海岸に注ぐものと、東海岸に流れるものとはその状態を異にし、西流するは泥土を以つて満たされ、マングローヴその他の熱帯特有の單調な種類の植物の密生する湿地を形成し鱒の棲息を見ることがあるが、東海岸に注ぐ諸川は、常に強風に見舞はれる處から自然河口に砂洲を作り一般に西海

岸の河床より浅く航行に妨げを見る事が少くない。鰐は西海岸に於けるよりも遙かに少ない。ペラー河、バハン河及ケランタン河など主なもので、このうちバハン河はマレー最大の河で、キヤメロン高原に源を發し全長三百二十軒で河岸はカスアリナ樹の密生する大長砂汀となり、所々に潟を作り、陽光に美しく輝く、大波は砂濱を洗ひて、その風景一幅の繪の如くである。西海岸のマラッカ海峡は、水面油を流した様に穏かである。

住民

マレーの人口は約五百五十萬で、うち第一位を占めるは支那人即ち華僑で二百三十萬、これに次いでマレー人が二百二十八萬、印度人が七十四萬、歐米人が戦前僅か三萬に過ぎなかつた。我が邦人は戦前約七千名であつたが戦争のため引揚や監禁等で激減したが現在目醒しい勢ひで増加されつゝある。

支那人は二〇年前は半數しかなかつたが、自然増加率の旺盛なると、年々支那本土及その他から來住する者が増加したもので、未開地方といはれるケランタン及びトレンガ

州以外のあらゆる地域に於ける間屋、小賣業等の經濟部門ならびに労働者の大部分を占め、わけでも都會地において絶對多數を擁し、例へば昭南島には八割近く、ピナンも六割七分は支那人である。マレー諸州において錫鑛山労働者の殆どは支那人である。主に福建及び廣東出身で彼等の中には錫山經營、護謨栽培などで大資本を築き上げたものも少くない。

土着のマレー人は多く農事栽培に従事、極めて少數が漁業を行ひ、商業に従事するものは稀れで、従つて經濟的にはすこぶる無力である。尙印度人はその過半は南部印度地方から移住したもので、大部分が錫山や護謨園や官公衙の下級労働に従事してゐる。

氣候・衛生

マレー半島の氣候は熱帯であるが、他の熱帯地方に於けるが如き高温度を見ざる點に於て恵まれてゐる。華氏百度以上に上る事は甚だ稀で、夜分は大抵華氏八〇度以下で、一ケ年の平均温度は八〇度七分、最高最低の平均温度は七四―五度から八七―八度の間を上下してゐる。半島を圍繞する海温は七七度内外である。

各主要地別氣温

地名	最高	最低	平均氣温
コタ・バル	八七・八	七二・八	七九・八
キヤメロン高地	七二・六	五六・三	六三・〇

クアラ・リビス	八八・一	七一・一	七八・一
クアラ・パハン	八五・七	七四・二	七八・九
クアラ・ルムプール	九〇・三	七一・八	七九・四
マラツカ	八五・四	七三・四	七八・三
昭南港	八六・一	七五・七	八〇・〇

衛生状態は熱帯地である上に、住民の大部分を占めるマレー人、支那人、印度人等は衛生思想が幼稚であるため、僻地、農村には、赤痢、マラリヤ、脚氣等は彼等の間に少なくなく、時にはベスト、コレラ等も散発するを見るが、これらのため犠牲となるものは大抵マレー人、支那人、印度人等であり、衛生思想の發達してゐる邦人や歐米人には極めて少ない處である。

マラリヤは所謂南方風土病と云はれるもので、南洋各地方ともに見られるものである。我が當局では巨費を投じて極力これが撲滅策を講じ、一方住民の衛生思想の啓蒙に努力してゐるため、次第に減少されつつあるも未開發地方には散發流行を見てゐるが、最近醫療機關も次第に完備されつつあり漸次減少されて來てゐる。

言語・教育・宗教

「言語」は一般にマレー語が通用して居り、これさへ出來れば何處に行つても不自由を感じる事はない。尙タミール語、支那語等も一部に行はれてゐる外英語も極く一部分

通じる、新たに東亞共榮圏に抱擁されたマレーは皇軍の上陸以來各地に日本語が流行して居り、又初頭教育は日本語をもつて行つてゐる。

「教育」マレーに於てマレー語を使用する學校の設立は西曆一八六七年より眞面目に考究されてゐたが、一九〇一年ネシア學校に使用する馬來語古典の出版に依つて一大刺戟を與へられた。然しその發達は遅々として進まず、住民中文字を解するもの四割、女子に至りては元來馬來人は女子を閉居せしむる風習があり加ふるに女子が教育を受けることに對する一種の偏見をすら持つと云ふ陋習あり、文字を解するもの全國子女の一割内外といふ状態にあるから殆んどは文盲とも云ふべきであるが我が領有後は獎勵政策がとられてゐる。

「宗教」マレーは人種的に複雑を極めてゐると同様に、宗教も複雑してゐて現在行はれてゐる宗教は、回教、ヒンズー教、基督教、シーク教等で、マレー人の大部分及び北方印度からの移民は回教を奉じ佛教及儒教は支那人の大部分、ヒンズー教は南印度人の大部分が信じてゐる。基督教は在留歐米人及混血兒によりて信奉せられ、マレー人及印度人の一部はシーク教を信仰してゐる。

主要産業事情

農 業

マレー半島は西海岸及東海岸地方の一部を除けば、未だ開拓せられざる洋々たる沃土がジャングルを形成して居りその前途は、護謨と錫の寶庫のマレーであり、豐饒未開のマレー新天地として大なる期待をかけられてゐる。マレーに於ける農産物は大作物としては護謨が第一位を占め、次いで古々椰子、米、油椰子、鳳梨。中作物としてはタバコカ、檳榔子、デリス、珈琲、茶、カムピール、煙草、芭蕉等で、小作物としては雜穀物、産油作物、纖維植物等多種多様である。

「護謨」はマレー農産物の王座を占め、實に全世界需要量の約五割をマレー産護謨が握つてゐる。マレーの護謨は一八七七年ブラジルより初めて持つて來た苗木二十二本が活着したるものより初まり、地味が護謨栽培に好適され、僅か數十年にして今日世界第一の護謨園として發展を見るに至つた。今日では半島到る處洋々たる護謨園と變り、幾千萬本の護謨樹が林立してゐる光景は實に壯觀である。邦人にして護謨園の經營に活躍する者も相當多い。尙一九三九年輸出高五十五萬三千三百トンで米國、英國、日本等に向けられ、その中五四パーセントは米國に輸出されてゐた

が大戦後輸出禁止のため米國はゴム饅饀に悩んでゐる。

「椰子」には古々椰子と油椰子とあり、マレー全土到處に植栽され、マレー住民にしてこの二、三本を植えてゐない者は殆んどなく、これを彼等は子供の出生日を知る所縁として植える風習がある程で、一方食料、飲料、薪材その他の自用必需品を得る天恵物として彼等の極めて親しみ深い植物で、山地方面は家屋の周圍に二、三本を見るも河岸には極めて多數栽培され、これより産するコブラは植物油として石鹼、化粧品、蠟燭、食用油等に需要廣く、糟は家畜の飼料となる。

「米」はマレー主要農産物の一つで、住民の九割九分は米を主要食物としてゐる。栽培面積は約七三萬英反にしてその産額は國內需要量の約四割を充たすに過ぎない、不足額はビルマ、タイ、佛印等からの輸入に仰いでゐる状態にある。産米の九割餘は水稻で、陸稻は極めて少ない。この水稻も灌漑の便未だ發達せず加ふるにマレー人の栽培法は小規模且原始的栽培方法なれば、氣候常夏、地味肥沃のマレーにしてこれが自給自足を得るは至難にあらずとされてゐるこの方面への邦人の發展も亦有望視されてゐる。

「鳳梨」(バインアップル)の生産中心地は昭南島七・五〇〇英反、ジョホール州三五・〇〇〇英反、及セラランゴ

ル州七・〇〇〇英反で一九三四年に於ける總植付面積は約五四・五〇〇英反であつた。收穫果實は罐詰用として生産されてゐる。右の外全領到る處に栽培され、その面積約二・〇〇〇英反と推定され、生食用に供されてゐる。鳳梨は薩謨樹の間作として植栽される事多くその植付面積は三、四割に及んでゐる。

牧 畜

マレーの牧畜業を見るに未だ盛んなりとはいはれざる現狀にあり、政府はこれが諸種の奨励策を講じてゐるが、未だ國內の需要を充すに足らず、猶多くをタイ國よりの輸入により需要を充してゐる。マイーに於ける主なるものをあぐれば水牛、牛、豚、山羊及羊、家禽等で、水牛はタイ國より人つた種類で水田の耕作用として、或ひは木材運搬用としてマレー人は多數利用してゐる。牛は南部印度種とタイ種とあり、前者は大型で足が強く早く道路上の使役に好適され、後者の小型は主として農園作業に適され、毎年タイ國より多數輸入され、ケダー、ケランタン、トレンガヌ州に多く飼育されてゐる。豚は住民の半數を占める支那人間に専ら飼育され、特にペラー、セラングール、ジョホール、昭南島にては相當大規模の養豚業も少くない。山羊は印度労働者間に好んで飼育され、その數は約四十萬頭内外、家禽としては鶏が主で、マレー人間にあつては一戸數羽を飼つてゐるからその數極めて多く、家鴨も相當飼育さ

れ又支那人は家鳩を飼ふものが非常に多い、その他七面鳥、鷺鳥も少數飼育されてゐる。次に各地方別の家畜數を擧ぐれば

家畜統計

昭南島	水牛	羊及山羊	豚
昭南島	四、二九六	六、四四一	二七、四六八
彼南及プロビン	八、一八四	六、三六九	五〇、八六八
スウエムズレ	五、五七	一〇、三三三	二〇、一〇一
マラツカ	二六、七五九	一〇、八二六	五八、三三八
ペラ	一六、七〇〇	三三、一九一	一一、七三三
セラングール	一〇、六三三	三〇、六六八	三三、五九〇
ネグリスムビラン	一〇、九〇八	三三、〇〇七	一四、二六六
パハ	一四、三三三	三三、〇〇七	二〇、三三〇
ジョホール	六六、八三三	六三、三三〇推定	一、一〇六
ケダ	九、六六六	三、七三三	不
ペリ	三三、八二九	三六、三三三	不
ケランタン	一一〇、〇〇〇	三三、三三三	不
トレンガヌ	三三、〇〇〇	八、三三三	不
馬來全領合計	三〇〇、三三三	一、九七、七〇〇	六三三、三三三

林 業

皇軍上陸以來我々にジャングルのマレーとして傳へられた如く、千古斧鉞の鬱蒼たる密林に覆はれて居り、恐らく百年を出でざる往時に於ては全マレーは實際上森林を以つて覆はれて居た事は想像に難くない。マレー全面積五萬餘

平方哩中、四萬餘平方哩は森林地帯であり如何に森林が多いかを窺ふ事が出来る。

鑛 業

樹種は殆んど二羽柿科の樹木にして、是等の中、主なるものを擧ぐれば、チエンガル、ガブア、クルイン、ムランデー、ムランデーバハン、ルサク、スラヤ等で、これ等の外商業的價值あるものとしては、ピンタンゴール、クラトクレダシ等十餘種に及んでゐる。

「チエンガル」はタイ、ビルマ等に於ける代表材がチークであると同じ意味に、マレーの標準材木であつて、マレー全土に繁生して居り、木質重く堅く、甚だ強靱で、建築材及家具用材として需要多く、又鐵道枕木として需要極めて多い。

「ルサク」はマレー各州に産し、立木直徑二呎半乃至三呎半、無枝七〇呎乃至八〇呎を普通とし、その丸太は外形頗る端麗にして、用途はチエンガルに比し強固で良質なれば丸太材として體裁優り、木材としての利用途も廣い。

「ムランデー」は比較的軟質種に屬し、半島中最も豊富なる樹種で、全林量の一割五分はこの木が占めてゐる。用途は建築、家具、壁板等に使用せられてゐる。マレーにて使用せられてゐる板は多くこの木であり、木目美麗なるはマホガニーの代用に使用せられてゐる。

「クルイン」は印度地方のガーチャン、ビルマのカニンと相似たもので、材質は非常に堅硬で、用途は前記二種の間際に當つてゐる。その他は餘り重要でないが藤、ガタ

地下資源としては世界第一を誇る錫を始めとして、鐵、金、タンクステン、イルメナイト、マンガン、ボーキサイト、石炭等の鑛物資源の寶庫にして殊に錫は世界總産額の四割を占めてゐる。従來はその大半はアメリカに軍需生産原料として輸出されてゐたが、大東亞戰爭以來、アメリカへの輸出は杜絶され、米國軍需工業の生産に一大支障を來さしめるに至つてゐる。

「錫」はマレー聯邦州を中心として殊にペラー州が最も盛んであり、次いでセラングール、パハン、ネグリスムビラン州の順である。マレーの錫は含有量七二・三%といふ極めて優秀なるものにして、昔日は支那人の舊式採鑛法により始められ、三〇年前までは殆んど八割は支那人の手により採鑛されたものであるが、その後歐人會社の大規模なる浚泥式採鑛法がとり入れられ今日の發達を見たものにして、一九三九年世界總産額二十萬八千噸の中マレーは七萬七千噸(三十四%)を出してゐる。

「鐵」は現在ジョホール州とトレンガヌ州の兩州より産出して居り、これら鑛山は日本人會社の手により開發されつつある。即ち石原産業公司是ジョホール州バトバハ、スリメダンの鑛脈を、又トレンガヌ州ケママン、マチヤン、

サタウンにて鐵鑛、滿俺の鑛石採掘に活躍し、日本鑛業はトレンガヌ州ドンゲン近くのブキパンに鐵鑛山を有して居るマレーの鐵鑛の大部分は金屬鐵平均六四%を含有する富鑛で、良質の赤鐵鑛であり正確なる産額は俾るが年産〇百噸以上である。

「タングステン」は以前ケダー及トレンガヌ州より有用なウオルフラム鑛を出し、ペラー州のタツパの近傍及ネグリスマピラン州よりも産出されてゐる。

「金」はバハン州のラウブ鑛山が有名なものであり、その他バハン州、セラゴール州内の數ヶ所より産出を見て居り、年産約五萬五千オンスと云はれてゐる。

その他石炭、イルメナイト、マンガン、ボーキサイト等の埋藏も少くないが總て今後の開發に待つものが多い。

水産

マレー半島を繞る海は一體に淺海をなし、西海岸マラッカ海峽沿岸は總て五〇尋以上に達する處なく、一方東海岸にても同様の淺海が延海二五〇哩も續いてゐるから無限の漁場を有してゐると考へられるが決してそうでなく、これらの淺海の大部分は大した魚類を産せず僅か沿岸一〇尋線内外の處がマレーの魚食民に必要な魚類を供給してゐるのみである。動力船を有する邦人漁師を除いては、漁獲は多く帆船或ひは操權船により行はれてゐる。マレーの漁業はマレー人、印度人等により小規模に行はれて居る。近時

邦人にして漁業に従事するもの増加し、約千二百名に達して居り、昭南港を根據地として従來の漁場カリモン海及びオー群島より遠く赤道を越え、スマトラのリンガ群島、シンケツプ島附近よりベンカ海峽入口方面に、東はマレー半島東岸の支那海より佛印沿岸、タイ灣等六、七百哩の地點から西はマラッカ海峽、スマトラ沿岸、印度洋、メルグイ群島の廣大な地域を舞臺に活躍してゐる。マレー人の漁業は近海に於ける幼稚なる技術と無資力に近いため遠洋漁業は殆ど邦人の企業による獨舞臺の觀を呈してゐる。昭南島に於ける魚類は殆ど邦人の手により供給されてゐる。

工業

マレーに於ける工業は、護謨工業、錫精煉工業、鳳梨罐詰工業等が最もものであり、これに次ぐは椰子油の製油事業で、その他に電氣事業、石油精製工業、機械工業及鐵工業、護謨タイヤ、チユーブ製造業、清涼水製造、製氷、煉瓦、石鹼製造業、麥酒釀造業等であるが未だ大なる發展なく、その總ては今後の發展を待つ状態に置かれてゐる。

次に主なるものにつき説明すれば

「護謨工業」護謨は實に世界産額の過半量を供給してゐて護謨の消長はマレー全土の景氣を左右する重要性を持つてゐる。輸出向バラ護謨製造は盛んであり、各護謨園内には殆んどバラ護謨製造工場を設置して製造して居り、マレーより輸出される護謨の中、僅か四十分の一はラテックスのまま輸出されてゐる外は全部バラ護謨となり、輸出されてゐた。

「錫製煉工業」錫は護謨に次ぐ重要輸出産物で、世界産額の約四割を占めてゐる。而して各鑛山より採掘される原鑛は 50% 以上の含有品は、何れも領内の錫精煉所で精煉の上輸出されて居り、これは地方工業の保護の目的のためであつてマレー産鑛石のみならず廣く東印度のバンカ、

ピリトン島及タイ等より原鑛の供給を仰ぎ精煉して海外へ輸出してゐた。

「鳳梨罐詰工業」マレー鳳梨罐詰は世界第二位にしてハワイに次ぐ産額をあげてゐて、六萬六千英反の栽培地より製産される年額は六萬六千噸、これが輸出高は七百萬弗で、護謨、錫と共に重要産業の地位にある。

「製油工業」は古々椰子、油椰子より製産するもので、マレーの好適の地味と相まつて相當盛んである。その他工業としては電氣事業、護謨加工業、製氷工業、機械工業、鐵工所等があるが發展してゐない。機械鐵工所は主として華僑の手により經營されてゐるが邦人の手により昭南島方面にて經營されてゐるものもある。

主要都市

昭南島(舊稱シンガポール)はマレー半島の先端にある東西四四軒、南北二四軒の昭南島上に建設された海港都市

で、西曆一八一九年英人スタンフォード・ラツフルスの烟眼に依つて創設されたもので、それまでは淋しい一漁港に過ぎず、マラツカやピナンにその繁榮を奪はれてゐた。英國がこの地を領有するや同島はその位置歐洲と濠洲、東洋と歐洲、支那、印度洋等に到る航路の咽喉を扼する要衝として軍事的要據點たるに着目し、ここに英國は東洋艦隊

の海軍根據地を建設し、以來東亞侵略の據點として、東洋のジブラルタルたらしめてゐた。

南洋の交通の中心地で、歐洲及米國と南洋諸地域との經濟的關係は年々濃密を加へつあり、これが貿易に出入する各國船舶は大小多數にして、一年の出入船舶數は約四萬五千隻を數へ、世界に於ける最も股賑なる貿易港となつて居り、我國の歐洲、印度、近東、南米航路等の寄港地で、不定期船を加へれば毎月日本船は數十隻を數へ、日本内地

とは殆んど隔日に便船があつた。

貿易はマレー半島の輸出入貿易の七割は總て昭南港を経由して行はれてゐるから如何に盛況を極めてゐる事が判る。ヒンターランドからの護謨や錫を始めとして各種農産物の生産が盛んで、これらの輸出や、北ボルネオ、タイ、佛印、東印度等各地の産物もこの地から海外各地に出て行く。又以上の諸地方が輸入する各種貨物も、當港を経由して取引される事が多く、當港をして東亞の代表的貿易港たらしめてゐる。

人口は島全體で百萬、昭南市は八十萬で、そのうち八割は支那人で、その他マレー人、印度人、アラビヤ人、歐米人、日本人、歐亞混血兒等で、昭南島をして人種の博覽會と稱されるも宜なる哉である。實に黄・白・黒等多種多様の風俗をした人種が多く、細別すれば五十數種に上つてゐると云はれ、従つて宗教も基督教各派を始め、回教堂、支那寺、印度寺院など各種の堂宇あり、風俗習慣も混然としてゐる。

今やこの英國百年の東亞侵略の基地たりしシンガポールも、東亞の昭南港として甦生され、共榮圈の對外貿易の中心港として新たな發展を示してゐる。

ビナン(彼南) 昭南港より海路三百七十哩鐵路十一時間の小島で、全島人口約四十萬、内ジョージ・タウン市街が約二十萬、マレー半島第二の都市で、昭南港に次ぐ貿易港にしてマレー半島及北部スマトラの物資の集散地として海

外各地より出入する船舶は年約一萬八千隻、集散物資一千三百五十萬である。

島の中央に二千七百呎のビナン・ヒルを有し、ケーブルカーあり、頂上クラブ・ホテルは眺望雄大にして砂白く、椰子茂る郊外海濱の風光明媚の地である。極樂寺や蛇寺等の名所もあり、わが二葉亭四迷氏の墓もここにある。對岸プライからはマレー半島縱貫鐵道によりて三十時間でタイ國の首都バンコック(盤谷)に行かれる。

創設者ライト大佐の碑銘既に苔蒸して、この地に居住する華僑にすら一種の彼南風俗を形作るまでの落付きを偲ばせてゐる。

マラツカ(馬拉加) 昭南港から百十八哩、鐵路二百哩、市内の人口約五萬、八百年の榮枯盛衰の跡をさながらに語る古風な町である。附近に護謨園多く、郊外には米作も行はれてゐる。

聖ジョンズ丘に聳えてゐる葡萄牙の古城も今は僅かに城壁の一部を残すのみ、街の内にフランシス・ザビエー寺院あり、ザビエー師は舊教日本最初の傳道に最も床しい思出を残してゐる一人である。マラツカ政廳は昔日和蘭東印度會社であつた由緒ある建物内におかれ、歐人の渡來時代を想はしめ、そぞろ遊子の懐古の情をそそるものがある。

クアラ・ルムブール(吉隆坡) ここはコランボとも書かれてゐたが、セラングール州の主府である。マレー半島の中央に位し、人口約十五萬、クラン河口を溯ること二五

哩、セラングール平野に殷盛を極むる新興都市で、附近は錫の採掘事業の發展地として知られて居り又地方物資の集散地となつてゐる。郊外二〇哩の地にセラングール州王の居るクランあり、その近くのスウェナム港は當市の咽喉として榮えてゐる。

イポー(一保) ペラ河を挟んで新舊兩市街に分かれ、人口約七萬、クアラ・ルムブールの政治都市なるに反し、當市はキンタ地方の錫鑛を控えた錫の都であり、華僑の成功者富豪が多い。ペラー王の居るクアラ・カンサーの町へは鐵路二五哩で到着する。

タイピン(太平) はイポーに次ぐペラー州第二の都會で人口約五萬、マレー中最も美しい街で且健康地として知られ、街路樹の優美と、タイピン公園及博物館は有名なものである。附近は錫鑛業及護謨栽培地の中心でもあり又避暑地としても知られてゐる。昭南市より四二九哩、鐵道は當市より岐れて支線にて西部海岸の貿易港ポートウエルドに達してゐる。

スレムバン(芙蓉) ネグリスマピラン州の首都であつて人口は約三萬、昭南港より鐵路二百哩、森の都で、落ついた感じのよい清楚な町である。初めは錫の都として開けたが今では護謨の都となつてゐる。

當地には大東亞戦争前より數百名の邦人が活躍して居りマレーでも最も堅實な成功者を多數有して居る地として紹介されてゐた處である。郊外約五哩の地にネ州王の純マレ

1型の瀟洒な居城が在る。

ジョホール・バル 昭南市より僅かに一八哩ジョホール州の首都である。

ジョホール河の沿岸は邦人の護謨栽培業の發祥の地で、バルーから二五哩のコタテンギーには、日産農林工業、眞植護謨、昭和護謨、南洋護謨、稻田護謨を始めとし、クライには三五公司、東洋拓殖の各護謨園、ムアにはパリジャワ護謨、渡邊、本多、池原、野田、下田等の各邦人護謨園があり、一方商業方面にも相當進出して居りジョホール河沿岸諸都邑は邦人の活躍地として知られてゐる。

パトバハ 昭南市より陸路百哩、自動車で約四時間、ジョホール州の主な都邑であつて近郊に、昭和護謨、三五公司、日産農林の護謨園や、久保田、三笠、守田、松村、大場等々の邦人護謨栽培業が多い。尙パトバハ河を溯る一八哩の地に石原産業公司の鑛山があり、當地はこのため開港場となつたもので、この地は邦人が産業の中樞を把握してゐて、戦争前よりマレーで邦人の最も勢力ある地とされてゐた。

コタバル マレー半島の東海岸地方は、海上波が高いため良港に乏しく、従つて西海岸より都市が少い、その開發も餘程遅れて居る、只北方タイ領近くのコタバル附近が開け、鐵道、自動車道路など交通の便がよい。コタバルはケラントアン州の首府で、ケラントアン河の河口近くにあり、人口一萬餘の小都會、ケダ州と共に華僑少く、住民はマレー

人であり、純マレーの風俗文化を保持してゐる、附近から米やコブラの産出がある。在留邦人は全部で百名内外である。

近くのケラントン河上流には南洋鐵鑛經營の鐵鑛山があり、その關係邦人が三、四十名在住し、また日本鐵鑛のクンドウ鐵山もこの附近にある。

邦人の發展狀況

マレーに於ける邦人の發展は、一時は八千五百四十八名の多きに達したが、住民の過半數を占めてゐる華僑の日貨排斥、或ひは第二次歐洲大戰の勃發等により、在留邦人の活動に對する制限等による諸種の障礙により多難時代を現出し、昭和十四年十月には在留邦人數は五千四十三人に減じ、更に昭和十六年十二月大東亞戰爭發生直前には、次第に英國官憲の壓迫が強まり、遂に引揚げ者續出され、三千臺に減少されるに至つたが、皇軍占領後再渡航者及その他軍關係農業關係及經濟方面の關係者の渡航が日を迫よてその數を増してゐる。

マレーに於ける邦人は如何なる方面に發展してゐたかといふと、その職業別は四十餘種類に及んで居り、各方面に進出してゐるが、その中主なるものを大別すれば、商業に發展してゐる者が最も多く、次いで護謨栽培、水産漁業、鑛業で、その他に醫師、齒科醫、寫眞屋、理髮、旅館、大工木工職、洋服屋、靴屋等々である。

「商業」 輸出入貿易業に活躍してゐる商社は約六十軒、雜貨小賣業者は約百五十軒であり、昭南市を中心として發展し、その他マラッカ、スレムベン、クアラ・ルムプール、イポー、ピナン等に進出して活躍してゐる。マレーの大抵の市街には邦人商店の進出してゐない處はない程よく發展してゐる。

「護謨」 邦人のゴム栽培は日露戰爭前後より着手され、ジョホール州は邦人の護謨園の發祥の地と云はれるだけに邦人の護謨栽培地の中心となつて居り、第一次世界大戰當時はその最盛期であつたが、戦後の不況に際し、大部分は統合された、現在主なるものとしては、三五公司、昭和護謨、南洋護謨、日産農林、熱帯産業、眞植護謨、馬來護謨等の諸會社が活躍してゐる外、個人經營のものもマレー半島全體を通じて百以上に及んで居る。

「漁業」 海國日本は世界的に漁業に有名であるだけに南洋各地とも邦人が漁業に翹を唱えてゐるが、マレー半島でも水産漁業は邦人の獨占的發展を示し、一九三五年の昭南港市場は邦人漁業者の水揚がその大半を占め、一千六十三人からの邦人が活躍してゐたが、その後、國際關係悪化の影響により英國官憲の壓迫を受け、大東亞戰爭まで、その活動は年々困難となり凋落されつゝあつた。

今やマレーは皇軍の占領下におかれてゐるが、四圍の海上が安定されるに至れば、再びこの方面への邦人の活躍は開始され、素晴らしい發展を示すであらう。

「鑛業」 マレーの鐵鑛は殆んど邦人の經營に係るものであり、鐵の外、滿俺、ボーキサイトの採掘に當つて居り、トレンガヌ州のトングアン鑛山は日本鑛業が、ジョホール州のスリメダン及びトレンガヌ州のケママンの兩鑛山は石原産業、ケラントン州のタマンガン鑛山は南洋鐵鑛が採掘に活躍してゐる。

その他に醫師、寫眞、理髮、旅館業等はマレーの各主要都市に進出して居り、大工、木工所、鐵工所等は昭南市に活躍してゐる。

今から二十年乃至三十年前、シンガポールと云へば邦人娘子軍の根據地と云はれたこの地が、幾多邦人先驅者の血に滲む様な苦闘により、近々三十年内外にして今では邦人

邦人團體名簿

昭南島

(會長)

- 昭南島日本人會 セルギ路一〇七號
- 昭南島日本人商工會議所
- 百姓會ハイ街六五號
- 貿易組合中央會昭南島貿易斡旋所
- 昭南島日本人實業同志會(金融部)

- 大内 恒
- 徳田 富二
- 山村 四郎
- 吉岡 恒

- ウオーターロー街八〇號
- 北海道應貿易調査所
- 昭南島日本醫師會
- 昭南島日本齒科醫師會
- ノースブリッツ路三三八號
- 西部日本海産物輸出組合聯盟販賣所

- 中塚保次郎
- 村上 圭昭
- 西村竹四郎
- 山本 政八
- 上山 重雄

西有寺 ベンクローレン街四〇號

岡野 潮淳

◆マレー半島(西海岸)

パトバハ日本人會

パトバハ日本人會

ジヨホール州バトバハ

増田壽太郎

ジヨホール日本人會

ジヨホール州ジヨホール、バル

ムア日本人會

牧野 紫朗

ジヨホール州ムア

ジヤラン、ミリアム九七號

池崎 臻

ムア日本人護謨栽培組合

ジヨホール州バリジヤバ

池崎 臻

マラツカ日本人會

マラツカ、ミリ路三一號

中村 千誠

ネグリスミラン州日本人會

ネグリスミラン州スレバン市

テミアン路二〇二號

小岩井 靖

セラングール州日本人會

セラングール州クアラ・ルムブール

チヨキ路一二號-A

セラングール州日本人青年會

セラングール州クアラ・ルムブール

勅使河原一郎

カメロン日本人會

カメロン州カメロンハイランドレンレット

後藤 甚吉

カメロン日本人農産組合

パハン州カメロンハイランドレンレット

柳橋 正二

クワンタン日本人會

クワンタン州日本人會

龜川 軍一

パハン州クワンタン、ワル街七號

パハン州クワンタン、ワル街七號

パハン州クワンタン、ワル街七號

ラオプ日本人會
パハン州ラオプ、ビブデ路六七號
ベントン日本人會
パハン州ベントン
トレンガヌ日本人會
トレンガヌ州コアラ、トレンガヌ
ドングン日本人會

田中 常吉
辰元 安造
山田辰之助

トレンガヌ州ドングン
ケママン日本人會
トレンガヌ州ケママン(石原産業公司内)
ケラントン州日本人會
ケラントン州コタバル
ジャラン、ソルタナ、ザイナブ三四五號

木下 乃輔
木村 政雄
巖真 種

進出する事業會社

◆昭南島

横濱正金昭南島支店 銀行業
臺灣銀行昭南島支店
華南銀行昭南島支店
日本郵船昭南島支店 船會社
大阪商船昭南島支店
日本鑛業會社出張所 鑛山業
石原産業公司
飯塚事務所
日沙商會
三井物産昭南島支店 輸出入業
三菱商事昭南島支店

メーアーチヤムバース
ラフルスプレス三一
メーアーチヤムバース
デ・ソーザ街九
ボンナム路ボンナム
ビル三
ロビンソン路ボースミ
ビル
ユニオンビル内
エーリスト・コースト路
三六
KPMチヤムバース内
マラツカ街ヌスビル

株式會社千田商會
株式會社野村商店
大倉商事昭南島支店
加商株式會社
西山商會
沙加乃公司
日華公司
山田商店
江畑洋行
南洋商行
比留間商會
山中商店
大同洋行

輸出入業
アケービル三九
メーアーチヤムバース
セシル街二五號
メダバースビル
ライデラアビル
ロビンソン路六八
セルギー路六五
ウインチスタ一ハウス
二五
ノースブリッチ路六六
ノースブリッチ路一一
九一A
ノースブリッチ路三四
ハイラム街二〇號
ブラサバサ路七四一

パト路二〇九號

藤本 正義

ウル・セラングール日本人會

セラングール州クアラ・クア、バル

吉村 仁徳

ペラ州日本人會

ペラ州イポー、ブレウスター路一四四號

山下 均

タイピン日本人會

ペラ州タイピン、マイン路五七號

佐藤源次郎

テラクアンソン日本人會

ペラ州テラクアンソン、キング街

森川庄之助

ケダ州日本人會

ケダ州アロースター・ジャラン、ラジャヤ三八號

飛石 清一

ピナン日本人會

ピナン市ピナン路五四號

稻置勝太郎

ピナン市商業組合

ピナン市ピナン路五四號

稻垣勝太郎

◆マレー半島(東海岸)

カメロン日本人會

カメロン州カメロンハイランドレンレット

後藤 甚吉

カメロン日本人農産組合

パハン州カメロンハイランドレンレット

柳橋 正二

クワンタン日本人會

クワンタン州日本人會

龜川 軍一

パハン州クワンタン、ワル街七號

パハン州クワンタン、ワル街七號

パハン州クワンタン、ワル街七號

大安洋行	陶器雜貨卸	プリンセツブ街一〇八	スタンフォード靴店	靴製造販賣	スタンフォード路
花屋商會	書籍文具	ミツドル路七五七七	龜屋博物館	動物剝製	ミツドル路五五
株式越後屋吳服店	吳服商	ウオータロー街八〇	奈良屋商店	土産物商	クキン街一五
三鼎商會	自轉車卸商	ビーチ路一〇九	山下醫院	建築請負業	ミツドル路一七一
新大昌會	機械船具商	プリンセツブ街一〇〇	安藤醫院	醫院	クニスブリツチ路六
三喜商會	機械類鑄山	タンジョンル一七三〇	同仁病院	醫院	クニスブリツチ路六
大福公司	製氷冷凍業	ミツドル路一七七	西村醫院	醫院	クニスブリツチ路六
元浦鐵工場	鐵工業	ミツドル路二三八	日本賣藥公司	藥品醫療器	クニスブリツチ路六
寺下鐵工場	雜貨食糧品	カラン路二二八	日本齒科醫院	齒科治療	クニスブリツチ路六
株式馬場百貨店	帆布ゴム袋	ミツドル路一四九	山本齒科醫院	齒科治療	クニスブリツチ路六
有坂製袋會社	製函製本業	一七六	朴木洋服店	洋服裁縫	クニスブリツチ路六
小笠原商店	時計蓄音器	一七四	松浦洋服店	婦人服裁縫	クニスブリツチ路六
京屋時計店	菓子製造商	一七四	宮田洋裝店	洗濯業	クニスブリツチ路六
葵南堂	邦文日刊紙	一七四	白洋舎	寫眞業	クニスブリツチ路六
南洋日日新聞社	邦文日刊紙	一七四	中島寫眞館	寫眞業	クニスブリツチ路六
昭南日報社	印刷業	一七四	モダン製版所	鉛看板製造	クニスブリツチ路六
友林會	護謄園用達	一七四	メイソンオサキ	理髮業	クニスブリツチ路六
福田商會	倉庫運送業	一七四	ユニオン理髮店	漁業	クニスブリツチ路六
南洋倉庫株式會社	貸自動車業	一七四	水田國松	潜水業	クニスブリツチ路六
ユニオン自動車店	自動車修理	一七四	大昌公司	漁業	クニスブリツチ路六
富士自動車工場	電氣請負業	一七四	金城組	柔道及接骨	クニスブリツチ路六
都電氣商會	運動具一切	一七四	柔術スクール	旅館	クニスブリツチ路六
昭南島運動具店	靴製造販賣	一七四	碩田館ホテル		クニスブリツチ路六
昭南島製靴店		一七四	東洋ホテル		クニスブリツチ路六

マレー半島ジョホール州

東洋電氣公司	電氣鍍金業	オーチヤール路一三四	壯洋服店	洋服仕立業	ジョラン
三五公司	護謄裁培	ビーチ路一七	平山洗衣店	洗衣業	ジョラン
昭南島事務所		ユニオンビル内	石原産業公司	鑛山業	ロガヤ一四
南進公司		ユニオンビル内	パトバハ鑛業所		イスマイ一〇
昭南島事務所		ユニオンビル内	石原産業公司		バトバハ
三浦養鶏場	養鶏業	エースト・コースト路	大場護謄園		スリメダン
日本國民學校		ウイルキイ路一五五	金原護謄園		スリゲイボワコ
			木村護謄園		スリガヂン
			三五公司		
			三巴ハ植林地		
			龜川護謄園		
			會護謄園		
			日産農林工業		
			ヨホール護謄園		
			三笠農園		
			昭護謄會社		
			松村護謄園		
			三五公園		
			ハ第一植林地		
			同第二植林地		
			同ジョラ植林地		
			日産農林工業		
			バトバハ植林地		
岩谷商店	雜貨商	バトバハ			
二宮商店		ジャラン・ザビダ六八			
福岡齒科醫院	齒科治療	ジャランラハマ二九			
英齒科醫院	齒科治療	一〇一			
岡本理髮店	理髮業	ジャラン・エンガン			
渡邊建築請負所	建築請負	アヤンパン			
吉村寫眞館	寫眞業	ガラニ二〇			
北島寫眞館		ジャラン			
岩株藥房	醫院	イブラン			
		エンガン一四			
		ジナン二〇			

日本國民學校	ユニオン理髮店	池田商店	日本藥房	松井兄弟商會支店	白洋舎	海月旅館	南洋護謨	拓殖株式會社	日産農林スング	イスルヨ植林地	同スングイ	シプト植林地	眞植護謨會社	昭和護謨株式會社	南洋護謨コタ	ナンギ植林地	福田護謨園	菅原護謨園	
ジャラン・ザビダ六四	理髮業	寫眞業	藥品業	自轉車商	洗衣業	旅館業	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

マラツカ州

池崎兄弟商會	須良濱商會	南洋商行ムア支店	酒井商店	荒井商店	村上商店	太田商店	平山商店	富山寫眞館	ムアホテル	日本齒科醫院	山崎藥房	馬來護謨株式會社	井芹護謨園	原田園	パリジャワ護謨園	渡邊護謨園	下田園
雜貨建築材料	陶磁器賣藥	陶磁器雜貨	〃	綿布雜貨	〃	乾物食料品	寫眞業	旅館飲食業	齒科治療	賣藥商	護謨栽培	護謨栽培	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

志村商會	富士商會	東商店	西田商店	川田商店	大倉商店	鳥居理髮店	富士モーター	ホシミ・ホテル	長戸寫眞館	日本醫院	中村齒科醫院	千田護謨園	石井護謨園	芙蓉商會	坂田商會	廣谷商店	江夏寫眞館	島屋ホテル	
雜貨商	機械洋灰商	洋裝業	食料品建築	賣藥商	理髮業	自動車修繕	旅館業	寫眞業	療業	齒科治療	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	直輸入業	運動具店	美術雜貨商	寫眞業	旅館業	
マラツカ市ミル路三四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

馬來半島セランゴール州

永野自動車修理店	關洗衣店	小田美容院	小岩井醫院	秋澤齒科醫院	株式會社	馬來護謨公園	日本國民學校	南光商會	加茂商會	山口商店	白木洋裁店	メイソンイテノセ	日本大藥房	宮崎寫眞館	山下洗衣店
自動車修理	洗衣業	美容理髮業	醫療	齒科醫	護謨栽培	護謨栽培	護謨栽培	一般雜貨	呉服商	賣藥業	洋裁業	理髮業	齒科醫	寫眞業	洗濯業
ラハン路	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	クアラ・ルムプール	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ベタリン街一七六	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

吉野屋ホテル 旅館業 バト路一六三
 村山護謨園 護謨栽培 クアンパン二四
 久保寺寫真館 寫真業 セランゴール州カジヤン
 井田齒科醫院 齒科醫 クカジヤン
 スター商會 一般雜貨 クラン、レムパウ街
 稲田商會 〃〃〃 七六
 小畑寫真館 寫真業 一四九
 小畑寫真館 寫真業 一一一
 關野寫真館 〃〃〃 三四
 桑山醫院 內科醫 〃〃〃
 溝上洗衣店 洗濯業 テロガードン三一
 滿留金公司 雜貨商 クアラ・クラブ
 日光商店 〃〃〃 マツクスウエル街一九
 長谷川寫真館 寫真業 ボウエン街九
 本林護謨園 護謨栽培 〃〃〃 一一
 芳村商會 雜貨商 イボ、ハグロ街八八
 日本藥房 賣藥商 〃〃〃 九四
 吉田洋服店 洋服業 〃〃〃 一五五

マレー半島ペラ州

伊藤寫真館 寫真業 ビルフィールド
 PK寫真館 寫真業 プレウスダ路
 東京理髮店 理髮業 〃〃〃 一七六
 山下齒科醫院 齒科醫 〃〃〃 二〇一
 山本洗濯店 洗濯業 ハル街 一一
 オーシスホテル 旅館業 ブレウター路 一七八
 野村商店 雜貨商 タイビン マイン路 五五
 TK寫真館 寫真業 〃〃〃 二〇
 メーソン 理髮業 〃〃〃 一八
 同仁齒科醫院 齒科醫 〃〃〃 三九
 千歲旅館 旅館業 マラワカ路 七〇
 南洋商行 陶磁器硝子 アロースター
 檳名商店 自轉車 〃〃〃 三五
 推葉商店 一般雜貨 〃〃〃 五二
 藤崎製菓店 製菓販賣業 〃〃〃 三八
 宮本寫真館 寫真業 〃〃〃 五
 清水看板店 眞鍮具製作 〃〃〃 五

マレー半島ケダ州

太田理髮店 理髮業 ジヤラン・カンチウ四
 飛石齒科醫院 齒科治療 〃〃〃 二
 川原齒科醫院 各種請負業 ケダ州パダンセライ
 高雄請負業 各種請負業 クスンゲイ・パタニ
 神戶海陸產貿易 食料品卸商 ビナン キング街九九
 彼南出張所 雜貨商 〃〃〃 二四
 稻置商店 〃〃〃 〃〃〃 七七
 大阪屋商店 〃〃〃 〃〃〃 四〇四
 東京商店 〃〃〃 〃〃〃 一三二
 南洋商行 陶器卸商 〃〃〃 二〇三
 三和公司 機械鐵輸出 〃〃〃 一五一
 國部時計店 時計商 〃〃〃 五三
 綿華公司 自轉車卸商 〃〃〃 八五
 都電氣商會 電氣器具商 〃〃〃 三九三
 日本藥房 賣藥商 〃〃〃 六八
 時札寫真館 寫真業 〃〃〃 三
 長田齒科醫院 齒科醫 〃〃〃 三
 山下理髮館 理髮業 〃〃〃 三
 東洋染工廠 洗衣業 〃〃〃 三
 朝日旅館 旅館業 〃〃〃 三
 彼南旅館 旅館業 〃〃〃 三

彼南

馬來半島バン州

遠藤寫真館 寫真業 カメロン タナラタ
 竹内茶園 茶葉栽培 〃〃〃 レンレツト
 ハレツ茶園 蔬菜栽培 〃〃〃 レンレツト
 後藤農園 〃〃〃 〃〃〃 ウルテロム
 結城農園 〃〃〃 〃〃〃 〃〃〃
 柳橋農園 〃〃〃 〃〃〃 〃〃〃
 小澤農園 〃〃〃 〃〃〃 〃〃〃
 高原農園 〃〃〃 〃〃〃 〃〃〃
 大榮商會 雜貨商 クワンタンマイン街三
 丸山商店 〃〃〃 〃〃〃 ウオル街七一
 柳本寫真館 寫真業 〃〃〃 ジエン路
 下田護謨園 護謨椰子 〃〃〃 チエアリンキチ
 龜川養鶏場 椰子及養鶏 〃〃〃 チエアリンブツサー
 馬來半島トレンガヌ州
 大南商行 一般雜貨 クアラ・トレンガヌ
 山田商店 〃〃〃 ケダイパン
 〃〃〃 二四一—二四二

高見商店	一般雜貨	ケダイバヤン二四五
國華洋行	〃	ジャラン・パンタイ
深田商店	〃	クアラ・ピサー
大島時計店	一般修理	ジャラン・タンジョンニ
西田商店	菓子商	〃
水野商店	氷菓子製造	ジャラン・ケダイヒラニ
佐藤商店	洋燈金具商	ジャラン・ケダイ一四
宮里理髮店	理髮業	ジャラン・パヤン
松下組	請負業	カンボン・ダイニ
青木嶺山周旋業	周旋業	ジャラン・マスジ
名嘉商會	雜貨商	クアラドンタン・ジャラン・スンゲイベナガ二六三A
大東商店	食糧品雜貨	ベキベシ
出羽屋商店	〃	ジャラン・バサー二〇〇
日本理髮店	理髮業	スンゲイベナガ四三
佐藤農場	養豚野菜園	ベキベシ

早瀬商店	飲食店	ベキベシ
木下商會	旅館業	スンゲイベナガ三二
龍運館ホテル	〃	〃
大東旅館	〃	〃
エビス屋	〃	〃
森内商店	雜貨商	ケママン・テンゴ・ジャランカムボン一七〇
松本商店	雜貨及質屋	パンタイキジャル三八
鈴木鐵工廠	機械商修理	スライマニ二二三
石原産業公司	鑛業	〃
ケママン出張所	〃	〃
西垣商店	護謨栽培	バンダケマシー九六
順記	質屋運輸業	ケマシー
佐竹商店支店	雜貨商	コタバル・ジャラン・ニエーマーケツト一八五A
古賀商店	〃	ジャラン・テンクベトラスメラ五九一
南洋商行支店	瑛瑯業	ジャラン
小野田洋行	雜貨商	テメンゴン三四九

マレー半島ケランタン州

谷商店	雜貨商	ジャラン、ソルトナヂイナブ三九二
福丸理髮店	理髮及雜貨	トハキム二五二四
岩下洗衣店	洗衣業	ジャラン、ソルトナヂイナブ四〇〇
平岩齒科醫院	齒科治療	四九二
太郎洋服店	仕立業	ジャラン・ソルトナヂイナブ
東和洋行	鑛山業	ケランタン州
鈴木商店	雜貨商	グアル・ペリオ
東和洋行支店	〃	タマンガン
寶商會	〃	トムバ
南光商會	請負業	パレバン
日本鑛業會社	鑛業	グアル・ペリオ
タンドウ鑛山	〃	タマンガン
南洋鐵鑛會社	〃	タマンガン
タマンガン鑛山	〃	スンゲイケラデイ
波壽滿護謨園	護謨栽培	〃
寺上商店	一般雜貨	ベリス州アラウ
中本商店	〃	カンガ

ベリス州

南方占領地の呼稱改正

南方占領地における地名その他の呼稱は、英米蘭等の久しきにわたる統治により現地本来の呼稱が全く抹殺され、統治國の國語による呼稱が原住民に強ひられてゐたが、政府は大東亞戰爭を機會に南方占領諸地域におけるこの米英的呼稱を一掃し共榮國本然の姿たるアジャ復古の精神に基づき、その呼稱も原住民族傳統の呼稱に更新せしめるべく「南方地名協議會」に於て目下進められてゐる。

現在までの改稱された地名は次の如くである。

(舊稱) (改稱)

ジャバを……………ジャワ

舊英領マレーを……………マライ

舊英領ボルネオを……………北ボルネオ

舊蘭領ボルネオを……………南ボルネオ

パタピヤを……………ジャカルタ

今後も續々改稱される筈であるから一通り改稱がなりました上で改版致します。

フィリッピン篇

地位・面積・氣候

フィリッピンは、我が臺灣の南方、北緯四度四十分より二十一度十分、東經百十六度四十分より百二十六度三十四



分の間に散在する大小七千八十三の島嶼よりなつてゐる。その内面積一千平方哩を超えるものは僅かに十一島である。全群島の面積は二十九萬六千平方キロで、わが國の全

面積の半分よりまだ四萬一千平方キロ程小さい。

この國はわが國の如く火山國で地震も屢々あり、また温泉、硫黄にも富んでゐる。土地は肥沃で農業に適してゐるがまだ一部分を除いては充分に開發されてゐない。

氣候はいはゆる南洋の常夏の國で、一年を通じて大體雨期と乾期となつて居り、暑氣の一番高いのは四月、五月で、六月から九月までは概して雨期であるが、十一月より二月までは乾期で、一年中最も快適の季節である。氣温は平均温度華氏七九・三度、時として六〇度に下降する事があり最高でも九十度以上は少ない。

沿革

「発見」 フィリッピン群島の発見せられたのは十六世紀の頃で、即ち西暦一五二一年にポルトガルの航海者フェルナンド・デ・マゼランによつてセブ島が発見せられたのが群島発見の濫觴と云はれてゐる。

マゼランは一五二一年三月十六日、サマール島の山影を望み、四月七日セブ島に上陸した。彼はセブ島長を征服すべく對岸のマクタン島に於て戰闘中不幸にして斃れ

た。比島が一代の冒險兒マゼランによつて発見せられた報一たび歐洲に傳はるや、風雲兒の東洋を目指して來るもの種を接し、中にもスペインは屢々兵船を繰し比島遠征を試みたが終にレガスピール將軍に依つて一五六五年セブを、次いで一五七〇年マニラを占領、斯くて比律賓は全くスペインの領有に歸した、時のスペイン王フリップ第二世の名を冠してフィリッピンと名付け、廣く世界に知られるに至つた。

「獨立運動」 フィリッピンは以上の如く十六世紀の中葉から十九世紀末に至るまでスペイン領であつたが、その間大小二十六回もの獨立計畫があり、數千のフィリッピン愛國者はその運動に生命を捧げてゐる。

最後の獨立戰爭の起つたのは丁度わが明治三十一年に當り、アギナルド將軍が總指揮官となり各地に奮戦した。その眞最中キューバ問題に因を發して、米西戰爭が起り、遂にスペインはフィリッピンを米國に割讓する事になつたので、フィリッピン軍は米國を相手にして戦つたが、利あらず明治三十三年米領となつた。

この獨立運動には當時憲政會の領袖であつた中村彌六博士一派が原嶺大尉を指揮官として多數の義勇兵を送つてフィリッピンを援助した事は今でもフィリッピンの老兵間に感激新なるものがある。占領當時の大統領であつたケソン氏も、當時一少佐として原大尉と同じ陣營にゐたものである。

その後三十餘年間、フィリッピンの獨立運動はケソン、オスメニヤ等により續けられ、昭和十年十一月十五日、米國はフィリッピンに聯合政府の樹立を容認し、昭和二十一年には完全なる獨立を與へる事を約した。然しこの完全獨立の手形を渡した米國は、老獪にも、對日軍事據點なるを理由に、軍備を増強する一方、獨立を空文化せんとする運動が續けられてゐた。

「皇軍占領」 米國はフィリッピンをして對日進行の軍事基地として軍備を増強し、この地を據點として東亞侵略に強弁し我國の國力を過少視し、米、英合作の上、對日壓迫を加へるに至り、遂に我が國は昭和十六年十二月八日米、英に對し宣戰した。

フィリッピン攻撃部隊は十二月十日フィリッピンに壯烈なる敵前上陸を敢行し、以來各地の要塞を攻略、米軍の最後の據點と恃んだコレヒドール要塞も昭和十七年五月六日遂に敵將ウエンライトは我軍に降伏を申出て、翌五月七日フィリッピンの敵全軍は皇軍に降伏した。

米西戰爭後、米國がフィリッピンを領有してより四十四年、米國の東亞侵略の最大據點は脆くも潰え去り、フィリッピンは我國の占領に歸し、今や南方共榮國の一翼として新たる發足をするに至つた。

人種と言語

フィリッピンの人口は全部で一千六百五十萬人で、その

約九割がいはいゆるフィリッピン人で、馬來系に屬するもので、在留外人は約十萬で中、支那人は最も多く、これに次いで日本人、米國人、西班牙人、英國人といふ順序である。四世紀間スペイン領であつた關係上スペイン人との混血兒が多く、男子はこれを「メスチソ」女子は「メスチサ」と呼び、自からその混血兒たる事を誇としてゐる。また支那大陸との交通が早くから開けてゐたので支那人との混血兒も少くない。混血兒は概して純マレー系人よりも文化の程

主要産業事情

フィリッピンの産業は西班牙領時代は産業として見るべきもの殆んどなく、本格的發展を見たのは米領となつて以後の事である。商業上の地の利もよく、地味また肥沃でありまた四面海の國として水産業に好適され、一方地下埋藏の鑛業資源も豊富な、所謂寶庫の國であるが現在未だ各般の産業は發展の域に達せず、今後の開發を待つてゐる國となつてゐる。

農業

比律賓は農業國であり、農業は同國産業の根幹である。即ち比島輸出貿易の約九割が、農産物によつて占められてゐる。耕地面積は三百七十一萬三千ヘクタールで全面積の一二

度高く、且進取的である。言語はタガログ、ビサイヤ、ピコール、イロカノ等二十餘の地方語が使用され、スペイン語と英語が標準語となつてゐたが、我國占領後は官廳の告示、裁判所等の用語は日本語とフィリッピン語が使用される様になり、又國民學校の初等教育書はフィリッピン語の外昭和十七年六月より日本語が正課として併せて行はれてゐる。

・五%に相當するが、未墾地はなほ約九百萬ヘクタールを有してゐる。農産物として主なるものは米、甘蔗、マニラ麻、煙草、玉蜀黍、椰子等である。

「米」は邦人と同じく住民の主要食物で、政府でも極力増産を奨励し、自給自足の域に達せしめやうと努力されてきた結果、現在大體自給の域に達してゐるが、尙一部を佛印及タイ國より輸入してゐる。

「甘蔗」は主としてネグロス、ルソン、バナイ、ミンドロ島でその植付面積約二十六萬ヘクタール、産額は約五十五萬トン、その大部分は分蜜糖で米國へ向けられてゐる。粗糖は支那方面に送り出されてゐる。

「麻」はいはいゆるマニラ麻で、植付面積は約五十萬ヘクタール産額十八萬五千噸である。主産地はダバオ州にして

全産額の六割はわが邦人移住者の生産であり、邦人の比律賓産業に貢獻してゐる事極めて大である。

「煙草」はマニラ煙草の名をもつて世界に著聞である。大部分は葉巻として海外に輸出され、近年日を逐ふて栽培面積は増加される傾向にある。

「玉蜀黍」は比律賓穀類作物中第二の地位を占め、群島到る所に栽培されてゐる、セブ、オリエンタル、ネグロス、ボホール地方では住民の常食として用ひられてゐる。

「椰子」比律賓の椰子は世界需要の約三〇%を産して氣を吐いてゐる。土壌石灰質に富み、海岸線が長い為、その發育も完全で、人工に依らざるも尙相當の收穫がある。高さは普通十五六呎から三十呎、稀には五、六十呎を越すものもある。

林業

全面積の約六割の千六百萬ヘクタールが林業區であるから、如何に比島の林業の洋々たるかを知る事が出来る。全島四十八州中イロコス州とセブの二州を除く外は有用林の密生であり殊にコタバト、ダバオ、パラワン、サンボアンの諸州はその八割が森林地帯で各百萬ヘクタール以上を藏してゐる。主なるものは産額の七割を占めるラワンを第一に、ティンダム、アビトン、ラムバヤウ、ナラ、イビル、モラベ等の建築材、造船用としてはラヌタン、ギーホ、ワルガイ等である。

牧畜業

島内到處牧草が繁茂して自然的條件に恵まれ、肉類の需要並に家畜の使用も逐年旺盛なるに拘はらず、その割合に畜産業の發達はおくれて居り、近時政府により鋭意、發展に努力されつつある。

主なるものとしては、牛、馬、山羊、羊等であり、牛は比島牛、印度牛、ムルタニ、その他雜種の大體六種であり馬は比島馬、濠洲馬、米國馬が主な種類である。水牛は耕作用又は運搬用として盛んに用ひられてゐる。豚は群島到る所に放し飼ひされて居り相當旺んでゐる。

鑛業

比島の鑛業は第三世紀から着手せられて、金は當時既に採掘され、裝飾品に用ひられてゐた。鑛業資源としては、金は山嶽州、マスバテ島、カマリネス、ブラカン、ミンダナオ等に埋藏され一九三九年の産金額は一億五千萬圓を超えてゐる。次は鐵鑛で全島各地にあり、鑛石として我國へ輸出されてゐる。鐵鑛中一番大きいものとしてはスリガオでその埋藏量約五億噸と推定されてゐる。この外クロム、マンガン、銅、ニッケル鑛等も埋藏されて居り日本へも年々相當輸出されてゐる。

水産業

四面海の國にして群島到る處、幾多の漁場に富み、天恵的環境にあるも水産業の發展は遅々として進まず、漁撈法の如きも幼稚にして原始的域を脱せず、僅かに港灣の魚獲により附近部落の需要に應ずる程度なれば、却つて年々四十萬ベソからの魚貝類を外國より輸入を仰いでゐる。若し近代の科學的漁撈法をもつて發展を圖るならば、自給自足はもとより水産國としての發達も決して困難ではない。ここに於て邦人にして水産業に進出するもの次第に増加し、殊にマニラ灣附近の漁業は魚獲高の五割餘は邦人の掌握する盛況となり斯業又大いに發展の途を辿つたが、その後舊比律賓政府の外人漁業禁止法が施行された結果、新らたなる進出發展が抑止されてゐたが、今や我國の占領以來邦人發展の舞臺となつた。速からず邦人の手により自給はもと

邦人の發展地ミンダナオ島

フィリッピンに於ける在留邦人二萬五千のうち、二萬の邦人が雄飛活躍してゐる大寶庫ミンダナオ島とはどんな處であらうか。

面積は群島中ルソン島に次ぐ第二の大島で、その面積は三萬六千九百平方哩、我が北海道と略同じであつて、人口は僅か八十萬人餘、一平方キロ僅か二十二人の密度よりなく、島内はその殆んどは未開の處女寶庫であり、地味肥沃、幾多の資源に恵まれてゐる大寶庫である。

よりの事、尙且海外輸出に轉じ得るものと推定されてゐる。

工業

比律賓に於ける工業は近々二十年の間に相當の發達を遂げてゐるが、比律賓そのものが原料生産を中心としてゐる關係上、概して不振の状態である。これは西班牙時代の植民地政策として植民地は原料國として搾取し、加工品は自國品を供給するの政策を傳統的に執り來つた結果、その領土民は工業的進出の餘地を與へられなかつた事により、これが今日迄、この方面の發達を遅らした誘因ともなつてゐると云はれてゐる。

現在僅かに製糖、製油、煙草、洋灰、製鋼、製帽、酒製貝卸製造業が比較的發達されてゐる。

邦人はこのミンダナオ島のダバオ州を中心として發展してゐる、ダバオ州の人口はフィリッピン人約十一萬、モロ族等の未開人が八萬人、米國人が百五十人、支那人が二千五百人で、わが邦人は二萬餘人から發展し、その八割はマニラ麻の栽培に活躍してゐる。主なる農企業としては、太田興業株式會社、古河殖殖株式會社、バト殖殖株式會社、ピソ農牧株式會社、松岡興業株式會社、ミンタル殖殖株式會社、バヤバス殖殖株式會社等々數十の邦人企業會社がダ



ミンダナオ島は至る處森林に蔽はれ、無盡を誇る寶庫に

ペオを舞臺に發展し、マニラ麻の栽培に雄飛、フィリッピン全産額の六割は實にダバオに於ける邦人の手により生産されてゐる。邦人無くしてフィリッピンのマニラ麻は語られない優勢を示してゐる。

一方商業界にも邦人の發展は素晴らしく、ダバオ市の商店の大半は邦人經營の店であり、先方人を壓倒して根強い商網を張り發展してゐる。

水産業

邦人の漁業に進出するもの近時増加されつつある。かつては邦人の漁業は幾多の法律的制肘を受けてゐたにも關はらず、占領當時既に船持二百人、漁師一千人、二十隻の船を持ち、組合を組織して、一年三十五萬ベソの水揚高を示し、ダバオ市内外の邦人の手により供給してゐた。魚類も豊富で、まぐろ、さばら、いか、えび等は殆んど無盡蔵といはれ、將來鱈節、罐詰等に進出するならば目覺ましい發展を示すであらうと云はれてゐる。

ダバオを中心とする二萬の邦人が、占領前土地問題をはじめとして森林法、漁業法、營業取締規則、移民制限等のあらゆる排日的壓迫屈辱を忍んで築いてきたこの地も今こそ我等の前に門戸が大きく開かれた。

ミンダナオはフィリッピンの持つ最大の未開の寶庫であ

り、マニラ麻、米、椰子、コーヒー、棉花、タバコ等の農産に、林業に、牧畜に、水産に、商業にとあらゆる資源を擁する大寶庫として邦人の雄飛を待つてゐる。

太田恭三郎氏の功績

フィリッピンを訪ねる人は誰もが、ミンダナオ島ダバオのミンタル原頭に太田恭三郎氏の記念碑を見るであらう、これを我が邦人の、ダバオ開拓の功績を物語る金字塔である。

氏は兵庫縣朝來郡竹田町の産、明治九年二月生る。東京一ツ橋高商に學び、學半ばにして海外雄飛を志し、濠洲、木曜島を視察し、歸途香港に寄港の折り日比貿易の有望に着目し、マニラに渡航、雜貨貿易を計畫したのが抑も氏がフィリッピンに足蹟を印した第一歩であつた。

當時空手空拳にて敢闘し、よく邦人の中堅として活躍した。彼のベンゲット道路開發に入工した千數百名の邦人を指揮し、明治三十八年ミンダナオ島のダバオに進出し、血の滲む様な苦闘を続け、未開の蕃人と闘ひ、原始林を開拓し、ともすれば挫折せんとする同胞を指導する等幾多の茨の道を切り拓き、麻栽培をなし、ダバオをして今日の邦人の發展地たらしめたのであつた。氏の着眼は遠大にして雄渾、眞に植民人の面目を發揮し、氏の事業は見事なる成果を擧げ、今日の太田興業の基礎を築いたのであつた。比島の大學教授を聘して水道工事を完成し、又は要路を動かした。

太田、第三の太田が出現せんことを祈つて止まぬものである。

主 要 都 市

マニラ市 は人口六十萬、フィリッピンの首都にして、政治、文化の中心地であると共に、商工業都市でもある。市街はラグナダ湖よりマニラ灣に注ぐパシグ河口に降り、東北六哩に亘つてゐる。

マニラ市はパシグ河を境として北が商業區、南が住宅區となつて居り、埠頭附近は倉庫地區にして近くにスペイン時代を偲ぶ古色蒼然たるイントラムロスの舊城がある。一五九〇年頃土匪に對する防備のため築造せるもので高さ二十呎乃至三十呎、周圍約二哩に及ぶ。城内には政府官廳、議事堂、學校、水族館、教會、兵舎等がある。

市内で見るとルネサ公園、愛國の志士リサールの碑、熱帯植物園、水族館、博物館、邦人旅行者が必ず參詣し、南進先覺者に類く日本人墓地等がある。

バギオ マニラ市の北方二百五十キロに海拔千五百米の高山都市バギオがある。マニラ市民の避暑地として風景絶佳、夏季は官廳主腦部が此處に避暑するので一面政治の中心もまた此處に移る。平時人口約一萬、夏期になると約二倍に達する。マニラからここに到るベンゲット道路は實に邦人勞働者千五百名が開拓したものであり、フィリッピン邦人先驅者の手によるもので、沿道到る處奇勝絶景を縫ふて

て植民的諸施設を實施せしめたる等、特筆すべき功績は枚擧に遑がない。惜む可し快男兒太田恭三郎氏は遠大の雄圖を抱きつつ病を得て大正六年四十二歳の壯齡を以つて不歸の客となつた。氏が如何に内外人に偉大なる信望があつたかは、大正十五年ダバオ州知事の建碑の趣意書が之を物語つてゐる。曰く

社會的地位に於いては敢て高きに居らざりしも、その抱懐する理想は崇高且偉大なりし太田恭三郎氏の形骸土に歸してより既に七星霜を經過せり。ダバオに於て氏を知らざるものありや、氏は實にダバオ現在の發展を創成せるもの一人なりき。氏は日本人の特性を享け卒直勤勉、不屈不撓の性格に加ふるに先見の明識あり、職蜂の如き不撓の努力を以つて此の地方に筆を起し、天然資源の開發に努力し曠野を拓きて沃野となし、以つてその無盡の生産を興し、國の爲め、又市の爲め地方經濟的繁榮の基礎を築けり。氏は不幸その事業の完成を待たずして業半に燈れしが其熱心なる後繼者は氏が嘗て夢見し計畫を實現し遂に今日見るが如き諸般の農企業を實現せり、吾人は氏の遺業が今や本地方民衆に對し偉大なる恩恵を興ふるの顯著なるを認識し體験せざるを得ざるなり。吾人此地方に住するもの内外人の別なく決して氏を忘れる事なく却つて日を追ふて益々敬慕の念を生じ氏を記念すべく責任を感ずるに至れり。

太田氏の功績を語りて餘す處なし、吾人特筆して太田氏の植民的功績を記録すると共に我が植民事業の上に第二の

走るベツゲット道路こそ邦人移民にとつて忘れることの出来ない記念物である。附近に日本人が野菜栽培に當つてゐる者が多い。

セブ セブ島の東岸に位し、マニラから三百六十八哩、人口の上ではフィリッピン第二の都會で人口約十萬、歴史的には最古の都會で、前面に横たはるマクタン島には群島發見者マゼランの碑がある。

ダバオ ミンダナオ島のダバオ灣内にあり、人口約十萬奥地に栽培されるマニラ麻輸出港として有名である。ダバオ市内には邦人商店が楯比し日本街の感がある。この地方に於ける邦人の發展振りは目覺しく、ダバオを中心として麻の生産に従事してゐる勢力は絶大で、フィリッピン生産のマニラ麻の大半は邦人の手により占められてゐて、その多くはこの地を中心にして生産されてゐる。現在約一萬數千名の邦人が活躍してゐる。

レガスピ ルソン島の南端に位し、人口約五萬の都會、その背後に八千呎の秀麗マヨン山があり、美しき雄姿は我が富士山を思はせ、邦人はルソン富士と呼んでゐる。火山系で時々活動を始め豪壯な煙をたなびかせてゐる。

イロイロ市 はパナイ島の東南端、パナイ河畔に在り、

イロイロ島の首府にして人口八萬、フィリッピン第三の都會である、スペイン時代相當繁榮した町である。米領となつてから對岸のネグロス島が比島第一の産糖地に活躍したため、砂糖の輸出港として繁昌したが、最近ネグロス島のブルバンダンの開港により少なからず打撃を被つてゐる。



北岸のカピスへは鐵道が通じ島内砂糖の輸送に當つてゐる。在留邦人約五百人にして、日本國民學校があり、邦人商社も相當進出してゐる。

我が國と比律賓とは足利時代の末期から豊臣時代にかけて兩國の交通は漸く頻繁となり、倭寇も十六世紀の半ば頃から南へへと驥足をのびし、潮流の赴くまゝ進出した。天正十四年にはマニラからスペイン船が平戸に入港しキリシタン傳道師が續々渡來する様になり、泉州堺の魚屋助左衛門がマニラに乘込み、數年にして巨萬の富を得て歸國した、また肥後の原田孫七郎、同苗喜右衛門が盛んにマニラ貿易をやつたのもこの時代であつた。殊に喜右衛門は單なる商人ではなく政治的手腕があつてスペイン人大官と幾多の交友があつた。スペインの東方政策が漸次日本を侵略すべきを觀取して、先手を打つてルソンに進出する事を秀吉に建言し、秀吉は原田を使者としてマニラ總督ダスマリニアスに來貢を勸告したが、その實現を見ずして秀吉が他界した。當時日本とマニラ間を御朱印船が往復していはゆる南蠻貿易をやつてゐた。關ヶ原の戦ひで豊臣の殘黨が續々新天地を求めてルソンに渡航し、マニラ附近に居住するもの、その數三千に上つたが、その後鎖國命により本國との交通を斷たれ邦人は遂に土着するの止むなきに至つた。現在バクサンハンやタール等には邦人の遺蹟や容貌骨格の日本人に酷似したものがあり、また同地方の名家には祖先より傳はつたといふ日本刀や兜などがしばしば見出される。

邦人發展の狀況

發展の歴史

我が國と比律賓とは足利時代の末期から豊臣時代にかけて兩國の交通は漸く頻繁となり、倭寇も十六世紀の半ば頃から南へへと驥足をのびし、潮流の赴くまゝ進出した。天正十四年にはマニラからスペイン船が平戸に入港しキリシタン傳道師が續々渡來する様になり、泉州堺の魚屋助左衛門がマニラに乘込み、數年にして巨萬の富を得て歸國した、また肥後の原田孫七郎、同苗喜右衛門が盛んにマニラ貿易をやつたのもこの時代であつた。殊に喜右衛門は單なる商人ではなく政治的手腕があつてスペイン人大官と幾多の交友があつた。スペインの東方政策が漸次日本を侵略すべきを觀取して、先手を打つてルソンに進出する事を秀吉に建言し、秀吉は原田を使者としてマニラ總督ダスマリニアスに來貢を勸告したが、その實現を見ずして秀吉が他界した。當時日本とマニラ間を御朱印船が往復していはゆる南蠻貿易をやつてゐた。關ヶ原の戦ひで豊臣の殘黨が續々新天地を求めてルソンに渡航し、マニラ附近に居住するもの、その數三千に上つたが、その後鎖國命により本國との交通を斷たれ邦人は遂に土着するの止むなきに至つた。現在バクサンハンやタール等には邦人の遺蹟や容貌骨格の日本人に酷似したものがあり、また同地方の名家には祖先より傳はつたといふ日本刀や兜などがしばしば見出される。

その後日比の交渉の始つたのは明治二十一年で、マニラに帝國領事館が開設されたが邦人は殆んど無かつた。明治三十六、七年頃マニラよりバギオに通ずるベンゲット山路開發工事に従事するため千數百名の邦人労働者が渡航し、さしもの難工事を完成した、この完成後、太田恭三郎青年が指導者となり、これら労働者を率ゐてダバオの原始林開拓に着手した、これがダバオを今日の隆昌に至らしめた原因である、現在ダバオには二萬の邦人が十萬町歩のマニラ麻を作り、そして常に數萬のフィリッピン労働者に職を與

在留邦人の現狀

へ、フィリッピン生産のマニラ麻の六割をこのダバオから産出せしめてゐるのである。フィリッピン全體では邦人數約二萬六千であり、ミンダナオ島に二萬、その約九割が麻の栽培に従事し、マニラに約四千人で、これは會社員、商店員が約千五百人、次いで漁夫が約千人以上であり、その他は雜貨店とか色々な仕事に進出してゐる。バギオ附近には約千三、四百人で野菜作りや商人等が主で、イロイロに約四百人、セブに約三百人の邦人が居り、漁業にこの約三分の一以上が従事してゐる。全體を見ると邦人の八割は麻栽培に活躍して居り、残りの二割が商業、漁業、會社員、商店員等でまた林業、加工業その他の方面にも活躍してゐる。

邦人團體名簿

比律賓

- カガヤンバレー日本人會 (會長) 平吉 辰雄
- ルソン島カガヤン州アパリ 早川 豊平
- バギオ日本人會 安上 又一
- マウンテン州バギオ
- ヌエバ・エシハ日本人會
- ヌエバ・エシハ州カバナツアン
- マニラ日本人會

- ルソン島マニラ市ブラサモラガ 小林茂三郎
- インシユラーイフビル五一五號
- マニラ日本商業會議所 山本 恒男
- ルソン島マニラ市フロリアートラード
- アンドコムマニスビル五〇九號
- マニラ日本人相互信用組合 井上初三郎
- ルソン島マニラ市ビ・パテルノ街五一七 諸隈 彌策
- カビテ日本人會
- カビテ州カビテマータース六五號

進出する邦人事業商社

◇太田興業株式会社

本社 大阪府東区大田
資本金二百萬比、明治四十一年創立
故太田恭三郎氏の設立せる會社にして
ダバオに於ける邦人企業會社の雄を誇
るもの、マニラ麻、椰子等の栽培及生
産に活躍する一方、病院、農事試験場、
發電所、製氷工場等の附帯事業を經營

多角的發展を遂げてゐる。内地支店を
東京市麹町區山下町東洋ビル海南産業
株式會社内に置く。

◇古河拓殖株式会社

本社 大阪府東区大田
資本金五十萬比、同社は太田興業
と並び稱せられてゐる事業會社でマニ
ラ麻の栽培及椰子園の經營に活躍する

資本金百四十萬比、同社は大日本麥
酒、三井物産、大阪貿易、それに先方
人の有力者の合辦會社で、麥酒の醸造
販賣に發展してゐる。

◇東洋シャツ製造株式会社

本社 マニラ市アナンルナ街四五
同社はワイシャツ、洋品、帽子等の
製造販賣に當り、獨特の方面に進出發
展してゐる。資本金八萬比、社長竹本
登氏。

◇大阪貿易株式會社

本社 マニラ市キヤツボ區チ
ヤケ街三三二
資本金二百萬比、同社は雜貨、食糧
品、綿糸布等の輸出入貿易に活躍する
一方、小賣部大阪ベザーを經營發展し
てゐる。

◇バヤバス拓殖株式會社

本社 大阪府東区大田
麻及椰子園を經營活躍してゐる。資
本金約十萬比、取引高三十萬比内外と
稱され、堅實なる發展をとげてゐる。

◇株式會社岩井商店

本社 大阪府東区北濱町四丁目

ピコル日本人會

ルソン島アルバイ州レガスビ郵函十五號

イロイロ日本人會

パナイ島イロイロ市郵函一三五號

イロイロ日本人商友會

ネグロス日本人會

ネグロス島西ネグロス州

セブ日本人會

セブ島セブ州セブ市郵函四三號

ダバオ日本人會

ミンダナオ島ダバオ州ダバオ市郵函一三二號

後藤 清喜

高江洲伊藏

深田 菅治

米持 寅治

中居經太郎

ダバオ日本人栽培協會

ミンダナオ島ダバオ州

ダバオ市(太田興業會社内)

ダバオ日本人漁業組合

ダバオ市

ダバオ日本人青年團

ダバオ市商會

ダバオ市サンベドロ街郵函二五七

ダバオ市日本人會

ダバオ市日本人會

小川山三郎

太田興業會社

小川山三郎

戒能 三郎

高山辰次郎

數森 佳一

◇バシラン興業株式會社

本社 サンボアンガ州バシラ
ン島アトン・アトン
資本金四十萬比、同社はバシラン島
に於て椰子の栽培に發展、コブラ製産
に活躍してゐる。

◇合資 稲田兄弟商會

本店 マニラ市アスカラ街一七四九
第一支店をリサル街、第二支店を
タボラ街に置き、邦品の輸入販賣に活
躍してゐる。創立昭和二年、資本金十
五萬比、仕入部を大阪市西區親上通り
三ノ二に置いてゐる。

◇角川貿易商會

マニラ市サンニコラス區
サントス街一〇二九
一般雜貨卸小賣業、昭和十二年創立
内地出張所東京市芝區田村町二ノ一及
神戸市神戸區海岸通り五丁目置く。

◇横濱正金銀行マニラ支店

マニラ市ビノンド區セル
パンテス三四
資本金一億圓、本店横濱市、我國に
於ける對外爲替銀行としてはその雄を

誇るものであり内地主要地をはじめ海外各地に支店を置いてゐる。

◆臺灣銀行マニラ支店

マニラ市ビノント区ナシヨナル街シテイ銀行ビル一階

資本金壹千五百萬圓、外國爲替業務其他一般銀行業務、同社は臺灣各地又内地五大都市、支那各地、南洋、印度、倫敦、紐育に支店を置く。

◆大平礦業株式会社

支店 マニラ市 イサタペラール街八六八

資本金五十萬圓、創立昭和十一年、同社は比島嶺山の開發、並に比島ベイスメタル輸出を目的として設立されたもの、取引高年三百萬比、本社大阪市北區中ノ島三丁目朝日ビル。

◆大同貿易株式会社

支店 マニラ市ダスマリニヤス街

一般輸出入貿易、本店神戸市市戸區浪花町五七でフイリツピンではマニラの外セブ、イロイロ、ダバオの各主要都市に支店網を張りて活躍す。

◆ダバオ商業株式会社

ダバオ州ダバオ市郵函一四一

てマニラ麻の栽培に活躍してゐる一方食料品の販賣も經營し、發展を遂げてゐる。

◆南ダバオ興業株式会社

本社 ダバオ州ダゴン郡ラサン

資本金二十萬比、ダバオ州ラサンに於てマニラ麻農場を經營、麻の生産に發展してゐる、創立以來三十年餘、社長は赤峰三郎氏。

◆株式森自轉車商會

マニラ市サンタクロス區
リサール街七一三

資本金三十萬比、同社は自轉車及附屬品直輸入製造販賣に當り製作工場をリサール州サンファン・エスパニヤ街に置き活躍す、支店セブ市、マガリアネス街。

◆ピン農牧株式会社

ダバオ州ピン

資本金十七萬五千比、實際投資額は數十萬比と云はれてゐる。椰子株數十萬本、コブラ生産高七千ピクル、牧場を經營、牛をやつてゐる。

◆バト拓殖株式会社

ダバオ州バト

資本金十萬比、同社は製氷、冷蔵、清涼飲料製造、代理店業、椰子栽培等に活躍す。創立してから二十數ヶ年に於て堅實な發展を示してゐる。

◆ダバオ農商株式会社

ダバオ州シガボイ郡ラウニオン

資本金七十萬圓、マニラ麻を栽培してゐる一方牧畜にも進出し、牢固な地盤を築いて發展してゐる。

◆ナシヨナルゴム工業株式会社

マニラ市外バサイ町ルナ街
二〇一五

資本金五十萬比、同社は日・比・支の合辦會社にして、社長は金ヶ江清太郎氏、副社長はエル・アール・アギナルド、同吳筍來、ゴム加工品製造に發展してゐる。

◆マニラ石原産業株式会社

本社 マニラ市フアンルナ街
ウキルソソビル三〇四

資本金壹百萬比、同社は我が石原産業海運株式会社の姉妹會社で、昭和十一年創立、鑛業開發及礦物の輸出業に活躍す。

同社はダバオ州バトに於て麻栽培に活躍する一方、牧畜業にも進出し又椰子の植栽にも進出する等多角的農牧業として發展してゐる。

◆松岡興業株式会社

ダバオ州ダゴン郡ラサン

資本金三十萬比、麻及椰子栽培、耕地面積約一千町歩を有し、麻六百町歩、椰子二百町歩、生産麻月一千ピクル、コブラ年産千五百ピクル。

◆サンボアンガ殖産株式会社

比律賓サンボアンガ州パシラン島

資本金六十八萬比、椰子栽培に發展する一方、護謨園を經營し、又牧畜にも進出し、食牛を放牧して獨自の方面に進出發展してゐる。

◆ダゴン商事株式会社

ダバオ州ダゴン郡ラサン

資本金二十五萬比、三井物産系、ミランダオ島ダバオ州タグモに約八萬五千町歩の伐採權を持ちラワン材等の製材に活躍してゐる。

◆ラブニコ木材株式会社

ダバオ州ラブニコ

◆金貨メリヤス株式会社

本社 マニラ市トンド區アス
カラガ街五二九

資本金六十萬比、同社は大阪の金貨メリヤス株式会社の傍系會社で第一、第二、第三工場を有し、綿製品製造、メリヤス類の製造及び販賣に活躍してゐる。

◆三井物産マニラ支店

マニラ市ナシヨナル街
シテイ銀行ビル二階

一般輸出入貿易業及代理業、フイリツピンではイロイロ市、ダバオ市等各主要地に出張所を置いてゐる。

◆三菱商事マニラ支店

マニラ市ナシヨナル街
シテイ銀行ビル四階

一般輸出入貿易業、フイリツピンにも出張所を置き、日・比貿易に發展してゐる。我國では三井物産と共に代表的のもの。

◆南ミンダナオ興業株式会社

ダバオ州ダバオ市ローヤン

資本金一五萬比、同社はダバオに於

資本金十六萬比、同社は古河拓殖系の會社にして、四十萬比を投じて森林區と製材工場間輸送鐵道二五キロを敷き一萬町歩に互る伐採權をもつて、伐木、搬出、製材に活躍してゐる。

◆比律賓産業株式会社

本社 神戸市神戶區江戶町八一ノ二

支店をマニラ市ビノンド區ホワン、ルナ街に置き、カシグラン、ブツアンキノギタン、イリガン、スリガオを事業地として林業に活躍する一方、農産業にも進出活躍中。

◆スマギ木材株式会社

本社 マニラ市エスコルタ街
レヒナビル

フイリツピン、ミンドロ島スマギを事業地として活躍、製材所を有し、丸太材、製材事業に飛躍的發展を示してゐる。

◆日比企業株式会社

本社 大阪市大正區小林町一一〇

木材輸出業、支店をマニラ市エスコルタ街サマリオビル三階三二九號自營事業地をタバサ州ポリリヨに置き林業に雄飛してゐる。

佛領印度支那篇

位置・面積

佛領印度支那は亞細亞大陸の南端、北緯八度から二二度東經九八度から一七〇度に亘つてゐる。北は廣東、廣西、雲南の支那諸省と、西はビルマ、タイと境を接し、南西はシヤム灣に、東は支那海に臨み、この印度支那半島の東半を占めてゐる。

總面積は七十四萬四千平方キロであつたが、昭和十六年にタイ國との失地回復紛争が起き、戦火を交へたが、我が帝國の調停により、かつて佛印がタイ國より侵略したラオス及カンボヂヤの兩地區より六萬九千四百四十平方キロをタイ國に返還した結果、現在は六十七萬九千八百八十平方キロとなつた。丁度我國の總面積（朝鮮、臺灣、樺太を含む）と稍等しい。

領土は東京（首都河内）、ラオス（首都ルアンブラバン）、カンボヂヤ（首都プノンペン）、安南（首都順化）、交趾支那（首都西貢）の五地區よりなつてゐて、その中純然たる佛國の領土は交趾支那だけで、他の四土侯國は佛國の保護國となつてゐる。

地域別にその面積とその人口を示せば（一九四〇年）

地域	面積	人口
安南	一四七、六〇〇平方千米	五、六五六、〇〇〇人
東支那	一一五、七〇〇平方千米	八、七〇〇、〇〇〇人
東支那	一八一、〇〇〇平方千米	三、〇四六、〇〇〇人
老支那	二三一、〇〇〇平方千米	一、〇一二、〇〇〇人
交趾支那	六四、七〇〇平方千米	四、六一六、〇〇〇人

佛國は總督を任命して統治に當らしめ、その下に交趾支那には植民地政廳を置き、他の東京、安南、東埔塞、及老過にはそれぞれ理事廳を置き、前者は植民地長官これを統轄し、後者は各理事官が駐在して土侯の政治を指導し二重政治を行つてゐる。

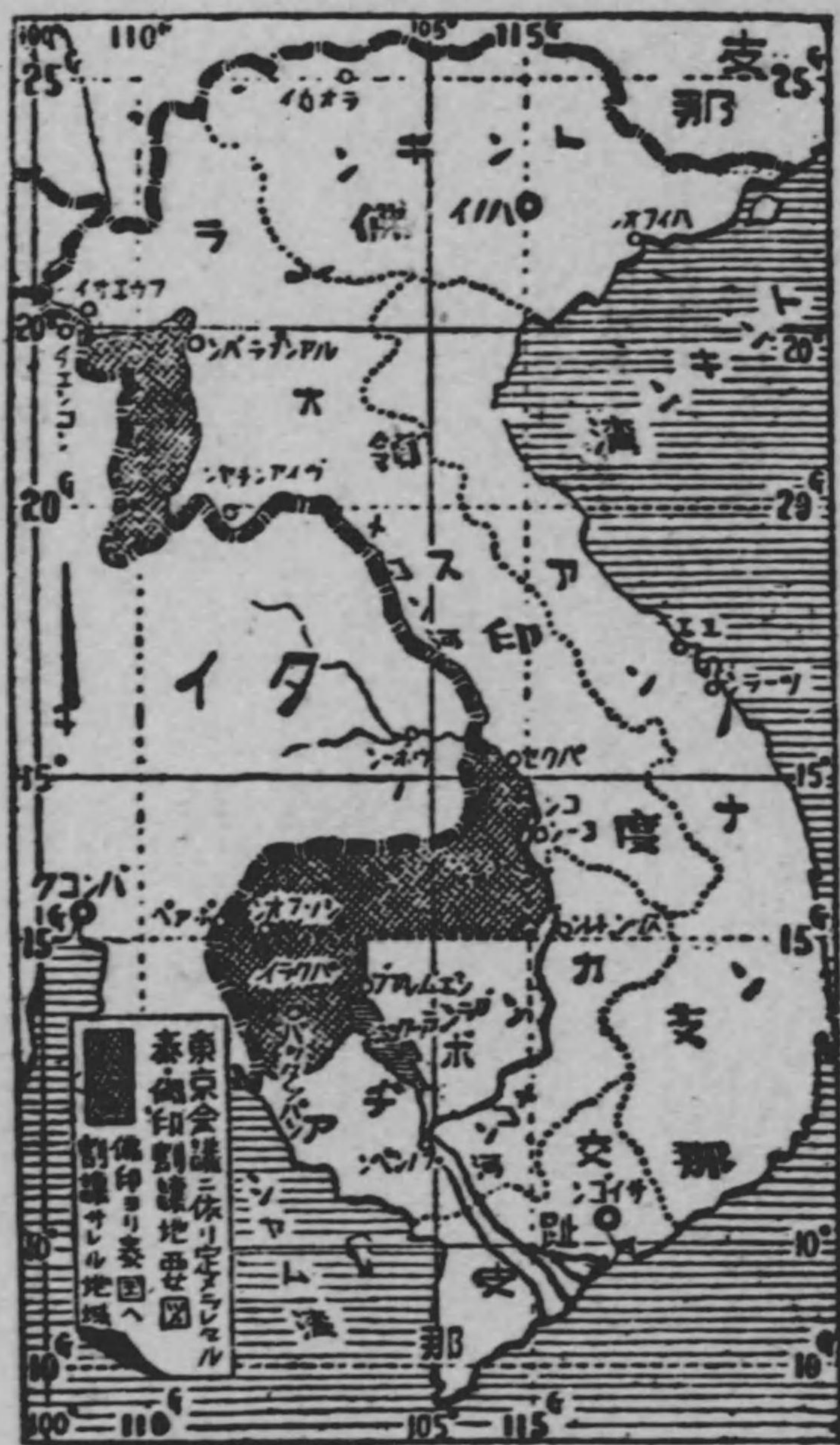
文化方面より見れば、交趾支那、カンボヂヤは概して印度文化の影響を受けてゐるに反して、安南、東京、ラオスは著しく支那の影響を受けてゐる。即ち文字の如きも共通であり、服装も頗る近似し、風俗習慣も支那の延長と見ることが出来る。これらは地理的關係から往時より支那とは密接な交渉が續けられて來たに起因する。

地勢・人口

地勢は西藏より南走する分嶺たる安南山脈が東京の要部からラオス、更に南下して安南を縦貫し交趾支那の境に盡き、安南の南部に於ては海岸に逼つて斷崖絶壁となり、また峻嶒な岬角や島嶼を現出させてゐる。河川の主なるは

リージュ河、紅河、クレイク河、タイベン河、メコン河等で舟楫の便よく、リージュ河は東京平野を潤し、メコン河はラオス、カンボヂヤ、交趾支那の大平原を灌漑し、その流域は廣漠たる肥田を造り、佛印の米産はこれによつて榮えてゐる。

人口は二千三百萬人で、その中、安南人が一千六百六十八萬人を占め、カンボヂヤ人が二百九十二萬五千人



タイ人が百萬人でその他はインドネシア人、ムオン、マン、モイ、馬來、チャム等である。人口密度は全體を通じて、一平方千米當り三十一人で、地方別にすると安南三八人、カンボヂヤ一人、東京七五人、交趾支那七一人で、メコン河、紅河、流域地方が最も稠密してゐる。

一九三八年調査によれば、フランス人は三萬七千人、支那人は僅か二百二十三人に過ぎない。支那人は東印度及マレー地方はその數各々百萬を越ゆるも佛印には近接にあり乍らその數少なきは、佛印が從來他國人には各方面に排他的政策を行つてゐる結果による。

風俗・言語

佛印は風俗を異にする多數異種族を抱擁してゐることで世界でも餘り類例の尠ない位であるが、中に全人口の約七割を占めるは安南人であり、次いで一割五分はカンボヂヤ人であるから佛印を語るに安南人とカンボヂヤ人を以つて致す結果となる。その他タイ族、チャム族、ミュオン族

マン、メオその他の未開種族等の少数民族であり、その風俗や言語、宗教も色々異つてゐる。

安南人は男女ともダブ／＼の洋袴の上に、袖の細い上衣を着け、髪は束にして頭上に巻き、それに鉢巻やうに布を巻いて、耳飾りや頭飾りをつけ、竹製の陣笠の様な笠を被つてゐる。一般に快活動勉であり、言語は安南語を使用して居り、食物は大體支那に似通つてゐる。住家は掘立小屋に等しい至極粗末な建築が一般である。

カンボチャ人は一般に體格優れ、肩巾廣く丈高く、男女共に散髪の風がある。男は猿股やうのものの上に腰巻に似たものを巻き、女は肩掛のやうなもので胸を掩ふてゐる。家屋は極めて粗末であり、食物は米、魚、野菜、果物等を常食としてゐる。食事に箸の代りに右手の指を使い、食後指と口を洗ふ常習である。快活で忍耐強く一夫一婦制を嚴守してゐる。言語はこの方面はタイ語が用ひられてゐる。タイ族は大體カンボチャ人と殆んど變りなく、その他の少数民族はそれ／＼の地に散住して居り風俗習慣等も多少異にしてゐる。

宗教

世界的に名高いアンコールワットが佛印にあるといふ事でも知れる通り、大體に於て佛敎國であるが、地方によつて厚薄の差がある。安南人の知識階級は佛敎の感化が濃厚であるが一般は祖先尊敬の風が盛んであり、また自然物崇

拜の觀念が相當深く、殊に虎の崇拝は最も廣く行はれてゐる。カンボチャ人は佛敎が主であつて、男は學校卒業後約三ヶ月間は僧侶を修業するの風がある。その他バラモン敎の名残りが王廷内に今でも窺はれる。タイ族の宗教は主に佛敎で、ラオティアン族は全部佛敎に凝り固つてゐる。チャム族は安南に住む者とカンボチャに住むものによつて信仰を異にし前者はバラモン敎、後者は佛敎を奉じてゐる。

氣候

佛印の氣候は各地方によつて異つてゐるが、大別すれば北部は亞熱帯、南西部は熱帯であるが總體的に見れば熱帯の氣候である。

交趾支那は夏冬の差は殆んどなく、謂ゆる常夏の國である。年平均攝氏二十七度で最高温度は三十四、五度に昇ることがある。カンボチャは交趾支那とほぼ同様で平均二十六、七度、安南は地勢が南北に長大である關係上北部のトンホア附近は二十三度、中部の順化は二十五度、南部ナントランは二十六、七度で、南北の差が三度以上である。東京は最北部に位する關係上氣温は最も低く、乾燥期には十度から八度位まで低下することも珍らしくない。ラオスはその地形なりに安南に準じてゐる。

湿度は一般に高く、その中でも一番高いのは東京、デルタ地方及北部地方である。雨量は交趾支那及びカンボチャは毎年雨期が一定し、五月—十月の期間は可成り雨量を見

るけれども、その他の季節は少ない。東京地方は雨期だけでなく、乾期に入つても相當の降雨があり、安南もまた雨

主要産業事情

概説

佛印は亞細亞の南部に於いて最も物資の豊富な國であつて、フランスの數多い植民地中、東洋の「眞珠の國」として最大の寶庫とされてゐる。

氣候暖潤に恵まれ、地味到る處豊饒にて知られ、農業の天惠的樂土にして佛印の産業の大宗は農業によつて占められ、米産を第一に護謨、玉蜀黍等の産額も極めて多く輸出の大半は農産物を以つてしてゐる。

一方地下に眠れる鑛業資源は石炭、錫、鐵鑛、亞鉛、タングステン、マンガン、クロム等の多數の重要資源を蔵してゐる。而して佛印の産物を消化し得る國は東洋に關する限り、日本を除いてはない、ここに大東亞共榮團の一環として將來發展すべき素地がある。

一方我國からは、陶器、ガラス器具、雜貨、綿糸布が入つてゐるが、從來より佛印は佛國により排他的政策をとられ、佛印は佛本國の原料供給地となり、フランス製品の販売市場として存在され、佛印住民はフランス本國の利益のためのみ生産せられ、然して日本製品には最高關稅をか

多く温度の高いのはこの爲めであるが南方に行くに従つて少量となる。

けて輸入を防止し、遙々一萬マイルも離れたフランスから粗悪なる品を高價に販賣される消費市場となつてゐた。

これは資源開發の場合も同様な政策をとられ、産業開發のためには全然鎖國的的政策により外國資本を歓迎しない。その結果外國人が佛印で各種企業を試みる時、法規上差支へなき場合でも事實上種々なる困難に遭遇する事が多かりしたため總ては佛國の手による外なく、全産業は沈滞され、未だこの寶庫にして農業を除いては見るべきものなき状態におかれてゐる。

鑛業や護謨園を經營する場合も、個人は佛人又は佛印人に限られ、法人なる場合は本社を佛本國又はその植民地に置き、重役の四分の三は佛國人又は植民地、若くは保護國人たることを必要としてゐるから、外國人はこの規定によつて先方人と合同の上でなくては、これらに従事することが全然出来なかつた。

以上の如く商業では高率關稅をかけられ、一方産業進出も亦禁止状態にあるから、從來より邦人の發展は遅々として進まず、一部貿易銀行商社員や船會社、官吏と少數のその他居住者で昭和十五年度の在住邦人は僅か三百名内外に

過ぎない状態にあつた。

以上の如く政治的にも経済的にも鎖國の鐵鎖につながれてゐた。されば佛印の産業は停滞的な畸形的な發展を餘儀なくされ、今日に至るも「磨かれざる眞珠」として止り、フランス本國の利益を中心とする産業、貿易政策に支配され専ら原料と食料の供給地で本國商品の市場としての役割を強制されて人為的に諸工業の發展は阻止されて來た。

しかし世界の秩序は今、新たな變革期に入つてドイツに完全に屈服した佛本國の經濟力、殊に生産力が果して、從來通り佛印を自己の獨占市場として行く事が出来るであらうか、經濟的鐵鎖は佛國自身の誤まれる國策によつて自ら解かれなければならぬ時代が來た。

今また、東亞に新しき世紀を劃する大東亞戰の勃發により佛印の獨善的政策はその根底から立て直しの必要を決定的ならしめた。佛をして東亞の指導國家たる我帝國の援助なくしてその存立は不可能なるに目醒め、遂に昭和十六年に我國と共同防衛條約を結び、更に十七年七月日佛印の經濟提携協定の成立を見るに至り、ここに二世紀に亘り鎖國の佛印は、東亞の佛印として甦生し、邦人の進出を呼ぶ共榮圈の一翼として今や新たな發足を示すに至つた。

農 業

佛印は農業國であり、産業の大宗は農業が占めてゐる。輸出貿易の約四分の三は農産物である。その中でも最も重

要なものは米で輸出の過半を占め、次いで玉蜀黍、ゴム、コブラ、落花生、蓖麻子、胡麻、カボック、胡椒等である。

「米」はメコン河流域のカンボヂヤ平原と、交趾支那の平原、特に河口のデルタ地帯と安南の高臺からトンキンのソンコイ河流域の平原までは總て米作好適地であり、前者は西貢米、後者はトンキン米と呼ばれて名高い。

トンキン地方は二回作、中に三回作もある。各地方別面積及産額を示せば

地名	作付面積 (千ヘクタール)	年産額 (千キントナル)
交趾支那	二、〇六四	二一、二一六
トンキン	一、二一三	一四、二二四
安南	九三二	九、二〇〇
カンボヂヤ	七一〇	五、〇七〇
ラオス	四一三	三、二六〇
合計	五、三三二	五二、八七〇

「護謨」は一八九八年初めて佛人により移植されたものでその栽培は最初から近代的農業として發展し、一九〇六年頃から急速なる發展を示し、一九二九年には七萬八千六百ヘクタールに増加した。一九三〇年世界的恐慌の打撃を受け一萬三千五百ヘクタールに激減したが、その後獎勵金下附、輸出保護法の制定により恢復し、一九三七年には十二萬七千ヘクタールに増加した。主なる生産地は交趾支那で東北部カンボヂヤの東南部及安南の南部で栽培面積の七七・四％は交趾支那で占めてゐる。

「玉蜀黍」は米と共に佛印住民の主要食物であり、また輸出も米に次いでゐる主要産物で、カンボヂヤ、メコン河沿岸が主なる産地で近年は品種の改良その他で政府の増産政策により著しくその産額は増加されてゐる。

鑛 業

農業に次ぐ重要産業は鑛業である。採掘はフランス侵入以前より安南人及支那人により行はれてゐたが、近代的企業として發展したのは佛國資本の企業によるものである。

鑛産資源としては石炭を第一とし、次いで錫、亞鉛、鉛、鐵、銅、マンガ、アンチモニー、金、銀、タングステン、燐鑛等で、豊富な埋藏量を有してゐるが石油は未だ現はれてゐない。埋藏量も未だ正確を缺き、今後の調査に俟つものが多きが相當大なるものと云はれてゐる。

現在の主要鑛産物の生産高は、石炭の二百二十萬噸（中六割はゆるホンゲイ無煙炭）錫の二千五百噸、亞鉛の一萬二千噸、タングステン四百噸、鐵鑛の一萬噸、マンガンの三千五百噸、アンチモニー一千噸、燐鑛一萬噸、その他硅砂、鉛、金、銀等である。

佛印の鑛産物は殆んど東京地方より産出され、ラオスの錫はこれに次ぐ、その他の地方は地質の關係或ひは運輸交通の不便等により、未だ開發されてゐない。

佛印の鑛業は從來外國資本の企業を制限してゐた結果、その殆んどは佛國資本によつて行はれてゐた。

昭和十六年日佛印經濟協定の成立以來我が資本の進出が開始され、印度支那鑛業會社（臺灣拓殖の小會社）資本金十萬ピアストル、鐵鑛資源開發を目的として昭和十三年設立。印度支那鑛業會社（臺拓小會社）資本金百萬ピアストルがタングエンで鐵鑛をはじめ種々なる非金屬の開發を目的として昭和十六年設立、更に同社の投資によりコデインのニツケル、クローム會社は一九二七年一千萬フランの資本金をもつて設立されたが、一九三〇年以來經營不能となり爾來十ヶ年間休業となつてゐたが、今回我が資本により復活され採掘を開始するに至つた。

その他老海地方の老大なる燐鑛開發に印度支那燐鑛開發業は漸く資本金百萬圓が燐鑛開發に乗り出す等、佛印の鑛株式會社開發の緒についた。

林 業

佛印の總面積の五割七分即ち四千三百四十萬ヘクタールは森林である。佛印の氣候は熱帶濕潤の氣温にして植物の成長極めて早く、自然的好條件に恵まれて、到る處未だ大森林を形成して居り、ラオス、カンボヂヤ、安南、トンキンの山岳地帯は原始林に覆はれ、特にラオスは二千四十萬ヘクタールの森林面積を占め、森林の海と稱されてゐる。材種は建築用材として適するものだけでも約八百種に達し、特にチーク、リム、トラク等が重要なものである。一九三五年の調査統計によれば總面積七千四百四萬ヘクタール中、森

林面積は四千二百四十萬ヘクタール、保護林面積二百八十八萬ヘクタール、伐採面積四十八萬九千ヘクタールで森林收入二百七萬三千ピアートルであつた。
林産物としては建築材五十一萬七千立方米、燃料材百三十六萬六千ステル、木材四千七百四トンであつた。

水産業

佛印の海岸線はその延長二千七百軒に及び、海産物は甚だ豊富である。漁撈方法は未だ幼稚の域を脱してゐないが、漁獲高は相當の額に達し現在既に輸出品中の主要なものの一つとなつてゐる。これ地理的に恵まれ附近の魚族また豊富なる處からであらう。

漁業はトンキン灣、安南海岸一帯、及交趾支那海一帯で特にアロン灣附近に最も盛んである。交趾支那沿海は五月から九月まで南西の季節風の關係より漁業は殆んど不可能とされてゐるが、その他は好漁場と云はれてゐる。漁業は主として支那人の手により行はれてゐる。

漁獲物の大部分は鱈、鹽漬、燻製として輸出され、魚脂は近年化學工業用として需要激増されてゐる、その生産額二千五百トン、乾、鹽、燻魚、合計三萬五千トンをあげてゐる。

尙カンボヂヤの大湖は天然の養魚池ともいふべき魚族豊富で西貢から輸出される水産物は多くこの湖の淡水産物である。更にトンキン、安南、交趾支那の鹽田は天日製鹽がある。

沿岸地方で營まれてゐる。

牧畜

植物の生育盛んなる地方は牧畜に適されてゐる事はいふまでもない。佛印の牧畜は未だ盛んなりとは云はれざるも牧畜は農家の副業として又役畜食用として飼育されてゐる最も盛んなるはカンボヂヤ地方である、種類は、水牛、黄牛、馬、豚、羊であつて最近佛印政府により畜産奨励されつつあり、各地方とも近時、漸次その數を増加してゐるが未だその數は詳かでない。

工業

佛印の工業としては多少の纖維工業、製油、石鹼工業、煙草工業等があるが、極めて小規模で、特に工業として特筆するほどのものはない、たゞセメント工業が幾分發展されてゐて、トンキン地方に於て一〇萬トン程度の生産をあげてゐるのみである。

佛印は佛本國の原料地となり、佛本國の工業製品の販賣市場として育成されて來た佛印としては、その發展は殆んどなく、未だ家庭工業の域に停滯してゐる現狀に置かれてゐる。

資源豊富な佛印にして工業の發展策を講ずるならばその將來は實に洋々たるものがあらう。

貿易

貿易は高率關稅の障壁で嚴重な防衛をしてゐたから殆んど本國との取引が主になつてゐる。(單位百萬ピアートル)

食料品	輸出 九四	輸入 一二
工業原料	三三	二一
精製品	四	五七
計	一三〇	九〇
(國別輸出入) 輸出(百萬フラン)	輸入(同)	
佛蘭西	四三二、七(三三%)	四九九、九(五五%)
香港	二二五、一(一七%)	七一、九(八%)
支那	一九七、三(一五%)	七〇、七(七%)
舊蘭印	二八、五(二%)	五四、四(六%)
日本	五四、〇(四%)	二六、三(二%)
米國	五五、八(四%)	二一、一(二%)

これを今度は各地域別に見ると、佛蘭西統治の機式と、佛印の開發内容がよく判る。

安南	輸入 三〇、七二三	輸出(單位千フラン) 二七、五〇四
カンボヂヤ	六、二五九	六、一五六
交趾支那	五五九、〇八五	一、〇四六、五〇五
ラオス	一一、六二三	一、四六八
トンキン	二九二、七一一	二一六、六五〇
計	九〇一、四〇三	一、二九八、二八三

從來は以上の如く佛國の經濟に緊縛されてゐたが第二次歐洲大戰で獨逸に屈服した佛國と佛印との聯絡は斷たれたここに佛印をして東亞共榮圈の一翼として立直らざるを得ない事態となり一九四一年佛印は我國と共同防衛條約を結び更に日・佛印經濟協定を締結、以來佛印貿易の大半は我國との間に行はれる様になつた。

主要都市

西貢(サイゴン) は交趾支那の首都で、人口約十五萬、西貢河の右岸にあり、佛印第一の經濟都市であると共に重要な佛印の海軍根據地でもある。よく區劃された美しい都市で、總督及植民地長官の官邸、市立劇場、公會堂等の華麗な建築物や、紳商の住宅等近代様式の建物が軒を並べ、綠蔭らしい街路樹も調和よく、街全體が公園を想はしめて

ゐる。當港は印度支那第一の商港で、二萬噸級の巨船數十艘を同時に横付するだけの設備があり、繁盛を極め、西貢米の輸出港で、佛印南部地方の貨客の往來が盛んである。堤岸(シヨン) 西貢から約五キロ、運河、電車、鐵道等により連絡されてゐる。堤岸は純然たる支那式の都市で人口約十五萬、ここは盤谷、蘭貢と共に世界三大米市場と

して著名であり、輸出米は西貢港を經由するため、西貢米と云はれてゐる。

プノムベン 西貢から西北三百キロ、人口八萬、カンボヂヤの首府で、五朝の宮殿があり、佛國理事館が駐在してゐる。國王の伽藍ワスプレア寺の名は世に著名にして、市の博物館には古代藝術の珍奇の數々が藏せられ、所々の寺院の勝景、壯麗な東埔塞王宮、古代劇場など遊子の足を止めさせてゐる。又當市は有名なアンコールの廢墟へ巡禮する人々の集まる地として知られてゐる。

海防(ハイフオン) 人口八萬、トンキン第一の商工業都市にして、東京米の輸出港として有名であり、また雲南鐵道により遠く支那雲南省をもその後背地としてゐる。市街は美しい歐人街と、古風な安南人の、支那街とに分れてゐて、各種製造工業が勃興されつつある。

河内(ハノイ) 人口十五萬、トンキンの首都で、その名の示す如く紅河の本支流に挟まれた市街、鬱蒼たる樹木に囲まれた大建築物の連なる歐人街と、安南人町とに分れてゐて、昔の王城や寺院、佛國極東學院やその附屬考古博物館等は有名なものであつて、フランス人はこの地を小巴里と呼んでゐる。尙我國とタイ國間の航空路の中繼地として知られてゐる。

順化(ユエ) 人口八萬、安南の首都で安南王の宮殿がある。昔ながらの風俗を残してゐる。大安南山脈が市街を圍み一方にのみ海が開け、王城の地に相應しい地形を備へて

ゐる。市街は香河を挟み對岸には佛人街があり、佛國理事官がこの地に駐在してゐる。

佛印に於ける邦人の發展

發展の歴史

倭寇以來徳川時代の鎖國まで佛領印度支那は日本人の活躍舞臺であつた。中でもカンボヂヤはその中心であつた。一六三七年(寛永十四年)和蘭人の記す所に依ると日本人八十戸カンボヂヤに在り、王室の護衛に任じ馬來人、支那人を畏服せしめた、とあり。

一六〇〇年頃、和泉の國境に納屋助左衛門といふ商人があり、手廣く南洋貿易を營んで巨利を占めてゐたが、その生活豪奢を極めるに至つて遂に秀吉に家財を沒收され、彼は飄然として佛印に渡り、その地で貿易を營み後、港務官に任ぜられ、日本貿易の監督をしたといふ事も傳へられてゐる。

更に一六〇三年(慶長八年)カンボヂヤ國王書を幕府に寄せ獅角八、鹿皮三百枚、孔雀一對を贈り、内亂鎮壓の爲め武器を求めたに對して家康は大刀二十把を送つた事が歴史に見えてゐる。

文祿元年には京都の人、角倉了意といふ者が秀吉に請ふて御朱印狀を得て安南貿易を營んで巨利を博した。これが寛永の國外渡航禁止令の出る迄五十年間續いた。當時角倉

氏の船に書記として乗組んでゐた徳兵衛といふ少年があつた、彼はその後一六三〇年オランダ人ヤンヨウスの船に乗つてシヤム、安南の地方を巡遊して歸つた。當時この地方を我國では唐、天竺といつてゐたので、屋號を天竺屋と稱し、「天竺屋徳兵衛物語」を著して長崎奉行に献上した。

この外、近江の安南屋太郎右衛門、長崎の荒木宗太郎、伊勢の角屋七郎兵衛等が盛んに安南交易に活躍して名を爲した。當時安南には日本人街さへ出来てゐた。

然るに徳川幕府はキリスト教を怖れて鎖國令を出し、一切日本人の海外發展を禁じ、あまつさへ海外にある日本人の歸國をも禁じた結果日本人の跡を絶つて仕舞つた。

在留邦人の現況

佛印へ再び日本人の渡航を始めたのは明治四十年代から大正の初期にかけてであつた。華僑の優勢と民度の低位、加ふるに政府の排外的政策のために極く最近までは大した發展の跡を示してゐない。而して佛印に在住する邦人は大正四年の七百五十六人を最盛期として年々減少の途を辿り明治十一年度は僅か二百五十二人、昭和十三年度には二百二十三人であつた。

邦人は主として貿易商社や船舶關係者、個人商店等での家族を含めた數としては、極めて不振の状態におかれて

ゐた。

日支事變が開始されるや、授蔣ルートとして反日的色彩が濃厚であつた佛印も、第二次歐洲大戰により佛本國がドイツへ屈服する處となり、一方南支より授蔣ルート遮断のため北部佛印に皇軍が進駐し、更に昭和十六年日佛共同防衛條約により南部進駐となり、次いで日佛印經濟協定成立等により佛印もその性格を一變し日、佛印の居住航海條約は日、佛印相互間に於て入國、居住、動産、不動産の所有及使用、商工業の經營、各種租税の賦課、日、佛双方の會社の待遇に關しては主として内國待遇、若しくは最惠國待遇を與へる事となり、又關税に關しては相互最惠國待遇を約する外、佛印の主要日本品に對する關税免除(食糧、その他必要品四十數點)、又現行低税率の輕減(綿布、雜貨類百三十點)を認め、その他日本品は最低税とする事が決定され、航海、居住に關しては、先方人と同等の立場におかれるに至つた。

佛印も東亞共榮圏の一翼として新たなる發足を迎へ、友邦日本の協力と資源開發の待望により最近邦人の進出は飛躍的增加を示し、商業に鐵業へと邦資の進出も一段と明朗化されてゐる。在留邦人も現在推定一千五百と云はれる躍進ぶりを示してゐる。

邦人團體名簿

海防日本人會 西貢日本人會 西貢テスタード路二四號 村上 竹松
 海防ハウルビル四號保田洋行氣付 西貢日本人商業會議所
 河内日本人會 河内日本領事館氣付 吉井 昌平 西貢ジョージゲイネマー路九號 東地 正一

進出する邦人事業會社

◇佛領印度支那鑛業株式會社

本社 河内市ジャロン街
 資本金壹百萬圓、昭和十六年度設立
 同社は臺灣拓殖の小會社にして邦系の佛印鑛業進出の先陣としてハノイ北方七〇キロの地にあるタンゲン鐵鑛の採掘に躍進を續けてゐる。

◇印度支那ニッケル鑛業株式會社

事業地 安南州コティン
 資本金百萬圓、昭和十六年度設立、一千フランの資本をもつて建立されたが技術的問題より經營不能となり爾來十ヶ年間も休業中の處、今度日本技術

をもつて採掘開始するに至つたもの、特色は砂鑛クロームで、埋藏量數百萬トン、數十年間内地の需要を充すに足ると云はれてゐる。

◇印度支那燐礦開發株式會社

本社 海防ブルナ街一〇
 資本金百萬圓、昭和十六年度設立、同社は大日本燐礦、三菱商事、江原吉之助氏(老海燐礦の功勞者)、伊坂誠之助氏等を大株主として設立されたもので、ニーナ、ヴィウエットその他の十一礦區で老海燐礦區の大部分を占めて居り、その將來は大いに期待されてゐる。

◇印度支那産業株式會社

本社 河内市ジャロン街
 資本金十萬ピアストル、臺灣拓殖小會社、昭和十三年度設立にして、同社はハノイ北方七五キロの地にある太原の諸地方にて鐵鑛、マンガン等の採掘に發展してゐる。

◇臺灣拓殖株式會社

本社 臺灣臺北榮町三ノ一
 資本金千三萬圓、同社は佛印の鑛業界に進出して居り、印度支那鑛業、印度支那産業等の小會社を設けて、鐵、マンガン、その他鑛業資源の開發に當り、佛印に於ける邦系企業の魁けをなして發展してゐる。

◇南洋拓殖株式會社

南洋群島パラオ・コロール
 資本金二千萬圓、内南洋の開發に雄飛してゐる一方、佛印にも進路を開きマンガン、燐礦等の採掘に進出を示してゐる。又東印度にも雄飛の準備を示す等同社の今後の動向は大いに注目されてゐる。

◇三井物産株式會社

東京市日本橋區室町二ノ一
 支店を西貢に置く、我が對外貿易商社として、その雄を誇るもので、早くより佛印にも進出し、日、佛印貿易に活躍、一方鑛業方面にも進出を示してゐる。

◇三菱商事株式會社

東京市麹町區丸ノ内二ノ二〇
 資本金三千萬圓、支店を西貢に置く、三井と並んで海外貿易に活躍す。佛印が排他的政策にあつた當時より、よく佛印に地盤を築き砂の採取及日、佛印貿易に活躍した大會社。

◇三興株式會社

大阪市東區北區五ノ三五
 資本金三千六百萬圓、同社は伊藤商事、株式會社丸紅商店、同岸本商店の同族會社を合併したもので支店を西貢に置き、綿糸布、邦品雜貨等の輸出及佛印物産の輸入に活躍してゐる。

◇大南公司

佛領印度支那、交趾支那、西貢
 同社は現地に於ける雜貨商としては代表的のもので、綿糸布、邦品雜貨の輸入販賣に發展してゐる。河内に支店を置いて活躍してゐる。

◇保田洋行

海防ハウルビル四號
 同洋行も現地に於ける邦人商店としては著名なもので、邦品雜貨の輸入販賣商として活躍してゐる。海防での邦商として一般の信認も厚く堅實なる發展ぶりを示してゐる。

タイ 國 篇

起ち上るタイ

今より八十年程前、ヨーロッパで發行された世界地圖を見ると、東南アジアの一隅に英佛の植民地に挟まれながらも、獨りよく、白象の旗の下に獨立してゐるシヤムといふ國がある。そして廣い國土に人口僅か五百萬を超えず、象の國で、産業は見るべきものなしと記されてゐる。

この時代のシヤムは西歐の人々の注意を惹く様な政治的經濟的な何物もなかつた、ただ東洋旅行者により東南アジアにおける自由の聖地として、その熱帯美と藝術的香りの高い高層な佛教寺院とが僅かに印象づけられてゐるに過ぎなかつた。

而して目ま苦しく回轉する世界歴史から取り残され、久しく桃源の夢を食つてゐたシヤムが一九三二年六月、一青年士官であつたピア・パボンの指導する歴史的クーデターによつて永き眠りより目覺めた。クーデターの目的は當時王宮内に政治的實權を左右してゐた外人勢力と歪曲された政治家の打倒で祖國の自由と愛國の本能に導かれ國家の興

隆と國民の幸福を目標とする立憲君主政權樹立にあつた。以來卓越せる手腕を有するこれら指導者により國內の諸制度の改革を圖ると共に、一方漸く近代的國家意識に目覺めた國民の祖國の再建といふ大旗下に團結し、着々堅實な歩みを進めてきた。その後、幾年かの變遷を経、一九三九年六月革命七年記念を契機としてタイ(自由と幸福の國)と國名を變更し、東洋においては日本に次ぐ強國たらん事を目指して新興の意氣に燃え、躍進を續けてゐる。

最近に至つては、かつてフランスに侵略された國土の返還を要求して起ち、佛印と交戦し、而して英、米の策動を排して我が日本の調停を受け、東京會談により佛印より六萬九千四百二十平方キロの返還を受け國土を擴張した。

又今次大東亞戰爭勃發するや、英、米の壓迫を敢然と退け我國と攻守同盟を結び、アジア人のアジア建設大理想實現のため皇軍と共に勇敢に戦つてゐる。

位置・面積・人口

タイ國は北緯二〇度、東經九七度より一一五度の間に位

し、その面積五十八萬二千八百六十七平方キロで、わが國の二倍に稍等しく、人口は一千六百五十萬で、その密度は僅か二七人に過ぎない。假りにタイが日本の現狀と同じ國力に到達したならば、優に一億の人口を抱擁し得るであらう。

地勢は北から南へ傾き、北方と東西兩方の國境は、山岳重疊し、深山幽谷に富める高原地帯で、南下するに従つて山は漸く低く、溪は次第に廣がり遂に南部一帯は一望千里の大平原を展開し、メナムの大河はその中央を貫流し、大小の支流と共に國の大動脈を爲してゐる。又その東には流域百六十哩のパンバコン河、西に二百六十哩のメクロン河が共にタイ灣に注いでゐる。

タイの氣候は乾雨の兩期にわかれ、乾期即ち十一月より四月にわたり、この間降雨を見ないが、雨期には毎日一時間乃至二時間位、沛然たるスコールを見る。氣候は四月が暑さの絶頂で日中室内華氏九十二度―九十五、六度に昇るが、空氣が乾燥してゐるから我が國の東京より凌ぎ易く、しかも夜になると涼氣訪れ空には南十字星が鮮かに輝き熱帯特有の清涼な氣温となる。一年を通じて理想的季節は十二月頃で朝夕六十二、三度―四、五度に低下し我が國の春を偲ばせる。

信仰と風習

國民は一般に従順の美風を有し、自國を呼ぶにムアンタ

イ(自由の國)といひ、佛教はその國の教へであつて、國王は「法の守護者」をもつて任ぜられ、國民の大多數は佛教信者である。

一名黄衣國とも云はれてゐるが、それは僧侶の着けてゐる黄衣を意味するので知られる様に、都會は勿論、如何なる僻村に行つても立派な寺があり、僧侶が澤山ゐる。この國では一生涯中男子は必ず僧侶となつて修行せねばならぬ習慣がある。短かい人で二、三ヶ月、長いものは一、二年に互るものがある。タイ國の寺院數は一萬六千、僧侶の數は十三萬であるが、これは専門の僧侶の數でこれに修行のものを加へたら莫大な數に上るであらう。上は王族から下は農夫に至るまで、佛教に對する信仰が極めて厚く、僧侶は一般から非常に尊敬されてゐる。従つてタイの風俗、祝祭年中行事は殆んど皆、佛教に基いてをり又美術工藝も佛教を外にしては存しない。

タイ人の階級は六等に分れてをり、主として官吏や軍人に與へられるけれども、それ以外でも特に國家に功勞のあつたものに與へられる、軍人は容易にこれを得られるため都會の青年達は何れも官吏軍人を希望する、國民の大多數は農民であるからタイの社會は貴族及官吏、軍人と農民とに分れ、前者は比較的文化生活を營んでゐるが、後者は陋屋に住み、粗衣を纏つてゐる。商人は支那人、印度人等が多い。

タイ國人は、かつてはタイ人特有の原始的パノングを腰

から下に鑑ひ、又女子に断髪の風習があつたが、熱烈たるタイ新國家建設の指導者ピブン首相は新國民運動を提唱し

女子の断髪を禁止し、一方歩行に跣足の生活を禁止する等新興國家として國民の品位向上に努め、新興國として濶濶たる生氣を見せて躍進してゐる。

「言語」泰國には泰國語があり一般の商用語として専ら國內で使用されてゐる。上流社會にては英語が通ずる。

財政・軍備

タイ國の財政は一九三二年革命政府樹立當時は不振のどん底にあつたが、漸次新政府の基礎が鞏固となるにつれ、鮮かな赤字財政を克服し、健全財政に立直つた。

この國の政治的動向は軍備を中心として動き、かつて常備軍が一萬であつたものが、現在數萬といはれ、また機械化部隊の性能も極めて優秀で、その裝備はドイツ、チェッコその他の國より購入せる近代科學の精粹を誇り得るものが使用されてゐる。



て、昭和十六年九月にタイ國民服裝令を出し、ペノングの使用を嚴禁し、ベシン(スカートの様なもの)を使用し、又

海軍は革命前僅か十五隻の舊式軍艦によつて編成されてゐたが、最近に於いてイタリヤ建造の五千噸級巡洋艦二隻

を主力として、その他建造計畫のものまで含めて五十隻を越えんとし將來アジアに於て日本に次ぐ海軍國としての發展を期してゐる。
空軍は最近獨立軍團となり、その所有機は四百機を超へテーマン操撃機、ヴレタ戰闘機などの優秀機である。
タイは青少年の愛國思想普及を計りつつあり、現在十一歳以上の青少年によつてユワチヨン(少年團)が組織され義務的の軍事教育が施されてゐる。

ユワチヨン運動の目的はタイは英佛の壓力によつて國境軍備が著るしく制限されてゐたためその對策として非常時國防に任すべく組織されたもので、これと同時にユワナリスといふ日本の女子青年團の如きものがあつて、ユワチヨン少年團員は「タイの夜明の時が来た、祖國旗の下我等の戦ふところ、斷じて守らん、若きタイの國土を」國歌を高唱し、ユワナリスの團員は「我等の傷つく勇士のために」の歌を聲高らかに歌つてゐる。

主要産業事情

農業

泰國は「米の國」といはれてゐる國で、米は泰國の國民經濟の根幹をなしてゐる。メナム流域の沃野を初めとして幾多の平野は米田として耕され、その總面積は二千萬乃至二千万萬ライ(一ライは千六百平方米、我が一段六畝四分)に上り、全耕地面積の九割八分に達してゐて、米作に従事する農民は、全人口の八割を超えてゐる。その年産額は四百五十萬トン内外にして、その三分の二は國內の消費に充てられ、残りの三分の一が輸出されてゐる。泰國は佛領印度支那及ビルマと並んで世界に於ける三大輸出國となつてゐて、一九三九年に於けるタイ米の輸出額は百八十六萬餘トン(一トン約七石)に達し、一億六百萬銖であつた。

林業

タイは世界有数の森林國で、少くとも總面積の七割を占め、その殆んどは千古斧鉞の原始林である。林業資源はタイでは米に次ぐ重要資源であつて、同國經濟に重要な位置を占めてゐる。しかもチークに至つては世界最大の供給

地として知られてゐる。

この國産出のチーク材は他國産に比し、木質特に堅く、水に對する抵抗力が強い上に、金屬と接觸するも容易に腐蝕しない特色をもつてゐると云はれ、世界市場に獨特の地位を占めてゐる。従つて船材として最も好適されてゐる。一方建築用材としても優秀といはれてゐる。第一次大戦當時の好況時代には一ヶ年輸出一千二百萬銖に上つたが、その需要不振となり居れるも近年漸次恢復し一九三九年度の輸出高七百三十六萬銖に達した、この他香水、染料、テレピン油、松脂、ステークラック等が林産物として主要なものである。

鑛業

泰國の鑛業資源としては、金、錫、銅、鉛、アンチモン、一鑛、石炭、タングステン、モリブデン、石油。寶石ではルビー、サファイア等が埋藏されてゐるが、從來この國は英佛の二國が深い關係を持つてゐて、英佛二國の資本によるもの外企業が許可されず、又泰國自身も開發を諸種の事情で行つてゐなかつたもので従つてその殆んどは眠れる資源となつてゐる。

企業化されてゐるのは錫のみで、これは主として南部方面にあり、その埋藏量は無盡藏と稱されてゐるが、國際錫制限協定に参加してゐた關係上その採掘量は一ヶ年二百萬トン内外であつた。

その外小規模だが企業化された金鑛が南部トモ地方にある。含有量は一トンにつき五〇瓦を示し、有望なる將來性が傳へられてゐるが、現在フランス人によつて經營されてゐる、將來特許期限が満了の場合これを國營に移されるものと推察されてゐる。

水産業

將來有望なる産業としては水産業である。海は淺く、河川は網の目の如く、その上魚類の食餌である浮游生物が豊富なので、魚類の繁殖生育に好條件を備へてゐる。

主なる魚族は鮫、鱈、鰹、鯛、鰯、カニ、エビ、青刀魚、鰻、その他の鮫類等で、漁業者は主としてマレー人、支那人、安南人である。マレー半島の東西兩沿岸、中央部沿岸、東海沿岸の三區域を主要な漁場としてゐる。特異の水産物としては鰐と海龜がある。

淡水漁業はメナム大河を初め、メクロン河、パンパコン河、その他の河川沼澤に鯉、鯰、鰻、スツボンその他の魚族豊富にして、住民の日常の副食物となつてゐる。その漁撈法は極めて原始的で、組織的企業はないが、それでも以上の沿岸漁業と淡水漁業を合して漁獲は國內需要を充して尙年額三百萬銖からを南洋諸島に輸出してゐる。

畜産

泰國の畜産業は、氣候風土と四期植物の繁殖により相當

の發展を示してゐる。種類としては農耕牧畜として水牛、黄牛が斷然多く、馬がこれにつき、又豚は食用に供する外輸出に向けてゐる。又象は運搬用に飼育されて珍重されてゐる。

水牛は家畜の筆頭に於いて米作轉耕や脱穀に使用される處から農家では二、三頭がら數頭は飼育して居り、五百五十萬頭といはれてゐる。

黄牛は役畜でもあるが、又食用としても重きを置かれて居り、高原地方では輸送用にこれを使役して居り、五百五六十萬頭を數へ、輸出家畜として豚に次ぎ、又牛皮も重要

な輸出品となつてゐる。

象は泰では法律で保護されてゐて、昔は戦争に用ひたが現在ではチーク材の搬出に用ひてゐる、國內現在数は約一萬頭で、價額は千五百銖内外となつてゐる。

馬はポニー種で丈は四尺内外であるが、比較的健脚で暑熱に對する耐久力は強いが、力量少く運搬に速せず乗馬用が主で全國で三十萬頭内外である。

豚は輸出家畜として第一位にあり、百萬頭以上といはれて居る。

主 要 都 市

サラブリー(新國都) 當市はバンクワックの東北約百二十キロ、メナム河の支流バサク河に沿ふ都會で、一九四二年六月二十四日(我が昭和十七年六月) 同國革命記念日を期し新首府の定礎式が擧げられ、新興タイ國の國都となつた。

政府各官廳等の近代的宏壯を誇る大建築物は新たに建設され、市街整然として理想的新設計により國都としての偉容を誇り、各國外交使節の公館はバンクワックよりこの地に移され、かつては一小都として世に知られなかつた當市も今や新興タイ國の政治の中心地として繁盛を加へ躍進されつつある。

曼谷(バンコック) はメナム河口より約二十五哩にあり

タイ國中部平原を貫流するメナム河に跨る都會で一九四二年六月まで首府であつた處で、人口約六十五萬、うち華僑が三十萬といはれて居る。

同國第一の都會であり、貿易港であつて輸出入物資の八九割は當港を経由して行はれてゐる。市内到る處、天を摩する寺院の高塔が聳え、聖地の國タの大都會たるを首肯させる。メナム河に臨む王宮は白壁の城壁を繞らし、その周圍は舗裝路四通八達し、近代建築楯比し、同市の中心街となつて居る。王宮を中心に附近の諸官衙を含む一帯を城内と唱え、その周圍の城壁壘壁は往時の名残りを今なほ留めてゐる。

城内に聳ゆる王室菩提寺ワット・ブクオ寺院は、チャクリー王朝の時代のものにして壯麗な美観を誇つてゐる。國立圖書館、博物館はタイ國の史實、秘書、寶物を集めて著名である。

アユチャ はアユチャ王朝時代(一三五〇年から一六七六年まで)首府であつた都會で人口約五萬、我が南進の英雄、一世の快男兒、山田長政の一黨がこの地に日本町を作り、活躍した史實がある。當時の王宮、寺院は今も廢墟となつてゐるが、我が在留邦人の手により、此處に山田長政神社が建立されてゐる。訪れる邦人は往時の同胞の活躍を偲んで感慨無量である。

市街はメナム河兩支流に圍まれ、水路縦横に通じて交通路を形成してゐる。川上に浮家が軒を並べて、さながら水の都を形成してゐる。磐谷より汽車にて二時間、地方物資の集散地である。

チェンマイ は一二九六年メンライイが首都とした處で標高二〇〇米の高臺上にある都會で人口約七萬、住民の大部分はラオス人である。磐谷につぐ都邑として北部タイの經濟、文化の中心地となつてゐる。メーピン河の清流が市中を貫流し、市内は綠樹多く、閑雅な古都の面影がある。郊外六キロの地にはドーイ・ステープの高峰が聳え、氣候も一年を通じて快適である。

過去數世紀に互る文化と、隣邦ビルマとの交渉の影響は寺院、郷土藝術、風俗、習慣等に著しく反映されて居り、

漆器細工、絹織物、陶器等が有名である。

ランバン はスコタイ王朝より遙か以前に泰族が建設したもので、タイ國最古の都市といはれてゐる。人口約二萬五千、ランバン市は新舊兩市街に分れてゐる。ランバンからチェンライ及チェンセンを経由して泰國北部國境に通ずる道路が開設されて以來、佛印ラオスやビルマ等との交通が盛んとなり、これら地方との農産物、林産物その他の物資集散地として活況を呈してゐる。

コラト は磐谷より北東線二百六十五キロにあり、東北高原の中樞地であり、交通の要衝で地方一帯への道路はこの地を中心として發達してゐる。

地方物資米、黄牛、豚、ステック・ラック、獸皮等の高原農林物産の大集散地であり、地方産業經濟の中樞となつてゐる。

舊市街には史實に残る城壁あり、その門前の廣場に男子留守中カンボチャ軍が侵入した際、婦女子が男装して戦ひカンボチャ軍を撃退した男裝の女傑タン・サモンの銅像が建てられてゐる。

ナコーン・シータマラーツ(六昆) 外來人はラコン(六昆)と呼ぶ。この地は千年前に建設された古都で、當時の建築になるマハー・ターツ寺院の黄金の延板で巻いてある塔頂が往時の榮華の夢を物語るかの如く天空を摩して聳えてゐる。

往時山田長政がアユチャよりこの地に進軍し、叛亂を平

定善政を行つたが、翌年毒殺された長政終焉の地にして、邦人には思出深い地である。

パツタンバン は泰國が一九四一年七月に佛印より割讓を受けた新領土にある都會で、かつては泰領であつたがフランスに侵略されてゐたもので、一九四一年失地恢復國境紛争が惹起した際我國の調停により泰國が獲得した。カンボチャ草原に忽然と出現した近代都市で人口約三萬、市街整然街路樹の美を讃えられてゐる文化都市、アスファルト道路が走り、ガス、電燈の施設も完備し、洋風建築が揃比してゐる。

市内にカンボチャ人、安南人、泰人が雜沓し、繁盛を極めてゐる。また地方に米、黄牛、礦物等を産し此等物資の集散地となつてゐる。

邦人發展の現状

タイは我が國から西貢、盤谷線の航路で十五、六日で達せられる、直行なれば僅か旬日を要するに過ぎない。しかも國土の大半は未開豊饒の地にして、排水と灌漑を施せば容易に美田と化し得べく、加ふるに山海の資源に富み、殊に優秀を誇る邦人の産業技術をもつてこれが開拓に進出するなればタイの産業は著しい發展を見るに至るであらう。

然るに邦人のタイ發展の現状を眺めるに英人に見る企業投資なく、米佛に見る文化設備なく支那人の如く多數の在留者なく、只年額三、四千萬圓の貿易額と僅か五百人の在

留邦人を見るに過ぎない事は、往時御朱印船の活躍やアユチャ王朝時代の山田長政等の邦人の活動を想ふとき轉た今昔の感なきを得ないのである。

英領マレーに鐵礦を發見し、フィリッピンにマニラ麻を紹介した邦人はタイにも新たな産業を興して共存共榮の實を擧げ、地下に眠れる先覺の英靈に對すべきであつて、いつまでも、これを歐米企業家や華僑の跳梁に委ねておくべきではない。同じく東洋に國を成す日本とタイ、それに宗教を同じくし、且つ相互扶助の精神と謙讓の美德を兼備する國民であり、しかも日タイ通商條約に依つて我は治外法權を捨て、彼は報ゆるに國內居住の自由と企業通商上の最惠國待遇を以つてした。尙最近では日、タイ友好親條約を結びて親密度を加へ、また、佛印との國境紛争には日本調停を受けたところの親日の國である。

又今次の大東亞戰爭には、東亞の指導者日本と攻守同盟を固く結んで、英聯合軍に皇軍と共に戦つてゐる弟の國である。

しかるに現在邦人企業として見るべきものは殆んどなく、僅かに貿易に三井物産及三菱商事の二社があり、その他四、五社を數ふるの狀態にして、邦人數も大東亞戰爭直前にして僅かに五百人内外であつた。邦人は主として商業に進出し、又マレー半島や昭南島と連絡して木材、米穀等の輸出貿易に従事してゐた。

最近に至り邦人のタイ國進出の氣運頓に上がり、邦系資

本の進出計畫も種々傳へられつつあり、タイ國自身も邦人の資本と技術による産業開發を要望し、到る處邦人の雄飛を呼んでゐる。

邦人團體名簿

泰國日本人會
バンコク、ソル、チブ、スリウングス路二二七八
高月嘉右衛門 (會長)
泰國日本商工會議所
同 シカベイアスリ二四
新田 義實

進出する邦人事業會社

◇南洋企業株式會社

本社 東京市麹町區丸の内二ノ二九ビル
支店 タイ國ナラヂバヌ州バーバイ
資本金二百萬圓、社長加來佐賀太郎氏、同社は事業地タイ國ナラヂバヌ州バーバイ及ヤラ州ベトンの二ヶ所に有し農園の經營と林業に進出する一方、生産物の加工販賣等農林に多角的進出を示し、堅實なる發展を續けてゐる。

◇臺灣棉花株式會社

本社 臺灣臺北市榮町三ノ一
資本金三百萬圓、社長加藤恭平氏、同社は臺灣に於て棉花事業に雄飛してゐるが、タイ國ナコンパトナムに棉花事業地を有し棉花栽培に活躍してゐる。尙同社は海南島にも事業地を有して居

り將來南方方面に於ける棉花事業に發展すると傳へらる。

◇三井物産株式會社

本社 東京市日本橋區室町二ノ一
同社は泰國にも進出し、日泰貿易に雄飛してゐる。支店は泰國バンコック市に置いてゐる。

◇三菱商事株式會社

本社 東京市麹町區丸の内二ノ二〇
同社も三井物産と共に貿易に發展し大半はこの二社が占めてゐる。支店はバンコック市にある。

◇大同貿易株式會社

本社 神戸市神戸區浪花町五七
資本金四百萬圓、支店を磐谷に置く。同社は綿糸布雜貨、食糧品、機械類等

の邦品輸出及先方物資輸出貿易に發展してゐる南洋貿易の著名の會社にして東印度諸島及比律賓等にも支店を有してゐる。

◇東洋商工株式會社

本社 東京市日本橋區室町二ノ一
三井物産内
資本金壹百萬圓、同社はタイ國各種事業に投資を目的とした三井物産の別動隊ともいふべき會社にして、設立以來日淺く、實際事業には未だ着手されてゐないが、日タイ貿易及タイ國産業開發に相當廣範なる進出を示さんとしてゐる。一般に同社の進出は刮目されてゐるものである。

ビルママ篇

ビルマの歴史

ビルマの歴史は、アノラータ王に始まるといはれて居る。この王の現はれた十一世紀のはじめ、ビルマには多数の小王國が互に覇を争つてゐたが、その中で有力なものは東部の山地に住むシャン族、南部イラワヂ河の三角洲からマルタパン海岸に蟠居するラタイン族、西南の海邊に王國を持つアラカン族、中部盆地のバガンを都とするビルマ族の四種族でアノラータはビルマ人のバガン王國の君主であり、彼によつてはじめてビルマ制覇が成し遂げられたのである。このバガン王時代がビルマ文化の黄金時代ともいふべく、佛教美術を中心とする文化の花が爛漫と咲いたが、不幸十三世紀の末、支那統一の餘勢を驅つて進攻した元の忽必烈の大軍のため蹂躪されて敢へない最期をとげた。元軍の撤退後シャン族が一時勢を振つたが、十六世紀の半にビルマ人タピンシュエチがトングー王朝を樹て、シャン地方とタライン王國を除いた全ビルマを従へたが、まもなくタライン族に滅されてしまつた。その後百五十年を経て十

八世紀の半にビルマ人の中から三度目の英傑が現はれた。これがアラランバヤで、北方シュエボより起り、宿敵タライン人を討ち破つて一七五四年完全に征服した上、更に各地を攻略してここに始めてビルマ王國を建設した。これがコンボン王朝で、二代目の王の代に東はシヤムを滅し、西は印度を攻めて、モニブール、アツサムを支配し、北は清の乾隆帝の遠征軍を逐撃してこれを破るなど、勢威四隣を壓したが、その後歐洲人の摩手に侵され、遂に執拗な英國の侵略を受けて滅び去つた。

英國の侵略

ビルマに最初訪れた歐洲人はヴェニス商人ニコロ・デ・イ・コンテイで十六世紀の初め南方テナセリムの海岸に上陸して商業をはじめた。それからポルトガル人、オランダ人、イギリス人と次々に渡來し、海岸地方に商館を設けて貿易に従事したが、中にもポルトガル人の進出は目覚しくマルタパン灣に臨むシリヤムと云ふ町など事實上彼等に支配されるまでになつたので、當時威勢を誇るトングー王朝

の忌諱にふれ、一六一〇年その艦隊は激減され、これと同時にビルマの外人勢力は一齊に掃蕩されてしまった。その後イギリス人は一七〇九年、當時ポルトガル人の基地シリヤムに東印度會社を設け、爾來着々商權の擴張を計り、百年後の十九世紀には彼等の勢力はビルマ人の經濟生活を支配する程強力なものとなつてゐた。ビルマ人は度々工場、商館等の焼打等を行つた、かくするうち一八二二年アンカラ人の叛亂事件をきっかけとして第一回の英緬戦争が起り、五年に亘りビルマ軍はよく戦つたが優秀な武器を持つ英國に破れ、印度寄りのマツサム、アラカン、モノプール及東南のテナセリムの諸地方をイギリスに割譲し、賠償金



英貨百萬磅をとられた。ビルマ人は失地回復の念に燃え反英熱は次第に高まり、遂に一八五二年イラワヂ河の英艦燒打事件を起し、再び戦禍を交へたが利あらず、結果イラワヂ河の三角洲を割き取られた。英國は第一、第二の戦争で獲得した領土を併せて英領インドの一州としてラングーンに政廳を置いた。この新領土は上ビルマから海へ出る唯一の口であつたので、ここを抑えたイギリスはマンダレーを都とするビルマ王國の運命を掌握した形となつた。その後三十年、ビルマは不満を抱きながらもイギリスとの關係を維持し侵略の口實を與へなかつたが、一八七八年王の死後庶子セバウ・ミンの王位繼承をめぐつて内訌を起し、王族高官を殺害し、また事毎にイギリスに頼つて摩擦を起してゐた。當時フランスは印度支那の東部に於けるイギリス勢力を排除して次第にシヤムに進出の態勢にあつた。一方ビルマ

王はフランスの力に頼り英國に當らんとして一八八四年フランスと攻守同盟條約を締結した。このビルマ内外の情勢は遂に英國をしてビルマ併合を決定せしめるに至りイギリスはフランスとの條約取消をビルマに要求したがビルマはこれを拒絶した結果、一八八五年英軍は首都マンダレーに兵を進め、一八八五年十一月二十八日、ミン王及その一族を捕へ島流しにした。ビルマ人最後の王朝は十一代で滅亡し、同時にビルマ全土はイギリスの手中に歸した。この時は我國の明治十八年である。

英國の壓政統治

合併後イギリスはビルマ人の武装を解除し、全ビルマを英領印度の一州として印度總督の下にある副總督を派遣して統治せしめたが一九二三年、副總督を總督に昇格せしめ同時に總督の指名と公選による立法院を置き、更に數名の大吏の制度を作り、議員の中から任命することにした。次いで一九三五年、ビルマ統治法なるビルマ憲法を制定して、一九三七年四月一日ビルマを印度より分離し、英國皇帝直轄の準自治領として英帝の名代たるビルマ總督を置き、總督の補佐の機關として内閣を置き、上下二院の議會を設けた。この印度よりの分離と前記の政治機構をとるに至つたことは、印度併合以來ビルマ人の反英感情を愈々激化し、獨立運動にまで進展して來たので、これを緩和せんために採られたものであつて、ビルマ人の參政權を擴め、

政治に携はせることによつて政治上の紛糾が起つた場合、その責任をビルマ人の大臣や、議員に轉嫁せんためのものであり、一方政争によつて獨立運動の力を分散させる政策によるものであつた。

議會の構成は下院の議員百三十二のうち、ビルマ人九十五人、カレン人、印度人、支那人、イギリス人が合せて三十七人となつてゐた。ビルマ人は大多數を占めてゐるが、ビルマ人以外の議員は結合して自分達の利益を擁護し、ビルマ人の利益になる政策にはあけて反對をする。上院は定員三十六名のうち半數が下院議員中から選ばれ、残り半數は總督が任命するもので、この全部が親英分子によつて占められて居る。以上の如き議會であるから、ビルマ人の利益になる法案は殆んど通らない。又萬一通過しても總督には否認權があるから總督が「ノー」と最後に一言いへば否決され、一方總督の提出した議案は議會が否決しても總督の否認權で通過するといふものであつた。

反英獨立の叫び

ビルマ人の反英の運動は英國の侵略以來繰返されてゐたが、果然これに烽火を點じたのは明治三十八年の日露戦争であつた。日露戦争に於ける日本の大勝利は、長い間歐洲人の鐵鎖に喘いでゐたアジア民族の覺醒と奮起を促した。其頃ビルマにウ・オツタマと云ふ傑僧が現はれた。彼は日本に學び一九一五年祖國へ歸ると、日本は強敵ロシアを破

り得たが、それは日本人が舉國一致外敵に衝つたからである。我々ビルマ人も獨立を欲するならば、日本に倣ひ、全ビルマ民族が一致して起て、と國內を行脚し、ビルマ大衆に向つて、祖國を英國の鐵鎖から解放せよと絶叫した。亡國以來二十年、イギリスの壓政に離伏を餘儀なくされてゐたビルマ人は、この僕僧の情熱によつて沸騰し、彼の運動は忽ち全ビルマに擴り、若きビルマ人にして獨立を口にせざるものなきに至つた。現在ビルマ獨立運動の中心勢力となつて居る佛教青年會等は、當時ウ・オッタマを盟主とする青年會によつて結成されたものである。このビルマ獨立運動の父ともいふべきウ・オッタマは、その後總督のため國外追放の憂目に遇ひ、今は既にこの世を去つた。然し彼の精神は若きビルマ人のうちに殘された。以來獨立を目指すビルマ人の反英運動はその後幾度となく繰り返され、奪い人民の血を流して來た。

ビルマ人のビルマ

ウ・オッタマの精神を承け繼いで「ビルマ人のビルマ」を絶叫して起ち上つたのはバ・モ博士である。彼は印度より分離されたビルマの第一首相に選ばれた。その後野に下つて獨立運動の闘士となる。佛國大學に學びドクターの稱號を持つ知識人であり、熱血の指導者である。パーモの背後には、タキン黨々主タキン・ミヤ、同幹部タキン・トク、幹部ウ・ラ・ベ氏等あり、また全ビルマ青年黨の

タキン・バ・ティン等の青年層の外、宗教、政治兩方面に絶大な力を持つフシュエータ・バゴダのサリーンネ大僧正、マンダレーヒルの大僧正ウワローカなどの佛教界の支援を受けてゐる。

彼は英國が援蔣ビルマ・ルートを開設するやその反對を唱え、禁絶を要求して英總督に迫り

「支那事變は全アジア民族の解放の戦ひである、我々アジア人である以上、日本の行動を妨ぐるものあれば、進んでこれを撃滅すべきである。ルート禁絶は東亞民族結集の一步であり、全ビルマ人の希望である」と

叫び、ために議場は萬雷の拍手やまず、全議員は起立し議場は騒擾として收拾出来なかつたといふ。

彼の闘志は火となり、かつてはビルマを窒息させた佛教を逆にビルマ興國の力として燃えあがらせた。壓迫に屈せずビルマ獨立を絶叫して、捕えられ投獄された。

皇軍が英軍撃滅の軍を進め、ビルマに入るや彼は脱獄して起ち、全ビルマ青年を號令しビルマ民衆をして皇軍の作戦遂行に協力せしめた事は、當時の戦線よりの通信によりもたらされた處である。

今やビルマは熱血兒パーモ氏を中心とする指導者が、全ビルマをあげて日本に協力してゐる。英國の壓政五十九年の鐵鎖より解放され「ビルマ人のビルマ」建設は我が國の協力下に著々進められてゐる。

面積・人口

ビルマはアジア大陸の西南に位し、東は印度支那及泰國に、北は雲南、西康の兩省に接し、西は印度と境し、南はベンガル灣に面して居る。

その總面積は六十萬五千平方キロにして我國の全面積よりやや狭く、人口は千五百萬人といはれてゐるが、住民の八割五分までは地方に分散されてゐる。

地 勢

ビルマの北端、カチン高原、パタイ連山、ナムキン山脈は、ヒマラヤ連峰に續いて聳え、イラワヂ、サルウィン、シツタンの三大河が北から南に流れ、その流域は緑の大平原沃野を形成して居り、また西部シャン高原には肥沃な廣野が展開されてゐる。このシャン高原とアラカン・ヨマ山地帯との間の中央低地帯は沼澤地をなし、沖積層の草原となり、中部以南は乾燥地帯とデルタ地帯となり、多くの地方には灌木や森林が點綴してゐる。これら平野をはさんで西部には三千呎から九千呎の高山が聳え立つ、アラカン・ヨマの連脈が連り、それと並行して中央に一萬呎以上の雲表を摩するガンガウ山脈が連つてゐる。

河川・湖沼

ビルマの山系が多くは北から南に走つてゐるため、河川

の大部分も亦北から南に流れてゐる。その源を西藏に發し延々九百哩、ビルマを縦斷するイラワヂ河はビルマ最大の河川にして、ビルマ全土を東西に分ち、ビルマ人から「惠の川」と稱されてゐるほどビルマ農業に限りなき天恵を與へ、また道路及鐵路の未だ發達なきビルマの主要な交通線となつてゐる。イラワヂに次ぐ大河は、支那雲南省から發するサルウィン河、延長六百五十哩と、シツタン河三百五十哩がある。このサルウィン河に架してゐた橋は、かつて援蔣ルートの要地として我國によく知られた地である。

インダウキ湖は長さ十六哩、幅六哩でビルマ第一の湖にして、三方は森林で覆はれた丘陵に圍まれてゐる。この湖上には人口史談に喩ふされ、幾多のビルマの秘譚を傳へてゐる島々が浮んで居る。

ビルマは雨期に氾濫し、低地に流れた河川の水がそのまま残り一時的湖沼を作り、この湖水が乾期には灌漑用水として耕地を潤し、また流れ込んだ多數の魚類は農民の糧となり生活に少なからざる役割をなしてゐる。

氣 候

ビルマは大部分熱帯圏に屬してゐて、一年が雨期と乾期に分れてゐる。雨期は五月から十月に互り、印度洋から訪れる季節風が強く猛しい雨をもたらす。乾期は十月中旬から翌年の五月初旬までであつて、このうち二月までは比較的涼しく凌ぎやすいが、三月から五月、ことに雨期のはじ

まる前の四月頃が暑さを増す。雨量は西南の季節風の直接當るアラカン山脈や、テナセリム山脈の西沿岸地方が最も多く、年雨量四、五千耗に及ぶ。イラワチのデルタも多いが、その量は減じ、更にマングレー附近のイラワチ河中流部になるとすつと少く、五、六百耗程度である。イラワチ河とテナセリム海岸地方を下ビルマと云ひ、それより北部地方を上ビルマと云つてゐるが大體上ビルマは乾燥地帯であり、下ビルマは濕潤地帯と稱されてゐる。

住 民

人口は一九四一年の調査によると一千六百八十二萬餘であつて、人口の増加率は一ヶ年二十萬人を示してゐる。このうち約六割五分の一千一百萬がビルマ族で、イラワチ河とサルウイン河の兩河の間に擴げてゐる平原地帯に居住し、主として農耕に従事してゐる。十一世紀に創立されたバガン王朝以來、幾たびか王朝の興亡はあつたが、大體に於て他種族を支配して來た民族で、文化的にも最も進歩してゐて、彼等は常にビルマの中心をなして來てゐる。シヤン族は約百四十萬で、彼等は主にシヤン高原に住んでゐる。その他、西部アラカン山脈地方に住むアラカン族、東南モルメイ地方に住むモン・クメール族、カレニの山地に住むカレン族、イラワチ上流の山地に住むカチン族等合せて約二百三十萬である。外來人として多いのは印度人の百萬と支那人の二十萬で

印度人は西部と南部に多く移住してゐて、ラングモン市の過半数が印度人である。彼等は商業か金融業者としてビルマの米を左右し、かつては英國のビルマ搾取の仲立をしてゐたため、常にビルマ人から排斥的となつてゐた。支那人は雲南から移住したもので多く、鑛工業や商業に従事してゐる。英國人は戰爭直前まで約一萬人であつたが、現在はその大半は引揚げて仕舞つてゐる。

宗教・言語

ビルマ人は熱心な佛教徒で、彼等の住む至る處に佛塔と僧院がある。佛塔はボゴタと呼び、佛陀への奉仕として建立したものであり、僧院は僧侶の住居であると同時に、民衆の初等教育の機關でもある。従つて僧侶の数は非常に多く、ビルマ全土では約二十萬と稱されて居り、ラングモン市丈でも人口の約一割は僧侶であるといはれてゐる。小乗佛教で發祥地はセイロン島である。僧院が民衆に開放され、俗界と深く結びついてゐるため、僧侶の影響力も強く、彼等は常にビルマ民族の中心をなしてゐる事は前記の歴史にて述べた如くである。

ビルマは女性の勢力は強く、西歐キリスト教國の「かよはい婦人を勞はる」と云ふのとは違つて、ビルマでは「男は氣が短かくて意氣地がないのは家庭で婦人の導きが足りないからだ」と云ふ自覺から來てゐるらしく、南部地方では家系は女子が相續する。家内行政も一切細君の承諾がな

主 要 産 業 事 情

ければならないといふ風がある。地方の民間團體や公共團體でも婦人の發言權は非常に大きく、かつては二人の下院議員が出た位ひである。ビルマには尼僧も相當多い。ビルマの地方語は數十に及ぶといはれてゐるが、その大

部分は中心勢力をなしてゐるビルマ人の使用する西藏支那系統に屬するものがビルマ語となつてゐる。皇軍の占領以來、ビルマ人間に日本語熱が旺盛となりつつあり、又初等教育の必修課目に日本語をとり入れて教育されてゐる。

ビルマは南洋諸地方と同様農業、林業及鑛業の原料生産國にして、これら生産品が輸出の九割を占めてゐる。中でも農業はビルマ産業の王座を占め、人口の九割までは農業に従事し、農業が國民經濟の根幹をなしてゐる。

ビルマの既耕地面積は約二千二百三萬ヘクタール（内耕地一千八百十六萬、休耕地三百八十七萬）で未耕地はまだ一億一千六百六十八萬ヘクタールでこの中未開墾地約六千萬ヘクタール、不毛地五千萬ヘクタールとなつて居り森林地帯は二千二百十二萬ヘクタールであるからビルマにはまだ未開の處女地は洋々としてゐる。

農 業

ビルマ農業を代表するものは米作である。米作面積一千二百五十萬ヘクタールと云はれて居り、肥沃な土壤、加ふるに天惠的氣候と理想的條件によりビルマを米倉たらしめ、收穫量は日本の石にして初年産約三千萬石にのぼり、支那、印度、日本につき世界第四位の産額を示してゐる。

その約半量は過剰となつて輸出されてゐるが、その輸出量においては世界第一位を占めラングモン米として名聲を高くしめてゐる。

米の他に農産物としては上ビルマの乾燥地帯に豆類、胡麻、落花生、棉花、テナセリム、海岸の多雨地高濕地帯に於ける護謨等である。このうち豆類、胡麻、落花生は國內消費に充てるに止つてゐるが棉花と護謨が對外輸出されてゐる。

「米」はイラワジ河の三角洲、パツセイ、マングレー、パーモなどから戦前年約七百萬トンを生産してゐた、これ等はラングモンに搬出、精米されてゐたが、中でもパーモの米は日本米に劣らない優良品であつて、殆んど肥料をばらず植付のみで年に二回（一回のところもある）收穫する。従來は産出量の約六〇パーセントを印度および支那へ輸出してゐたが、ビルマの産出額だけで今後日本内地のみならず東亞共榮圈の食糧問題を解決し得る程である。棉はキヤンギヤン方面から年約一萬二千トンを生産する、シヤン州

も産地として好適であるが、印度と競争されると困るので英政府は棉の増産を中止してゐた。
【護謨】はマレー寄りの海に面したテナセリム海岸のマダイ地方がその中心であつて、産額は約一萬トン餘で殆んど生ゴムのまま海外に輸出されてゐる。

鑛業

ビルマの地下資源は未調査のものが多く資料も乏しいが過去の實績、情報を綜合するに實に驚くべき豊富さである。殊にシヤン州から南方テナセリム東方にかけては優秀な鑛山地帯でビルマ全土が鑛物で埋まつてゐるといつても過言ではない。また鉛はポードウイン鑛山から産出するが同鑛山は世界的に有名なものである。タングステンもモチ鑛山（年産五千八百トン）とダボ鑛山（年産四千トン）から産し従来年産一萬トンはあり、品質も五十六パーセント以上の良好なものである。銅はポードウイン鑛山で六千乃至七千トン精銅にして三千トン、ニッケル鑛は全東亞においてビルマのみに産出する貴重鑛で含有量五十五パーセントのもの三千五百トンこれもポードウイン鑛山から産する、アンチモニーは一十トン、その他錫、コバルト、雲母、水晶、石炭、ダイヤモンド等枚舉にいとまない状態である。これら鑛産物は戦前その大部分を輸出し年額五千萬ルピー（一ルピーは邦貨約六十七錢）米、石油に次いで第三位を占めてゐた。今やポードウイン、モンチの二大鑛山はほと

んど損傷なくわが手に歸し、その前途は實に洋々たるものがある。

【石油】はエナンジョン地方が主産地で、戦前年産十一萬トン（輸出金額一億七千萬ルピー）オクタン價百乃至百廿の最良質のもので航空用揮發油、航空用潤滑油として期待される。なほ石油はエナンジョン地方のみならずシヤン州にも埋藏されてゐるといはれてゐる。

林業・畜産

ビルマの林業はチーク材で知られ、ビルマをしてチークの寶庫といはれてゐる程豊富なる資源を擁してゐる。

チークはビルマ輸出貿易上主要な役割を持つて居り、輸出貿易總額の約一割はチーク材が占めてゐる。年産四十萬トンで、これは殆ど英資本が獨占してゐたもので、ミイトキーナ附近、シヤン州トングー附近が主産地であつて、チークは船材、鐵道材として従来その九割以上が輸出され、三千七百萬圓の輸出をしてゐた。

畜産は牛（農耕用黄牛）が五百萬頭で畜産の第一位を占め、皮革、食糧資源として友邦タイ國の牛と共に全東亞の需要を充すに足りる。牛革の輸出のみでも七十萬トン以上つて居り、これに次いで水牛が百一十萬頭、山羊が三十萬頭、豚が五十萬頭、馬が五萬頭等である。

貿易

ルピー、ガソリン一千三百萬ルピー、その他計二億七千萬ルピーとなつてをり、約二倍の輸出超過である。

かくの如き資源を擁してビルマは東亞共榮圈の一翼として新進の熱を帯びて發展されてゐて、その前途は眞に洋々たるものがある。

主要都市

ラングリン（蘭貢）ビルマ第一の大都會であり、首府である。市街面積は三十平方哩にして人口五十萬を超ゆ、ラングリン河の河口に位し、ビルマ政治の中心地でありビルマ經濟を握る大貿易港である。當港を通じて輸出入される物資は年額八億ルピーに及んでゐる。

市街は舊市街と港灣地區から成つてゐて、商業地帯は河の北岸にあつて東はバズントンから西はケメンタインを経てアローンに達してゐる。河の對岸ダラの郊外は住宅地として發展を見せてゐる。

市街は整然としてストラント街、マーチャント街、タルジ・フレザー街等が繁華の中心となつて股脈を極めてゐる。市内には宏壯なる行政各官廳、電信局、裁判所等の諸官廳がある。

郊外一哩半にダルージ公園、西方の丘上にはビルマで名高いシユエ・ダゴンの金塔が聳え、湖の南に記念公園及びクトリア動物園がある。

市

マンダレー 一八八五年までビルマ王朝の王都であつた舊都である。ビルマの中央部でイラワヂ河の東岸に位してゐる。當市は海拔三百十五呎の高地傾斜面に擴げ、東西三哩、南北六哩に亘り、人口約十五萬、ラングリンにつぐビルマ第二の都會である。

市の中央にマンダレー丘があり、丘上の石の堂宇には釋迦が安置されてゐる。丘の麓に舊王城がある。城は約二十町の正方形の一廓にして高さ二十六呎の赤煉瓦の城壁を繞らし、周圍に十二の門を備え、幅二十五呎の外堀で圍まれてゐるが、城内には舊王宮、兵營、陵墓、禮拜堂、王宮内には風俗博物館等があり、舊ビルマ時代の王侯貴人の等身大の人像が陳列され昔日の繁盛、武威を偲ばしむるものがある。

市内外の名勝としては、ゼギヨ市場、ダフリン城趾、四百五十塔、王妃菩提寺等がある。

マイミヨ 海拔三千五百呎の高原都市で、五十年前まで

はシャン州の一寒村であつたが、盛夏の頃と雖もマンダレイより気温二〇度低く、印度のシムラの如く絶好なる避暑地として、一九〇〇年鐵道開通するや榮え、現在人口一萬五千人となつた。炎暑の候には政府高官の來往繁く、多數の白堊の洋館が林間に建てられ、華麗なる舊總督官邸を初めとして、各種クラブ、ボロ競技場、ゴルフ場、植物園等がある。

ブローム ビルマ鐵道ブローム支線の終點でイラワチ河の右岸に位し、山水の美、風光の明媚なることビルマ第一の稱あり、人口約三萬、地方物資の集散地で、市の南方に小丘あり住宅地としてその眺望の美を誇つてゐる。

イラワチ河の左岸約半哩の地にドグヌナ丘あり、百三十八呎の丘上にシユエ・サンダウ寺塔あり尖塔の高さ百八十呎、塔の基を圍んで連なる八十三の壁龕があり、その中に金碧燦然たる佛像を安置しありて名高い。

尚ブロームの南十六哩の地にシユエ・ナタウン寺塔があり、これまた著名の寺塔である。

モールメン ビルマ第三の都會で人口約七萬、サルウイン河口の左岸、マルタパン灣岸にあり、サルウイン河流域一帯の物資の出入及南部沿岸地方の米、錫、木材等の物資の集散地であり、商業都で市内外に製材、造船、精米業等が多い。

モールメンは從來良港として繁盛したが、近來サルウイン河より流下する泥土により港内淺くなり、この結果海上

交通は往時の如く盛んではない。市街は三條の繁盛商業街よりなり、風光明媚にして、市内外到る處に宏壯華麗を誇る寺院、佛塔あり、市の中央のキヤイクダラン寺、東方にウシナ寺塔が天を摩して聳えてビルマ文化を誇つてゐる。

日本人會名簿

マイミヨ日本人會	ビルマ・マイミヨ	井手 梅次
マグイ日本人會	マグイ	三橋 國治
マングレイ日本人會	マングレイ	山田 秀雄

進出する事業商社

◆横濱正金銀行

本社 横濱市中區南仲通り五丁目
資本金一億圓、我國對外爲替銀行として、確固たる基礎を築いてゐるものにして、皇軍占領後逸早くもビルマに進出して、爲替、金融、銀行業務に活躍發展中、ビルマ支店をラングーン市舊チャーター銀行跡に置く。

◆三井物産株式會社
本社 東京市日本橋區室町二ノ一
資本金一億五千萬圓、海外貿易業、投資業として雄を誇るものにして、日緬貿易に活躍中戦争により引揚中であつたが、ビルマ占領なるや再進出し、發展中にして今後ビルマ産業開發方面に進出が傳へられてゐる。支店はラングーン市舊ナシヨナル銀行跡。

◆三菱商事株式會社
本社 東京市麹町區丸ノ内二ノ一〇
資本金一千五百萬圓、三菱系の會社

◆三井物産株式會社
本社 東京市日本橋區室町二ノ一
資本金一億五千萬圓、海外貿易業、投資業として雄を誇るものにして、日緬貿易に活躍中戦争により引揚中であつたが、ビルマ占領なるや再進出し、發展中にして今後ビルマ産業開發方面に進出が傳へられてゐる。支店はラングーン市舊ナシヨナル銀行跡。

◆三菱商事株式會社
本社 東京市麹町區丸ノ内二ノ一〇
資本金一千五百萬圓、三菱系の會社

で我國海外貿易、事業會社として三井物産と並び稱せられてゐる。日・緬貿易に堅實なる地盤を持つて雄飛し、現地人の信認も厚い。支社はラングーンに置いてゐる。同社今後の活躍は大いに期待されてゐる。

◆日本棉花株式會社

本社 大阪市北區中之島二ノ
資本金一千二百萬圓、同社は棉花、綿布、生糸、人絹布、羊毛等の輸出入及棉花壓搾、繰綿、製油、精米等の事業經營會社である。ビルマ進出を開始し、ビルマ棉花貿易に發展してゐる。將來ビルマに於て棉作事業への進出が傳へられてゐる。支社をラングーンに置く。

◆三井物産株式會社
本社 東京市日本橋區室町二ノ一
資本金一億五千萬圓、海外貿易業、投資業として雄を誇るものにして、日緬貿易に活躍中戦争により引揚中であつたが、ビルマ占領なるや再進出し、發展中にして今後ビルマ産業開發方面に進出が傳へられてゐる。支店はラングーン市舊ナシヨナル銀行跡。

◆三菱商事株式會社
本社 東京市麹町區丸ノ内二ノ一〇
資本金一千五百萬圓、三菱系の會社

ジャバ、ビルマではラングーンに置き護謨栽培に當る一方護謨、石炭等の賣買、貿易業等に發展中にして、現在主なる事業地をマレーに置いて、ビルマにも發展中である。

印度篇

面積・人口

インドの總面積は二百五十二萬九千九百九十九平方キロで、本土の約十七倍である。一口に印度といつてゐるが、この印度總面積の五割五分が英領インド諸州であり、その他の四割五分はインド六百七十餘の土侯諸國である。

インドを地勢の上から眺めてみると、著しい特徴をもつた三つの地域に分けることが出来る。即ちその一つはインドの全形を支配してゐる三角形のインド半島、他の一つは海拔八千八百四十八米の世界の屋根といはれてゐる最高峰エヴレスト山を中心として、東西二千四百キロに互るヒマラヤ大地、最後の一つはこの二つに挟まれてインドの富源をなすといはれてゐるガンデス河、インダス河の兩流域の所謂ヒントスタン原野である。

この中、ヒマラヤ山地はインドの北部一帯に連なる大障壁を形造り、南部平原地帯の氣温を緩和するとともに、昔からインドとアジア本土との交通を二分する役目を果し、この結果インドの國內に幾多の特異性を作りあげてきてゐる。

勿論かうした地理的な理由からばかりではないが、インドは極めて複雑な國柄であつて、一口にインドと云つても日本とか、ドイツといつた純一國家と異り、このインドには幾多の獨立した土王國があり、宗教があり、言語があつて、種々獨立した社會が包含されてゐる。

住民・言語・宗教

「人口」 インドの人口は三億五千萬人であつて、一口にインド人といふけれども、印度住民の中には大きく區別しても、トルコ・イラン族、インド・アリーヤ族、シツオ・ドラヴィダ族、アリーヤ・ドラヴィダ族(ヒンドスタン族)、モンゴロ・ドラヴィダ族、モンゴル族、ドラヴィダ族の七種族からなつてゐて、若しこれを細分すれば數十、數百の種族に分れるものである。

「言語」 従つてインドに使用されてゐる言語の種類も極めて雑多で、現在全インドで使用されてゐる言語は約二百種からで、地方郵便局等で使用を公認されてゐるものだけ

でも七十餘種と云はれてゐる。これらの中で最も廣く使用されてゐるのはヒンドスタスカーニー語で、全人口の三分の一まではこれを

大體インドの標準語と看做す事が出来る、然し全國的に法定語となつてゐるのは英語が公用語となつてゐるため知識階級は概ね英語に通じてゐる。

「宗教」

これまた人種言語の錯雜してゐるのに比例して、その種類は極めて多く、その主なものでは印度教、回



教、佛教、原始教、キリスト教、シーク教、拜火教、猶太教、耆那教等であるが、この中、印度教は全人口の約六割八分を占め、その分布は全インドに及んでゐる。また回教徒は總人口の二割二分に當つて居り、印度教と同教が全人口の九割を占めてゐる。

更にこの印度教社會には四種の姓階級制度があり、インド人をバラモン(僧侶)、クシャトリーヤ(武士)、ウエシヤ(平民)、スートラ(奴隸)の四階級に分けられ、同じ印度教徒であつても他の階級との結婚はもとより、同座、食事をすることさへ禁じられてゐて、古來からの嚴格な習慣が保持されて來てゐる。

複雑な住民

インドの國內には前述の如く幾多の種族、宗教、職業の相異に基づく社會の複雑性があり、それによる民族の不一致がある。インドの政治に現はれるものに三つの有力な社會がある。全印總人口三億七千萬の六割八分を占めるインド教徒、それを代表する國民會議派、同じく二割二分を占める回教徒、その代表である回教聯盟、同じく二割四分を占める土侯國がそれである。これらは悉く異つた要求もち、對英態度もまた異にするのである。英國の乗する隙がここにあり、インド獨立運動の不統一性がここに發してゐる。

例へば牛はインド教徒によつては神聖冒す事の出来ない

ものであるが、これがたまたま回教徒の祭壇に生贄となる
ことがある。インド教徒はこれはブラーマの神に對する最
大の侮辱として回教徒へ復讐を誓ふといふ様に回教徒とイ
ンド教の對立の原因はかうした宗教による風習の相違に基
くものである。一九三一年、カウンプールに於ける衝突は
死者四百名、負傷者千二百名、焼失家屋四百餘戸といふ宗
教上の一大闘争であり、回、印の民族運動合同の成立は多
難を思はしむるものがある。

第二次大戦勃發直後、國民會議派が自治八州の總辭職を
決行して、反英運動を展開した時、回教聯盟では「インド
が國民會議派から開放される日が来た」と宣言し、盛大な
政治示威を行つた。獨立運動よりも對インド教即ち國民會
議派に主力を注がれたのであつた。しかし回教社會派の代
表者ムハメット・アリが叫んだ「神の支配する世界に於て
は、吾々は飽くまで回教徒であるが、事インドに關しては
飽くまでインド人でなければならぬ」といふ言葉はイ
ンド回教をして會議派との提携を作り、インド民族團結へ
の指標を與へたものであらう。

土 侯 國

尙ここにもう一つ厄介な存在はインド六百有餘の土侯國
である。第一次大戦當時、眞先に立つて英國に誠忠を誓つ
たのもこの土侯國であり、また第二次の大戦勃發に際して
も三百餘の土侯が英國側に參戰を表明して獨立運動側へ脅

威を與へて來たもので、己れの地位を守る事を保證され、
民衆を無條件に搾取することを許されて來たのである。
かつて、英印度總督が或る土侯國を訪問した時三百五十
萬に上る接待費を使用し、祝宴費だけでも十三萬圓に上つ
たといふ。いかに土侯國が英國の鼻息をうかがつてゐる
かを知る事が出来やう。従つて英國の土侯國に對する方針
は英國の印度支配に於ける保壁であり要塞であるとして、
彼等に專政を許し獨立運動の抑壓に重大な役割を課してゐ
るのである。印度の獨立は土侯國の崩壊を意味し土侯專政
の終焉である。從來より獨立運動の反對を唱え、英國とそ
の利害を一にしてゐる。

英國の侵略

英國のインド侵略の初歩は、ポルトガルの勢力を排除し
一六一三年、スーラトを貿易港として開かした事に始ま
る。その後レヤ・ジャハンの王女が大火傷を負ふたのを、
當時スーラトに居住して居た英國人ブートンが治療したの
を王が感謝し、その賞としてフグリー河の三角州(今のカ
ルカッタ)に英人商館の設立と、そこからベンガスに輸入
される英國貨物の輸入税免除の特權が與へられた。現在で
いふ租界を獲得した。
そこで一六八九年、東印度會社はウエイヤムに根據を置

き、この地に城砦を築いた。これが一八二二年までにイン
ド全體を侵略するとは當時想像だにされなかつた。この地
を根據地とするや東印度會社は傭兵をもつて軍備をかため
て暴威を恣いままにした。一六三九年英人の暴虐次第に募
り當時、南印度の一藩王がこれに憤激して英人との間に係
争を引き起すや、英人はこれを攻め、南印度の樞要地を奪ひ、
城砦を築き、次第に勢力を加へて來た。一六六一年になり
英王チャールス二世がポルトガル王女との結婚なり、その
引出物として英國に贈られたのは印度西海岸の要衝ボンベ
イ島であつた。英國はここにも城砦を築き、かくして三大
據點を獲得した。英國が愈々本腰にインド侵略を開始した
のは一七五六年からである。

歴政の史實

一七五六年、ベンガル王が歿し、その孫フランシス・ウッド・
トニローが王位を繼承したが、王は英人の暴虐を心よしと
せず、遂に英商館を襲撃し、その財産を押収し、英人一四
六名を捕えた。この事件に端を發し英國とベンガル王との
戦争となり、ベンガル王の軍が優勢であつたが、英國はベ
ンガル軍の參謀長オミチャンドが貪婪陋劣なる男なるを察
知し、三十萬磅で買収の密約をなし、奸計にかけて叛逆さ
せ勝利を得、王を殺害した。叛逆の參謀長は賞金の約束履
行を願ふや、英國は、あれは偽證文であるとして賞金を拒
絶され、オミチャンドは警駭のあまり發狂した、天罰と云

ふべきであらう。かくて英國はその老練なる本領を發揮し
て、うまうまとベンガルを手に入れた。
ベンガルに居住する英人は自己の望む商品は總て市價の
半値で買ふ事にし、應ぜざれば死に至るまで答を加へられ
租税の徴收には拷問と笞刑を用ひ、住民は必要とあれば無
償で勞役を強制される等、暴虐はその限りを盡した。中に
も今なほ人口に喰ふするはベナレスの歴政と、ダツカ地方
の慘虐である。
ベナレス大藩王を脅迫して統治權を掠奪し、ベナレスの
住民に重税を課し、更に年々倍額の納税を強要し、反すれ
ば虐殺し、その死骸は地に滿ちたといはれてゐる。
ベンガルのダツカ地方の紡績企業は英國の利益に反する
としてこの根絶を企て、製品を沒收し、棉花畑に火を放つ
て焼き拂ひ、紡績を中止せざる者はその五本の指を切斷し
た等、その暴虐は數ふるに遑なく、歴政の歴史は讀む者を
して眼を覆はしむるものがある。

一八五八年英國は東印度會社よりインドの支配權を回收
したが、インドの統治は文字通り搾取と歴政の歴史に終始
してゐるのである。
かりにいまインド人の生活を例にとつてみても、住む家
屋は椰子の柱に竹の梁、椰子の葉の屋根、それに一尺位の
厚さの泥で固めた陋屋に住み、襤褸を纏ひて貧困の極に置
かれてゐる。彼等の勞働賃銀は食事自辨で大の男が一日四
十錢位が相場であり、榮養のある食物をさへ攝ることが出

来ず、宏壯豪華なバラモン教殿堂の下に、咽ぶ様な難然たる土着民の陋屋こそ英國のとれる壓政を如實にみる事が出来る。

英國の統治

英國のインド統治の政治機構は、第一次大戦の直後、幾多の英印紛糾の結果、サイモン調査委員会の報告を基礎として出来上つた新統治に依つて行はれてゐる譯であるが、實はこの統治法は第二次大戦の勃發により同法の基礎をなしてゐるインド聯邦制結成に關する部分が戦争終了まで延期されることになり、實質的には依然一九一九年の頃の舊統治法によつて行はれてゐると云つてもよい。

舊統治は表面ある程度の自治を許してゐる様にも見えるが、實際はインド總督がインドに於ける行政機關として最高の権限を振り廻し、インド人の官吏の蔭にあつて巧妙に壓政を行ふ事が自由の仕組になつてゐる。例へば現在インドには上下兩院から成るインド議會があるけれども、その選挙資格は極度に制限され、官民半選である上に、重要な法案はすべて總督の内諾を得ざる限り議會に提出することが許されない、かうした微力な議會に對して、例へば議會に法案が提出されてもインド人側に有利なものは、總督の権限で否決し、英國に有利なものは通過出来るもので、事實止、財政及政策上の運営權を議會から奪ふ事が出来るものであつて、インド議會は形式的存在であつて、英國一流の

名を與へて實を取るの統治法である。

獨立運動

英國の虐政に抗して反英事件は幾多の悲惨なる血を流して續けられて来たが、インド青年をして一大覺醒を與へたのは、我が國の日露戦争の大勝であつた。日露戦争に於ける日本の勝利は東洋人が歐米人に劣らない否優つてゐる事を如實に示した。このため果然インド獨立の志士を驅起せしめるに至つた。

果して一九〇六、七年頃より國民會議派のモットーは單なる反英からインド獨立運動と代り、インド全土の街頭には民衆運動が行はれ、市中の威示行進は長蛇の列をなして遂に英國はその鎮壓に機關銃を使用し始めたのはこの時からである。次いで一九一四年、第一次大戦勃發はインドの獨立運動に絶好の機會を與へ、翌一九一五年にはラホール、ベナス、マンガレー等にインド獨立の烽火を擧げた。これに驚駭した英國は、兵站基地としてゐるインドの反抗を恐れて、英國一流の奸計を用ひ、一九一七年に戦後自治を與へると確く約束した。即ちモンターギユ宣言を行はしめた。この宣言は反英運動を停止せしめたばかりでなく、積極的に對英援助を行はせるに成功した。大戦中インド兵の對外出兵は百二十萬、對英軍資金の援助は三十億圓に上り九十萬の戦死傷者を出したのである。

大戦終了後この血を流した奉仕に對する報酬として、イ

ンドに與へられたものは、自治でなく、獨立運動の彈壓を目的とした正式の手續はなくとも人民を逮捕し、公判に附する權利を政府に保證した一九一九年のローラツト法にほかならなかつた。

陋劣な英國の欺瞞に對して、インド民衆が黙過する筈がなく、遂に聖雄ガンヂーの指導下に三億五千萬の民衆は非協力運動の宣言を爆發せしめ、抗争を開始した。英國の印度統治もここに於て機關銃のみならず飛行機による爆撃を行ふに至り、クシユランワラ村に襲撃した一機は五百人の婦女子を即死させ、千五百人を負傷させる一大慘事を惹き起した。

然しその後も獨立運動は繰り返されて来た。一九三九年、第二次大戦勃發を動機に獨立運動は果然活潑となり、遂に英國は逮捕投獄の壓政を加へてその數無量數千名に達した。

「光は東方より」の教典の教を裏書きする如く、昭和十六年十二月八日、わが帝國は米英に對し宣戰を布告し、アジア被壓迫十億民族解放、アジア人の大アジア建設の大進軍を起し米英を各處に於て撃滅しつつ、比律賓を米國の手より救ひ、蘭印を和蘭より放ち、マレーを英國の壓政より奪ひ、ビルマを虐政より解放し、ビルマ人のビルマは建設された。ここに反英獨立運動は猛然と爆發し、全インド民族

はガンヂーの指導下に起ち上つた。

氣 候

インドは日本に數倍する面積を有してゐるので、その處によつては氣候は著しく異つてゐる。

インドは北回歸線を境にしてその北半が温帯に、南半が熱帯に屬してゐるのであるが、事實はヒマラヤ山脈により區分されてゐて、ヒマラヤ山地北方が温帯の氣候であり、ヒマラヤ山地から南にかけて全地域は熱帶的季節風に見舞はれてゐるので熱帯氣候となつてゐる。

一年の氣候は大體に於て乾期と雨期とに分かれて居り、乾期は十二月から五月へかけての頃であつて、冬期、季節風といはれる乾燥した大陸風が殆んど全インドを襲ひ、この季節は降雨は極めて少い。この乾期に反して雨期は大體五月から十一月頃までの間が雨量が多く、西南季節風が六月から九月までに全インドを訪れ、一ヶ年の雨量の九割はこの期間にもたらせられる。

インドの豊かな産業はこの雨により實り、エジプトと同じく降雨量の多寡によつて農産業は支配され、モンスーンの訪れの遅いか早いかはインドの經濟に重大な影響を與へるもので、この雨をインド人は慈雨と稱してゐる。

主要産業事情

廣袤二百五十二萬三千五百五十平方キロの總面積と、三億七千萬の人口を擁し、氣候また熱帯、多雨に恵まれたインドの産業にはどの様なものがあるかといふと、先づ農産物と畜産業である、これに次いで鑛業が印度の主要な産業となつてゐる。今その概略を記すると

農業

インドは古來より農業國として發展して來てゐて、いはば土壤に生きてゐる國である。

尨大なる面積、熱帯多雨の氣候、それに國土を網の目の如く縦貫横走する大ガンヂス河、インダス河、その他の大小の河川によりその流域は豊饒なる土壤を育てあげ、インド人口の九割が六十萬農村に分布され、原始的な耕耘方法をとつて強く土にとけ着いてゐる。

主なる農産物は米、小麦、綿、茶、黄麻、護謨、珈琲、落花生等であり、米は一九三七年、生産高三三、一九一、〇〇〇トンで世界の五割を占め悠々第一位を占めてゐる。また小麦は九、八一八、〇〇〇トンで世界第三位を占め、今日世界に於ける小麦の重要な輸出國の一つに數へられ、棉花は六、二六一、〇〇〇俵で米國に次ぎ世界第二位の生産をあげ、黄麻九、六一一、〇〇〇俵は世界第一位で、そ

の他護謨は六〇、〇六三、〇〇〇封度、茶三九五、二八〇、四〇〇封度、珈琲四一、一七二、〇〇〇封度、落花生は二、八〇九、〇〇〇トン、砂糖六、七二六、〇〇〇トンといふ生産額を示してゐる。

畜産業

インドは農業と共にまた素晴らしい家畜の國である。熱帯の高温と、濕潤の氣候は當時草木を成長させ、無限にこれら家畜を繁殖せしめ、一方農業の繁盛は役畜を増大ならしめ、その數は著しく多く、特に住民の六割五分を占めるインド教徒にありては牛はブラーマの神の表現とされ「お牛様」として信仰の對照となつてゐる處からその飼育は宗教的色彩を帯びて鄭重に扱はれ、牛に生れるなら印度の雄牛になれといはれてゐる、下手な人間より牛の方が遙かに優遇されてゐる。

牛はインドの農家には一、二頭は飼はれて居り、その頭數は一億二千萬頭で米國の二倍、家畜で知られてゐるアルゼンチンの四倍で世界第一位を占めて居り、綿羊は三千五百萬頭で世界第七位、駱駝は六十萬頭である。豚はインド教徒も食しないが、回教徒となると絶對に口にしないといふ宗教的關係から少く、僅か拜火教徒のパーシ族が豚肉

でもなんでも食するので彼等の間に於て飼育されてゐるに過ぎない。

鑛業

インドの鑛業は、從來より英國によりその重要な資源は秘密に附されてゐたものが少なくなく、その埋藏量の尨大なるを窺ひ知る事が容易に出来なかつた關係上、詳細を缺いてゐるが、鑛業資源として知られてゐる鑛物は、石炭を第一とし、次いで鐵鑛、マンガン鑛、タングステン、金、石油、クローム、銅鑛、雲母、發光石等である。

主要都市

インドは前にも述べた通り農業國であつて、總人口の九割は農村で占められ、インドには人口の都市集中といふ現象は顯著でない。

しかし大都市は割合に多く、人口十萬以上のものは約四十近くを數へる。このうち最も主要なものはカルカッタ市、ボンベイ市、ニューデリー市をもつてインドの三大都市と云はれてゐる。

カルカッタ市

カルカッタ市はベンガル州の首府、人口約百五十萬、英領中ロンドンに次ぐ大都會である。

石炭の年産額は一九三九年、三千萬トンであり、南方共榮圏ではインドをして第一位たらしめ、濠洲の二倍の産額に達してゐる。鐵鑛は二百八十萬トンでこれもまた南方共榮圏で第一位を占め、マンガン鑛は百萬トンでこれも他を遙かに凌駕してゐる。石油はまだ産額少く三十二萬トン、銅は五千五百トン、クロームは四萬五千トン、金は一九三七年産額三十三萬オンス、雲母二千九百七十三萬斤、發光鑛十八萬一千トンである。

インド鑛業はまだ謎の富庫とされ、その將來は農産業と共に大いに期待されてゐるものである。

市

カルカッタが今日の盛況をみる様になつたのは、東印度會社が創立されて以來鐵道や河川を利用してここを内地物産の中心地とし、また一方インド東海岸の海外貿易港とするため設備に努力した結果である。

ボンベイ市

ボンベイ市は西海岸の要港で、一小島上に建設された港である、人口約百二十萬、附近には十に餘る島がある。同島は一六六一年、英王チャールズ二世がポルトガルの王女と結婚の時ポルトガル王より引物として送られた島で、當時より英人により建設された都市なれば印度内地の町と異

なつてゐて歐洲化し、インド気分は餘り横溢してゐない。

ニューデリー市

ニューデリー市はインドの中央點の上部に位してゐる、インドの首府でカルカッタに代つて全インドの政治の中心地となつてゐる。英人總督は當市に駐在して全インドを統治してゐる。人口凡そ四十五萬人、市街はさすが首都たるの偉容整ひ、總督政廳、インド議事堂、其他の官衙、學校、商社は楯比し歐洲文化と印度文化が錯綜して華麗を極め、繁盛を示してゐる。當市は政治都市としてインド獨立運動の威示騒ぎと、英國の壓政をもつて世界に聞傳されてゐる。

セイロン島

セイロン島はインド南端の洋上最短距離四十哩の地點にある島で、面積四萬七千六百九十九平方キロ、マンゴの葉に似た島である。北西岸のマナルとインド本土の南東にあるラメシワラとの間は、アダム橋と呼ばれてゐる浅い砂堤で繋がれ、マナルからは、この線に沿つてインド本土まで鐵道が通じてゐる。

中央部にはアダムス・ピークの峰をめぐつて千八百米乃至二千四百米の高峰が群り聳えその周圍は平原を形成してゐる。

セイロン島は英國の直轄植民地の一つとして印度とは別個に、セイロン島總督をもつて立法、行政の二部が置かれてゐた。

人口 一九三九年の調査によると五百九十二萬二千でこのうち人口の約半數を占めてゐるのはシンハリイス族である。

宗教 は佛教の發祥地だけに佛教が最も盛んで、シンハリイス族の大部分が佛教徒である。

この他にヒンズー教、回教、基督教などがあるが、インドの様にそれ程階級思想は喧しくない。

産業 セイロン島で最も重要な産物は茶、護謨、椰子、米などであるが、なかにも茶は、海外輸出品の主要なもので、一九三二年の輸出總額は二萬五千三百萬封度といはれる。護謨栽培の發達は近年目覺しく、一九三三年には一億一千二百二十四萬二千封度が輸出された。またセイロンの椰子は第一次大戰後その産額は旺んとなつて來てゐる。

コロンボ はセイロン島の首府で、同島の西海岸に位し政治、經濟、文化、交通の中心地であるばかりでなく、インド洋の門戸を扼して世界交通上の重要な位置を占めてゐる。即ち南は濠洲、南アフリカへ、東は日本、支那、ビルマへ、西はスエズを経て歐洲各國へ、更にインド大陸兩岸間の交通の要路に立つてゐる世界有數の港灣施設を誇つて居る。

濠洲篇

濠洲の略史

濠洲を最初に發見し、その概略を世に傳へたのはオランダ人であつた。十七世紀の頃オランダ東印度會社がジャバ島に設立されて、この附近を航行する様になつてから、この南方大陸濠洲が次第にその全貌を明かにされるに至つた。

最も早く濠洲を訪れたのはオランダ船デユキフヘン號で一六〇六年ニューギニアから西濠ランドンデリー岬まで航行したが、彼自身はニューギニアだと考へて居た。エデルは一六一七年西濠のエデルランドに到り、更にレーウン號は一六二二年濠洲西海岸に到つた。その後も二、三の船が濠洲に辿りついたが、一六四四年有名な和蘭の探検家タスマンが訪れてこの大陸にニューオランダの名を附した。

だが彼等は濠洲の最も肥沃地帯である東岸や東南岸を見究めずして茫漠たるこの地を利用の價値なき大陸として占領を宣言することなく歸航して仕舞つた。

その後十八世紀に入つて英人クックが一七六九年、^x ニュ

ージーランドを發して、彼は英國皇帝ジョージ三世の名の許に英國の領有を宣言し、ニュージランドを周航して西航し翌一七七〇年に濠洲の東海岸のボタニー灣に着いて英領を宣言し、次いで現在のシドニーの位置に到達し、更に北上してヨーク岬に達し、トレス海峡を通過することにより濠洲東海岸の全體を英領として宣言、これにニュー・サウス・ウエールズの名を附して南濠洲を英領とした。

一七八三年アメリカが獨立するに及んで従來の流刑植民地を失つた英國は、クックが一書を公にして「濠洲の地は雜草繁茂し、世界に於ける最良の牧場たり。加ふるに土壤濃黒にして總ゆる穀物の生産に適せり」と上奏したのに基づいて一七八八年より濠洲處女地を流刑地として囚人による農業植民地とした。一八四二年探検家フリンダースの提唱に基づいてこの大陸全體より「ニュー・オランダ」の名を抹消して新たに「オーストラリア」の名稱に改められたがそれより先濠洲の眞價が次第に歐洲諸國に傳はるや、十八紀末から十九世紀初頭に互つて、フランス人が來航して植民地を開かんとする形勢にあつたため英國は急遽各地に植民地

最もなるものにして、一擧に一種族全部が殺戮に遇つた事實は今尚人口に喰食されてゐる。かくして當時百萬餘を算した原住民は英人の絶滅政策の犠牲となつて、一九三七年には僅か五萬二千となり、多くは濠洲の熱帯不毛の地に追はれて滅亡の道を辿つてゐる。

英の濠洲原住民政策の暴露の故をもつて酷評を買つたシドニー大學教授ステフェン・ロバートの著書に、更に濠洲の南タスマニア島の住民も同じく英人の犠牲となつた。嘗つて二萬を算した彼等も、特にこの小島に隔離された最も凶惡なる英囚人のため虐殺され、また時に彼等に使喚され同胞相喰む激烈なる民族闘争を行ひ、一八七六年この民族の最後の一人が死するに及んでその民族の宗教や、社會制度の數々は未知の多くのものを残して絶滅してしまつた。これが人道主義の假面をかぶつた英人の濠洲に於てとれる虐政を遺憾なく暴露して居る。

白濠主義

濠洲は一九〇一年、分立してゐた濠洲六植民地を打つて一丸とし、濠洲聯邦政府を作り、同時に實施された移民制限法を採用し、有色人種排斥の舉に出た。アジアの濠洲を不法占據して、内に向つては原住民の絶滅に努め、外に向つては有色人種なりとして、アジア人の入國を禁止し英國の過剰人口の調節辦たらしめようとするのがこの白濠主義の主張であつた。

然らば何故に濠洲が有色人種を排斥して入國禁止同様の移民制限法を施行するに至つたか、それには幾多の理由があるが最も表面に出てゐるのは、安價にして勤勉なる有色人種の労働力は濠洲労働者の脅威であると共に國防的脅威であるといふものであつた。

濠洲の移民制限以前の開發の當初は、多數のアジア人労働者を入れ開發に努めた。そのうち最も多數であつたのは支那人で、彼等は一八五八年頃には四萬人から渡濠し、濠洲の礦山開發はこれら支那人の力に負ふところが大きであつた。又英人の全く労働に堪へない熱帯濠洲のポート・ダウインからバンクリークに至る濠洲横斷鐵道の建設も彼等の苦闘によつてはじめて完成を見たものである。實に濠洲の開發はアジア人に負ふ處大なるにこれに報ゆるに明治二十一年の支那人排斥運動を以つてした。

邦人の渡航は支那人の渡航より後れ、開發當初は盛んに邦人の渡濠を歓迎した、當時南濠政府は北部地方開發のため、明治十年、ウイルトン・ハックなるものを東京に派して、我國の自由農民の入植を交渉せしめた。我政府では三、四百名の農民を渡濠せしむるに内諾を與へたが、偶々西南役の勃發によりこの計畫は實現し得なかつた。その後明治十六年に最初の契約移民として三十七名がトレス海峡の眞珠採收のために渡航したのを始めとして、クインズ・ラン

下の甘蔗栽培のため約一千人が渡航するといふ様にして邦人数は次第に増加され、明治三十三年には約四千人に及んだが、それは今に至るまで濠洲邦人の極點となつてゐる。

濠洲政府が有色人種の移民制限法を施行するに至らした理由の一に國防問題がある。

濠洲はアジア人の増加をもつて國防的脅威と考へてゐた。日清戦争によつて支那の國力が暴露されるまでは支那は「眠れる獅子」として世界に恐れられてゐた。濠洲の假想敵國が支那であつたことは支那人の移民制限が明治二十一年に既に施行され、邦人の渡航は歓迎してゐたが日清戦争で日本の大勝利を見るや驚駭し、我國を假想敵國として遂に明治三十五年、全アジア人の移民制限を行つたものである。

以上は表面に出た白濠主義の原因であるが、裏面のもう一つ見逃すことの出来ないのは、英國の濠洲統治政策であ

る。

英國はかつての植民地アメリカが、國力増大するや本國離反の獨立運動が勃發され、鎮定せんとして戦つたが、植民地アメリカのため本國軍隊は敗北して遂に一七八三年獨立した。この苦い経験より、濠洲の統治法は、濠洲の開發を或る限界に止めて、國力の發達を阻止し、永久に忠實なる植民地たらしめようとする政策の現れが、このアジア移民の制限法をとらしめた。

白濠主義に基く人的資源の缺乏は濠洲の工業、鑛業の發達を阻止し、また濠洲自體による國防國家完成を妨げせしめ、濠洲をして英本國の工業に緊縛し、一方英國の艦隊なくしては濠洲は一日たりとも晏如たり得ない状態に置くといふ老獪なる政策が白濠主義として成功し、内に住民の安逸の生活を増長せしめると云ふ巧妙なる政策によるものである。

これは濠洲現在の事實がこれを明かに證明してゐるではないか。

主要産業事情

概説

濠洲の産業は牧畜を第一位とし、次いで農業、鑛業が中樞を占め、酪農も相當の生産額を示してゐる。その他工

業、林業、漁業等となつてゐて、原料資源地として育てられて來た國である。濠洲の産業を簡単に理解するために、現在の濠洲經濟がいかなる産業部門より構成されてゐるかを、一九二九年よ

り一九三八年までの十ヶ年平均の各産業の生産額と輸出額の比率を掲げる。

産業	生産額 (千ポンド)	全生産額比率 (%)	輸出額 (千ポンド)	全生産額比率 (%)
農業	九、六四三	三〇・七四	三、五七六	三二・七一
牧畜業	八、四九三	二七・五一	五、四六二	四九・六八
酪農	四、四二一	一三・〇八	一〇、八九三	九〇・〇四
鑛業	三〇、三六七	五・三七	一三、四六三	一一・三五
林・漁業	一〇、六〇七	二七・六	一、二四七	一・〇八
計原始産業	二四三、四三九	六三・九一	一四、六一四	九・六六
工業	一四一、八五七	三六・九	五、〇七四	四・三
總計	三八四、四六六	一〇〇・〇	一九、六八八	一〇〇・〇

濠洲の産業の構成は右の諸産業より成つてゐる。次に各主要産業の概略を記載すると

牧畜業

牧畜業は現在の濠洲産業の白眉であるが、嘗つて一七八八年、フイリツプの卒る最初の艦隊が到着した時、囚人とともに齎らされた家畜の数は馬が七頭、牛六頭、羊二十九頭、豚十二頭、山羊數頭に過ぎなかつた。だが「濠洲は世界に於ける最良の牧場なり」と喝破した、かのキツプテン・クツクの豫見に違はず今日の濠洲牧畜業は、世界第一位の地位を占めるまでに到達した。

牧羊の数は、一九三七年には一、一三三八萬頭で、これ

この他、馬が約一八〇萬頭で耕耘に使用されるもので、豚は百二十萬頭を超え、ピクトリア、ニュー・サウス・ウエールズ及クイーンズ・ランド州に於て飼養されてゐる。

農業

農業は牧畜業に次ぐ重要産業であつて、彼等の主要食たる小麦を第一として、大麦、玉蜀黍がこれにつき、その他馬鈴薯、甘藷、甜菜、葡萄、果實等が主作物となつてゐる。濠洲の耕地面積は、全濠の約二%に足らずといふ状態にして濠洲の農業は人的資源の不足のため、その半は大規模な機械化耕作が行はれてゐる。

種別	作付面積 (收穫單位千エーカー)	收穫 (一九三六—七七年)
小麦	一、三三七	一五、三九〇
大麦	一、五三五	一六、六三
玉蜀黍	四七〇	七、三三七
豆	三三八	七、三三六
草	三、一〇一	三、四七八
馬鈴薯	一三〇	四、六二
甘藷	三五九	五、四六
甜菜	三	三
葡萄	一三三	四〇九 (單位千ダ)
果實類	二七八	八、五七 (單位千ダ)

小麦は濠洲の農産物中最も重要なもので、その氣候ニ

に亞ぐソ聯の六六六〇萬頭を斷然引離して世界第一位を占めてゐる。これは六百八十萬の濠洲人口に比べると實に十六倍半に匹敵してゐる。
濠洲の羊は四五%までがニュー・サウス・ウエールズ州にあり、二〇%がクイーンズ・ランド州に、一六%がピクトリア州にあるから、羊の大半は濠洲の東南部に集中してゐることになる。元來牧羊は極端な寒冷さを持たない比較的乾燥した氣候を必要とする自然的條件に掣肘されるため、北半球の温帯では冬季適せず、南半球の温帯が好適されてゐる。殊に濠洲東南部はその搖籃地として濠洲の羊群をして今日の「羊の國」たらしめたのである。
羊毛用の羊は本來の英種羊と、メリノ羊及びこれらの雜種であるが、雜種は羊毛のほか羊肉をも供給するに役立つ、一九三七年、冷凍羊肉として五三三萬磅、羊として四、七〇〇磅が輸出された。羊毛生産額は一、〇二三四萬封度で世界第一位を占め、これに次ぐ米國の四四五〇萬封度を斷然壓倒してゐる。
牛は羊ほど重要産業ではないが、濠洲では約一、三五〇萬頭で北クイーンズ・ランド州及ニュー・サウス・ウエールズ州、ピクトリア州等が盛んであり、一九三七年には牛肉一三、三六八一萬封度が生産され、その四分の一は罐詰牛肉として輸出されてゐる外、ミルク、チーズ、バターなどの酪農品を生し、バターは濠洲輸出品の主要品で、デンマーク、ニュージランドにつぐ世界第三位の地位にある。

1. サウス、ウエールズ、ピクトリア等を主産地として、南濠洲に七五%、西濠洲に二三%となつてゐる。燕麥は小麦に適する地方よりも温潤且つ冷涼な地方に發育し、従つてその半はピクトリア州に栽培され、大部分は飼料となつてゐる。玉蜀黍に適する氣候の地區が相當廣大であるからその將來は注目されてゐる。甘藷はクイーンズ・ランドの温暖な海岸地帯に盛んに栽培されて居り、果實はその生産時期が北半球と正反對になるため、歐洲市場に供給され、ピクトリア及クイーンズ・ランドから多く産出し、葡萄は南濠高地の傾斜地とマレー盆地の灌漑地とを特産地としてゐる。

鑛業

濠洲の鑛物資源は廣く分布してゐる。多數の白人移住者を最初に濠洲に引寄せたのは濠洲の金鑛發見であつた。黄金狂時代を現出したがその後一時低下しつつあつたが、近年再び上昇を示し、年産一千萬乃至一千二百萬磅を上下してゐる。一九三七年の濠洲の産額は、金一一九九磅、銀と鉛は一五〇磅、銅一一六磅、鐵二一四磅、錫八六磅、タンクステン一九磅、亞鉛一七八磅、石炭七三三磅、其他鑛物五四八磅である。

鐵鑛は全濠に互つて廣く分布してゐるが、今のところ最大埋藏地は西濠のヤンピサウンドと南濠のアイアンノブであつて、その見積埋藏量は前者は一億トン、後者は一億五千萬トンといはれてゐる。

石炭はピクトリア州の埋蔵量は三七〇億トンといはれ、ニュー・サウス・ウェールズ州の一三九億トン等極めて豊富である。ニュー・サウス・ウェールズ州のニュー・カッスル、バリ、リスゴアの炭坑が現在大規模に採掘されてゐる。

銀鉛鑛はニュー・サウス・ウェールズ州より七五%産出し、就中、ブローケン・ヒルはその最大を誇つてゐる。次いでクインズ・ランド州のクロンカリーより産出する。銅鑛はタスマニアに多く、生産總額の六五%、次いでクインズ・ランド州のクロンカリーである。

錫鑛はニュー・サウス・ウェールズ州、クインズ・ランド州、タスマニア州に埋蔵多く、亞鉛鑛の産出はニュー・サウス・ウェールズ州のブローケン・ヒル地方に集中されてゐるその産額は世界の第四位にある。

林業

濠洲は天然の林材は豊富な大陸ではなく、良材樹木の森林地域は約二、四五〇英反で、全濠洲の六十分の一以下であつて、公式の計測によれば約一・二九%である。南オーストラリア州と、ニュー・サウス・ウェールズ州は森林面積の割合に良材を産出する。森林は木材を産出する外、多量の薪材、ユーカリ油及び製革用の樹皮を産出してゐる。濠洲は多量の堅材を輸出してゐるが、軟材はその約四倍を輸入してゐる。

水産業

濠洲の水産業は、肉類が極めて豊富で、且つその價格も低廉な所から住民は殆んど魚肉を必要としない人為的諸條件に制約されて、水産業は最も振はない生業の一つになつてゐるもので、唯木曜島と、西濠のブルームに於ける眞珠業は世界的のものとして知られてゐる。

濠洲は従来アジア人を排斥し、白人濠洲となつてゐるが眞珠採取はわが邦人の手をかりねば不可能な處から、木曜島とブルームとは海上生活者といふ解釋の下に日本人漁夫が進出し、殆んど邦人の活躍によつて採取されてゐる。

工業

濠洲の工業製品は、その大部分は濠洲自體に於て消費され、總輸出額中僅か四・二%に過ぎない、實際は自給自足はおろか濠洲需要の大半は従来英國工業品の輸出を仰いでゐたものである。工業者の数は農業者より多いにも拘はらずその發達は微々として振つてゐない事情にある。第一次大戦を契機として歐洲工業製品の杜絶により毛織工業、硝子工業、陶器工業、紡績業等の輕工業は一時勃興を見たが再び衰へ、保護關稅によつて漸くその餘命を保つてゐる状態である。かかる不振の要因は英國の企てた白濠主義に基づく人的資源の缺乏が濠洲工業及鑛業を遅緩ならしめた原因である。英國は濠洲工業を抑止して濠洲を本國工業に緊縛

し、永久に英國商品の消費地たらしめておく不開發主義の老獪なる植民政策に因るものである。

尙濠洲の輸入工業製品の大半は英國商品をもつて占められ、濠洲産の原料及食糧品の大半は英國に輸出され、濠洲をして英國商品の消費市場であると共に原料及食糧品の兵站廠たらしめてゐた。

濠洲はアジアへ

「濠洲はアジアに結合さるべきである」濠洲は亞濠地中海の概念によつて地理的統一體の位置にあり、大東亞共榮圏の一翼として包含さるべき性質を有してゐるからである。

濠洲はもととアジア人の國であつたものであり、この國が英國によつて奪取されて既に百七十餘年の久しい歲月は流れ、ここに「白人濠洲」を築き上げた。然しこの白人濠洲の築かれた際には百萬のアジアの原住民が傷ましくも悲惨な虐政に遇ひ、九十五萬のこれら民族が犠牲に供されて來てゐる事を忘れてはならない。この事實をもつてしてわれわれアジア同胞がこのまゝ濠洲を暴虐なる英國の支配に委ねておく事が出来るであらうか。

噫々思へば久しいアジアの屈辱であつた。英國の今日の繁榮は實にアジアよりの奪取によつてなされたものと云はれても過言ではあるまい。英國は今日の濠洲を開發したとは云へ、その經濟開發は英人の利己的經濟機構によつて行はれたものであつて、一個の道義の片鱗すらも認められな

い。

廣袤七百七十萬平方キロの濠洲は二億の人口を容るに足るに拘らず彼等は白人濠洲主義なる不道義極る主張をもつて、有色なりとしてわれ等アジア人の入國を峻拒し、有色原住民の滅亡のため虐政を擅ままして來たのだ。彼等の人道主義なる言辭はアジア人を壓政下に繋ぎ、擄取するの代名詞であつたのだ。

今や大東亞戰爭は雄々しく戦はれつつある。これこそ英米の擄取の地盤たらしめてゐた大東亞の舊殼を打破して、ここに新秩序を建設せんとするものである。彼等の壓政下に歪曲された濠洲の秩序は、この大東亞戰爭によつて根柢からは正されなければならぬ。

濠洲はアジアに結合さるべきである。アジアの國濠洲がアジアの盟主日本に結ばれ、そして皇道に光被されてこそ濠洲が南アジア本然の姿に還るのだ。それは何ものも拒む事の出來ない天意による濠洲の光榮あるアジアへの復讐である。

南洋渡航案内篇

内南洋と外南洋

南洋を一般に「内南洋」と「外南洋」とに分けて居り、内南洋とは、我が統治領の南洋群島の事であり、外南洋とはそれ以外の東印度(舊蘭印)、マライ、佛印、タイ、フィリッピン等であり、更に廣くビルマ、印度、濠洲等が加へられる場合とがある。以上の内南洋、外南洋の全體を總稱して「大南洋」と云ふのである。

渡航事情

建設されつゝある南方共榮國への渡航事情を説明するとこの渡航手續は、我が國と同盟關係にある友邦「タイ」及「佛印」と、これ以外の皇軍占領地と二種になつてゐる。タイ國や佛印への渡航にはこれらの國には從來より入國規定があつて、それにより渡航手續を必要とするが、その他の皇軍の占領してゐる南方諸地域は、わが皇軍の軍政によつて目下施政されて居り、現在の處まで一般の渡航法といふものが決定されてゐない事情にある。

共榮國が確立されて、占領地が各々その處を得、我が國の指導下に獨立すべきものは獨立し、我が新領土として抱擁されるものは、されるといふ様にその所在が確定されれば、はじめに我國との關係が判つて渡航規定などが出来るのであるが、まだそこまでは尙相當の期間がある譯である。現在皇軍の占領下にある諸地域は、わが皇軍の軍政下に施政され、各占領地とも復興建設が着々と進められつつある。

南方占領地へ一般の自由渡航はまだ許可されてゐない、現在南方に渡航出来るものは、軍政要員、軍屬、建設隊等の軍の雇傭を受けて行くもの、現地に活躍する邦人事業會社、交易商社等に就職して渡航するもの、又は官公署公共機關團體等の練成所訓練所等より送られるもの、新聞記者公共機關等の派遣員、産業學術調査隊、南方關係事業會社の社員等である。其他一般渡航者としては再渡航者、或ひ

は現地に商社を有しまたは嘗て有した者やその必要な使用者との範圍内において事情の許す限り許可するの方針がとられてゐる。

就職の事情

現在南方への渡航は就職して行く方法が最も適當されてゐる事は前項の説明で判つた事と思ふが然らばどんな方法で就職したらよいかといふ事であるが

南方占領地の建設關係、軍要員軍屬等の募集に應募する方法が最も簡單である。最近これらの軍屬建設關係の募集が目立つて増加されつつあり、その職種も上は通譯、文化關係のものから事務員、筆生、タイピスト、交換手、給仕等から機械工、織工、電気技術者、或ひは土木建築、左官等から自動車運轉手、その他一般勞務者等のものが入れ替り立ち替り行はれてゐるからこれらの募集に應募して渡航する事が最も容易な途である。

これらの募集は大抵國民職業指導所を通じて行はれるから希望者はよく最寄り職業指導所(紹介所)の募集に注意してゐて申込みれるとよい、多い時は新聞にも廣告されるし揭示等もされるから氣をつけて居れば判る。

尙募集のない時の方法としては豫備登録の方法がある。この豫備登録とは、國民職業指導所に豫め申込みしておいて、募集のあつた時採用して貰ふ方法であつて、申込み

は別に六ヶ敷しい事はなく、指導所に履歴書を提出し希望を述べて致すとよく、適當な募集があると指導所より本人に通知してもらはれる。銜衡の時の書類はその時適當に指示されるが大體戸籍謄本、身分證明書、身體検査書等が必要である。身體検査書とは醫師の健康診断書の事であり、これは何時でもすぐ間に合ふから別に心配はないが、本籍地の遠隔の地にある方は戸籍謄本や身分證明書は前以つて取つて置く事が何かと便宜なものであり、急を要する場合に間に合はないと云つた事も生ずる譯である。身分證明書や謄本は大抵二、三ヶ月以内のものなら認められるのが普通である。

ここで一言注意して置く事は、軍屬は採用されると普通二ヶ年内外の義務年限があつて、中途で他に就職する事は許されない。尙契約期間が終了すると内地に引揚げた上で解散するのが普通である。

次に南方各地に發展してゐる邦人事業會社、商社等へ就職發展を希望してゐる方も相當多い事と思ふ。現地事業會社の一流の大會社は占領地に於ける敵産事業の受託經營や新占領地で當局の指定により資源の開發や建設に活躍して居り、一方内地よりの新進出會社も續出されこれが要員の募集も最近次第に増加されて來て居り、この事業會社、商社の募集は内地の本社、支社、或ひは國民職業指導所等を通じて行はれるからこれらの募集に注意して